2008年度

シラバス

全学共通授業科目

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

Ⅰ　目次について

【シラバスページの検索方法】

① 冊子右上にあるインデックスで自分の入学年度に適合する目次ページを確認してください。

② 目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。

注:入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。
科目名とページ番号をよく確認してください。

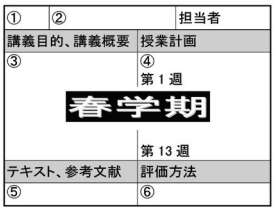
【履修不可について】

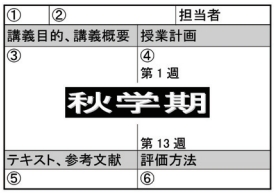
① 目次には「履修不可」学科が記載されています。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

② 表記方法

外:外国語学部	養:国際教養学部	経:経済学部	法:法学部
独:ドイツ語学科	養(＊1):国際教養学部、スペイン語履修者	済:経済学科	律:法律学科
英:英語学科	養(＊2):国際教養学部、中国語履修者	営:経営学科	国:国際関係法学科
仏:フランス語学科	養(＊3):国際教養学部、韓国語履修者		総:総合政策学科
言:言語文化学科			
言(＊1):言語文化学科、スペイン語履修者			
言(＊2):言語文化学科、中国語履修者			

Ⅱ　シラバス本文の見方





①② 入学年度により科目名が異なります。
08年度　　・・・2008年度入学者
07年度以前・・・2007年度以前入学者
05～07年度・・・2005～2007年度入学者
＊科目名は2003年度以降の「全学共通授業科目」を基本に表記してあります。
2002年度以前入学者は、別途学部毎に配布する読替え表を参照して科目名を確認してください。

③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。

④ 学期の授業計画についての欄です。各回ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑤ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。

⑥ 評価方法について記載されています。

【注意事項】

1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ずシラバス本文(③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

2.定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

3.集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

4.「全学総合講座」および一部の科目については記載方法が異なる場合があります。

全学共通授業科目　目次（2008年度入学者用）

全学総合講座

春　科目名	副題	秋　科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座（食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」）				青柳　多恵子	火4	1	−	13
		全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）		青柳　多恵子	火4	1	−	14
全学総合講座（環境学1)(環境基礎学−自然を見つめる）				秋本　弘章	火4	1	−	15
		全学総合講座（環境学2)(環境応用学−環境と社会）		秋本　弘章	火4	1	−	16
全学総合講座（獨協学）				新井　孝重	水2	1	−	17
全学総合講座（キャンパスライフと仕事）		全学総合講座（キャンパスライフと仕事）		伊藤　為一郎	木2	1	−	18
全学総合講座（経営者が語る現代企業論1）				上坂　卓郎	火2	1	−	19
		全学総合講座（経営者が語る現代企業論2）		上坂　卓郎	火2	1	−	20
全学総合講座（多文化社会のメディア・リテラシー）				岡村　圭子	水3	1	−	21
全学総合講座（教えるという仕事）				川村　肇	火5	1	−	22
全学総合講座（働くための基礎知識ー知って得する労働問題）				斉藤　美彦	木2	1	−	23
全学総合講座（現代世界論）				佐藤　勘治	月4	1	養	24
全学総合講座（地域再生システム論ーこれからの「まちづくり」のヒントを探る）				高松　和幸	金5	1	−	25
		全学総合講座（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）		高松　和幸	金5	1	−	26
全学総合講座（グローバル時代の人権〜トランスナショナル社会における多文化共生）				髙佐　智美	木3	1	−	27
全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家）		全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家）		古川　堅治	金2	1	−	28
全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）		全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）		町田　喜義	土2	1	−	29
全学総合講座（健康をスポーツを世界を考える）		全学総合講座（健康をスポーツを世界を考える）		松原　裕	木4	1	−	30
		全学総合講座（童話メルヒェンの可能性をめぐって）		矢羽々　崇	金2	1	−	31
		全学総合講座（自由時間の達人）		和田　智	月4	1	−	32

全学共通講義科目部門

春　科目名	副題	秋　科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1（哲学の諸問題1）		ことばと思想1（哲学の諸問題2）		谷口　郁夫	月2	1	−	33
ことばと思想1（倫理の基本について考える）		ことばと思想1（環境と生命の倫理）		市川　達人	火3	1	養	34
ことばと思想1（倫理学a）		ことばと思想1（倫理学b）		松丸　壽雄	火2	1	養	35
ことばと思想1（社会思想史1)(市民的社会像の黎明期）		ことばと思想1（社会思想史2)(市民的社会像の確立期）		市川　達人	火4	1	−	36
ことばと思想1（社会思想史1)(東洋古代から近世まで）		ことばと思想1（社会思想史2)(東洋近世から現代まで）		松丸　壽雄	水2	1	養	37
ことばと思想1（心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則）		ことばと思想1（心理学)(人間の個性・多様性理解）		杉山　憲司	木1	1	−	38
ことばと思想1（心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則）		ことばと思想1（心理学)(人間の個性・多様性理解）		杉山　憲司	木2	1	−	38
ことばと思想1（心理学)(知覚・認知）		ことばと思想1（心理学)(行動・個性）		増田　直衛	月1	1	−	39
ことばと思想1（心理学)(知覚・認知）		ことばと思想1（心理学)(行動・個性）		増田　直衛	月2	1	−	39
ことばと思想1（言語学a）		ことばと思想1（言語学b）		安間　一雄	火3	1	養	40
ことばと思想1（英語学a）		ことばと思想1（英語学b）		安間　一雄	水2	1	養	41
ことばと思想1（こころの世界）				田口　雅徳	木2	1	養	73
ことばと思想1（生と死の意味の哲学1）		ことばと思想1（生と死の意味の哲学2）		谷口　郁夫	月3	1	−	74
ことばと思想1（日本語教育概説）				中西　家栄子	水1	1	養	76
歴史と文化1（恐怖の日本文学）		歴史と文化1（日本文学現代）		佐藤　毅	木1	1	養（秋のみ）	43
歴史と文化1（日本文学古典）		歴史と文化1（平安時代の文学を読む）		福沢　健	月2	1	養（春のみ）	44
歴史と文化1（歴史学1)(中世の仏教と社会）		歴史と文化1（歴史学2)(中世の「悪党」と民衆）		新井　孝重	金2	1	−	45
歴史と文化1（歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大）		歴史と文化1（歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後）		熊谷　哲也	木3	1	−	46
歴史と文化1（歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー）		歴史と文化1（歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー）		佐藤　唯行	金3	1	−	47
歴史と文化1（歴史学1)(現代史と映像）		歴史と文化1（歴史学2)(歴史と映像）		増谷　英樹	火2	1	−	48
歴史と文化1（文化人類学a）		歴史と文化1（文化人類学b）		井上　兼行	月2	1	養	51
歴史と文化1（日本文化論）				飯島　一彦	木3	1	養	79
		歴史と文化1（教育の歴史2）		川村　肇	木3	1	養	81
歴史と文化1（日本事情とコミュニケーション教育）				小山　慎治	木4	1	養	86

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
		歴史と文化1	(英語圏の文学)	佐藤 勉	火3	1	養	87
歴史と文化1	(スペイン研究入門)			二宮 哲	月5	1	養	90
		歴史と文化1	(ラテンアメリカ研究入門)	佐藤 勘治	月5	1	養	90
歴史と文化1	(文化史入門)			古川 堅治	水2	1	養	93
歴史と文化1	(グローバル化とイスラム-公と私)	歴史と文化1	(移民・交易に見る文化変容)	水口 章	月5	1	-	94
		歴史と文化1	(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	1	英・養	95
現代社会1	(グローバリゼーションを巡って)	現代社会1	(日本の表象と世界)	柴崎 信三	金2	1	経	52
現代社会1	(経済学1)(国民所得の概念と決定メカニズム)	現代社会1	(経済学2)(経済政策の基礎理論と課題)	浜本 光紹	火3	1	経	55
現代社会1	(経済学1)(ミクロの視点で考える)	現代社会1	(経済学2)(マクロの視点で考える)	米山 昌幸	木1	1	経	56
現代社会1	(日本国憲法)	現代社会1	(日本国憲法)	加藤 一彦	火2	1	法	57
現代社会1	(日本国憲法)			古関 彰一	火1	1	法	58
現代社会1	(国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1	(国際法2)(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	木2	1	-	59
現代社会1	(政治システムの構成要素)	現代社会1	(現代の民主主義)	雨宮 昭一	火2	1	-	60
現代社会1	(社会学a)	現代社会1	(社会学b)	岡村 圭子	土1	1	養	61
現代社会1	(地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1	(地理学2)(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	-	62
現代社会1	(家庭と職場のジェンダー)	現代社会1	(ジェンダーとメディア表象)	片山 亜紀/上野 直子	木3/火3	1	-	64
現代社会1	(東アジア国際関係の史的展開)	現代社会1	(東アジア国際関係の現状と展望)	阿部 純一	土1	1	-	97
現代社会1	(地誌学1)(ヨーロッパ地域論)	現代社会1	(地誌学2)(ドイツ地域論)	飯嶋 曜子	火4	1	独	98
現代社会1	(民法1)	現代社会1	(民法2)	石井 保雄	金2	1	法	99
現代社会1	(異文化間コミュニケーションa)			岡村 圭子	木1	1	英･養	101
現代社会1	(社会科学概論1)	現代社会1	(社会科学概論2)	堅田 剛	火1	1	法	102
現代社会1	(歴史の中のメディア)	現代社会1	(メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	-	103
		現代社会1	(NGO論)	清水 俊弘	水5	1	養	104
現代社会1	(コトバと社会)	現代社会1	(コトバと社会)	下川 浩	火5	1	-	105
現代社会1	(韓国研究入門)			平田 由紀江	水1	1	養	107
現代社会1	(中東政治思想a)	現代社会1	(中東政治思想b)	藤原 和彦	火1	1	-	108
自然･環境･人間1	(数学a)	自然･環境･人間1	(数学b)	福井 尚生	月3	1	養	65
自然･環境･人間1	(科学史a)	自然･環境･人間1	(科学史b)	東 孝博	月2	1	養	66
自然･環境･人間1	(原子の世界)	自然･環境･人間1	(生命と環境の化学)	内田 正夫	木3	1	-	67
自然･環境･人間1	(恒星天文学)	自然･環境･人間1	(銀河天文学)	福井 尚生	水1	1	-	69
自然･環境･人間1	(私の自由時間設計)			和田 智	月4	1	-	70
自然･環境･人間1	(地球環境の変化とその要因)	自然･環境･人間1	(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	-	112
自然･環境･人間1	(宇宙論a)	自然･環境･人間1	(宇宙論b)	福井 尚生	金1	1	養	113
自然･環境･人間1	(天文学a)	自然･環境･人間1	(天文学b)	福井 尚生	月1	1	養	114
自然･環境･人間1	(地球外文明論a)	自然･環境･人間1	(地球外文明論b)	福井 尚生	金3	1	-	115

全学共通実践科目部門

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2	(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想2	(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	-	117
ことばと思想2	(書き言葉の問題)	ことばと思想2	(話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	-	119
ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月3	1	-	120
ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月2	1	-	120
ことばと思想2	(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想2	(生きたコトバづかい・文章編)	下川 浩	金3	1	-	121
ことばと思想2	(言語学から詩へ)	ことばと思想2	(言語学から詩へ2)	谷口 亜沙子	水1	1	-	123
ことばと思想2	(生活文化の発見)	ことばと思想2	(生活文化の記述)	長野 隆之	金2	1	-	124
ことばと思想2	(英語通訳)(英語通訳の仕事)	ことばと思想2	(英語通訳)(英語通訳の仕事)	福井 星一	土2	1	-	125
ことばと思想2	(論文を書く)	ことばと思想2	(口頭発表を行う)	福沢 健	月3	1	-	126
ことばと思想2	(現代ジャーナリズム考1)	ことばと思想2	(現代ジャーナリズム考2)	細野 徳治	火4	1	-	127
ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅰa)	ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅰb)	古川 堅治	木3	1	-	278
ことばと思想2	(ラテン語Ⅰa)	ことばと思想2	(ラテン語Ⅰb)	小倉 博行	金2	1	-	279
歴史と文化2	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1)	歴史と文化2	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2)	伊藤 幸次	木4	1	-	128

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
歴史と文化2（イタリアの音楽史）		歴史と文化2（イタリアの声楽曲）		園田 みどり	木3	1	−	135
歴史と文化2（詩と音楽2）		歴史と文化2（詩と音楽3）		園田 みどり	木2	1	−	136
歴史と文化2（西洋美術史1）		歴史と文化2（西洋美術史2）		前川 久美子	火3	1	−	138
現代社会2	（ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1）	現代社会2	（ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2）	大井 正博	金3	1	−	140
現代社会2	（教育の現場：教師と語るa）			川村 肇	水3	1	養	141
現代社会2	（生きたコトバづかい・話し合い編）	現代社会2	（生きたコトバづかい・話し合い編）	下川 浩	金4	1	−	143
現代社会2	（経理入門1）	現代社会2	（経理入門2）	杉 麻利子	火2	1	経	144
現代社会2	（英文会計入門1）	現代社会2	（英文会計入門2）	杉 麻利子	火3	1	−	145
現代社会2	（新聞を読む1）	現代社会2	（新聞を読む2）	細野 徳治	金4	1	−	148
現代社会2	（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	現代社会2	（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	矢羽々 崇/金井 満	金2/水3	1	独	149
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	黄 海湘	金3	1	外・養・経	150
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	黄 海湘	金4	1	外・養・経	150
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	久東 義典	火1	1	外・養・経	150
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	崔 冬梅	木5	1	外・養・経	150
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	150
現代社会2	（コンピュータアドヴァンス1）	現代社会2	（コンピュータアドヴァンス2）	長 慎也	月2	1	外・養・経	151
現代社会2	（ホームページ作成）	現代社会2	（ホームページ作成）	A.ベロフ	水5	1	養	152
現代社会2	（ホームページ作成）	現代社会2	（ホームページ作成）	久東 義典	火2	1	養	153
自然・環境・人間2	（東洋の健康哲学a）	自然・環境・人間2	（東洋の健康哲学b）	青柳 多恵子	水1	1	−	154
自然・環境・人間2	（コンピュータと言語）			呉 浩東	月2	1	外・養	159
		自然・環境・人間2	（からだの仕組み ）	依田 珠江	木3	1	−	163
歴史と文化2（日本事情1）		歴史と文化2（日本事情2）		守田 逸人	金4	1	−	286

スポーツ・レクリエーション部門

科目名	（副題）	開講期	担当教員	曜 時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション							
	（インラインスケートa,b）	春・秋	和田 智	水 1	1		165
	（インラインスケートb）	秋	和田 智	土 2	1		165
	（ウェルネス入門a,b）	春・秋	依田 珠江	木 2	1		166
	（硬式テニスa,b）	春・秋	小山 さなえ	土 2	1		167
	（硬式テニスa,b）	春・秋	小山 さなえ	土 1	1		167
	（硬式テニスa,b）	春・秋	田中 茂宏	木 3	1		168
	（硬式テニスa,b）	春・秋	松原 裕	水 1	1		169
	（硬式テニスa,b）	春・秋	松原 裕	火 3	1		169
	（硬式テニスb）	秋	依田 珠江	月 3	1		170
	（ゴルフa,b）	春・秋	吉田 卓司	金 1	1		171
	（ゴルフa,b）	春・秋	吉田 卓司	金 2	1		171
	（サッカーa,b）	春・秋	萩原 武久	木 2	1		172
	（サッカーa,b）	春・秋	松本 光弘	月 2	1		173
	（サッカーa,b）	春・秋	松本 光弘	月 3	1		173
	（スポーツエクササイズa,b）	春・秋	梶野 克之	水 2	1		174
	（スポーツ型デトックスa,b）	春・秋	齋藤 初恵	火 2	1		175
	（スポーツ型デトックスa,b）	春・秋	齋藤 初恵	火 3	1		175
	（ソフトボールa,b）	春・秋	池垣 功一	火 2	1		176
	（ソフトボールa,b）	春・秋	萩野 元祐	木 1	1		177
	（ソフトボールa,b）	春・秋	萩野 元祐	木 2	1		177
	（卓球a,b）	春・秋	池垣 功一	火 1	1		178
	（卓球a,b）	春・秋	太田 朝博	金 2	1		179
	（卓球a,b）	春・秋	田中 茂宏	木 1	1		180
	（卓球a,b）	春・秋	山中 邦夫	月 2	1		181
	（卓球a,b）	春・秋	山中 邦夫	月 1	1		181
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田 珠江	月 1	1		182
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田 珠江	月 2	1		182
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田 珠江	水 1	1		182
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田 珠江	水 2	1		182
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野 克之	火 3	1		183
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野 克之	水 3	1		183
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野 克之	木 3	1		183
	（バドミントンa,b）	春・秋	萩原 武久	火 1	1		184
	（バドミントンa,b）	春・秋	萩原 武久	火 2	1		184
	（バレーボールa,b）	春・秋	太田 朝博	金 3	1		185
	（バレーボールa,b）	春・秋	神宮司 親治	月 3	1		186
	（フットサルa,b）	春・秋	神宮司 親治	月 1	1		187
	（フットサルa,b）	春・秋	萩原 武久	木 3	1		188
	（フットサルa,b）	春・秋	松原 裕	火 1	1		189
	（フリスビーa）	春	和田 智	土 2	1		190
	（フリスビーb）	秋	和田 智	水 2	1		190
	（ボールルームダンスa,b）	春・秋	青柳 多恵子	火 2	1		191
	（ボールルームダンスa,b）	春・秋	青柳 多恵子	水 2	1		191
	（ボールルームダンスa,b）	春・秋	青柳 多恵子	木 2	1		191
	┌（アウトドアレクリエーション）	春	和田 智	水 2	1		192
	└（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	集中	和田 智	集中	1		192
	┌（アウトドアレクリエーション）	春	和田 智	金 2	1		192
	└（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	集中	和田 智	集中	1		192
	┌（アウトドアレクリエーション）	春	和田 智	土 1	1		193
	└（アウトドア山岳）	集中	和田 智	集中	1		193
	┌（バランストレーニング）	秋	松原 裕	水 3	1		194
	└（スノースポーツ）	集中	松原 裕	集中	1		194
	┌（スケートトレーニング）	秋	和田 智	月 2	1		195
	└（アイススポーツ）	集中	和田 智	集中	1		195
	（学生交流支援プログラム）	春	依田 珠江	土 1	1	外・経・法	*
	（学生交流支援プログラム）	春	松原 裕	土 1	1	外・経・法	*
	（学生交流支援プログラム）	春	青柳 多恵子	土 1	1	外・経・法	*
	（学生交流支援プログラム）	春	梶野 克之	土 2	1	外・経・法	*
	（学生交流支援プログラム）	春	松原 裕	土 2	1	外・経・法	*
	（学生交流支援プログラム）	春	依田 珠江	土 2	1	外・経・法	*

外国語科目群

英語部門(English)

■クラス指定科目

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
	English(リーディング Ⅰ a,b)	/(Academic Reading Strategies Ⅰ a,b)	各担当教員		−	196
(国・総)	English(ライティング Ⅰ a,b)	/(Academic Writing Ⅰ a,b: Paragraph)	各担当教員		−	197
(経)	English(スピーキング Ⅰ a,b)	/(Speaking in Academic Contexts Ⅰ a,b)	各担当教員		−	198
(法(一部))	English(リスニング Ⅰ a,b)	/(Academic Listening Strategies Ⅰ a,b)	各担当教員		−	199
(独・仏・経・法(一部))	English(リスニング Ⅰ a,b)	/(Academic Listening Strategies Ⅰ a,b)	各担当教員		−	200
	English(リスニング Ⅰ a,b)	/(Academic Listening Strategies Ⅰ a,b)	J. スティベンソン/C. カーペンター	月5/ 水4	−	201

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生用)	English(留学生 Ⅰ a,b)	/(Basic Skills for International Students Ⅰ a,b)	菊池 武	水 4	−	209

■選択科目

	English(ライティング Ⅰ a,b)	/(Academic Writing Ⅰ a,b: Paragraph)	石月 正伸	木 4	国・総	211
	English(ライティング Ⅰ a,b)	/(Academic Writing Ⅰ a,b: Paragraph)	笠原 誠也	土 1	国・総	212
	English(ライティング Ⅰ a,b)	/(Academic Writing Ⅰ a,b: Paragraph)	福田 哲哉	木 3	国・総	213
	English(ライティング Ⅰ a,b)	/(Academic Writing Ⅰ a,b: Paragraph)	堀 いづみ	木 2	国・総	214
	English(基礎文法a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池 武	水 3	−	215
	English(スピーキング Ⅰ a,b)	/(Speaking in Academic Contexts Ⅰ a,b)	B. K. カートル	月 3	経・法	216
	English(スピーキング Ⅰ a,b)	/(Speaking in Academic Contexts Ⅰ a,b)	C. カーペンター	木 3	経・法	217
	English(スピーキング Ⅰ a,b)	/(Speaking in Academic Contexts Ⅰ a,b)	M. ミルティアダス	土 1	経・法	218
	English(スピーキング Ⅰ a,b)	/(Speaking in Academic Contexts Ⅰ a,b)	S. フルトン	金 4	経・法	219
	English(スピーキング Ⅰ a,b)	/(Speaking in Academic Contexts Ⅰ a,b)	青木 理沙	水 4	独・仏・経	220
	English(スピーキング Ⅰ a,b)	/(Speaking in Academic Contexts Ⅰ a,b)	B. K. カートル	月 1	独・仏・経	221

外国語部門(英語以外)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	228
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	229
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員		独	230
(基礎コース)	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員		仏	235
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員		仏	236
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員		仏	237
(基礎コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	242
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	243
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*1)	244
(基礎コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	250
(総合コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	251
(総合コース)	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	252
	韓国語(Ia,b 総合)	森 勇俊	土 1	養(*3)	267
	韓国語(Ia,b 総合)	金 貞我	月 3	養(*3)	268
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	森 貞美	土 2	養(*3)	269
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	金 貞我	月 2	養(*3)	270
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田みどり	木 4		258
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田みどり	木 5		258
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	島津 寛	土 1		259
	外国語(ポルトガル語Ia,b 基礎)	牧野 真也	金 3		261
	外国語(ロシア語Ia,b 総合)	齋藤 毅	水 4		263
	外国語(ロシア語Ia,b 会話)	佐藤 千登勢	月 4		264
	外国語(タイ語Ia,b)	江藤 双恵	火 3		273
	外国語(タイ語IIa,b)	江藤 双恵	火 2		274
	外国語(アラビア語Ia,b 基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 3		275
	外国語(現代ヘブライ語Ia,b 基礎)	阿部 望	金 2		277

日本語部門

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IAa,b)	各担当教員		−	281
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IBa,b)	各担当教員		−	281
(外国人・帰国学生)	日本語(総合ICa,b)	各担当教員		−	281

全学共通授業科目　目次（2003年度～2007年度入学者用）

カテゴリーⅠ　全学総合講座

春　科目名	副題	秋　科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座	（食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」）			青柳　多恵子	火4	1	－	13
		全学総合講座	（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	青柳　多恵子	火4	1	－	14
全学総合講座	（環境学1)(環境基礎学−自然を見つめる）			秋本　弘章	火4	1	－	15
		全学総合講座	（環境学2)(環境応用学−環境と社会）	秋本　弘章	火4	1	－	16
全学総合講座	（獨協学）			新井　孝重	水2	1	－	17
全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	伊藤　為一郎	木2	1	－	18
全学総合講座	（経営者が語る現代企業論1）			上坂　卓郎	火2	1	－	19
		全学総合講座	（経営者が語る現代企業論2）	上坂　卓郎	火2	1	－	20
全学総合講座	（多文化社会のメディア・リテラシー）			岡村　圭子	水3	1	－	21
全学総合講座	（教えるという仕事）			川村　肇	火5	1	－	22
全学総合講座	（働くための基礎知識－知って得する労働問題）			斉藤　美彦	木2	1	－	23
全学総合講座	（現代世界論）			佐藤　勘治	月4	1	言・養	24
全学総合講座	（地域再生システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）			高松　和幸	金5	1	－	25
		全学総合講座	（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）	高松　和幸	金5	1	－	26
全学総合講座	（グローバル時代の人権～トランスナショナル社会における多文化共生）			髙佐　智美	木3	1	－	27
全学総合講座	（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	全学総合講座	（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	古川　堅治	金2	1	－	28
全学総合講座	（あなたのキャリアデザインを考える）	全学総合講座	（あなたのキャリアデザインを考える）	町田　喜義	土2	1	－	29
全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	松原　裕	木4	1	－	30
		全学総合講座	（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）	矢羽々　崇	金2	1	－	31
		全学総合講座	（自由時間の達人）	和田　智	月4	1	－	32

カテゴリーⅡ　概論科目

春　科目名	副題	秋　科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
哲学a	（哲学の諸問題1）	哲学b	（哲学の諸問題2）	谷口　郁夫	月2	1	－	33
倫理学a	（倫理の基本について考える）	倫理学b	（環境と生命の倫理）	市川　達人	火3	1	養	34
倫理学a	（倫理学と人間性）	倫理学b	（現代倫理学の諸問題）	松丸　壽雄	火2	1	養	35
社会思想史a	（市民的社会像の黎明期）	社会思想史b	（市民的社会像の確立期）	市川　達人	火4	1	－	36
社会思想史a	（東洋古代から近世まで）	社会思想史b	（東洋近世から現代まで）	松丸　壽雄	水2	1	養	37
心理学a	（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b	（人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木1	1	－	38
心理学a	（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b	（人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木2	1	－	38
心理学a	（知覚･認知）	心理学b	（行動･個性）	増田　直衛	月1	1	－	39
心理学a	（知覚･認知）	心理学b	（行動･個性）	増田　直衛	月2	1	－	39
言語学a	（一般言語学）	言語学b	（一般言語学）	安間　一雄	火3	1	養	40
言語学a	（個別言語学−英語）	言語学b	（個別言語学−英語）	安間　一雄	水2	1	養	41
言語学a	（応用言語学）	言語学b	（第二言語習得）	臼井　芳子	水1	2	養	42
文学a	（恐怖の日本文学）	文学b	（癒しの日本文学）	佐藤　毅	木1	1	養(秋のみ)	43
文学a	（日本文学－奈良時代の文学を読む）	文学b	（日本文学－平安時代の文学を読む）	福沢　健	月2	1	養(春のみ)	44
歴史学a	（中世の仏教と社会）	歴史学b	（中世の「悪党」と民衆）	新井　孝重	金2	1	－	45
歴史学a	（イスラーム世界の成立と拡大）	歴史学b	（イスラーム世界の近代化とその後）	熊谷　哲也	木3	1	－	46
歴史学a	（アメリカのｴｽﾆｯｸ・ﾋｽﾄﾘｰ）	歴史学b	（アメリカのｴｽﾆｯｸ・ﾋｽﾄﾘｰ）	佐藤　唯行	金3	1	－	47
歴史学a	（現代史と映像）	歴史学b	（歴史と映像）	増谷　英樹	火2	1	－	48
歴史学a	（中国近代史概説－清朝国家の黄昏）	歴史学b	（中国近代史概説－近代国家創成の試み）	張　士陽	木4	2	養	49
歴史学a	（「15年戦争」をどうとらえるか）	歴史学b	（戦後史の中の「15年戦争」）	丸浜　昭	火4	2	言・養	50
文化人類学a	（未開文化の理解へ）	文化人類学b	（未開文化の理解へ）	井上　兼行	月2	1	養	51
現代文化論a	（グローバリゼーションを巡って）	現代文化論b	（日本の表象と世界）	柴崎　信三	金2	1	経	52
		比較文化論b	（地域メディア論）	岡村　圭子	水2	2	言・養	53
比較文化論a	（東西の文化を結ぶもの）	比較文化論b	（東西文化と近代化）	熊谷　哲也	木4	2	言	54
経済学a	（国民所得の概念と決定メカニズム）	経済学b	（経済政策の基礎理論と課題）	浜本　光紹	火3	1	経	55

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
経済学a	(ミクロの視点で考える)	経済学b	(マクロの視点で考える)	米山 昌幸	木1	1	経	56
日本国憲法	(憲法と私たち)	日本国憲法	(憲法と私たち)	加藤 一彦	火2	1	法	57
日本国憲法	(憲法と私たち)			古関 彰一	火1	1	法	58
国際法a	(国際社会と私たち)	国際法b	(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	木2	1	−	59
政治学a	(政治システムの構成要素)	政治学b	(現代の民主主義)	雨宮 昭一	火2	1	−	60
社会学a	(他者と自己)	社会学b	(現代社会の諸問題)	岡村 圭子	土1	1	養	61
地理学a	(自然環境と文化)	地理学b	(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	−	62
地理学a	(世界の自然環境と文化)	地理学b	(世界の自然環境と文化)	北﨑 幸之助	木3	2	言・養	63
女性学a	(家庭と職場のジェンダー)	女性学b	(ジェンダーとメディア表象)	片山 亜紀/上野 直子	木3/火3	1	−	64
数学a	(微分学)	数学b	(積分学)	福井 尚生	月3	1	養	65
物理学a	(相対論の世界)	物理学b	(量子論の世界)	東 孝博	月2	1	養	66
化学a	(化学と環境の歴史)	化学b	(化学と健康の歴史)	内田 正夫	木3	1	−	67
生物学a	(植物の特性と自然の仕組み)	生物学b	(植物の分布)	加藤 僖重	火1	2	養	68
地球科学a	(恒星天文学)	地球科学b	(銀河天文学)	福井 尚生	水1	1	−	69
ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ学a	(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)			和田 智	月4	1	−	70

カテゴリーⅢ 各論科目

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
		ことばと思想(Ⅲ)	(日本語の談話と日本語教育)	浅山 佳郎	木1	2	言・養	71
ことばと思想(Ⅲ)	(国際語としての英語)	ことばと思想(Ⅲ)	(多言語環境と英語)	臼井 芳子	火3	2	言・養	72
ことばと思想(Ⅲ)	(科学としての心理学とこころの世界)			田口 雅徳	木2	1	養	73
ことばと思想(Ⅲ)	(生と死の意味の哲学1)	ことばと思想(Ⅲ)	(生と死の意味の哲学2)	谷口 郁夫	月3	1	−	74
ことばと思想(Ⅲ)	(通訳・翻訳論)			永田 小絵	水3	2	言	75
ことばと思想(Ⅲ)	(外国語としての日本語教育)			中西 家栄子	水1	1	言・養	76
		ことばと思想(Ⅲ)	(日本語教材における学習項目の扱い)	中西 家栄子	水1	2	言・養	77
ことばと思想(Ⅲ)	(英語圏の社会と思想a)	ことばと思想(Ⅲ)	(英語圏の社会と思想b)	福井 嘉彦	火2	2	英	78
歴史と文化(Ⅲ)	(日本文化論)			飯島 一彦	木3	1	言・養 ・06以前入学者	79
歴史と文化(Ⅲ)	(未開人の認識a)	歴史と文化(Ⅲ)	(未開人の認識b)	井上 兼行	火2	2	養	80
歴史と文化(Ⅲ)	(日本思想史a)			川村 肇	木3	2	言・養	81
		歴史と文化(Ⅲ)	(教育の歴史b)	川村 肇	木3	1	養	81
		歴史と文化(Ⅲ)	(日韓交流史)	金 熙淑	月4	2	言・養	82
歴史と文化(Ⅲ)	(韓国文化各論c)			金 貞我	月5	2	言・養	83
歴史と文化(Ⅲ)	(大衆文化論)			木本 玲一	火3	2	言・養	84
		歴史と文化(Ⅲ)	(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火2	2	言・養	85
歴史と文化(Ⅲ)	(日本事情とコミュニケーション教育)			小山 慎治	木4	1	養	86
		歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の文学文化)	佐藤 勉	火3	1	養	87
歴史と文化(Ⅲ)	(能楽論)	歴史と文化(Ⅲ)	(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	2	言	88
歴史と文化(Ⅲ)	(民俗学)	歴史と文化(Ⅲ)	(地域文化)	長野 隆之	金1	2	言・養	89
歴史と文化(Ⅲ)	(スペイン研究入門)			二宮 哲	月5	1	言・養 ・06以前入学者	90
		歴史と文化(Ⅲ)	(ラテンアメリカ研究入門)	佐藤 勘治	月5	1	言・養 ・06以前入学者	90
歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の小説a)	歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の小説b)	藤田 永祐／片山 亜紀	金3/木3	2	英・養	91
歴史と文化(Ⅲ)	(アラブ文化・芸術a)	歴史と文化(Ⅲ)	(アラブ文化・芸術b)	藤原 和彦	火2	2	言・養	92
歴史と文化(Ⅲ)	(文化史入門)			古川 堅治	水2	1	言・養	93
歴史と文化(Ⅲ)	(グローバル化とイスラム－公と私)	歴史と文化(Ⅲ)	(移民･交易に見る文化変容)	水口 章	月5	1	−	94
		歴史と文化(Ⅲ)	(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	山本 英政	月2	1	英・言・養 ・06以前入学者	95
歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の文化)	歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏事情)	山本 英政	月4	2	英・言・養	96
現代社会(Ⅲ)	(東アジア国際関係の史的展開)	現代社会(Ⅲ)	(東アジア国際関係の現状と展望)	阿部 純一	土1	1	−	97
現代社会(Ⅲ)	(ヨーロッパ地域論)	現代社会(Ⅲ)	(ドイツ地域論)	飯嶋 曜子	火4	1	独	98
現代社会(Ⅲ)	(民法a)	現代社会(Ⅲ)	(民法b)	石井 保雄	金2	1	法	99
現代社会(Ⅲ)	(教育法a)	現代社会(Ⅲ)	(教育法b)	市川 須美子	木3	2	法	100
現代社会(Ⅲ)	(異文化間コミュニケーション)			岡村 圭子	木1	1	英･言・養 ・06以前入学者	101
現代社会(Ⅲ)	(社会科学概論a)	現代社会(Ⅲ)	(社会科学概論b)	堅田 剛	火1	1	法	102

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会(Ⅲ)	(歴史の中のメディア)	現代社会(Ⅲ)	(メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	−	103
		現代社会(Ⅲ)	(NGO論)	清水 俊弘	水5	1	言･養	104
現代社会(Ⅲ)	(コトバと社会・言語文化概論)	現代社会(Ⅲ)	(コトバと社会・言語文化概論)	下川 浩	火5	1	言 ･06以前入学者	105
現代社会(Ⅲ)	(韓国社会各論b)			全 載旭	水3	2	言・養	106
現代社会(Ⅲ)	(韓国研究入門)			平田 由紀江	水1	1	養	107
現代社会(Ⅲ)	(中東政治思想a)	現代社会(Ⅲ)	(中東政治思想b)	藤原 和彦	火1	1	−	108
現代社会(Ⅲ)	(ブラジル研究)			矢澤 達宏	水4	2	言･養	109
現代社会(Ⅲ)	(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	現代社会(Ⅲ)	(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	山越 徳	火2	2	−	110
		自然･環境･人間(Ⅲ)	(スポーツコーチ学b)	梶野 克之	木2	2	養	111
自然･環境･人間(Ⅲ)	(地球環境の変化とその要因)	自然･環境･人間(Ⅲ)	(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	−	112
自然･環境･人間(Ⅲ)	(宇宙論a)	自然･環境･人間(Ⅲ)	(宇宙論b)	福井 尚生	金1	1	養	113
自然･環境･人間(Ⅲ)	(太陽系天文学a)	自然･環境･人間(Ⅲ)	(太陽系天文学b)	福井 尚生	月1	1	言･養 ･06以前入学者	114
自然･環境･人間(Ⅲ)	(地球外文明論a)	自然･環境･人間(Ⅲ)	(地球外文明論b)	福井 尚生	金3	1	−	115

カテゴリーⅣ 実践実習科目

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅳ)	(写本を読む)	ことばと思想(Ⅳ)	(碑文を読む)	飯島 一彦	木5/木3	2	言・養	116
ことばと思想(Ⅳ)	(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想(Ⅳ)	(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	−	117
		ことばと思想(Ⅳ)	(韓国の言語文化)	金 秀昌	火5	2	言・養	118
ことばと思想(Ⅳ)	(書き言葉の問題)	ことばと思想(Ⅳ)	(話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	−	119
ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月3	1	−	120
ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月2	1	−	120
ことばと思想(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・文章編)	下川 浩	金3	1	−	121
		ことばと思想(Ⅳ)	(心理検査法とこころの健康)	田口 雅徳	木2	2	養	122
ことばと思想(Ⅳ)	(言語学から詩へ)	ことばと思想(Ⅳ)	(言語学から詩へ2)	谷口 亜沙子	水1	1	−	123
ことばと思想(Ⅳ)	(生活文化の発見)	ことばと思想(Ⅳ)	(生活文化の記述)	長野 隆之	金2	1	−	124
ことばと思想(Ⅳ)	(英語通訳の仕事)	ことばと思想(Ⅳ)	(英語通訳の仕事)	福井 星一	土2	1	−	125
ことばと思想(Ⅳ)	(論文を書く)	ことばと思想(Ⅳ)	(口頭発表を行う)	福沢 健	月3	1	−	126
ことばと思想(Ⅳ)	(現代ジャーナリズム考1)	ことばと思想(Ⅳ)	(現代ジャーナリズム考2)	細野 徳治	火4	1	−	127
歴史と文化(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1)	歴史と文化(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2)	伊藤 幸次	木4	1	−	128
歴史と文化(Ⅳ)	(アメリカ詩入門)	歴史と文化(Ⅳ)	(イギリス詩入門)	遠藤朋之/白鳥正孝	木4/月4	2	英･養	129
歴史と文化(Ⅳ)	(韓国文化各論a)	歴史と文化(Ⅳ)	(韓国文化各論b)	金 秀昌	火5/木3	2	言・養	130
		歴史と文化(Ⅳ)	(日韓比較文化論a)	金 熙淑	月5	2	言・養	131
歴史と文化(Ⅳ)	(日韓比較文化論b)			金 熙淑	月4	2	言・養	132
歴史と文化(Ⅳ)	(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)			倉田 量介	火3	2	言･養	133
歴史と文化(Ⅳ)	(おもしろまじめな芝居のミカタa)	歴史と文化(Ⅳ)	(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋 一男	月3	2	英･養	134
歴史と文化(Ⅳ)	(イタリアの音楽史)	歴史と文化(Ⅳ)	(イタリアの声楽曲)	園田 みどり	木3	1	−	135
歴史と文化(Ⅳ)	(詩と音楽2)	歴史と文化(Ⅳ)	(詩と音楽3)	園田 みどり	木2	1	−	136
歴史と文化(Ⅳ)	(韓国史)			平田 由紀江	火3	2	言・養	137
歴史と文化(Ⅳ)	(西洋美術史a)	歴史と文化(Ⅳ)	(西洋美術史b)	前川 久美子	火3	1	−	138
現代社会(Ⅳ)	(インターンシップ)			阿部 正浩	土1・土2	2	−	139
現代社会(Ⅳ)	(インターンシップ)			阿部 正浩	土1・土2	2	−	139
現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	大井 正博	金3	1	−	140
現代社会(Ⅳ)	(教育の現場:教師と語るa)			川村 肇	水3	1	養	141
		現代社会(Ⅳ)	(教育の現場:教師と語るb)	川村 肇	水3	2	養	141
現代社会(Ⅳ)	(異文化理解教育)	現代社会(Ⅳ)	(こども論)	小島 優生	木2	2	養	142
現代社会(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・話し合い編)	現代社会(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・話し合い編)	下川 浩	金4	1	−	143
現代社会(Ⅳ)	(経理入門a)	現代社会(Ⅳ)	(経理入門b)	杉 麻利子	火2	1	経	144
現代社会(Ⅳ)	(英文会計入門a)	現代社会(Ⅳ)	(英文会計入門b)	杉 麻利子	火3	1	−	145
		現代社会(Ⅳ)	(模擬国際裁判)	鈴木 淳一	月2	3	法	146
		現代社会(Ⅳ)	(韓国社会論)	平田 由紀江	水2	2	言・養	147
現代社会(Ⅳ)	(韓国社会各論a)			平田 由紀江	水2	2	言・養	147

春 科目名	副題	秋 科目名	副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会(Ⅳ)	(新聞を読む1)	現代社会(Ⅳ)	(新聞を読む2)	細野 徳治	金4	1	−	148
現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	矢羽々 崇/金井 満	金2/水3	1	独	149
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金3	1	外・養・経	150
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金4	1	外・養・経	150
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	久東 義典	火1	1	外・養・経	150
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	崔 冬梅	木5	1	外・養・経	150
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	150
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータアドヴァンスa)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータアドヴァンスb)	長 慎也	月2	1	外・養・経	151
現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	A.ベロフ	水5	1	養	152
現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	久東 義典	火2	1	養	153
自然・環境・人間(Ⅳ)	(東洋の健康哲学a)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(東洋の健康哲学b)	青柳 多恵子	水1	1	−	154
自然・環境・人間(Ⅳ)	(統計と調査法)			安間 一雄	水3	2	養	155
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤 僖重	水2	2	養	156
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤 僖重	木2	2	養	156
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤 僖重	木3	2	養	156
自然・環境・人間(Ⅳ)	(情報検索と加工)			呉 浩東	水1	2	養	157
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	養	158
自然・環境・人間(Ⅳ)	(マルチメディア論)			田中 雅英	火4	2	養	160
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(体育経営スポーツマネージメント)	松原 裕	月5	2	養	161
自然・環境・人間(Ⅳ)	(スポーツコーチ学a)			依田 珠江	木3	2	養	162
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(からだの仕組み)	依田 珠江	木3	1	−	163
自然・環境・人間(Ⅳ)	(リーダーシップ論)			和田 智	金3	2	養	164

カテゴリーV　体育科目

科目名	(副題)	開講期	担当教員	曜 時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション							
	(インラインスケートa,b)	春・秋	和田　智	水 1	1		165
	(インラインスケートb)	秋	和田　智	土 2	1		165
	(ウェルネス入門a,b)	春・秋	依田　珠江	木 2	1		166
	(硬式テニスa,b)	春・秋	小山　さなえ	土 2	1		167
	(硬式テニスa,b)	春・秋	小山　さなえ	土 1	1		167
	(硬式テニスa,b)	春・秋	田中　茂宏	木 3	1		168
	(硬式テニスa,b)	春・秋	松原　裕	水 1	1		169
	(硬式テニスa,b)	春・秋	松原　裕	火 3	1		169
	(硬式テニスb)	秋	依田　珠江	月 3	1		170
	(ゴルフa,b)	春・秋	吉田　卓司	金 1	1		171
	(ゴルフa,b)	春・秋	吉田　卓司	金 2	1		171
	(サッカーa,b)	春・秋	萩原　武久	木 2	1		172
	(サッカーa,b)	春・秋	松本　光弘	月 2	1		173
	(サッカーa,b)	春・秋	松本　光弘	月 3	1		173
	(スポーツエクササイズa,b)	春・秋	梶野　克之	水 2	1		174
	(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤　初恵	火 2	1		175
	(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤　初恵	火 3	1		175
	(ソフトボールa,b)	春・秋	池垣　功一	火 2	1		176
	(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野　元祐	木 1	1		177
	(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野　元祐	木 2	1		177
	(卓球a,b)	春・秋	池垣　功一	火 1	1		178
	(卓球a,b)	春・秋	太田　朝博	金 2	1		179
	(卓球a,b)	春・秋	田中　茂宏	木 1	1		180
	(卓球a,b)	春・秋	山中　邦夫	月 2	1		181
	(卓球a,b)	春・秋	山中　邦夫	月 1	1		181
	(バスケットボールa,b)	春・秋	依田　珠江	月 1	1		182
	(バスケットボールa,b)	春・秋	依田　珠江	月 2	1		182
	(バスケットボールa,b)	春・秋	依田　珠江	水 1	1		182
	(バスケットボールa,b)	春・秋	依田　珠江	水 2	1		182
	(バドミントンa,b)	春・秋	梶野　克之	火 3	1		183
	(バドミントンa,b)	春・秋	梶野　克之	水 3	1		183
	(バドミントンa,b)	春・秋	梶野　克之	木 3	1		183
	(バドミントンa,b)	春・秋	萩原　武久	火 1	1		184
	(バドミントンa,b)	春・秋	萩原　武久	火 2	1		184
	(バレーボールa,b)	春・秋	太田　朝博	金 3	1		185
	(バレーボールa,b)	春・秋	神宮司　親治	月 3	1		186
	(フットサルa,b)	春・秋	神宮司　親治	月 1	1		187
	(フットサルa,b)	春・秋	萩原　武久	木 3	1		188
	(フットサルa,b)	春・秋	松原　裕	火 1	1		189
	(フリスビーa)	春	和田　智	土 2	1		190
	(フリスビーb)	秋	和田　智	水 2	1		190
	(ボールルームダンスa,b)	春・秋	青柳　多恵子	火 2	1		191
	(ボールルームダンスa,b)	春・秋	青柳　多恵子	水 2	1		191
	(ボールルームダンスa,b)	春・秋	青柳　多恵子	木 2	1		191
	(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	水 2	1		192
	(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	集中	和田　智	集中	1		192
	(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	金 2	1		192
	(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	集中	和田　智	集中	1		192
	(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	土 1	1		193
	(アウトドア山岳)	集中	和田　智	集中	1		193
	(バランストレーニング)	秋	松原　裕	水 3	1		194
	(スノースポーツ)	集中	松原　裕	集中	1		194
	(スケートトレーニング)	秋	和田　智	月 2	1		195
	スポーツ・レクリエーション	集中	和田　智	集中	1		195
	(学生交流支援プログラム)	春	依田　珠江	土 1	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	松原　裕	土 1	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	青柳　多恵子	土 1	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	梶野　克之	土 2	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	松原　裕	土 2	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	依田　珠江	土 2	1	外・経・法	*

外国語科目

英語科目

■クラス指定科目

対象・コース等	科目名			担当教員	曜 時	履修不可	ページ
	111	a,b	Basic Reading Strategies	各担当教員		ー	196
	112	a,b	Reading Strategies	各担当教員		ー	196
(国)	121	a,b	Basic Composition	各担当教員		ー	197
(国)	122	a,b	Composition	各担当教員		ー	197
(経・法)	141	a,b	Basic Listening Comprehension	各担当教員		ー	199
(独・仏)	141	a,b	Basic Listening Comprehension	各担当教員		ー	200
(経)	142	a,b	Speech Communication	各担当教員		ー	200
(Super)	142	a,b	Speech Communication	J. スティベンソン/C. カーペンター	月5/ 水4	ー	201
(独・仏・法)	211	a,b	Basic Reading Strategies	各担当教員		ー	202
(独・仏・法)	212	a,b	Reading Strategies	各担当教員		ー	202
(Super)	212	a,b	Reading Strategies	岡田　圭子	火5/ 月5	ー	203
(国)	221	a,b	Basic Composition	各担当教員		ー	204
(国)	222	a,b	Composition	各担当教員		ー	204
(独・仏・法)	241	a,b	Basic Listening Comprehension	各担当教員		ー	205
(独・仏・法)	242	a,b	Speech Communication	各担当教員		ー	205
(Super)	242	a,b	Speech Communication	C. カーペンター	火5/ 木5	ー	206
(独・仏)	311	a,b	Reading English for Specific Purposes	各担当教員		ー	207
(Super)	311	a,b	Reading English for Specific Purposes	飯島　優雅	月 5	ー	208

■対象者指定科目

(外国人・帰国学生用)	110	a,b	Introductory Reading Strategies	菊池　武	水 4	ー	209
(外国人・帰国学生用)	211	a,b	Basic Reading Strategies	岡田　圭子	火 4	ー	210

■選択科目

	121	a,b	Basic Composition	石月　正伸	木 4	国	211
	121	a,b	Basic Composition	笠原　誠也	土 1	国	212
	121	a,b	Basic Composition	福田　哲哉	木 3	国	213
	121	a,b	Basic Composition	堀　いづみ	木 2	国	214
	121	a,b	Basic Composition	菊池　武	水 3		215
	131	a,b	Basic Communicative English	B. K. カートル	月 3	経・法	216
	131	a,b	Basic Communicative English	C. カーペンター	木 3	経・法	217
	131	a,b	Basic Communicative English	M. ミルティアダス	土 1	経・法	218
	131	a,b	Basic Communicative English	S. フルトン	金 4	経・法	219
	131	a,b	Basic Communicative English	青木　理沙	水 4	独・仏	220
	131	a,b	Basic Communicative English	B. K. カートル	月 1	独・仏	221
	221	a,b	Basic Composition	笠原　誠也	土 2	国	222
	231	a,b	Basic Communicative English	M. ミルティアダス	土 2		223
	311	a,b	Reading English for Specific Purposes	佐藤　保	水 3	独・仏	224
	321	a,b	Writing English for Specific Purposes	青木　理沙	水 3		225
	331	a,b	Speech Communication	M. ミルティアダス	月 3		226
	351		Computer-Assisted English Learning	J. スティベンソン	月 3		227

英語以外の外国語科目

対象・コース等	科目名			担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語 I	a,b	(基礎)	各担当教員		独	228
(総合コース)	ドイツ語 I	a,b	(基礎)	各担当教員		独	229
(総合コース)	ドイツ語 I	a,b	(会話)	各担当教員		独	230
(基礎コース)	ドイツ語 II	a,b	(基礎)	各担当教員		独	231
(総合コース)	ドイツ語 II	a,b	(基礎)	各担当教員		独	232
(総合コース)	ドイツ語 II	a,b	(会話)	各担当教員		独	233
	ドイツ語 III	a,b	(会話)	A. リプスキ	金 3	独	234
(基礎コース)	フランス語 I	a,b	(基礎)	各担当教員		仏	235
(総合コース)	フランス語 I	a,b	(総合J)	各担当教員		仏	236
(総合コース)	フランス語 I	a,b	(総合F)	各担当教員		仏	237
(基礎コース)	フランス語 II	a,b	(基礎)	各担当教員		仏	238
(総合コース)	フランス語 II	a,b	(総合J)	各担当教員		仏	239
(総合コース)	フランス語 II	a,b	(総合F)	各担当教員		仏	240

対象・コース等	科目名			担当教員	曜 時	履修不可	ページ
	フランス語Ⅲ	a,b		M. P. ミュノーズ	火 3	仏	241
（基礎コース）	スペイン語Ⅰ	a,b	（文法）	各担当教員		言(*1)・養(*1)	242
（総合コース）	スペイン語Ⅰ	a,b	（文法）	各担当教員		言(*1)・養(*1)	243
（総合コース）	スペイン語Ⅰ	a,b	（会話）	各担当教員		言(*1)・養(*1)	244
（基礎コース）	スペイン語Ⅱ	a,b	（文法）	各担当教員		言(*1)・養(*1)	245
（総合コース）	スペイン語Ⅱ	a,b	（文法）	各担当教員		言(*1)・養(*1)	246
（総合コース）	スペイン語Ⅱ	a,b	（会話）	各担当教員		言(*1)・養(*1)	247
	スペイン語Ⅲ	a,b	（講読）	北岸　団	月 3	言(*1)・養(*1)	248
	スペイン語Ⅲ	a,b	（会話）	J. フェレーラス	金 5	言(*1)・養(*1)	249
（基礎コース）	中国語Ⅰ	a,b	（会話）	各担当教員		言(*2)・養(*2)	250
（総合コース）	中国語Ⅰ	a,b	（会話）	各担当教員		言(*2)・養(*2)	251
（総合コース）	中国語Ⅰ	a,b	（講読・文法）	各担当教員		言(*2)・養(*2)	252
（基礎コース）	中国語Ⅱ	a,b	（会話）	各担当教員		言(*2)・養(*2)	253
（総合コース）	中国語Ⅱ	a,b	（会話）	各担当教員		言(*2)・養(*2)	254
（総合コース）	中国語Ⅱ	a,b	（講読・文法）	各担当教員		言(*2)・養(*2)	255
	中国語Ⅲ	a,b	（会話）	劉　岸麗	木 3	言(*2)・養(*2)	256
	中国語Ⅲ	a,b	（講読・文法）	平野　佐和	火 1	言(*2)・養(*2)	257
	イタリア語Ⅰ	a,b		園田みどり	木 4		258
	イタリア語Ⅰ	a,b		園田みどり	木 5		258
	イタリア語Ⅰ	a,b		島津　寛	土 1		259
	イタリア語Ⅱ	a,b		島津　寛	土 2		260
	ポルトガル語Ⅰ	a,b		牧野　真也	金 3		261
	ポルトガル語Ⅱ	a,b		牧野　真也	金 4		262
	ロシア語Ⅰ	a,b	（総合）	齋藤　毅	水 4		263
	ロシア語Ⅰ	a,b	（会話）	佐藤　千登勢	月 4		264
	ロシア語Ⅱ	a,b	（総合）	齋藤　毅	水 3		265
	ロシア語Ⅱ	a,b	（会話）	佐藤　千登勢	月 3		266
	朝鮮語Ⅰ	a,b	（総合）	森　勇俊	土 1	養(*1)	267
	朝鮮語Ⅰ	a,b	（総合）	金　貞我	月 3	養(*1)	268
	朝鮮語Ⅰ	a,b	（講読・会話）	森　貞美	土 2	養(*1)	269
	朝鮮語Ⅰ	a,b	（講読・会話）	金　貞我	月 2	養(*1)	270
	朝鮮語Ⅱ	a,b	（総合）	森　貞美	土 1	養(*1)	271
	朝鮮語Ⅱ	a,b	（講読・会話）	森　勇俊	土 2	養(*1)	272
	タイ語Ⅰ	a,b		江藤　双恵	火 3		273
	タイ語Ⅱ	a,b		江藤　双恵	火 2		274
	アラビア語Ⅰ	a,b		師岡カリーマ・エルサムニー	月 3		275
	アラビア語Ⅱ	a,b		師岡カリーマ・エルサムニー	月 2		276
	現代ヘブライ語Ⅰ	a,b		阿部　望	金 2		277
	古典ギリシア語Ⅰ	a,b		古川　堅治	木 3		278
	ラテン語Ⅰ	a,b		小倉　博行	金 2		279
	ラテン語Ⅱ	a,b		小倉　博行	金 3		280

全学共通授業科目以外（外国人学生用科目）

対象・コース等	科目名			担当教員	曜 時	履修不可	ページ
（外国人・帰国学生）	日本語Ⅰ	a,b		各担当教員		−	281
（外国人・帰国学生）	日本語Ⅱ	a,b		井上　知子	月 2	−	282
（外国人・帰国学生）	日本語Ⅱ	a,b		斎藤　明	月 3	−	283
（外国人・帰国学生）	日本語Ⅱ	a,b		武田　明子	水 2	−	284
（外国人・帰国学生）	日本語Ⅱ	a,b		岩沢　正子/野村　美知子	金 2	−	285
	日本事情	a,b		守田　逸人	金 4		286

（春）	全学総合講座（食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」）	担当者	青柳　多恵子

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生みより進化発展してきたといえる。
現代では、科学技術の発達が大きく生活を変容させている全世界的に問題化されている「食」の安全・安心が個人の判断を超えたところに存在し、「食」作ることから「食」を買う時代になりつつあることが、今一度「食文化」として伝承されてきたことを検証してみることが必要と思われる。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学を生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。

受講生への要望

故郷の食材（特産品）と料理（おふくろの味）を調査（写真・レシピ）を提出

評価方法

毎回調査アンケート。
出席重視

テキスト、参考文献

プリント適宜配布

授業計画

① 4/8 青柳 「ガイダンス」

② 4/15 後藤 「茶道と懐石料理」

③ 4/22 磯淵 「茶葉と文化」
（紅茶の歴史とアフタヌーンティー）

④ 4/29 青柳 「現代日本の食育について」
(味覚の育成と家庭料理)

⑤ 5/13 辻 「中国の食文化の影響」
日本のラーメン

⑥ 5/20 井上 「インドとカレー」

⑦ 5/27 柳原 「日本料理の彩り」
日本料理の膳組と作法」

⑧ 6/3 未定 「茶とお菓子」

⑨ 6/10 和田 「キャンプと食事」
野外での楽しみ方

⑩ 6/17 朝倉 「日本と韓国のキムチ」

⑪ 6/24 未定 「江戸期の食」

⑫ 7/1 青柳 「現代食事情の問題点」
食事のマナー・栄養と疾病
食材の自給率

⑬ 7/8 青柳 「現代日本の食育について」
給食の影響（栄養とマナー）

（秋）	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	青柳　多恵子

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩豊かさを与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

気候・風土・時代・科学の発達・国民性といった様々な要素と交流により、全世界が一つといった食の一体化が 20 世紀には起こり、21 世紀には加速度的な広がりを見せている。このような現実を認識しつつ今一度食文化の意義とその豊かさを学ぶ必要と過去に育てられた人々の足跡を知る事を目標とする。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学を生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。

受講生への要望

故郷の食材（特産品）と料理（おふくろの味）を調査（写真・レシピ）を提出

評価方法

毎回調査アンケート。
出席

テキスト、参考文献

プリント適宜配布

授業計画

1　9/30　青柳　「食文化と人間」
動物の餌と人間の食事の違い

2　10/7　後藤　「食事（暮らし）の歴史学」
食事作法の背景にあるもの

3　10/14　未定　「世界の食文化」
香辛料の歴史と食文化

4　10/21　未定　「世界の食文化」
料理・器・食材

5　10/28　未定　「世界の食文化」
極寒の地の食と健康

6　11/11　未定　「世界の食文化」事情」
グローバリズムな食の功罪

7　11/18　柳原　「世界の食文化」
発酵食品の意義

8　11/25　未定　「日本の食文化」
日本の東西の器

9　12/2　未定　「日本の食文化」
故郷の家庭料理と地域の食材

10 12/9　未定　「日本の食文化」寿司
祭りと行事のおもてなし料理

11 12/16　和田　「日本の食文化」
食とからだのエコロジー

12 12/23　青柳　「日本の食文化」
食卓とくらしの時代変容

13 1/13　青柳　「まとめ」
最近話題となった食の安全を考える。

（春）	全学総合講座（環境学1）（環境基礎学―自然を見つめる）	担当者	環境共生研究所提供講座 秋本　弘章

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境」および「自然と人間社会のかかわり」について検討する。

本講座は、環境共生研究所研究員経済学部秋本准教授がコーディネーターとなり、環境共生研究所所長犬井経済学部教授、同研究員加藤国際教養学部教授および松本経済学部非常勤講師（元筑波大学地球科学系教授）が担当する。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。

評価方法

定期試験に出席状況を総合的に評価します。
なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示されます。

授業計画

1　環境とは何か
2　最近の地質時代の環境変動
3　地球規模の水循環
4　平野の形成―海水面変化と地盤運動
5　大気の大循環と世界の気候
6　土壌の生成と人為的改変/地表プロセスと土砂災害
7　植物とエネルギー循環
8　植物分布と環境（1）
9　植物分布と環境（2）
10　植物と動物
11　人類と環境（1）　人類社会と環境の意味
12　人類と環境（2）　農業農村の社会と環境
13　人類と環境（3）　都市の社会と環境

（秋）	全学総合講座（環境学2）（環境応用学―環境と社会）	担当者	環境共生研究所提供講座 秋本　弘章

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

秋学期は、地球・地域環境問題の現状とそれに対するさまざまな主体の対応を具体的に検討するとともに、環境共生社会へ向けた具体的な取り組みについて検討する。

本講座は、環境共生研究所研究員経済学部秋本准教授がコーディネーターとなり、環境共生研究所所長犬井経済学部教授、同研究員湯田経済学部教授、浜本経済学部准教授および一之瀬法学部教授および何人かの外部講師による連続講義である。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。

評価方法

定期試験に出席状況を総合的に評価します。
なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示されます。

授業計画

1　地球環境問題とは―雑木林と世界
2　地球・環境問題の現状（1）　人口と食糧
3　地球・地域環境の現状（2）　酸性雨
4　地球・地域環境の現状（3）　熱帯雨林の破壊
5　地球・地域環境の現状（4）　地球温暖化
6　地球・地域環境問題への対応―企業活動（環境会計）
7　地球・地域環境問題への対応―環境行政・環境経済
8　地球・地域環境問題への対応―環境と国際社会
9　地球・地域環境問題への対応－環境と法
10　地球・地域環境問題への対応―環境教育
11　地球・地域環境問題への取り組み（1）
12　地球・地域環境問題への取り組み（2）
13　地球・地域環境問題への取り組み（3）

（春）	全学総合講座(獨協学)	担当者	新井　孝重

講義目標

「獨協学」は獨協学園の歴史を学ぶ講座である。学園は時代の変遷のなかで、幾多の試練に耐えて 120 年余の歴史を重ね、総じて教育の大道を歩んできた。

この講座の聴講を通じ、学生諸君が自己の学ぶ学園の歴史とその社会的地位を把握し、もって獨協大学で学ぶことの意味や、未来にむけての自己の可能性について展望できることを願っている。

講義概要

1883(明治 16)年に創立された獨逸学協会学校は、ドイツ学の普及を意図していた政府から補助金を受け、初期に存在した専修科(法律学校)からは、多数の司法官・行政官が輩出した。

しかし、帝国大学の官僚養成体制が確立すると、政府の援助は打ち切られ、専修科は廃止され、中等教育機関としての普通科(獨協中学・高等学校の前身)が残った。

やがて経営的に行きづまり、明治 30 年代と第一次世界大戦後には、東京府への経営移管も考えられるほど困窮をみせた。第二次世界大戦中、ヒトラーユーゲント来校などにみられるドイツを友邦とよぶ国際情勢もあって、勢いを盛り返したが、戦争によって学園は荒廃した。

戦後、獨逸学協会学校中学の卒業生天野貞祐が校長に就任、人間の尊重を掲げて学校再建をはかった。そして 1964(昭和 39)年、「大学は学問を通じての人間形成の場である」との理念のもとに、獨協大学が建学された。

受講生への要望

毎回の講義後、積極的な質問、発言を期待する。

評価方法

課題に対するレポート(１回)の内容で評価する。課題は講座進行の後半に指示する。

テキスト、参考文献

『目でみる獨協百年』(獨協学園)。
『獨協学園史 1881-2000』(獨協学園)。
堅田剛『獨逸学協会と明治法制』(木鐸社)。
新宮譲治『獨逸学協会学校の研究』(校倉書房)
(上記文献は図書館に所蔵)、その他「講義のレジメ」。

授業計画

1　「獨協学」についてのガイダンス
新井孝重(経済学部経済学科教授)

2　法律学校としての獨逸学協会学校
担当：新宮譲治(元非常勤講師)

3　西周と加藤弘之
――明六社(明治啓蒙思想家の組織)に参加していた二人の校長
担当：新宮譲治

4　専修科廃止後市民的広がりを遂げた獨逸学協会学校
担当：新宮譲治

5　大村仁太郎校長の先駆的教育論
担当：新井孝重

6　獨協とナチス
――ヒトラーユーゲント来校の頃
担当：新宮譲治

7　天野貞祐の校長就任から獨協大学創設の頃
担当：新宮譲治

8　特別講義
「獨協学園と自由学園――天野教育の二つの現場」
担当：雪山伸一(元朝日新聞ボン支局長・成蹊大学講師)

9　特別講義
「天野貞祐 Who?――思想をどう生かすか」
担当：雪山伸一

10　特別講義
「獨協大学創立期の回顧」
担当：下川　浩(外国語学部ドイツ語学科教授)

11　特別講義
「日本近現代の私学――獨協を中心に」
担当：寺崎昌男(東京大学名誉教授)

12　獨協大学の教育理念――教養主義について
担当：新井孝重

13　シンポジウム
「天野理念を現代社会にいかに生かすか」
司会：新井孝重
講師：下川浩・新宮譲治・雪山伸一

（春）（秋）	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	担当者	伊藤　爲一郎

講義目標

「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など日本の経済･社会をとりまく環境の変貌によって、就職･雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化がおきています。一方ではせっかく就職したのに、３年以内に離職する若者が３割にも達するという結果が出ています。その主な理由は、学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生でもっとも重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容が問われるのです。この講義は、皆さんが個性にあった生き方をデザインし充実した学生生活送れるよう支援するものです。

講義概要

生きていくためには何かの仕事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって、選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成、するために何が必要かその手順を実践的に考えてみます。目標を持ってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。

受講生への要望

将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれません。キャンパスライフの目標を見つけるために、辛抱して講義に出席しているとだんだんはっきりとしてくるでしょう。卒業時のはっきりとした将来像が楽しみです。

評価方法

レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況（１０回以上出席のこと）を総合して評価します。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。講義の中で参考文献を紹介します。

授業計画

第１回　オリエンテーション
講義の目的　、進め方などの説明

第２回　企業で働く（企業が学生に求めるもの）

第３回　公共部門（教員・公務員・ＮＰＯ）で働く

第４回　男女共同参画社会（男女共同参画社会を推進する）

第５回　労働市場と雇用はどのように変化してきたか

第６回　ベンチャー企業を起業する

第７回　正社員とフリーター

第８回　仕事と適性（仕事をどのように選ぶか）

第９回　自己理解・自己表現

第１０回　社会の求める人材とは（グローバルに活躍できる社会人になるために）

第１１回　活躍するＯＢ・ＯＧ

第１２回　キャンパスライフと仕事
パネルデイスカッションを予定

第 13 回　各学部 4 年生による就職体験談

（講義の順番が変わることがあります）

(春)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論１）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。
この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て働くことを通じて社会に貢献することとは何かをつかんでもらうことも意図している。なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの少ない外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっている。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれる。
１年生でも理解できるように平易な説明が行われるが、講義と平行して企業を勉強し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。

受講生への要望

- 「ものづくりの現場、ものづくりの現場 1」の受講者は受講できない
- ２年次以降の受講が望ましい
- 15 分以上の遅刻は認めない
- ノートを必ずとること。試験に不可欠である
- 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する

評価方法

出席状況（1/3）と定期試験（2/3）を総合して行う。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する）。

授業計画

第１回　科目ガイダンス　経営者とは

第２回　会社のしくみ

第３回 トヨタの強みーカンバン方式とは

第４回　農場から食卓までー食の安全を求めて

第５回　医療産業の難しさ・面白さー日本製薬企業のビジョンと課題

第６回　ファッションビジネスとはーアパレル産業の周辺

第７回　花王の成長戦略ーアジエンス成功の秘密

第８回　三菱レイヨンの脱繊維戦略

第９回　日本の海運業

第１０回　売れる商品づくりー自動車のマーケティング

第１１回　アサヒビールの海外事業戦略

第１２回　リース業と不動産ビジネスの概要

第１３回　保険ビジネスとは

(秋)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論２）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

経営者が語る現代企業論１に続く講義である。
この講座は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。
この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て働くことを通じて社会に貢献することとは何かをつかんでもらうことも意図している。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれると思われる。
１年生でも理解できるように平易な説明が行われるが、講義と平行して企業を勉強し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。

受講生への要望

- 「ものづくりの現場、ものづくりの現場 2」の受講者は受講できない
- ２年次以降の受講が望ましい
- 15 分以上の遅刻は認めない
- ノートを必ずとること。試験に不可欠である
- 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する

評価方法

出席状況（1/3）と試験（2/3）を総合して行う。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する)。

授業計画

第１回　科目ガイダンス、会社で働くこととは

第２回　外食産業の動向－レストランビジネスの現状と課題

第３回 ヤマト運輸躍進の背景

第４回　ブリヂストン強さの秘密

第５回　鉄鋼業界－原料確保の世界戦略

第６回　目覚める巨大産業－ツーリズムと航空ビジネスの課題

第７回　信託銀行のすべて

第８回　総合商社からみた日米経営比較

第９回　出版業界の最近の動向－売れる本の作り方

第１０回　総合スーパーの勝ち組－イトーヨーカ堂の強さ

第１１回　IT 社会におけるリスクマネジメント

第１２回　非鉄金属のリサイクルビジネス－アルミ缶リサイクル

第１３回　銀行のすべて

（春）	全学総合講座（多文化社会のメディア・リテラシー）	担当者	岡村　圭子

講義目標

現代社会は多メディア社会と言われている。なおかつ、さまざまな文化が混在する社会（多文化社会）でもある。そこで生きる私たちは、つねに膨大な量の情報に囲まれており、そのなかから自分に必要な情報を取捨選択し、自分なりにその情報を解釈していかなければならない。なおかつ、自分自身もまた情報の発信者であることも忘れてはならない。

そういった状況のなかで私たちがメディアに接するとき、絶えず考えておくべきことは何か？　どのようにメディアを使いこなせばよいのだろか？　マスメディア業界ではいまなにが問題になっているのか？　なぜ、今メディア・リテラシーについて考えなくてはならないのか？

本講義のテーマからは、こうしたさまざまな疑問が湧いてくるだろう。それらの疑問には明確な答えはないかもしれない。しかし、そう問いかけることこそが、自分が生きていく社会をみつめ、大学生としての「知」のあり方を考える絶好の機会となる。その機会を提供するのが本講義の目標である。

講義概要

本講義では、できるだけ多様な視点・論点からメディア・リテラシーについて考えてみたい。

講師たちは、それぞれまったく異なった経歴を持つので、それぞれの立場からみた「多文化社会におけるメディア・リテラシー」について講義する。

かれらが、どのようにメディアをとらえているのか、かれらにとっての「メディア・リテラシー」とはなにか。履修者は、かれらの語ることのなかから現代社会のメディアの姿をとらえ、それを使いこなすにはどうすればよいのか、身近な問題として考えていってほしい。

受講生への要望

受講にあたっての諸注意があるので、第１回目に必ず出席すること。

評価方法

出席とレポート（場合によって期末テストを実施する）

テキスト、参考文献

授業計画

1.イントロダクション

2.国際協力とメディア
ＭＳＦ（国境なき医師団）関係者

3. テレビにおけるトランスジェンダーと表象(1)
早稲田大学ジェンダー研究所客員研究員
三橋順子

4.テレビにおけるトランスジェンダーと表象(2)
同上

5.広告主とジャーナリズム
元『ＡＥＲＡ』記者
烏賀陽弘道

6.メディアの裏側　同上

7.「民間放送連盟」とメディア・リテラシー
民間放送関係者

8.ＢＰＯのとりくみ
放送倫理・番組向上機構（ＢＰＯ）関係者

9.インターネットとメディア・リテラシー
立教大学大学院　首藤天信

10.多文化社会と情報(1)　情報番組製作者

11.多文化社会と情報(2)　未定

12.多文化社会と情報(3)　未定

13.まとめ

２～１２に関しては、講師のスケジュールによって、順番が入れ替わることもある。

（春）	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村　肇

講義目標

教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。

講義概要

教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。

お招きするのは、埼玉県の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生を予定しています。総勢9名の先生方を予定しています。

それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。

みなさんの考える素材を提供する科目にしたいと考えています。

受講生への要望

教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立つと思います。

積極的、意欲的に参加してください。

評価方法

毎回の授業レポート（学んだこと、10行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4判用紙で2～4枚）と併せて評価します。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。代わりに毎回、資料を配付します。

参考文献は授業中に適宜紹介します。

授業計画

第1回　導入／ビデオ『星空の中学生とともに』鑑賞（川村）

第2回　学校という職場・教師という仕事

第3回　草加の小学生（小学生の文化活動）

第4回　草加の中学生（合唱祭の取り組み）

第5回　草加の高校生（三者協議会）

第6回　国語を教える

第7回　社会科を教える

第8回　英語を教える

第9回　小学校の集団づくり（一年間の構想）

第10回　中学校の集団づくり

第11回　いじめと不登校

第12回　生徒の自治

第13回　まとめ（川村）

（春）	全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）	担当者	斉藤　美彦

講義目標

近年の雇用情勢は数年前よりは好転し、大学生の就職状況も良くなってきている。しかし若年層においては正社員の労働強化と離職率の上昇、フリーター等の非正規社員の増加、さらには働こうとしない、教育・訓練を受けているわけでもないニーとの増加も話題となっている。また、かつて平等社会といわれた日本においても所得格差が顕著となっているかどうかは大きな論争点となっている。本講義においては労働をめぐる種々の問題について多様な切り口から接近し、私たちの暮らし・生き方と労働がどのように関わっているかについて考えていくこととする。

講義概要

講義は授業計画のとおり毎回ゲストスピーカーを招き行うこととする。労働組合関係者だけではなく、経営者団体代表・国際労働機関（ＩＬＯ）代表・労働法学者と多彩な一流の講師から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

受講生への要望

労働問題に関する新聞記事を読んだりテレビニュースを見て、現在何が問題となっているかを自分なりに把握しておくこと。真摯な態度で受講すること。

評価方法

レポートによる。

テキスト、参考文献

各回の講義において指示する。

授業計画

1．ガイダンス　　斉藤美彦

2．働くことの意味－労働観の変遷
　全労済協会理事長　鷲尾悦也

3．労働法の基礎知識（1）
　上智大学名誉教授　花見　忠

4．労使関係とは（1）－労働組合からみて
　連合会長　高木剛

5．労使関係とは（2）－経営からみて
　日本経団連専務理事　紀陸隆

6．賃金・労働時間制度
　全労済協会理事長　鷲尾悦也

7．国際労働基準とＩＬＯ
　ＩＬＯ労働側理事（連合・国際代表）中島滋

8．多様化する雇用制度
　全労済協会理事長　鷲尾悦也

9．労働法の基礎知識（2）
　上智大学名誉教授　花見　忠

10．労働安全衛生－メンタルヘルスを含む
　中央労働災害防止協会理事長　澤田陽太郎

11．社会保障のあり方
　連合生活福祉局長　小島茂

12．労働組合の役割
　全労済協会理事長　鷲尾悦也

13．働くための基礎知識（まとめ）
　全労済協会理事長　鷲尾悦也

講義の順番は変更になることがある。

（春）	全学総合講座（現代世界論）	担当者	佐藤　勘治

講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスペーカーが提示する身近で具体的なテーマに沿って、受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究への入り口になることを目的にしている。そのため、この授業が主な対象としているのは、一年目の学生である。

現代世界は、受講生や担当教員もその構成員である。それゆえ、現代世界の諸問題は、ほかでもない、我々自身の問題であることを講義を通じて明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

講義概要

主に、言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生、コミュニケーション、平和、歴史、スポーツ、哲学、心理学など多様な視角から、それぞれ問題提起をしてもらう。統一のテーマは設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一側面を論じることになる。

ゲストスピーカーでは、工藤律子氏（ジャーナリスト）を招いて、ストリートチルドレンについて、また、自らが無国籍の経験をもつ陳天璽氏（国立民族学博物館）を招いて、無国籍の現状やその問題点を講演していただくほか、平和構築についてアフガニスタンなどで取材経験があるジャーナリストを招くつもりでいる。

テーマや担当者の変更の可能性がある。

受講生への要望

授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。
積極的な発言を期待している。

評価方法

毎回の小レポート。期末のレポート。

テキスト、参考文献

参考文献
陳天璽『無国籍』新潮社 2005 年
工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』岩波ジュニア新書

授業計画

1　佐藤勘治
総論　ポストコロニアルとしての現代世界

2　飯島一彦
多文化社会としての日本

3　岡村圭子
グローバル社会と文化

4　永田小絵
現代社会における通訳という仕事

5　田口雅徳
顔の心理学

6　工藤律子（ジャーナリスト）
ストリートチルドレン:路上でくらす子供たちが語るもの

7　佐藤勘治
先住民とはだれか？　アメリカ大陸と日本

8　平田由紀江
旅する食　Traveling Foods

9　陳天璽
「無国籍」を生きるとは？

10　未定（ジャーナリスト）
平和構築のために何が必要か？

11　川村肇
「共和国」という考え方と近代

12　依田珠江
社会的弱者のスポーツする権利

13　松丸壽雄
現代世界と私たち

（春）	全学総合講座　（地域再生システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松　和幸

講義目標

地域再生とまちづくりをキーワードに、地域の活性化と地域再生を制度面から視てのプログラムである。地域活性化の制度としては、地域再生制度のほかに構造改革（特区）がある。特区は規制改革、地域再生は規制改革以外で地域を活性化させることをいう。

いずれの制度も地域の創意工夫にあふれた取り組みを応援するという意味では共通しており、それぞれの地域がこれらの枠組みを車の両輪として組み合わせ、地域の再生・活性化のために活用することが期待されている。

本講義では、こうした取り組みについて、講師を招いて開催する。今後の「まちづくり」などのヒントが得られるようにしたい。

講義概要

この科目は内閣府や草加市などの協力を得て実施している講義である。具体的な施策や事例などを紹介し、例示しながら講義する。

各講義の個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが、地域の中で問題となっていることを中心に、テーマ設定を行っている。

この結果、地域の中で起きている様々な事例を通して、地域の実情の理解ができると共に、地域の課題についての新たな認識と共に、自分が住んでいる地域や将来住むであろう地域の可能性に関して、示唆にとんだ内容が展開されることで、地域で求められる支援活動や人材に関する具体的な問題意識を得ることができであろう。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　　３０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1. ガイダンス　高松和幸

2. 日本における特区の方向性
内閣府地域再生事業推進室企画官　木村俊昭

3. 起業家支援策
独立行政法人中小企業基盤整備機構
新事業支援部資金支援課　課長代理　石井芳明

4. 中心市街地の活性化
内閣官房　地域活性化総合本部　水谷朋之

5. 安全なまちづくり
八潮市環境経済部　交通防災課長　山本文夫

6. 河川浄化の取り組み
越谷 NPO センター代表理事　村田恵子

7. ちよだボランティアチケット
社会福祉法人　千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター　主任主事　宇治野和希

8. 高齢者に優しいまちづくり
国土交通省　総合政策局　環境政策課長　桑田俊一

9. 埼玉県の NPO 推進について
埼玉県 NPO 推進課課長　真下幸子

10. 埼玉県の NPO の状況
さいたま NPO センター　専務理事　越河澄子

11. 男女共同参画
埼玉県男女共同参画推進センター所長　加藤直子

12. 地域再生成功への共通項ビジョン・リーダーシップ・システム
総合研究開発機構（NIRA）　主席研究員　犬飼重仁

13. 防災対策（打診中）
阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター　研究主幹　越山健治

上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（NPO 論　人を変える・地域を変える・世界を変える）	担当者	高松　和幸

講義目標

講義では、企業やNPOの社会貢献活動を中心に、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。

解題:「どのような状況（条件下）で企業とNPOのパートナーシップが崩れてしまうのか、逆にどのようにすれば不均衡な関係を脱することができるのか（良好な関係が維持できるのか）」

企業は、自社のCSR活動がもっぱら戦略的な行為としてなされるべきではなく、公共的な空間（場）に根ざしたものとして追求される必要がある。

講義概要

ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてNPOは経営学的にも注目される対象であるとして、NPOの運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。

その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国のNPOが直面する危機があったが、NPOが生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。

企業にとってもCSRを果たすべきことが求められ、その流れの中で、NPOと共にコミュニティ支援活動に乗り出す事例が増えてきた。

もとよりNPOはその組織使命の遂行のために企業と協力するのであるが、NPOにとって不足しがちな経営資源（資金・人材など）を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。

企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとって好都合のように利用される可能性が増すことになるが、これもとりもなおさず公共的な使命をもつNPOにとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを意味する。

これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　　３０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1. ガイダンス　高松和幸
2. ﾌｪｱﾄﾚｰﾄﾞと企業の CSR の連携
   その可能性と問題点
   ﾌｪｱﾄﾚｰﾄﾞｶﾝﾊﾟﾆｰ㈱　常務取締役　胤森なお子
3. テーマ:未定
   第3世界ショップ　事務局長　竹広隆一
4. 紙製飲料容器「ｶｰﾄｶﾝ」
   森を育む紙製飲料容器普及協議会　専務理事　久保庭章夫
5. テーマ:未定
   瀬戸内海環境会議　事務局長　村瀬道幸（打診中）
6. 企業と NPO の“本当”のﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟとは？
   企業から実施までのﾌﾟﾛｾｽを通じた協働のあり方
   東京ガス㈱広報部社会文化ｾﾝﾀｰ　所長　後藤麻里
7. 未定
8. テーマ:未定
   福祉社会研究所理事長　田中克人（打診中）
9. 企業人も地域社会との関わりを求めている
   小中高校生世代向ｷｬﾘｱ教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを通しての実践例から
   NPO法人　ｷｰﾊﾟｰｿﾝ 21　代表理事　朝山あつこ
10. テーマ:未定
    ㈱アルバイトタイムス　取締役　経営戦略本部管掌
    上川真一
11. テーマ:未定
    日本フィランソロピー協会理事長　高橋洋子（打診中）
12. テーマ:未定
    グリーンプロジェクト　代表　平田裕之（打診中）
13. テーマ:未定
    イオン㈱　環境・社会貢献部　部長　高橋　晋（打診中）

上記授業計画は講師の都合により変更することもあります。

（春）	全学総合講座 （グローバル時代の人権～トランス・ナショナル社会における多文化共生）	担当者	髙佐　智美

講義目標

国際的なヒトの流れが活発化している現代社会における外国人の人権について講師から報告していただくことによって、私たちが現状をどう捉え、何をしなければならないのか考えることを目標とします。

講義概要

毎回、様々な外国人の人権について研究なさっている方々を講師として招き、講義していただきます。

受講生への要望

講師の方々には、お忙しい中を、時には遠路をお越しいただきますので、雑談・居眠り等は堅く禁じます。約束を守れない学生は教室から出ていただきます。

評価方法

出席（毎回とる）とレポートで評価します。

テキスト、参考文献

随時指示します。

授業計画

現時点で、おいでいただく講師の方々の日程を確定するのは困難ですので、最初の授業で担当者が日程の入った授業計画を配布します。

（春）（秋）	全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	担当者	古川　堅治

講義目標

本講座では、これまで当たり前のように考えられてきた「国民国家の集合体としての現代世界」の構造が揺らぎ始め、経済のグローバル化（地球規模化）と社会の多文化傾向の進展に伴い、国家に対する見方自体もまた変化を見せていることを、さまざまな地域と視点から具体的に考えることを目的としています。

現在、日本では、近隣諸国と国境問題をはじめとするさまざまな問題を抱えていると同時に、国内的にはこれまでの定住外国人に加えて、他の多くの国家と同じように、いろいろな地域から、あるいは労働者として、また留学生として、さらには国際結婚のパートナーなどとして多くの外国人が訪れ、隣人として私たちの身近に暮らしています。その結果、今では日本においても多文化共生社会の建設の必要性に迫られています。その意味で、ここに掲げるテーマは極めて今日的課題であると考えられます。それゆえに受講生の皆さんには自らの問題として、この国家と国境をめぐる諸問題を考えてもらいたいと思います。

講義概要

各講師の方々には右に掲げるテーマでそれぞれ講義をお願いしています。初回はコーディネーターにより問題提起がなされ、二回目以降は各地域からの報告がなされます。韓国は、緊張する朝鮮半島情勢の中で独特の民族性と文化を育んできましたが、日本との関係でその特徴が浮き彫りにされるでしょう。また、カナダは多文化社会を標榜する国家ですが、そこでは民族共生のためのさまざまな取り組みがなされ、新たな国家像が示されつつあります。

国家が問題になるのは、政治や経済という分野だけではありません。文学に見られる言葉の越境性について考えることは私たちに新たな視点を与えてくれるでしょう。さらに、経済成長の著しい世界の大国としての中国の今後の動向からも目が離せません。また、私たちの身近な日本の中においても過去の歴史の重い負の遺産を負ってきた沖縄から日本の抱える国家と国境の問題を考えることで自らもそれに深く関わっていることを実感することでしょう。

国家と国境が極めて政治的で人為的に作られることは分断国家キプロスの歴史を見れば明らかです。その再統合の成否は、本講座テーマの結論の一つともなるでしょう。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにします。受講生の積極的な発言を期待しています。また、授業中の中途退席や私語は厳禁です（授業環境を大切にしたいからです）。

評価方法

各回授業後に感想を含む小レポートが出されます。また、最終回には全体に関わるテストを行ないます。評価は、それらと出席点を含めて総合的に判断します。

テキスト、参考文献

各担当者がその都度指示します。

授業計画

（春学期）

1　古川堅治：問題提起（講座の目的と概要など）

2　平田由紀江：韓国から見た民族と文化　1

3　小島優生　：韓国から見た民族と文化　2

4　櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　1

5　櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　2

6　上野直子：国境を越える言葉　1

7　上野直子：国境を越える言葉　2

8　上村幸治：中国における民族と国境　1

9　上村幸治：中国における民族と国境　2

10　戸邊秀明：沖縄人の南洋体験

11　戸邊秀明：戦後沖縄の境界

12　古川堅治：分断国家キプロス

13　古川堅治：まとめ（総括とテスト）

（秋学期）

同上

（春）（秋）	全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）	担当者	町田　喜義

講義目標

本講座は、２００６度から開講された本学卒業生による毎回完結の連続講義です。例えば、

① 自分自身の内面を探索する：自己発見

② 異なった環境で如何に生きるか：適応力

③ 近未来を考える：職業選択

④ 人間関係を構築する：個と集団の均衡を図る

⑤ 自己の物差しの構築：理論と実践

⑥ 大学生活をどの様に過ごすか：今、ここで

⑦ 外国語学習にどう立ち向かうか：継続は力

⑧ その他、諸君の今後の学生生活に役立つ話題満載

※参考文献：「大学ニュース」０７年１２月号

講義概要

実業界、学会、法曹界、教育界、官界、芸能界、政界など各分野・社会、地域（外国を含む）で活躍している卒業生が、後輩諸君へ語る熱きメッセージに傾聴し、同じキャンパスで過ごした学生生活を共有しながら、先輩達との絆を感じ取ってください。皆さんの今後のキャリアデザインに役立つ講義が満載です。

このシラバスでは昨年度の講義題目を掲載しておきますので（本稿執筆時では未決定部分が多いので）参考にしてください。

※受講生の評判がよい授業なので早めに登録する　こと。

受講生への要望

・全て出席する覚悟で登録すること。
・遅刻：開始後１５分以降の入場は欠席扱い。
・初回から出欠を取る。

評価方法

・各講師より指示された課題レポートの中から３題選択。
・レポートの提出条件は、９／１３の出席を要する。

テキスト、参考文献

・各担当者の指示による。

授業計画

（春学期）

１．プロローグ：キャリアデザイン序章
２．成功の達人：ビジネスにおいて成功する秘訣とは
３．ドイツの心を求めて：学問と人生
４．貿易国日本と海外駐在生活の中の発見
５．キャリアデザインから大学の学びを考える
６．人との出会いはヒツゼン？
７．スポーツ記者になるには
８．豊かなる人生ＭＡＰ
９．チャンスはあなたを目掛けてやって来る
１０．ミッション経営：志と仕事について
１１．麻疹のため全学休講
１２．同上

（秋学期）

１．プロローグ：キャリアデザイン序章
２．ガッコウ出てから30年：学校生活の思い出と反省
３．基本はロジカルシンキング
４．自分を売り込むデザインスキル
５．ミッション経営：志と仕事について
６．人生何があるかわからない
７．コミュニケーション産業、今どきとこれから
８．ＭＲとしての四半世紀
９．なにをやるかとどうあるか
１０．中学・高等学校の現場から
１１．英語教師修行の旅
１２．いちばん近くにいる社会人・大学職員

※昨年度までは各学期１２回の講義でしたが、今年度　より１３回となります。

（春）（秋）	全学総合講座（健康をスポーツを世界を考える）	担当者	松原　裕

講義目標

基本的には、第１学期・第２学期に所属している学生が対象の授業ですので、健康・スポーツ・世界という言葉をキーとして知的刺激を与え、その後の学生生活や人生に影響を与えることが目標です。

多くのゲストの方を通して、感じたり、考えたりして、各々が正解を求めて考えてください。

講義概要

基本的には、ゲストの方の話を聞くという形になります。１回だけ救急法と骨盤調整の実技があります。

毎回の授業中に感じたり、考えたことを出席用紙に記入して提出してもらいます。

コミュニケーションを図るために顔写真１枚と受講票の提出をお願いします。

講義の内容は、骨盤調整、応急処置、薬、栄養、スポーツビジネス、総合型地域スポーツクラブ、パレスチナ問題、ヒッピー文化、障害者などなど・・・ゲストにより、多岐にわたります。

受講生への要望

毎回の出席と好奇心、柔軟な思考力、積極的な発言などなど・・・を期待します。

三角巾は各自で必ず用意してください。

評価方法

出席用紙、最終レポート、担当者・ゲストとのコミュニケーション、以上を総合して評価をします。

テキスト、参考文献

その都度、紹介したり、配布したりします。

授業計画

第１週　ガイダンスと骨盤調整講義（松原）

第２週～第１３週　ゲストによる講義

ゲスト予定（順不同・複数回あり）

応急処置理論（音海）
応急処置実技（音海）
薬　（南）
栄養　（河野）
障害者　（亀田）
パレスチナ　（今）
ヒッピー　（シギー吉田）
総合型地域スポーツクラブ（黒田・中塚）
スポーツビジネス（田口）

第１３週に課題を出し、教務課にレポート提出

(秋)	全学総合講座（童話(メルヒェン)の可能性をめぐって）	担当者	矢羽々　崇

講義目標

皆さんにとって，昔話・メルヒェンとはどういうものでしょうか？　子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？　これらの物語の形式は，その単純さのせいで軽視されたりもしますが，実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく，テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に，私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり，男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。

講義概要

この講座が目標とするのは，皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン，そして文学を意識し，できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である 19 世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた 20 世紀の様相。さらに今の私たちが生きる 21 世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら，21 世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば，この講座はその役割を果たすことになります。講座は基本的に約 1 時間の講師による講義，残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。終了時には，皆さんに授業に関するコメントを書いてもらいます。

受講生への要望

積極的に参加してくれることを望みます。
私語や遅刻など，他の学生や講師の方々に迷惑をかける行為は厳に慎むように。

評価方法

出席（10ー20%）および学期末定期試験の成績（80ー90%）によって決定します。欠席が 4 回以上の場合，評価の対象としません。遅刻・無断退出も場合によっては欠席とみなします。

テキスト、参考文献

第 1 回授業で指示します。それぞれの授業でも適宜紹介します。

授業計画

詳しい内容および講義の配列については，第 1 回の授業で説明します。

1　ガイダンス
2ー12　以下のテーマについて，外部講師の先生方も招いて講義があります。
・グリム・メルヒェンの故郷ドイツ
・昔話の語り口
・昔話のメッセージ
・昔話体験（語り部に実際に語ってもらいます）
・昔話の国際比較
・グリム・メルヒェンの成立 1
・グリム・メルヒェンの成立 2
・メルヒェンの展開 1（19 世紀）
・メルヒェンの展開 2（20 世紀）
・現代におけるメルヒェン 1（メルヒェンの映像化）
・現代におけるメルヒェン 2（現代日本の問題点）
13　パネル・ディスカッション（学生数名+講師）

（秋）	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田　智

講義目標

自由時間の大切さに気づいていない人が多い。

私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間のためのものが多かったのではないでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちを紹介します。

「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしています。

春学期の理論編としての「スポーツ・レクリエーションa」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。

講義概要

第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただく。第2回目の授業では、受講生がどのような考え方を持っているかについて、皆さんの携帯電話から投票していただくライブアンケートを行う。

第3回目の授業から、それぞれの講師がどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただく。

第12回、13回の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していく。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1オリエンテーション

自由時間の現状

和田 智 獨協大学准教授

2ライブアンケート

私たちのライフスタイル

和田　智 獨協大学准教授

3自由時間の達人①

「学生時代に行ったシルクロード自転車の旅と現在」

佐々木拓司　本学卒業生

Think the Earthプロジェクト

4自由時間の達人②

「私にとっての世界一周の旅」

下重健児　本学卒業生

5自由時間の達人③

「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」

多胡光純　本学卒業生

エアーフォトグラファー

6自由時間の達人④

「学生時代に考えたことと現在」

講師交渉中

7自由時間の達人⑤

「からだが不自由だからできることが増えた」

濱田美穂　NHKサービスセンター

8自由時間の達人⑥

「バリアフリースクーバダイビングを推進する」

椎名克巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役

9自由時間の達人⑦

「高齢者のためのレジャー」

山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役

10自由時間の達人⑧

講師交渉中

11自由時間の達人⑨

講師交渉中

12あなたの自由時間について考えよう

和田　智　獨協大学准教授

13自由時間を「レジャーとするために」

和田　智　獨協大学准教授

講師の都合により、予定が変わることがあります。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（哲学の諸問題 1） 哲学 a（哲学の諸問題 1）	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのはどういうことなのか」、「人間であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」等々という問題だからです。今学期は特にこれらの問題について考えたいと思います。 著名であり、なおかつ比較的易しい文献――哲学上の文献に限定しませんが、読み方は我田引水です――を読みながら、ともに考えるという講義形式をとりますので、受講する場合には自分自身の問題として考える姿勢で臨んでください。	1. デカルトの『方法序説』をこの講義の序文代わりに取り上げます。 2. プラトンの『饗宴』における《エロース》の概念について 3. 引き続き、エロースについて 4. プラトン『クリトン』を取り上げます 5. 「愛」に関するイエス＝キリストの教え 6. エーリヒ・フロム『愛するということ』を取り上げます 7. リースマン『孤独な群集』 8. 前回の続き。 9. エーリヒ・フロム『悪について』 10. 前回の続き。 11. ノイマンの『深層心理学と新しい倫理』 12. 前回の続き。 13. 今学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（哲学の諸問題２） 哲学 b（哲学の諸問題 2）	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「神」の問題は日本人には縁が薄いかもしれませんが、今学期はあえて有神論と無神論の問題に取り組んで見たいと考えています。 ちょうどアメリカ大統領選挙が行なわれていますが、「信仰」上の立場が争点のひとつにもなっています。このことからも分かるように、欧米の人々にとっては宗教はとても身近で重要な問題です。 ユダヤ教を基礎とするイスラエルやイスラムを奉じる国々にとってはさらに重要度を増しますし、民族問題は宗教の問題でもあります。あるいは、ナチズムは「世俗的宗教」であるという見方も可能です。 以上を念頭に、有神論の哲学と無神論の哲学について論じる予定です。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます 2. 前回の続き 3.パスカルの『パンセ』を取り上げます。 4. 前回の続き 5. カントの『啓蒙とは何か』 6. カントの『実践理性批判』を取り上げます。難解ですから、ごく一部を読むだけですが、学生生活の記念になるかもしれません。 7. ニーチェの生涯 8. ニーチェの思想――神の死 9. ニーチェの思想――ニヒリズムの問題 10. サルトル『実存主義とは何か』 11. 前回の続き 12. ドストエフスキー『悪霊』 13. 今学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（倫理の基本について考える） 倫理学ａ（倫理の基本について考える）	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし、倫理への問いは最近再び脚光を浴びてきている。良識が揺らいでいるのである。 講義では、倫理における「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主語を批判的に検討したい。	1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)「倫理」という言葉 4)倫理と道徳 5)規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6)規範としての倫理(2)……法と倫理 7)価値としての倫理(1)……欲求から善へ 8)価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9)行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10)行為への問い(2)……他者からの問いかけ、動機主義と結果主義 11)現代の倫理(1)……功利主義 12)現代の倫理(2)……自由主義 13)まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（環境と生命の倫理） 倫理学ｂ（環境と生命の倫理）	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。この両者を見据えながら、伝統的な人間観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境論理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。	1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況……「医療化社会」批判 3)生命倫理の前線(1)　医療倫理から生命倫理へ 4)生命倫理の前線(2)　中絶、生殖医療の問題 5)生命倫理の前線(3)　安楽死問題 6)生命倫理の前線(4)　臓器移植の問題 7)ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 8)環境倫理の世界(1)　環境保護とはどういうことか 9)環境倫理の世界(2)　生態系価値を中心にする思想 10)環境倫理の世界(3)　自然物の権利を中心とする思想 11)環境倫理の世界(4)　地球的公正の倫理 12)環境倫理の世界(5)　世代間の倫理 13)まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（倫理学 a） 倫理学 a（倫理学と人間性）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 宗教・文化・歴史研究VI（倫理学 a）では、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。	１．古代中国の倫理思想（老子、荘子、孔子、孟子） ２．古代中国の倫理思想（告子、墨子、荀子、韓非子） ３．古代ギリシャの倫理思想（ソクラテス、プラトン、アリストテレス） ４．古代ギリシャ、ローマの倫理思想（エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス） ５．中世の倫理思想（アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス） ６．ディスカッション（人間とは何か） ７．宗教と倫理（仏教倫理と儒教倫理） ８．宗教と倫理（キリスト教倫理とイスラム倫理） ９．近世の倫理思想（デカルト、ホッブス、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン） １０．近世の倫理思想（ヒュームとカント） １１．近世の倫理思想（カント） １２．均整の倫理思想（ヘーゲルとキェルケゴール） １３．ディスカッション（人間として何をすべきか、幸福と自然）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	ディスカッションへの出席と試験。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（倫理学 b） 倫理学 b（現代倫理学の諸問題）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎にある生命倫理につての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。	１．日本の倫理思想（儒学と明治思想と和辻哲郎） ２．進化論と倫理思想（ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス） ３．ニーチェとニヒリズム ４．私と汝（ブーバーと西田幾多郎） ５．社会主義倫理と資本主義倫理 ６．ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか） ７．自然科学と倫理 ８．技術と倫理 ９．医療と倫理 １０．環境と倫理 １１．環境と倫理 II １２．自然と人間 １３．ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	ディスカッションへの出席と試験。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１(社会思想史１)(市民的社会像の黎明期) 社会思想史ａ(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期（ａ）では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「社会というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。	1)「社会」とは何だろうか 2)「市民社会」の原型と近代的再生 3)ルネッサンスと都市 4)マキャベリと『君主論』 5)ユートピアという思想 6)トマス・モアと『ユートピア』 7)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 8)ルターの改革運動と神学 9)ルターの経済思想。 10)カルヴィニズムの宗教思想 11)カルヴィニズムと近代的エートス 12)主権国家と労働社会 13)まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１(社会思想史２)(市民的社会像の確立期) 社会思想史ｂ（市民的社会像の確立期）	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るために契約という作為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「社会というまとまり」が隠れた主題となる。	1) 西欧自然法思想の源泉 2) 自然法思想の近代的転回 3) 社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 4) 社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 5) 個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 6) 個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 7) 文明化という課題……フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 8) 個人と社会の一体化(1)……ルソーの歴史認識 9) 個人と社会の一体化(2)……ルソーのデモクラシー 10) 社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 11) 社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社会思想 12) 社会的に生きる(1)……社会主義の思想 13) 社会的に生きる(2)……マルクスの思想
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１(社会思想史１)(東洋古代から近世まで) 社会思想史ａ（東洋古代から近世まで）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし社会思想史ａでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。	１．（インド）アーリア人とヴェーダの宗教 ２．（インド）ウパニシャッド哲学の思想 ３．（インド）ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 ４．（インド）仏教とヒンドゥー教の思想 ５．（中国）孔子と論語の思想と墨子の兼愛 ６．（中国）老荘思想と荀子、韓非子 ７．（中国）儒教の革新–宋学の勃興 ８．（中国）宋学の大成–朱子とその周辺 ９．（日本）古事記、日本書紀と神道 １０．（日本）仏教の伝来と鎌倉仏教思想 １１．（日本）道元と親鸞 １２．（日本）宣長 １３．（日本）仁斉と徂徠
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席とレポートによる評価

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１(社会思想史２)(東洋近世から現代まで) 社会思想史ｂ（東洋近世から現代まで）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし社会思想史ｂでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。	１．（インド）回教の侵入と伝統的インド思想の変化、とシーク教 ２．（インド）近代西洋とインド文化 ３．（インド）ガンジーとタゴール ４．（中国）明学と清学 ５．（中国）資本主義と共産主義 ６．（中国）現代と儒教思想、 ７．（日本）江戸期の思想 ８．（日本）明治維新期の思想 ９．（日本）福沢諭吉、西周、中江兆民 １０．（日本）京都学派の哲学 １１．（日本）現代の思想状況と西欧との関係 １２．東洋思想史の現代的意義 １３．東洋思想史の現代的意義 II
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席とレポートによる評価

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１(心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則) 心理学ａ（人間の行動・認知・動機の一般法則）	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、１）心理学の研究課題、２）研究方法、３）研究成果と日常生活への貢献について紹介します。心理学から大学生をみていると、１）自分や仲間(集団)の価値や個性を認め、自分に自信を持つ。２）友人関係やコミュニケーションを大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を重視して欲しいと思っています。また、心理学は自分を知ることが研究目的の１つであって、即ち、自分が探求者であると同時に、研究対象でもあるという特色を持った学問です。 この授業では、１）自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、２）心理学の視点から、自分の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直すこと、３）心理学から考えた、卒業後の将来の自分、例えば、27 歳の自分を想定してみて下さい。職業（仕事）と生活のバランス、自分の関わりについて学ぶこと。以上が、授業の最終的な到達目的です。 前期の「心理学ａ」では、教科書の前半に当たる、認知、行動、モティベーションの３側面に焦点を当てる予定です。	１．ヒューマン・サイエンスとしての心理学：導入、 ２．感じる／考える（感覚と知覚・認知）：人間の感覚受容器や脳、感覚と知覚の仕組みや特徴 ３．感じる／考える（つづき）：顔や原因の認知（原因帰属）、認知 ４．感じる／考える（つづき）：記憶の情報処理モデル ５．感じる／考える（つづき）：アフォーダンス、都市のイメージ、ユニバーサル・デザイン ６．動く／変わる（行動と行動獲得・変容）：条件づけ、強化の随伴性、モデルによる観察学習 ７．動く／変わる（つづき）：進化と人間行動、利他行動や協力、殺人と自殺等について。 ８．動く／変わる（つづき）：教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習、学習環境デザイン ９．もえる／動かす（モティベーション）：動機づけの基礎、生理的ホメオスタシス、学習動機 １０．もえる／動かす（つづき）：達成動機と対人社会性動機、対人行動、情報化社会の学び、社会的構成主義の学習観 １１．もえる／動かす（つづき）：欲求不満、葛藤、ストレス。無気力（学習性無力感） １２．もえる／動かす（つづき）：内発的動機づけと意欲を高める、自己原因性、有能感。 １３．まとめと残された問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	試験で評価する。出席は前提だが、出席は学生の権利と考える。従って、出欠は取らない。レポートを課すかどうかは、学生と相談して決める。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１(心理学)（人間の個性・多様性理解） 心理学ｂ（人間の個性・多様性理解）	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、１）心理学の研究課題、２）研究方法、３）研究成果と日常生活への貢献について紹介します。心理学から大学生をみていると、１）自分や仲間(集団)の価値や個性を認め、自分に自信を持つ。２）友人関係やコミュニケーションを大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を重視して欲しいと思っています。また、心理学は自分を知ることが研究目的の１つであって、即ち、自分が探求者であると同時に、研究対象でもあるという特色を持った学問です。 この授業では、１）自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、２）心理学の視点から、自分の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直すこと、３）心理学から考えた、卒業後の将来の自分、例えば、27 歳の自分を想定してみて下さい。職業（仕事）と生活のバランス、自分の関わりについて学ぶこと。以上が、授業の最終的な到達目的です。 後期の「心理学ｂ」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ、発達、社会心理学に焦点を当てる予定です。	１．後半の導入：前期のまとめと導入。後期の視点について ２．きわだつ／できる（パーソナリティ）：性格検査から何が言えるのか。何故そう言えるのか。 ３．きわだつ／できる（つづき）：パーソナリティ理論は多様な人間性のモデル ４．きわだつ／できる（つづき）：Big Five、標準性格検査。 ５．きわだつ／できる（つづき）：知能とは。創造性、対人関係の社会的スキル。 ６．育つ／育てる（発達）：ビッグネームの多様な発達理論。生涯発達視点 ７．育つ／育てる（つづき）：生育初期。アタッチメント ８．育つ／育てる（つづき）：青年期のアイデンティティ、発達支援、世代間伝達 ９．育つ／育てる（つづき）：高齢化社会、生き甲斐と有能感、well-being １０．かかわる／競う（社会）：社会心理学的自己。自己開示／自己提示 １１．かかわる／競う（つづき）：集団と個人、変革期のリーダーシップ １２．かかわる／競う（つづき）：態度と態度変化。説得的コミュニケーション １３．まとめ：各人の違いを認めたうえで、健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、残された課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	試験で評価する。出席は前提だが、出席は学生の権利と考える。従って、出欠は取らない。レポートを課すかどうかは、学生と相談して決める。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（心理学）（知覚・認知） 心理学ａ（知覚・認知）	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。 心理学（知覚・認知）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学（行動・個性）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス 心をどのように理解するか 2. 科学としての心理学 3. 個体と環境　心理学のもののとらえ方 4. 物理的環境と心理学的環境 5. 感覚の世界 6. 主観のものさし 7. 知覚の世界(1) 8. 知覚の世界(2) 9. 認知の形成 10. 認知的判断 11. 判断と意志決定 12. 態度形成とダイナミクス 13. 社会的現実の構築
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 講義に使用したスライドは講義終了後、講義支援システムに pdf ファイルにしてアップロードします。	定期テスト(80%)と随時行う出席調査を兼ねる小レポートなど(20%)によります。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（心理学）（行動・個性） 心理学ｂ（行動・個性）	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。また、個性はどのように理解され、それはどのように測定されてきたかを考えます。 心理学（行動・個性）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学（知覚・認知）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス　行動を理解するために 2. 環境への適応様式 3. 生得的行動・獲得的行動 4. 遺伝的に規定された行動 5. 行動の変容（１）レスポンデント行動 6. 行動の変容（２）オペラント行動 7. 行動分析学とその応用 8. 個性をどのように理解してきたか 9. パーソナリティの測定 10. パーソナリティのダイナミクス 11. 個性はどのように発達・形成されるのか 12. 知能とテスト 13. 成熟と老化
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 講義に使用したスライドは講義終了後、講義支援システムに pdf ファイルにしてアップロードします。	定期テスト(80%)と随時行う出席調査を兼ねる小レポートなど(20%)によります。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（言語学 a） 言語学 a（一般言語学）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，必要に応じて他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域（考古学・医学・物理学・電子工学・数学）における言語研究にも言及する． 参考資料の事前読了および講義支援システムの参照を前提とする．	第 1 回目　話し言葉と書き言葉：言葉は約束事　ー言語学の研究対象，言語を記録する体系，ローマ字表記 第 2 回目　動物の言語と人間の言語：チンパンジーも言葉が話せる？　ーWashoe, Sarah, Ai, Kanji に見る動物のコミュニケーション 第 3 回目　言語と脳：失われた言葉を取り戻す　ー心理言語学と大脳生理学 第 4 回目　子供の言葉の発達：どのようにして言語を習得するか？　ー第 1 言語の発達過程 第 5 回目　外国語の上達：どのようにしたらうまく話せるようになるか？　ー第 2 言語の習得理論 第 6 回目　音と音声（1）：カテゴリーができるまで　ー調音音声学と音韻論 第 7 回目　音と音声（2）：音声はどのように聞こえるか？　ー音響音声学 第 8 回目　統語論：「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述　ー構造主義文法，生成文法，その他の文法 第 9 回目　形と意味：発話に意味を込める　ー意味論，語用論 第 10 回目　会話の原則：言葉の適切な使い方　ー談話分析 第 11 回目　言語と社会：言葉の多様性と普遍性　ー社会言語学 第 12 回目　世界の言語とその系統：言語の進化と分類　ー言語の系統（印欧・非印欧），言語と人類の発達 第 13 回目　コンピューターと言語：近未来の言語研究　ー人工知能，機械翻訳，コーパス言語学
テキスト、参考文献	**評価方法**
G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』（大修館，1987；ISBN: 4-469-21145-1）	（定期試験（60%)+平常授業における課題（40%））x 出席率

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（言語学 b） 言語学 b（一般言語学）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．	第 1 回目　形態論（1）（分綴法） 第 2 回目　形態論（1）（接辞，屈折・活用） 第 3 回目　音声学・音韻論（1）（発音記号） 第 4 回目　音声学・音韻論（2）（音素・異音，発音の変異） 第 5 回目　音声学・音韻論（3）（強勢・イントネーション） 第 6 回目　音声学・音韻論（4）（生成音韻論） 第 7 回目　統語論（1）（直接構成素分析，句構造規則） 第 8 回目　統語論（2）（構造形成，語順，格） 第 9 回目　意味論（1）（上位概念・下位概念，同意語・反意語） 第 10 回目 意味論（2）（メタファー，指示） 第 11 回目 語用論（1）（限定，言語行為，話題化） 第 12 回目 語用論（2）（会話の原則） 第 13 回目 談話（談話構造，スクリプト，スキーマ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 3rd ed.* (Heinle, 2003; ISBN: 0838407951)	（定期試験（60%)+平常授業における課題（40%））x 出席率

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（英語学 a） 言語学 a（個別言語学－英語）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする．また，これと並行して英語の実践的運用能力を高めることにも関連づける．それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後，実際に当該項目が習得されるよう訓練を行う．講義支援システムを利用して集中的学習を行う予定．扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論などがある．随時，日本語との対照学習を取り入れ，外国語としての英語学習が容易になるよう試みる． 授業外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる．	第 1 回目　スタディースキル（辞書利用法・ノートの取り方等） 第 2 回目　発音記号・スピーチクリニック・フォニックス・韻律 第 3 回目　音声学・音韻論（1） 第 4 回目　音声学・音韻論（2） 第 5 回目　形態論・語形成（1） 第 6 回目　形態論・語形成（2） 第 7 回目　統語論（1） 第 8 回目　統語論（2） 第 9 回目　統語論（3） 第 10 回目　意味論・語用論（1） 第 11 回目　意味論・語用論（2） 第 12 回目　ディスコース（1） 第 13 回目　ディスコース（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
石黒昭博他，『現代英語学要説』（南雲堂，1987；ISBN: 4-523-30047-X）	（定期試験（60%）+平常授業における課題（40%））x 出席率

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（英語学 b） 言語学 b（個別言語学－英語）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する観光スポットを随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ． 参考資料の事前読了および講義支援システムの参照を前提とする．	第 1 回目　英語以前（1）：印欧語族の成立 第 2 回目　英語以前（2）：ゲルマン語族の成立 第 3 回目　伝説時代の英語：古英語とその社会 第 4 回目　英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 第 5 回目　英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 第 6 回目　英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 第 7 回目　英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 第 8 回目　語彙・語源：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング 第 9 回目　英語の文法の特徴：語順・修飾・統御 第 10 回目　英語の発音と綴り：大母音推移・発音・文字・正書法 第 11 回目　英語の談話構造：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 第 12 回目　社会的変異：社会階層・レジスター・ジャンル 第 13 回目　英語使用の現状：公用語・第 2 言語・英語学習・辞書
テキスト、参考文献	**評価方法**
R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, *The Story of English: Special Complete Edition*（マクミランランゲージハウス，1989；ISBN: 4895850242）	（定期試験（60%）+平常授業における課題（40%））x 出席率

０７年度以前	言語学ａ（応用言語学）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語と認知、言語と社会、言語の習得・喪失・維持、外国語教育の４領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第１週：概論 第２～４週：言語と認知 －認知からみた言語習得 －脳と言語習得 第５～８週：言語と社会 －言語と文化 －談話分析 第９～１０週：言語習得・喪失・維持 －バイリンガルの言語習得 －喪失・維持 第１１～１２週：外国語教育 －教室第２言語習得研究 第１３週：総論
テキスト、参考文献	**評価方法**
第２言語習得研究の現在―これからの外国語教育への視点（小池生夫編集、大修館書店）	課題（３０％）、レポート（２０％）、小テスト（１０％）、期末テスト（４０％）

０７年度以前	言語学ｂ（第二言語習得）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 言語学ａ（応用言語学）を履修していることが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第１週：概論 第２週：専門用語：定義および視点 第３～４週：普遍文法　(LAD, UG, GB, PP、肯定証拠、否定証拠など) 第 5～7 週：仮説（モニター仮説、インプット仮説、インターアクション仮説、アウトプット仮説など） 第 8～９週：中間言語・誤答分析 第 10～12 週：学習者要因 第 13 週：総論
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の講義で発表します。 配布資料等有り。	課題（３０％）、レポート（２０％）、小テスト（１０％）、期末テスト（４０％）

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（恐怖の日本文学） 文学ａ（恐怖の日本文学）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 （講義概要） 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 （受講生への要望） 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	第１回　　恐怖の現代文学のアウトライン 第２回　①伝統的手法による恐怖の造形 第３回　②　同上 第４回　③　同上 荒俣宏「帝都物語」 京極夏彦「魍魎の匣」 坂東眞砂子「死国」他 第５回　①超自然的事象の題材からの造形 第６回　②　同上 第７回　③　同上 梅原克文「二重螺旋の悪魔」 鈴木光司「リング」「らせん」 瀬名秀明「パラサイトイヴ」他 第８回　①心理学的な題材からの造形 第９回　②　同上 第１０回③　同上 貴志祐介「黒い家」 桐野夏生「OUT」他 第１１回①社会派ミステリーからの造形 第１２回②　同上 宮部みゆき「模倣犯」 東野圭吾「容疑者Ｘの献身」他 第１３回以降　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。定期試験。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（日本文学現代） 文学ｂ（癒しの日本文学）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する （講義概要） 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 （受講生への要望） 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	第１回　ガイダンス 第２回　①人間関係からの癒し 第３回　②　同上 第４回　③　同上 重松清「ビタミンＦ」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第５回　①時間からの救い 第６回　②　同上 第７回　③　同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Ｙ」 他 第８回　①笑いの持つ救い 第９回　②　同上 第１０回①美しい生き方 第１１回②　同上 第１２回①原作を映像で見る 第１３回②　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席。レポート。定期試験。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（日本文学古典） 文学ａ（日本文学－奈良時代の文学を読む）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話・ヤマトタケル物語、風土記の大伴サデヒコ伝説を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代のファンタジーの作品として、宮崎駿の「もののけ姫」についても扱うことを予定している。	1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマトタケル物語を読む① 6 ヤマトタケル物語を読む② 7 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 11 大伴サデヒコ伝説を読む① 12 大伴サデヒコ伝説を読む② 13 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（平安時代の文学を読む） 文学ｂ（日本文学―平安時代の文学を読む）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テクストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。	1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 3 伊勢物語を読む② 4 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(歴史学１)(中世の仏教と社会) 歴史学ａ(中世の仏教と社会)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勧進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （１）　東大寺を再建した男 （２）　重源の時代	（１）　・炎上する東大寺 ・誰の力に頼るか ・重源の業績 ・木材をどこから運ぶか ・出現した大群衆 （２）　・雨を突いて伊勢へ ・重源の記憶 ・法然と重源 ・合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ・天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ・源平合戦の余燼
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)	試験成績

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(歴史学２)(中世の「悪党」と民衆) 歴史学ｂ(中世の「悪党」と民衆)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるともいわれている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域の自治とは何か、という問題を通して民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （１）　戦乱の中の伊賀 （２）　自立する村 （３）　戦国のコンミューン	（１）　・伊賀国の南北朝内乱 ・錯綜する地侍の行動 （２）　・大規模な合戦は続けられない ・国人領主の出現 ・自立する村 （３）　・南都への志向 ・悪党たち、起請文を提出 ・タテの力とヨコの力 ・惣国のコンミューン ・内部の規律と「平和」 ・織田信長軍、伊賀へ侵攻 ・崩れ去る惣国・中世の黄昏
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)	試験成績

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(歴史学１)(イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学ａ　（イスラーム世界の成立と拡大）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。	1　イスラームの基本を説明する。 2　イスラーム誕生以前の西アジア世界について考える。 3　預言者ムハンマド（マホメット）の出現と時代背景。 4　最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5　ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6　アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7　聖典であるコーラン。預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8　アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9　アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10　マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11　ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12　同　その２ 13　まとめをおこなう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学ｂ（イスラーム世界の近代化とその後）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるようにしたい。	1　オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2　欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3　西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4　さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5　エジプトの近代化とその過程について。考える。 6　トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7　近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8　知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9　近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10　今世紀のイスラーム世界について考える。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題，東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 旧ソ連，旧ユーゴースラヴィアにおけるイスラーム。 13　まとめをおこなう
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(歴史学1)(アメリカのエスニック･ヒストリー) 歴史学ａ（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。	1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力 2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業 3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業 4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業 5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人 6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い 7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかかわりがあるのか 8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. 試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書 680 円） 『アメリカ経済のユダヤパワー』佐藤唯行（2001 年　ダイヤモンド社 1700 円）	評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 5 択 20 問の Quiz 形式

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(歴史学2)(アメリカのエスニック･ヒストリー) 歴史学ｂ（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。 下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。	1. 中世英国のユダヤ人金融。 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 ―1290 年のイングランド― 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 年。 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 5. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 6. 英国人地主貴族社会への同化現象。 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 12. 黒人の反ユダヤ主義。 13. 試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年　講談社選書　1600 円）	春学期と同じ。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（歴史学１）（現代史と映像） 歴史学ａ（現代史と映像）	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
現代史を扱った映画ないしはテレビ・フィルムを見、テキスト・史料に基づく解説を聞いて、教科書とはまったく異なる歴史を学ぶ。「憶える歴史」ではなく「考える歴史」を学ぶ。	いくつかのテーマを設定するが、まだ未定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介	試験ないしレポート

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（歴史学２）（歴史と映像） 歴史学ｂ（歴史と映像）	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
上と同様であるが、歴史全般を扱っていく。	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介	試験ないしレポート

０７年度以前	歴史学ａ（中国近代史概説－清朝国家の黄昏）	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　清朝体制の光と影 2　アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 3　太平天国 4　体制の反撃 5　洋務運動 6　中体西用の諸相 7　開港場の社会と経済 8　農村社会の変容 9　周辺地域宗主権の喪失 10　日清戦争 11　台湾の割譲と台湾住民の抵抗 12　変法改革と戊戌の政変 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
菊池秀明『中国の歴史 10　ラストエンペラーと近代中国　清末　中華民国』講談社，2005 年。	期末試験による。

０７年度以前	歴史学ｂ（中国近代史概説－近代国家創成の試み）	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら，中華民国期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　義和団の蜂起 2　纏足問題と天足運動 3　革命派の台頭 4　地方自治の試み 5　王朝体制の崩壊 6　民国の混迷 7　五四運動 8　第一次国共合作 9　北伐と南京国民政府の成立 10　国民政府の近代化政策 11　民国期の農村社会 12　民国期の非漢族社会の動向 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
菊池秀明『中国の歴史 10　ラストエンペラーと近代中国　清末　中華民国』講談社，2005 年。	期末試験による。

０７年度以前	歴史学ａ（「15 年戦争」をどうとらえるか）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。	1　8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　日中戦争と対米英戦争 3　真珠湾からか、コタバルからか 4　被害の問題①―空襲は何を示すか 5　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 6　加害の問題①―731 部隊とは何か 7　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 8　加害の問題③―強制連行と従軍慰安婦 9　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　戦時下の社会①―天皇制と国家神道 12　戦時下の社会②―戦争への動員・協力と抵抗 13　まとめとして―戦争の全体像を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

０７年度以前	歴史学ｂ（戦後史の中の「15 年戦争」）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　東京裁判をめぐって 5　サンフランシスコ講和のもった問題 6　日本とドイツの戦後補償① 7　日本とドイツの戦後補償② 8　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 9　日中国交回復への道のり 10　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 11　アジアの民衆からの戦後補償要求 12　戦後 50 年の国会決議をめぐって 13　過去の戦争と現代の戦争
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（文化人類学 a） 文化人類学 a（未開文化の理解へ）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって‘primitive’と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた）、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。 注：右に書いた授業計画の前半部は若干回数が多くなることもありえます。	１どんな学問か ２概説書の紹介 ３文化人類学誕生まで（1） ４同上　　（2） ５対象としての「文化」の概念 ６歴史的視点と現在的視点 ７この回以降は文化の事例とその理解について話すが、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（文化人類学 b） 文化人類学 b（未開文化の理解へ）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
a で話したことを基礎に、まず「異文化」（「未開」文化）明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。 注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。	１方法としての実地調査（1） ２同上　　（2） ３この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をするが、具体的に話す事例は、流れのなかで決めてゆく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（グローバリゼーションを巡って） 現代文化論 a（グローバリゼーションを巡って）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
「文化」を意味する culture は語源をたどると「農耕」と深くかかわっている。風土や人間という要素が文化を考える上で重要な意味を持つことを踏まえて、グローバル化という現代を取り巻く条件のもとでその由来とこれからを学んでゆく。 「文化」は「文明」と区別されるが密接なかかわりを持つ。言語、宗教、生活習慣、社会システム、人々の価値観など、幅広い領域にその影響が及ぶ。世界にさまざまな文化のかたちがあるなかで、この授業で扱う「米国」は二〇世紀世界にきわめて大きな支配力を広げた。民主主義という統治の仕組みと市場経済の競争システムは冷戦後の世界の普遍的なモデルとなり、大量消費のライフスタイルやハリウッド映画のような大衆文化も世界を吸引するパワーとなった。 ここでは欧州からの移民によって建国された歴史の浅い「米国」という国家が超大国として世界の覇権国家になった背景を探る一方、冷戦の崩壊から「9/11」のテロを経た米国の影響力の翳りを見つめて、グローバリゼーションと文化の関係を考える。	１　はじめに ２　文明のかたち ３　「帝国」と覇権 ４　フランクリン型人間像 ５　トクヴィルとビジネス信仰 ６　WASP と移民国家 ７　ロックフェラーと石油の世紀 ８　大量生産と大量消費 ９　冷戦と豊かな時代 １０「信頼」と社会 １１　小さな政府 １２　米国標準とソフトパワー １３　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）を参考文献とする。	定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するリポートの実績を勘案して評価する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（日本の表象と世界） 現代文化論 b（日本の表象と世界）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
日本の文化をグローバリゼーションの流れのなかに置いて、その特質と固有の構造を明らかにするとともに、西欧をはじめとする異文化との交渉とその影響を考える。ここでいう「文化」は単に芸術など、表現された表象物に限らず、広く社会システムや価値観、個人と集団との関係など、幅広い領域にわたる。 日本は中国文化圏の影響が強い東アジアの島国という地理的な条件の下で、古来独自の文化を育んできたが、明治維新以降はアジアでの近代化を先駆けて欧米列強の仲間入りを果たした。 近隣の植民地化や敗戦から戦後の復興と経済大国化という 20 世紀の歩みを通して、西欧文明との同化を目指す一方で、風土や伝統との融合によって日本がどのような文化を生み出していったのかを探る。 この授業では文芸や美術など日本の表象物から社会システムや技術開発など、さまざまな領域にこうした「文化」とのかかわりを探り、グローバル化がすすむ世界で「ソフトパワー」と呼ばれる価値がどのように形成されていくかを考えたい。	１　はじめに ２　脱亜入欧とジャポニスム ３　日本型システム ４　天皇制という仕組み ５　敗戦とアメリカ文化 ６　１９４０年体制と５５年体制 ７　MADE　IN　JAPAN ８　総中流社会と高度成長 ９　ブランドと日本 １０　日本礼賛と日本たたき １１　COOL　JAPAN １２　日本という表象 １３　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、参考資料を提供する。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）、荒井一博『文化の経済学』（文春新書）などを参考文献とする。	定期試験の成績に加えて、平常の授業で課するリポートの実績を勘案して評価する。

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	比較文化論 b（地域メディア論）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo　Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 講義のなかで、受講者自身がわたしたちの身の回りの地域メディアを具体的に取り上げて分析し、その結果を発表する機会をもうけたい。	１．　イントロダクション ２．　グローバル化とローカルコミュニティ ３．　地域・地方文化の復権とメディア ４．　各地の地域メディア（１） ５．　各地の地域メディア（２） ６．　各地の地域メディア（３） ７．　メディアによる地域文化の創造（１） ８．　メディアによる地域文化の創造（２） ９．　多文化共生と地域メディア（１） １０．多文化共生と地域メディア（２） １１．多文化共生と地域メディア（３） １２．地域メディアとしてのインターネット １３．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
B.アンダーソン『増補　想像の共同体』NTT 出版 早川編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学出版部 船津衛『地域情報と地域メディア』恒星社厚生閣	出席と発表（履修者多数の場合、レポート）

０７年度以前	比較文化論 a（東西の文化を結ぶもの）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，「西洋」の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　A；キリスト教の広がりとアジア世界。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　C；十字軍・レコンキスタとその時代。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　D；２つの旅行記（マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ）と当時の世界。その１ 11　同　その２ 12　同　その３ 13　まとめをおこなう

テキスト、参考文献	評価方法
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

０７年度以前	比較文化論 b（東西文化と近代化）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　E；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　F；アジアにおけるさまざまな近代化。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　G；帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　H；旧ソ連諸国や旧ユーゴースラビア諸国における民族・宗教意識。その１ 11　同　その２ 12　同　その３ 13　まとめをおこなう

テキスト、参考文献	評価方法
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（経済学１）(国民所得の概念と決定メカニズム) 経済学ａ（国民所得の概念と決定メカニズム）	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，日本経済の仕組みを理解し，様々な経済現象に関して理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学の基礎を習得し，経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 経済学ａでは，まず経済学という学問が考察対象とする課題について解説しつつ，基本的概念の説明を行なう。そのうえで，国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。講義においては，昨今の日本経済を取り巻く様々な出来事を取り上げることで，受講生にとって理論と現実の対応関係が理解しやすいように配慮したい。	1　経済学という学問について 2　マクロ経済学の課題について 3　家計の消費行動 4　家計の貯蓄とその動機 5　企業の投資行動 6　企業の資金調達と家計の資産選択 7　直接金融　－株式市場の理論と実際－ 8　間接金融　－銀行の役割－ 9　貨幣の需要と供給 10　中央銀行の役割と貨幣市場モデル 11　ケインズ経済学　－有効需要の原理－ 12　財市場モデルと乗数効果 13　IS-LM モデル

テキスト、参考文献	評価方法
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（経済学２）（経済政策の基礎理論と課題） 経済学ｂ（経済政策の基礎理論と課題）	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
経済学ｂでは，経済学ａの講義内容を踏まえて，財政政策・金融政策の理論と現実について検討し，マクロ経済政策の効果に関する理解を深める。また，開放マクロ経済の基礎知識を習得し，グローバル化が進展する中で国際的な経済現象が日本にもたらす影響について考える能力を養う。 続いて，ミクロ経済学の基礎理論を取り上げ，需要と供給，および余剰分析について解説する。さらに，ミクロ経済学の分析枠組を用いて，規制緩和や環境政策といった経済政策・公共政策の意義について検討しながら，政府の役割と市場の役割のあり方に関する展望を試みる。 受講を希望する学生は，経済学ａを既習であることが望ましい。	1　春学期の復習 2　財政政策・金融政策の効果 3　労働市場モデルと失業 4　開放マクロ経済　－為替レートと経常収支－ 5　ミクロ経済学の課題について 6　需要曲線と供給曲線の意味 7　社会的余剰の考え方 8　競争市場と独占 9　ゲーム理論を用いた経済分析１ －寡占市場－ 10　ゲーム理論を用いた経済分析２ －公共財の供給問題－ 11　ゲーム理論を用いた経済分析３ －コモンズの悲劇－ 12　地球温暖化対策と京都議定書の経済学 13　経済学の応用分野の紹介

テキスト、参考文献	評価方法
経済学ａで用いたものを引き続き使用するほか，ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（経済学１）（ミクロの視点で考える） 経済学ａ（ミクロの視点で考える）	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この２つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の決定について考察しその相互作用を研究する、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。	1. 経済学とは 2. 完全競争 3. 市場メカニズム 4. 需給の変化 5. 消費者余剰 6. 生産者余剰 7. 競争市場均衡 8. 弾力性 9. 市場介入の効果 10. 生産者行動の理論 11. 消費者行動の理論 12. 外部不経済と市場の失敗 13. 不完全競争
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学(上)(下)』日経文庫、2004 年。 清野一治『ミクロ経済学入門』シリーズ・新エコノミクス、日本評論社、2006 年。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第１回目の授業で説明します。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（経済学２）（マクロの視点で考える） 経済学ｂ（マクロの視点で考える）	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この２つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 秋学期は、GDP、物価指数、失業率といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、労働市場・生産物市場・資本市場の相互作用について研究する、マクロ経済学の分野を中心に講義します。景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース・トピックもできるだけ取り上げたいと思います。	1. マクロ経済学とは何か 2. GDP、所得循環、景気循環 3. 物価指数、インフレーション 4. 経済成長 5. 金融システム 6. 資本市場 7. 労働市場と失業 8. 生産物市場 9. 短期の経済分析 10. 所得・支出分析 11. 財政赤字 12. 開放経済 13. 開放マクロ経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学(上)(下)』日経文庫、2004 年。 二神孝一『マクロ経済学入門』シリーズ・新エコノミクス、日本評論社、2006 年。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第１回目の授業で説明します。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
初めて憲法を勉強する受講者を対象に、なるだけ分かりやすく「この国の形」について講義を行う。 半期講義であるため、人権論を中心にした憲法入門講義である。 なお、『六法』（出版社は問わない）は必ず、２回目の講義からもってくること。	１．ガイダンス ２．『六法』の使い方、憲法概念 ３．憲法制定略史 ４．平等権 ５．信教の自由（１）／人権 ６．信教の自由（２）／政教分離 ７．学問の自由 ８．表現の自由と報道の自由 ９．表現の自由とプライバシーの権利 １０．　人身の自由と刑事手続き １１．　生存権と社会保障 １２．　教育権 １３．　予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤・植村編『現代憲法入門講義（新２版）』（北樹出版）及び『六法』	定期試験中に「論述試験」を行う。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
初めて憲法を勉強する受講者を対象に、なるだけ分かりやすく「この国の形」について講義を行う。 半期講義であるため、人権論を中心にした憲法入門講義である。 なお、『六法』（出版社は問わない）は必ず、２回目の講義からもってくること。	１．ガイダンス ２．『六法』の使い方、憲法概念 ３．憲法制定略史 ４．平等権 ５．信教の自由（１）／人権 ６．信教の自由（２）／政教分離 ７．学問の自由 ８．表現の自由と報道の自由 ９．表現の自由とプライバシーの権利 １０．　人身の自由と刑事手続き １１．　生存権と社会保障 １２．　教育権 １３．　予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤・植村編『現代憲法入門講義（新２版）』（北樹出版）及び『六法』	定期試験中に「論述試験」を行う。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	古関　彰一

講義目的、講義概要	授業計画
日本国憲法の概要を講義します。１３回の授業で日本国憲法全般を講義することは不可能ですので、基本的と考えられる点を、人権を中心に講義することになります。	１　開講にあたって（近代憲法とは何か） ２　基本的人権の歴史 ３　基本的人権適用の限界（公共の福祉、外国人） ４　日本国憲法の制定過程 ５　平和主義と憲法９条 ６　平等権の概念・学説・判例 ７　選挙権の法的性格と選挙定数 ８　信教の自由と政教分離原則 ９　表現の自由の意義と検閲 １０　報道の自由と知る権利 １１　生存権の法的性格・学説・判例 １２　司法権の独立と違憲法令審査権 １３　閉講にあたって（まとめ、論述の仕方）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、芦部信喜『憲法』第四版（岩波書店、２００７年)。小六法（出版社は問いません）	春学期最後の試験期間中に一回、論述式の試験を行い、その結果に基づいて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	現代社会１(国際法 1)(国際社会と私たち) 国際法ａ（国際社会と私たち）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国家を中心とした国際法上の行為主体の観点から学ぶ。また、個人が国際法とどのように関わっているのかについても検討する。	1 国際法の歴史 2 国際法の存在形式 3 国際法と国内法 4 国家の成立 5 国家の基本権 6 外交使節 7 条約のしくみ 8 国際機構 9 個人の地位 10 人権の国際的保護 11 国際犯罪 12 裁判権免除 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１(国際法 2)(国際紛争を考える) 国際法ｂ（国際紛争を考える）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会を地的管轄権という観点から検討し、それぞれの領域に適用される国際法のしくみを学ぶとともに、国際的な紛争の解決が、どのように図られるのかを考察する。	1 国家領域 2 日本の領域 3 国際化地域(極地・国際河川) 4 海洋の国際法制度 5 海洋の資源 6 空域・宇宙 7 国際環境保全① 8 国際環境保全② 9 国家責任 10 国際紛争の平和的解決(国際裁判等) 11 国際安全保障制度 12 武力紛争と法 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（政治システムの構成要素） 政治学ａ（政治システムの構成要素）	担当者	雨宮　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
現代社会における複雑な政治の動きを理解するために、身近な日本政治を例にあげながら、その分析の仕方や評価を紹介する。それを通して自分なりの判断の材料を持ってもらいたい。	（１）政治を見る―現代社会の現場から （２）政治のアクター―集団 （３）官と民 （４）大企業と政治 （５）選挙 （６）国と地方 （７）マスメディアと政治 （８）国会 （９）内閣 （１０）官僚 （１１）日本政治の歴史（１） （１２）日本政治の歴史（２） （１３）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
真渕勝・久米郁男・北山俊哉『はじめて出会う政治学』有斐閣　1997 年。雨宮昭一『占領と改革』(岩波新書) 2008 年。	中間テストないしレポートと期末試験

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（現代の民主主義） 政治学ｂ（現代の民主主義）	担当者	雨宮　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
現代社会における複雑な政治の動きを理解するために、身近な日本政治を例にあげながら、その分析の仕方や評価を紹介する。それを通して自分なりの判断の材料を持ってもらいたい。	１．はじめに ２．政治とイデオロギー ３．福祉国家のタイプ ４．福祉国家の歴史 ５．民主主義体制と非民主主義体制 ６．民主主義体制の諸タイプ ７．ナショナリズム ８．文化と政治 ９．国際関係と国内政治 １０．日本の対外政策 １１．国際社会の組織化 １２．地域と政治 １３．戦後体制とポスト戦後体制
テキスト、参考文献	**評価方法**
真渕勝・久米郁男・北山俊哉『はじめて出会う政治学』有斐閣　1997 年。雨宮昭一『占領と改革』(岩波新書) 2008 年。	中間テストないしレポートと期末試験

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（社会学 a） 社会学 a（他者と自己）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。 社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。 本講義では、社会学の基礎的な概念のなかからとくに重要なものをとりあげ、それを現代的な文脈で考える。そのなかから、他者と自己との関係について、また社会学的な視点とはどういったものなのかを学ぶ。	１．イントロダクション――社会学的な視座とは ２．社会学の歴史（１）――A.コント、H.スペンサー ３．社会学の歴史（２）――E.デュルケム ４．社会学の歴史（３）――M.ウェーバー ５．社会の類型（１） ――コミュニティとアソシエーション ６．社会の類型（２） ――ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ７．社会の類型（３）――第一次集団 ８．アイデンティティ形成と社会（１） ――鏡に映った自己 ９．アイデンティティ形成と社会（２） ――重要な他者 １０．アイデンティティ形成と社会（３） ――役割取得 １１．アイデンティティ形成と社会（４） ――マージナル・マン １２．補完的アイデンティティについて １３．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業のなかでその都度指示する	出席と期末試験

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（社会学 b） 社会学 b（現代社会の諸問題）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。 まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義は「社会学 a」の応用編でもあるため、受講にあたっては、春学期の「社会学 a」も合わせて受講することとを強く推奨する。	１．イントロダクション ２．社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム ３．同調様式の３類型――D.リースマン ４．都市化と移民――W.I.トマスと F.W.ズナニエツキ ５．同心円地帯説――E.バージェス ６．シカゴ学派と都市問題――R.パーク ７．社会問題と社会学（１） ８．社会問題化するということ（２） ９．現代社会の諸問題（１）――移民と日本社会 １０．現代社会の諸問題（２）――未定 １１．社会学の現在（１） １２．社会学の現在（２） １３．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業のなかでその都度指示する	出席と期末試験

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（地理学１）（自然環境と文化） 地理学ａ（自然環境と文化）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（１） 4　環境の諸要素（２） 5　環境の諸要素（３） 6　熱帯地域（１）―自然的特質と伝統的農業 7　熱帯地域（２）―アジアの稲作 8　熱帯地域（３）―熱帯の開発と問題（１） 9　熱帯地域（４）―熱帯の開発と問題（２） 10　砂漠地域（１）―自然的特質とイスラム 11　砂漠地域（２）―石油資源と近代化 12　砂漠地域（３）―アラブとイスラエル 13　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（地理学２）（自然環境と文化） 地理学ｂ（自然環境と文化）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（１）自然的特質 2　温帯地域（２）地中海森林地域 3　温帯地域（３）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（４）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（５）新大陸(1) 6　温帯地域（６）新大陸(2) 7　冷帯地域 8　冷帯地域・寒帯地域 9　山地地域 10　世界の環境問題（１）人口 11　世界の環境問題（２）食料 12　世界の環境問題（３）温暖化と砂漠化 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

０７年度以前	地理学ａ（世界の自然環境と文化）	担当者	北﨑 幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、環境問題に対して高い関心のある学生を希望する。	１．オリエンテーション―地理学とは ２．環境の諸要素（１）気候環境 ３．環境の諸要素（２）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 ４．環境の諸要素（３）地形・植生 ５．熱帯地域（１）熱帯林と伝統的生活様式 ６．熱帯地域（２）熱帯林の開発と環境問題 ７．熱帯地域（３）熱帯林の保全 ８．沙漠地域（１）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 ９．沙漠地域（２）石油資源と近代化、沙漠の開発 10．地中海森林地域の特性
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	期末定期試験の結果（90%）に、出席状況（10%）等を加味して、総合的に評価する。

０７年度以前	地理学ｂ（世界の自然環境と文化）	担当者	北﨑 幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共存方法について理解を深める。なお、履修に際しては、環境問題に対して高い関心のある学生を希望する。	１．環境の諸要素―地形環境 ２．温帯草原地域の自然特性 ３．温帯草原地域の開発と環境問題 ４．温帯混合林地域（１）高密度都市化地域の特性 ５．温帯混合林地域（２）産業革命と都市域の拡大 ６．亜寒帯森林地域（１）タイガの中の生活 ７．亜寒帯森林地域（２）タイガの開発と保全 ８．山地地域（１）山地の自然環境と高度帯の利用 ９．山地地域（２）山地資源の開発と観光化 10．世界の環境問題（１）生態系と人間活動
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	期末定期試験の結果（90%）に、出席状況（10%）等を加味して、総合的に評価する。

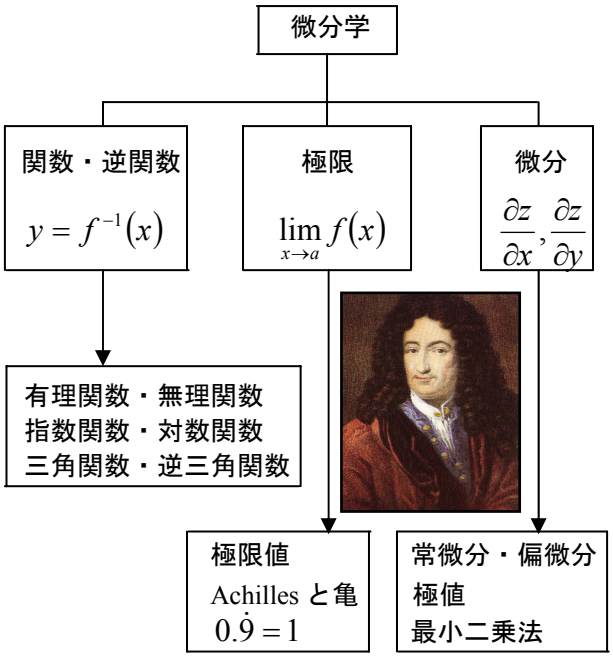
０８年度 ０７年度以前	現代社会１（家庭と職場のジェンダー） 女性学ａ（家庭と職場のジェンダー）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ジェンダーとは、社会的に作り出される男女の違いのことである。現代日本の多くの家庭を見れば、夫が経済的責任の多く、妻が家事責任の多くを受け持っている。また企業を見ると、管理職は男性が多く、非正規社員には女性が多いところが大半である。つまり、家庭や職場には「ジェンダーがある」、あるいは、家庭や職場は「ジェンダー化されている」と言うことができる。 　この講義では、家庭や職場のジェンダーがなぜどうやって作られてきたのか、現状はどんな状態で、どのように変わっていくのか、現代の日本を中心に考える。 講義概要 　家庭におけるジェンダーと職場におけるジェンダーを、それぞれ三回にわけて考察し、そのあと双方にまたがる問題を考える。ジェンダーはだれもが関わるごく身近な問題だが、客観的に捉えるためには、自分の立ち位置を相対化することが必要である。講義からはそのための具体的イメージと、論理とコトバを学んでほしい。またそのための補助教材として、現代の短編小説を使う。	1.　ジェンダーとは 2.　家庭①：家庭におけるジェンダー 3.　家庭②：家事とはどんな仕事か 4.　家庭③：家族の変遷 5.　職場①：職場におけるジェンダー 6.　職場②：　　（続き） 7.　職場③：セクシュアル・ハラスメント 8.　性と生殖：セクシュアリティとは 9.　性と生殖：妊娠とジェンダー 10.　子育てと家庭 11.　子育てと職場 12.　どんな親密圏を作るか 13.　まとめ ＊07 年度に「女性学 a」を履修した人は登録できません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
原宏一『床下仙人』（祥伝社文庫） DUO で購入すること。	毎回のコメントペーパーと３回のレポート課題。 ただし欠席が３回を越える場合は、原則として成績評価の対象としない。

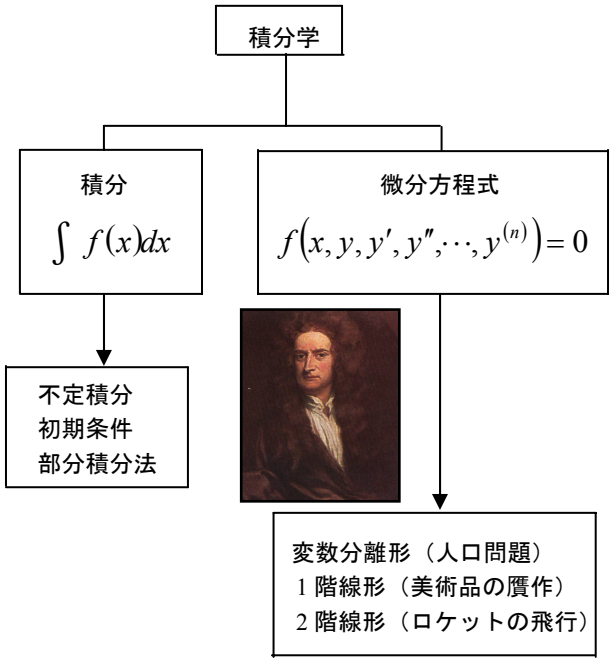
０８年度 ０７年度以前	現代社会１（ジェンダーとメデイア表象） 女性学ｂ（ジェンダーとメディア表象）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では女性学ａで学んだ具体的な事象を踏まえ、ジェンダーの表象を読み解く力を身につけてほしい。なぜ、今、そのような力が必要とされるのか。文化と社会のジェンダー規範は、ジェンダー表象を通じて社会の構成メンバーの意識にうえつけられる。現在、わたしたちを縛っているジェンダー規範が、社会と個人の可能性を狭めるようなもので、それを変えたいと思うのなら、まずその規範がいかに個々人の意識のなかに内面化されるのかを知らねばならない。 　ジェンダー表象の読解力がついたところで、働くこと、家族をつくること、子どもを産み育てること、さらにはセクシュアリティーなど、受講生のみなさんの人生に関係してくる問題について、新たな視点から検討してみたい。 （注） 「表象」という言葉については講義のなかで詳しく説明しますが、とりあえずは、言葉その他によって表現されたものと理解していてください。	1.　導入：ジェンダーとは、表象とは 2.　日常のステレオタイプ（コマーシャル分析） 3.　男の子の国、女の子の国――社会化の道具としてのアニメと伝記(1) 4.　男の子の国、女の子の国――社会化の道具としてのアニメと伝記(2) 5.　身体とセクシュアリティー(1) 6.　身体とセクシュアリティー(2) 7.　身体・セクシュアリティーの物象化と暴力 8.　セクシュアリティーのジェンダー化と暴力 9.　労働・家族・再生産(1) 10.　労働・家族・再生産(2) 11.　労働・家族・再生産(3) 12.　ジェンダー表象の変化(1) 13.　ジェンダー表象の変化(2) 講義内容に変更がある場合は、登録に先立ち講義支援システムに掲示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で使う資料はプリントを用意する。なお主な参考文献は開講時に指示するとともに、授業支援システムに掲示し、本は図書館の指定図書コーナーに置く。	出席（コメントペーパー）とテストによる。（登録人数によって変わる場合もある。登録人数が決定し次第、お知らせします。）

０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間１（数学 a）** **数学 a（微分学）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
∂ 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。 ∂ 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。 ∂ 講義・演習を通して、微分学の知識を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。 ∂ 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。	
(テキスト)・(参考文献)	評価方法
∂ （テキスト/ 配布するプリント）・（参考文献/ 『入門微分積分』三宅　敏恒 著・培風館）	∂ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間１（数学 b）** **数学 b（積分学）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
∮ 『数学 b』では上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分学（**積分・微分方程式**）」を学びます。 ∮ 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。 ∮ 講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を**実際の現象解析に使える**ようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。 ∮ 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
∮ （テキスト/ 配布するプリント）・（参考文献/ 『入門微分積分』三宅　敏恒 著・培風館）	∮ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間１（科学史 a） 物理学 a（相対論の世界）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境・人間１（科学史 a）／物理学 a」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間･空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 天体の運行 4. ガリレイの相対性原理 5. ニュートン的宇宙観 6. 電磁気学の成立 7. 特殊相対性理論 8. 時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性 10.一般相対性理論 11.一般相対論的宇宙論 12.時間とは何か 13.最新の時間空間概念
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間１（科学史 b） 物理学 b（量子論の世界）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境・人間１（科学史 b）／物理学 b」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 光の粒子説・波動説 4. 光電効果 5. 近代原子論 6. 前期量子論 7. 量子力学 8. 不確定性関係 9. 観測の問題 10.素粒子の世界 11.統一理論 12.宇宙の進化 13.最新の物質観
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間１（原子の世界） 化学ａ（化学と環境の歴史）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 物質の世界を構成する基本単位は「原子」である。その原子を私たちはどのように認識してきたか。古代から現代までの原子概念の発展をたどり、現代科学における物質世界の認識を学ぶ。 【講義概要】 あらゆる自然の存在物は、天然物も人間自身も人間が創り出した物も、すべて化学物質である。そしてその物質は「原子」から構成されている。化学や物理学は離合集散するこの原子の運動法則を明らかにしてきた。この授業では、古代から現代まで人びとがこの「原子」の考えをつかって物質の世界をどのように理解してきたか、その発展のあとをたどる。また現代の自然科学が物質の世界をどのように理解しているか、世界をどのように変えつつあるか、を概観する。	１．イントロダクション：原子の運動の科学 ２．古代の物質観：物質世界の変化と多様性をどう理解するかは哲学の根本問題のひとつ ３．原子論の伝統：ひとつの世界観の誕生 ４．中世の自然観：スコラ学と錬金術 ５．近代科学と原子論：宇宙・真空・原子 ６．化学の誕生：物質の博物学 ７．化学と原子論：元素と原子 ８．化学理論の発展と原子：水は HO か H_2O か ９．原子はほんとうに存在するのか：エネルゲティーク １０．原子構造と原子の結合：物理学の変革と化学 １１．生きものも原子からできている：生命の化学 １２．原子分子の建築学：高分子と合成化学 １３．現代化学の物質観
テキスト、参考文献	**評価方法**
・テキスト　講義時にプリントを配布する ・参考書　T.H.ルヴァイア『入門化学史』朝倉書店 板倉聖宣『原子論の歴史 上・下』仮説社 ほか	授業への参加態度（出席と小レポートの提出を含む）と、定期試験によって成績評価する。

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間１（生命と環境の化学） 化学ｂ（化学と健康の歴史）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 生物の基本的な機能である代謝と遺伝の概略を理解し、その理解を基礎として、有害化学物質が生物体内の化学過程を阻害する機構や、それら物質の環境中における動態の解明から、化学物質による環境問題の自然科学的側面を理解する。 【講義概要】 現代の科学は生命の過程をも化学や物理学の言葉で理解するようになった。また科学に基づく技術を利用する人間活動は生命を取り巻く環境を大規模に変化させるようにもなった。生命と環境の物質過程を解明し、自然そのものを作りかえることができるようになった現代科学は、人間みずからの健康を増進することにかなり成功してきたし、他方では思わぬ副作用も生み出してきた。これら生命と健康に関わるさまざまな物質とその影響について、化学的な観点から解説する。	１．イントロダクション：講義の概要説明 ２．生物体を構成する物質とその化学変化 ３．呼吸の生化学 ４．DNA：遺伝情報の担い手 ５．DNA：遺伝情報の発現と複製 ６．毒と薬 ７．自然界の物質循環 ８．DDT と『沈黙の春』 ９．水俣病の歴史 １０．ダイオキシンの毒性 １１．POPs １２．生命操作と GM 農産物 １３．大気汚染と地球温暖化
テキスト、参考文献	**評価方法**
・テキスト　講義時にプリントを配布する ・参考書　丸山工作『新 分子生物学』講談社ブルーバックス 青木康展『環境中の化学物質と健康』裳華房	授業への参加態度（出席と小レポートの提出を含む）と、定期試験によって成績評価する。

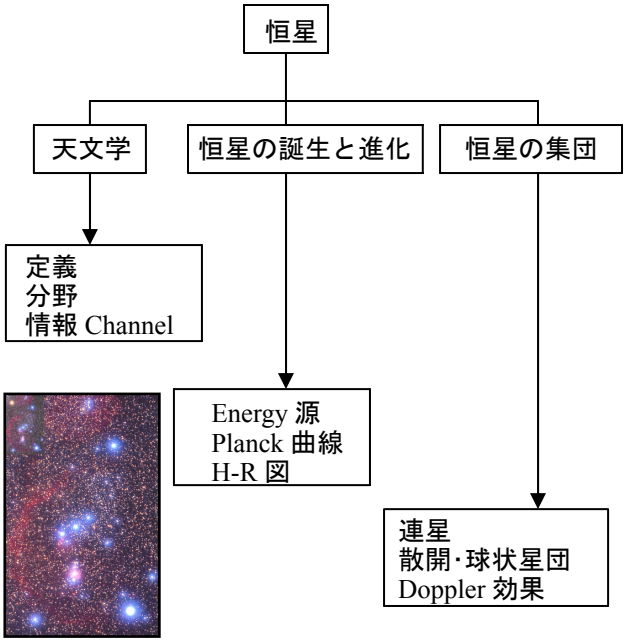
０７年度以前	生物学ａ（植物の特性と自然の仕組み）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・　生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることを目標とする。 **履修資格** ・　植物名に関心があること。 ・　普通の春植物取りあえず 100 種を認識できること。	1　登録に先立っての試験 2　実験室の使用法 3　5 月の花 1 4　植物の基礎　分類学 1 5　5 月の花 2 6　植物の基礎　分類学 2 7　6 月の花 1 8　植物の基礎　分類学 3 9　6 月の花 2 10 植物の基礎　分類学 4 11 植物の基礎　分類学 5 12 7 月の花 1 13 まとめ 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること（**欠席者の登録お断り**）。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリント配布	毎回出欠を確認。4 回欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

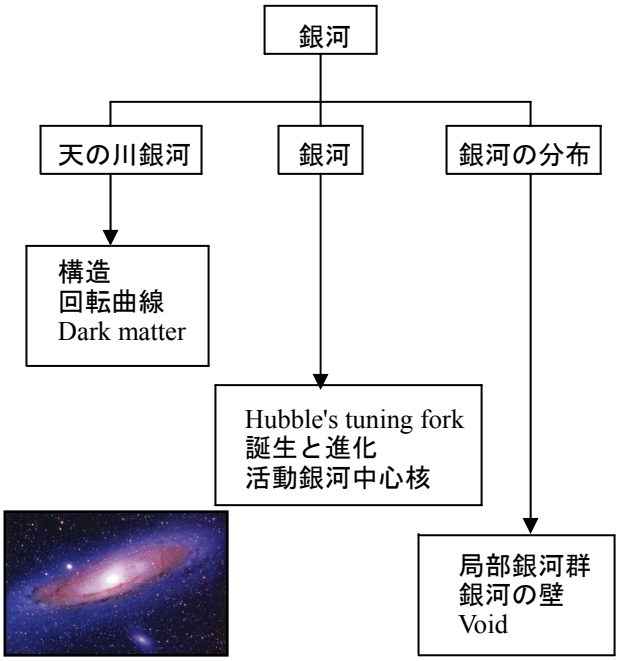
０７年度以前	生物学ｂ（植物の分布）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ・日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることを目標とする。 **講義の目的** ・　地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ることを目標とする。 **履修資格** ・　植物に興味があり、地理が好きであること。 ・　普通の植物、取りあえず 100 種を認識できること。	1　登録に先立っての試験 2　植物の基礎　形態学 1 3　10 月の花　1 4　植物の基礎　形態学 2 5　10 月の花　2 6　植物の基礎　形態学 3 7　11 月の花 1 8　植物の基礎　形態学 4 9　11 月の花 2 10　植物の基礎　形態学 5 11　植物の基礎　形態学 6 12　12 月の花 1 13　まとめ 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること（**欠席者の登録お断り**）。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリント配布。	毎回出欠を確認。4 回欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間 1（恒星天文学） 地球科学 a　（恒星天文学）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
☀ 地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと捉えて、『自然・環境・人間 1』では、**天文学**を学びます。「天文」とは「天」から届く「文」のこと、天文学は宇宙から届く手紙を解読する学問です。 ☀ 春学期は「恒星」についての天文学です。天文屋は地球上での自然法則が、太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に宇宙を支配する自然法則が地球にも及んでいて地球が宇宙の一員であることを知りました。 ☀ 主体的に勉強して得た知識をもとに自らの頭で先を考え、地球が宇宙に浮かぶ天体の一つ、**自然の一員**であることを実感して下さい。 ☀ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☀ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキスト）･（参考文献）	評価方法
☀（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店）	☀ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間 1（銀河天文学） 地球科学 b　（銀河天文学）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
★ 秋学期には、上記春学期の知識を前提に、10 億もの恒星が重力的に集まる、 より大きな集団「銀河」についての天文学を学びます。 ★ 天文屋は恒星までを対象に発見した自然法則を用いて**天の川銀河**・**銀河**にまで考察を広げ、自然法則を更に大きな自然に適うよう統一し、普遍化する大きな夢の実現に努めています。 ★ 現在までに得られた知識をもとに自らの頭で未知の世界を探り、自然の一員であることの自覚の上に、独自の世界を未来に向かって開いて下さい。「天」からの「文」には経験したことの無い**大きな夢**が認められているかもしれません。 ★ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ★ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキスト）･（参考文献）	評価方法
★（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店）	★ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間１（私の自由時間設計） スポーツ・レクリエーション学ａ（自由時間とクオリティオブライフを考えよう）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の2割から3割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1割です。あなたは1割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。 あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。 また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。	1　オリエンテーション 2　和田の自由時間 3　自由時間とは 4　生活時間の構成と自由時間の現状 5　自由時間をすごす能力「森と老人」 6　現代における自由時間の意味 7　古典的解釈から知るレジャー 8　クオリティオブライフ 9　多様な価値観 10　健康・食物・世界 11　健康の価値 12　あなたのライフデザイン 13　まとめ 授業で携帯電話をライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。（パケット通信料がかかります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒャエル・エンデ、「モモ」、岩波書店	出席状況（４０％）、学期末試験の結果（４０％）、クイズ・レポート（２０％）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（日本語の談話と日本語教育）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語教育のための談話論をあつかう。初級の日本語学習が，いわゆる「文」を作り出すことのできる規則を，文型として獲得することを目標とするとすれば，中級の日本語学習は，複数の文からなる談話を構成することのできる能力の獲得を目標とすると考えることができる。この授業では，日本語の談話に，一定の構造を考えることによって，学習対象としての談話能力にある程度明確な輪郭を与えることを目標とする。 〔講義概要〕 あつかう対象は，指示・省略・主題・隣接ペア・テンス・モダリティ・丁寧さ・ターンなどであり，右欄の計画にそって進行する。受講者は，毎回の授業前に，該当する資料をよんでくることが要求される。授業は，受講者からの質問とそれに対する回答の形式ですすめる。なお，ここで要求している「質問」は，むずかしいものではない。資料中の理解できない箇所について，より詳細な説明をもとめるものでよい。積極的な参加を期待する。	第１回　談話とはなにか，中上級教育と談話論 第２回　指示 第３回　省略と代名詞 第４回　「ハ」主題（１） 第５回　「ハ」主題（２） 第６回　文のムードと隣接ペア（１） 第７回　文のムードと隣接ペア（２） 第８回　テンスとモダリティ 第９回　引用 第１０回　丁寧さ 第１１回　ターンテイキングなど 第１２回　談話と行為 第１３回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。	期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する，また，出席をきびしく要求する。

０７年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（国際語としての英語）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
約 3 億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると 20 億人あまり英語話者がいるという。20 億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。また話す必要があるのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～4 週：英語の国際化と多様化 －Kachru の 3 つの円 －英語の普及（歴史等） －ピジンとクレオール（定義等） －方言（定義等）と標準語 第 5～7 週：世界英語 第 8 ～10 週：母語話者 vs.非母語話者 －英語は誰のもの？(language ownership) －母語話者とは？ －非母語話者教員としての役割 第 11～12 週：世界の英語教育 第 13 週：総論
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の講義で発表します。 配布資料等有り。	課題（３０％）、レポート（２０％）、小テスト（１０％）、期末テスト（４０％）

０７年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（多言語環境と英語）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」の役割について理解を高めることを目的とする。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2 ～4 週：ことばとアイデンティティー 第 5 ～6 週：多言語使用に関わる理論 第 7 ～ 9 週：世界の言語政策 第 10～12 週：日本における多言語共生 第 13 週：総論
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の講義で発表します。 配布資料等有り。	課題（３０％）、レポート（２０％）、小テスト（１０％）、期末テスト（４０％）

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（こころの世界） ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観する。その後，性格の形成，ストレス，生きがいと心の健康などのテーマについて，さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を習得し，同時に，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。	以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 １．心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 ２．心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 ３．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 ４．心理学のあゆみ④：精神分析理論 ５．性格とは？：自己の性格理解 ６．性格理論 ７．性格の形成 ８．ストレス①：ストレスと性格 ９．ストレス②：ストレス・コーピング 10．ストレス③：ストレスの生理心理学 11．現代社会とこころの病① 12．現代社会とこころの病② 13．生きがいとこころの健康
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。	出席，小レポート，試験により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（生と死の意味の哲学 1) ことばと思想（Ⅲ）(生と死の意味の哲学 1)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
生と死の問題は、臓器移植や臓器売買、さらに、癌に冒された自分自身を治療法が開発されるまで冷凍保存するなどということが実際に行なわれている現代においては、いっそう複雑な問題になろうとしています。それでもなお、われわれは死の運命を逃れることはできません。 また、いわゆる先進国に住む多くの現代人は、病院で生まれ、病院で死を迎えます。とりわけ、死は弧絶された状況の中で迎えることが多くなってしまっています。今学期は、死から生を見るという方法で、生について考えます。著名かつ平易な文献を取り上げ、それについて考える講義スタイルですから、傍観者として講義に出席するのではなく、自らの問題として考える姿勢で臨んでもらいたいと思います。	1. モンテーニュの『エセー』を取り上げます 2. ジャンケレヴィッチ『死』 3. キューブラー・ロスの『死ぬ瞬間』を取り上げます 4. 前回の続き 5. エリアス『死に逝く者の孤独について』 ここまでのテーマは「死の準備」の可能性です 6. 統計資料などを使って『自殺』の問題を考えます。 7. 前回の続き 8. 引き続き『自殺』について 9. ランツバーク『死の経験』と『自殺の道徳的問題について』 10. 前回の続き 11. パウル・ティリッヒ『生きる勇気』 12. 前回の続き 13. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（生と死の意味の哲学２） ことばと思想（Ⅲ）(生と死の意味の哲学２)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは《意味》の世界に生きています。われわれが陥りがちな誤りは、本来相対的にすぎない《意味》を絶対視することです。さまざまな宗教・文化・時代によって、価値観が異なるのはむしろ当然のことですし、もちろんこれは個人によっても違います。しかし、われわれが《意味》を求めるという点では一致しています。 このことを念頭に、いくつかの視点から、生と死の意味を考えることがこの講義のテーマです。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. 講義テーマに関連した映画をごらんいただく予定です 2. フランクル『夜と霧』──これは名著です 3. 前回の続き 4. フランクル『死と愛』 5. 前回の続き 6. アドラー『人生の意味の心理学』 ここまでのテーマは《意味》です 7. ベッカー『死の拒絶』とアルベール・カミュ『シーシュポスの神話』 8. フェリーの『神に代わる人間』を取り上げます。 9. フロム『自由からの逃走』を使いながら、《時代・使命・自己》などの問題について考えます。 10. 前回の続き 11. フロム『正気の社会』を取り上げます ここまでのテーマは《自己実現》です 12. 秋学期のまとめ 13. 前回の続き
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

０７年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（通訳・翻訳論）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
通訳・翻訳の実践、理論、歴史について理解を深め、現代社会の中で翻訳・通訳が果たす役割と問題点を検討していきます。 通訳・翻訳の実務と理論に関して講義を行います。 実務については、各種の通訳の実践において求められる能力と業務内容の違いについて詳しく説明し、さらに通訳訓練に用いられる様々な方法を紹介します。 実際に通訳を行っているビデオなども用いて、社会の中で通訳者がどのような仕事をしているのかを見ていきましょう。 理論については、翻訳を中心として、日本と世界における翻訳の歴史、翻訳規範および言語学的に見た翻訳の可能性と不可能性などについて講義を行います。 講義レジュメの文字教材以外にＤＶＤやビデオなど映像教材を使用しますので、遅刻・欠席しないようにしてください。	第一回　ガイダンス、講義資料について 第二回　香港返還記念式典の同時通訳分析 第三回　通訳の実務(1)　会議通訳、一般通訳 第四回　通訳の実務(2)　放送通訳、医療通訳 第五回　通訳の実務(3)　コミュニティー通訳 観光、芸能、スポーツの通訳 第六回　通訳の実務(4)　司法通訳 第七回　通訳訓練法と外国語学習 第八回　翻訳と通訳の共通点と相違点 第九回　翻訳の規範 第十回　通訳と翻訳の歴史(1) 第十一回　通訳と翻訳の歴史(2) 第十二回　翻訳の規範、ことばと通訳、訳せないもの 第十三回　学期のまとめ、成績評価に関する説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義用のレジュメはインターネットからダウンロードできるようにしておきます。ダウンロード用のサイトは講義の中で紹介します。なお、映像資料は配付できませんので、必ず授業に出るようにしてください。	出席率と期末試験（またはレポート課題）によって評価を行います。期末試験（またはレポート課題）では、講義内容にとどまらず、自分自身の経験や大学で履修している他の授業内容と関連させて論述されることが求められます。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想１（日本語教育概説） ことばと思想（Ⅲ）（外国語としての日本語教育）	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教師になることを目的とした学生のみを 対象としたコースではなく、日本語、日本語教育、しいては語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。 １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．世界の中における日本語教育の現状を知る。 ３．日本語を外国語として概観する。 ４．日本語の基本的な仕組みを知る。 ５．日本語を外国人に教えるとは？ 授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。 ＊　毎回、プリントの配布があるが、このプリントはネット上におくので、自分できちんとこのプリントをダウンロード、プリントすること。	1) オリエンテーション　ー　日本語教育の現場を見る　（ビデオ） 2) 日本語教育とは？　日本語教育と国語教育の違い（言語伝達能力の指導：教養としての国語力） 3) 世界における日本語教育 4) 国内における日本語教育 5) 日本語教育の歴史と現状 6) さまざまな日本語教育（地域住民のための日本語教育、就学生のための日本語教育、など） 7) 日本語の教科書紹介とシラバス 8) 外国語としての日本語教育法（直接法で教える） 9) 日本語教師に求められる能力(日本語でのコミュニケーション能力をどう捉えるのか) 10) 日本語のしくみとその指導法のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味 11) 日本語教育の実際　ー　教室活動の流れ 上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし。但し、プリントの配布 参考文献：『ここからはじまる日本語教育』姫野昌子他、ひつじ書房	①　期末定期試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、第二言語としての日本語教科書の分析を中心に進める。教科書の分析を通じながらコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、コミュニケーションのための教材開発を行う場合、どのように学習項目を決定するのか、その提示順序、提示方法を考える。特に、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをテキストを参考にしながら、クラスで考える。 最終的には、明らかになった構成概念に基づいて、４技能のうち、１つを選び、教材を作成することが課題となる。 具体的な授業活動としては、教師による解説だけではなく、学習者同士のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。 **＊＊注意：このクラスはかなり日本語教育に特化しているため、ことばと思想（Ⅲ）（外国語としての日本語教育）を履修していることが必須であるとともに日本語教育に強い興味を持っている方が履修することが望ましい。**	1．コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 2．機能シラバス 3．コミュニケーションに役立つ日本語教育文法 4．日本語学的文法から独立した日本語教育文法 5．学習者の習得を考慮した日本語教育文法 6．学習者の母語を考慮した日本語教育文法 7．コミュニケーション能力を高める日本語教育文法 8．聞くための日本語教育文法 9．話すための日本語教育文法 11．読むための日本語教育文法 12．書くための日本語教育文法 13．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編　くろしお出版 ②参考文献 「日本語学習者の文法習得」野田尚史、他　大修館書店 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク その他：論文のプリント（クラスで配布）	①　課題の提出 ②　出席率　(クラス活動への参加) ③　テスト（論述式） ④　課題教材の作成

０７年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 a）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。	１．ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム ２．ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 ３．ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 ４．イングランドのキリスト教化 ５．デーン人とアルフレッド大王 ６．カロリング王朝とイングランドのキリスト教 ７．グレゴリウス７世の教会改革 ８．イングランドの教会改革 ９．中世の異端 １０．地獄堕ちへの恐怖 １１．黒死病と農民一揆 １２．教皇権の栄光と下降 １３．中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。	出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。

０７年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 b）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	１．ルター：我ここに立つ ２．ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 ３．イングランドの宗教改革：ヘンリー８世 ４．エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 ５．エリザベス１世の宗教改革 ６．ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 ７．スチュワート王朝の国教会 ８．国王の処刑とピューリタニズム ９．ピルグリム＝ファーザーズ １０．王政復古から名誉革命以降 １１．啓蒙主義時代 １２．19 世紀以降現代 １３．アメリカの場合 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期に準じる。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（日本文化論） 歴史と文化（Ⅲ）（日本文化論）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合重層性」ととらえ、周辺諸地域との文化交流によって複合し、新たな形態を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層化するあり方が現在の文化を形作っているという立場から、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。	〈各回講義のテーマ〉 1　オリエンテーション・導入 2　日本文化の歴史的複合重層性 3　日本は閉鎖的な国か？ 4　「日本」はいつから「日本」か? 5　季節感…「四季」の嘘と作られた感受性 6　文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名 7　ものの行き来、人の行き来 8　日本人の振る舞い…正直・清潔・契約 9　律令の輸入…「天皇」と「国家」 10　「鎖国」…開かれていた国「日本」 11　明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」 12　「日本人」の暮らしと死生観 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（未開人の認識 a）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまず確認しておきたい。この文化では、事物についての認識の仕方も世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。	詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」「動物」といったテーマを考えている。それぞれのテーマについて「未開」文化における認識の事例を挙げ、それを理解し、そのことを通してわれわれの認識の仕方の特徴を考えることができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（未開人の認識 b）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまず確認しておきたい。この文化では、事物についての認識の仕方も世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。	「世界観」を頭において話をしてゆく。世界観は、われわれが「宗教」とカテゴリー化する現象のなかによく見ることができる。詳細な内容も回数も明示できないが、「神話」「祖先崇拝」「呪術」「象徴的二元論」といったテーマを考えている。こういう現象のなかに「未開」の「世界観」を見ることができると思うし、それを通してわれわれの世界観を考えることができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（日本思想史 a）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。 ２．古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する。 ３．現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。 ４．「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。 かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。 日本語を母語としない学生は、少なくとも「上級日本語Ⅱ」もしくは「日本語Ⅱ」の単位を取得していること。 古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。	1　講義の進め方の説明 2　古代から近世までの思想史の概略 3　日本文化の特質について 4　仏教と古代日本 5～6　キリスト教と日本 7　日本の近世思想の概略／江戸という時代 8　儒学の思想 9　朱子学と日本 10　貝原益軒の思想 11　荻生徂徠の思想 12　水戸学の思想 13　武士道について 14　幕末維新期の思想／民衆の思想 15　歴史意識の「古層」について

テキスト、参考文献	評価方法
配布プリント類による／参考文献は、適宜紹介する。	最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文など。講義中に、文献の暗唱を求めることがあるが、その場合には、その結果を加味する。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（教育の歴史２） 歴史と文化（Ⅲ）（教育の歴史 b）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを目的とします。 本講義では日本の近代の教育史を担当しますが（１は前近代です）、具体的には幕末以降、1990 年代までの、教育の制度や実際の姿および教育思想を扱います。 できるだけ初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義するつもりです。	1　開講の辞／講義の進め方の説明 2　近現代（第二次大戦以前）の教育史概略 3　学制と明治期の教育 4　教育勅語とその扱い 5　大正自由主義教育 6　生活綴方教育 7　戦争と教育（ビデオ観賞） 8　近現代（第二次大戦以後）の教育史概略 9　憲法と教育基本法体制 10　コア・カリキュラム運動 11　「逆コース」と教育 12　能力主義教育の導入 13　教育の規制緩和と競争 14　教育政策の揺れ 15　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。	最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文などを勘案します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（日韓交流史）	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。	1．韓国の歴史の流れ 2．王仁博士と漢文 3．日本の中の百済文化 4．高麗時代の社会状況 5．『三国史記』と『三国遺事』 6．朝鮮通信史 7．豊臣秀吉と李舜臣 8．申叔舟と雨森芳洲 9．安重根と伊藤博文 10．日韓併合 11．淺川巧と韓国 12．朝鮮戦争と日本 13．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。	最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（韓国文化各論ｃ）	担当者	金貞我（ｷﾑ･ｼﾞｮﾝｱ）

講義目的、講義概要	授業計画
今学期の韓国文化論のテーマは「しぐさと姿の朝鮮文化－描かれた朝鮮文化を読む」である。特に朝鮮時代中期（18世紀）以降の文化の諸像を、朝鮮時代に描かれたさまざまな風俗画から読み取り、その図像に表象される歴史や社会、文化を学ぶのが今学期における韓国文化論の目的である。 授業はスライドやビデオなどの視覚的な資料を用いながら行われる。描かれた朝鮮時代の生活文化を理解し、それらが現代韓国の社会にどのように継承され、生きているのかまで、韓国文化の歴史の諸像を視覚（図像）資料からアプローチすることが主な内容である。	１、韓国の時代区分と歴史の概要 ２、姿の朝鮮文化 ・ 女性の表象－封建社会の理想の女性像 ・ 立身出世の表象－寺小屋と科挙 ・ 妓女の姿と上流社会 ・ 装身具と服飾が象徴する身分社会 ３、しぐさの朝鮮文化 ・ 食文化と食事作法 ・ 片立膝と正座 ・ 顔を隠す女性・扇子越しに見る男性 ・ いただく女・背負う男－労働する庶民 ４、儀礼の朝鮮文化 ・ 通過儀礼と士大夫文化 ・ 民間信仰 ※以上の内容に基づいた詳しい授業日程は、授業の初日に配布する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書および参考資料は、授業中に随時紹介する。必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行うテストと定期試験を総合して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（大衆文化論）	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製技術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、まず 20 世紀のポピュラー音楽を題材とし、サブカルチャーの社会的な意味を探る。さらに IT 技術の進展に伴う現在の複合メディア環境にも目を向け、そうした環境が導く文化、社会の動態について考察を深めていく。具体的な事例を中心に話を進めるが、講義の軸は社会学である。	1　イントロダクション 2　20 世紀のサブカルチャー(1)：ロックと対抗文化 3　20 世紀のサブカルチャー(2)：ロックの成熟化 4　20 世紀のサブカルチャー(3)：ヒップホップ 5　20 世紀のサブカルチャー(4)：産業と文化 6　サブカルチャーとグローバル化(1)：日本のロック 7　サブカルチャーとグローバル化(2)：日本のロック 8　サブカルチャーとグローバル化(3)：日本のヒップホップ 9　ヤンキー文化とオタク文化(1) 10　ヤンキー文化とオタク文化(2) 11　複合メディア社会とサブカルチャー(1) 12　複合メディア社会とサブカルチャー(2) 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない	期末試験 70%、講義中に課すレポート 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、主としてラテンアメリカの社会と文化について、文化と国家との関係を中心に学んでいく。 スペイン語の知識は、あったほうが良いが、必ずしも必要ではない。むしろ、ラテンアメリカにおけるそれぞれの国の位置と基本的な知識が必要である。	1. オリエンテーション 2. ラテンアメリカ社会における男と女 3. ラテンアメリカ社会における人種 4. ラテンアメリカ社会における先住民族 5. ラテンアメリカ社会における先住民族（続き） 6. 先住民文化の位置づけ 7. 先住民文化と国民文化 8. 国民文化とは何か 9. 国民国家の形成と人種 10. 国家の統合とは何か 11. ラテンアメリカ社会におけるスペイン語教育の意味 12. ラテンアメリカの今後 13. 総括

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは当方で用意する。 参考文献は、その都度、授業内で指示する。	学期末に行なわれる筆記試験（論述）で評価する

０８年度以降 ０７年度以前	歴史と文化１（日本事情とコミュニケーション教育） 歴史と文化（Ⅲ）（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	小山　慎治

講義目的、講義概要	授業計画
日本文化や時事問題について、異文化理解の視点から考察する。授業では、まず、異文化コミュニケーションの基礎概念と学問的なアプローチについて学習する。これらを通じて、日本社会において現実に起こっているコミュニケーション上の問題を分析できるようになることが一つの到達目標である。 また、授業においては、日本社会での異文化理解に関する諸問題を扱った発表を課す予定である。発表は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。	1　オリエンテーション 2　異文化コミュニケーションの基礎概念① 3　異文化コミュニケーションの基礎概念② 4　日本社会と異文化コミュニケーション① 5　日本社会と異文化コミュニケーション② 6　日本における異文化理解の実践例①（講義） 7　日本における異文化理解の実践例②（発表） 8　日本における異文化理解の実践例③（発表） 9　日本における異文化理解の実践例④（発表 10 日本の国際交流①（講義） 11 日本の国際交流②（発表） 12 日本の国際交流③（発表） 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：石井敏他（編）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣 1997 年 田尻英三他『外国人の定住と日本語教育』ひつじ書房 2004 年 その他、授業中に指示する。	出席、クラスへの貢献、クラスでの課題、および定期試験による総合評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（英語圏の文学） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の文学文化）	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
目的 今は、宇宙から地球を眺め、その地球をだんだんズームインして、日本へ、そして自分の住んでいる地域の番地をパソコンに打ち込むと見事に自分の家までピンポイントの正確さでヒットすることができるようになりました。「英語圏の文学」という題目は私にとってこの地球に相当するほどの巨大かつ膨大なものです。私のやってきたことはその針の先端になります。それでも、時々その針の先端を少し前後左右に動かして他の場所をクローズアップしてみるのは楽しいことです。その針の先端を少しずつ動かして何が見えるかを案内してみること、そしてその中にもっと深く入り込んで見てみたいという興味を引き起こすことがこの授業の目標と考えています。 概要 文学は言葉によって表現される代表的な表象です。書かれたもの、すなわち文学の作品はその言葉が紡ぎ出す見事な織物です。この授業では、その言葉の色彩や織り方、できあがった織物がどんなものになるかを見ていくことです。織物は織り上げる人の心が込められ、また優れた技によって織られていますから、その心と技を理解することがないと織物の本質や良さが分かりません。しかも織られた作品一つ一つは生きています。それは作品全体が一つの生き物ですから、小さな部分にも血が通っています。どんな血が流れているのかはその作品が生まれた時代的、文化的背景によって違いますが、一つだけ共通しているのはどの作品にも私たちと同じ人間性の不思議さと驚異が流れていることです。	授業計画 授業によっては以下に示された通りには進まない時があるかも知れませんので、この点を承知しておいてください。 半期完結授業: 1. Introduction： 読書の楽しみ。私の英米文学への興味の始まりからお話しをします。プリントの配布があります。 2. 文学と言葉について：言葉の意味とその文学的広がり、あるいは変化、Simplicity、Freshness、Precision、Vigor など 3. 文体について：多様な作品を例に読んでみます。 （1）*The Kitchen at Harmonie*（2）*Life in America*（3）（4）*The Unicorn in the Garden*（5）*A Very Short Story*（6）*The Helmsman* （7）and Others ４．英語圏の文学と社会について ５．前の授業の続き ６．前の授業の続き ７．英語圏の文学とキリスト教 ８．前に授業の続き ９．前の授業の続き 10. 文学のジャンルについて （1）Verse と Prose について（2）Drama について 11. その構造について （1）プロットとストリーの重要性について （2）プロットの構成と展開 （3）登場人物の設定 12. その内容について：言葉と修辞（レトリック）の重要性について（1）Metaphor、Metonymy、Repetition、Paradox、synecdoche、Imagery、その他のレトリックについて １3. 講義のまとめとレヴュー

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：作品のハンドアウト一週間前に手渡しますので、それを予習してくると授業の内容が一段とよく理解できるでしょう。 参考文献：Laurence D. Lerner. *English Literature: An Interpretation for Students Abroad* . OUP,London and The Eihōsha Ltd. Tokyo. 上記のテキストは非常に良く、分かりやすくできています。書かれた言葉がどんな風に演じられ、話されるかを確かめることもできる効果的な素材となります。	評価方法： ３分の２以上の出席がないと試験を受けても単位は出しません。短い感想文（レポート）の提出があるかもしれません。その場合はそれを評価しますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。 受講生に対する要望等： 大切なことはしっかりとノートテーキングすること。 また文学・文化、また、ものの見方、考え方に興味を持つこと。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（能楽論）	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。 この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点からビデオ鑑賞・仮設舞台での実演などを交えて、平易に解明していきます。 能楽の実際を知るため能楽堂での鑑賞を実施します。	①　古典芸能としての能楽 ②　能楽の概説 ③　能楽のながれ ④　能楽を演じる各役 ⑤　能舞台について ⑥　能の演技について（実演） ⑦　能の演目について Ⅰ ⑧　能の演目について Ⅱ（実演） ⑨　能の構成 Ⅰ（夢幻能と現在能） ⑩　能の構成 Ⅱ（源義経の能） ⑪　能の構成 Ⅲ（源義経の能） ⑫　能の構成 Ⅳ（源義経の能） ⑬　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピー配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（能楽における中世武士の諸像）	担当者	瀬尾 菊次

講義目的、講義概要	授業計画
古典芸能「能」は、日本歴史上の出来事や伝説を題材として曲目が作られており、中世の武士（もののふ）の活躍が描かれています。 今回は、信州に伝わる鬼・奈良春日野に土着する鬼の話を取り上げ、能としてどのように作品化されているか解釈していきます。 能楽についての知識・鑑賞法も併せて解説します。 「能楽」への理解度を深めるために、春期から続いての受講も可能です。 能楽の実際を知るため、能楽堂での鑑賞を実施します。	①　能楽の紹介 ②　鬼伝説と能 ③　能「紅葉狩」を題材として能について ④　能「紅葉狩」を題材として能について ⑤　能の演技について（実演） ⑥　能「紅葉狩」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑦　能「紅葉狩」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑧　能「紅葉狩」の特殊演出 ⑨　歌舞伎「紅葉狩」Ⅰ ⑩　歌舞伎「紅葉狩」Ⅱ ⑪　鬼の能「野守」Ⅰ ⑫　鬼の能「野守」Ⅱ ⑬　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピー配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（民俗学）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
民俗とは民間に伝承されてきた生活文化であり、日本民俗学は、その歴史的変遷、もしくは、民俗を資料として日本文化の構造などを明らかにし、研究成果を現在に活かすことを目的としている学問である。 したがって、本講義では、民俗学の基礎的な理論と日本文化の多様性の把握を目的として、人間が生きていくために最も切実な問題である食の確保、すなわち、生業を基盤として、そこから設定された文化類型に沿って、ヒトとヒト・ヒトとカミ・ヒトと自然との関わりを、文献や音声・映像などの具体的資料を提示しながら講義したい。	1　ガイダンス 2　民俗学とは／日本人の民俗的世界概念 3　海上の道／稲を選んだ日本人 4　海民の生活と文化 5　稲作民の生活と文化 6　餅なし正月と雑穀・畑作文化 7　山民の生活と文化 8　山と海の交流 9　都市の民俗文化 10　学校の怪談／妖怪と幽霊 11　カミとヒト／アニミズム 12　女性と子どもと老人の民俗文化 13　授業時試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示	試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の 1/3 を欠席した者には、受験資格を与えない。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（地域文化）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
正月には神社に参拝をし、盆に寺で死者供養を行ない、クリスマスをイベント化している日本人の姿は、成立宗教をあつく信仰している人びとに奇異なものとして映じているであろう。しかし、仏教を帰化させ、さまざまな仏を「神」として信仰してきた日本人にとっては、そういった信仰のあり方はむしろアタリマエなのであり、「神」という語から想起されるイメージも一様ではない。 本講義では、そうした信仰のあり方の表象として儀礼・芸能を捉え、それらを通して日本人の信仰の在り方を把握することを目的として、文献や音声・映像などの具体的資料を用いて、日本の民間信仰を、それが伝承されている地域との関わりから把握し、検討したい。	1　ガイダンス 2　祭り・儀礼・芸能の概念と構造 3　神懸かりと巫女神楽 4　山伏神楽と修験道 5　宗教者と芸能 6　予祝儀礼①―小正月の訪問者 7　予祝儀礼②―モノマネ・モノヅクリ 8　田植え儀礼 9　災厄防除儀礼／鎮送呪術 10　収穫祭と田の神送り 11　宴会と芸能 12　特定小地域での祭り・儀礼・芸能の在り方 13　授業時試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示	試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の 1/3 を欠席した者には、受験資格を与えない。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(スペイン研究入門) 歴史と文化（Ⅲ）（スペイン研究入門）	担当者	二宮、佐藤、浦部

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰは、前半から９回の授業分、主にスペインの言語・地理・文化に関する授業を二宮が行い、後の４回を２回ずつ佐藤と浦部が担当し、近現代のスペインの歩みに関する授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、各自の専門分野にそって、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「ラテンアメリカ研究入門」と関連性・連続性が強いため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。	1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. 1492 8. フラメンコ 9. 闘牛 10. コンキスタ：スペインの「新大陸」支配 11. 18、19 世紀のスペイン 12. スペイン内戦とフランコ体制 13. スペインの民主化とヨーロッパ統合
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１(ラテンアメリカ研究入門) 歴史と文化（Ⅲ）（ラテンアメリカ研究入門）	担当者	佐藤・浦部

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないスペイン語圏を中心としたラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 前半の６回は佐藤が担当し、歴史と文化を中心にして論じ、後半の６回は浦部が担当して、地理と現代ラテンアメリカの課題を論じる。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を（再）確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。	佐藤担当 1　導入：「ラテンアメリカ」とは：そのイメージを問う 2　ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況 3　「アメリカの発明」：先コロンブス期のアメリカ大陸と征服 4　「ラテンアメリカ」の誕生と欧米列強 5　現代のラテンアメリカ文化 6　米国のラテンアメリカ系住民 浦部担当 7　ラテンアメリカの地理と生活１：アンデス 8　ラテンアメリカの地理と生活２：アマゾン 9　ラテンアメリカの地理と生活３：アタカマ砂漠 10　現代ラテンアメリカの課題１：貧困と社会格差 11　現代ラテンアメリカの課題２：暴力と麻薬 12　現代ラテンアメリカの課題２：人権と民主主義 佐藤担当 13　複数形のアメリカ：「アメリカス」へ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書 その他、授業中に指示する	期末テスト。小レポートの提出をもとめることがある。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）(英語圏の小説 a)	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
ジェーン・オースティンは 19 世紀初期のイギリスの小説家で、欧米では広く親しまれている人です。彼女の作品は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説は 19 世紀 20 世紀のイギリス小説の主流で、その中心的位置を占めているのがオースティンといってよいでしょう。 講義で扱う作品は『高慢と偏見』『説得』を予定しています。 チャールズ・ディケンズは 19 世紀のイギリスで最も著名な文人であるばかりか、イギリス文学史を通してシェークスピアについで世界中にその名を知られている作家で、『クリスマス・キャロル』は年代を問わず親しまれてきました。講義では『デイヴィッド・コパフィールド』と『二都物語』を予定しています。 人間とか人間性に興味がある人、語学力向上に熱意を傾ける人を望みます。 受講生への要望は、講義で扱う作家のものを、どの作品でもよいから、あらかじめ読んでおいて欲しいことです。そうすれば、講義に対する関心と理解が深まることうけあいです。	最初の授業で、この講義の全体的な解説と説明をします。世界各地で昔から親しまれてきたとはいえ、原文はいずれも易しくはないので工夫を凝らして授業を進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
デイヴィッド・セシルのオースティンの評伝を使う予定です。 参考文献は授業中に指定します。	平常点、感想文、レポートなど

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の小説 b）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度「英語圏の文学・文化入門」を受講した人は、Virginia Woolf の *Mrs. Dalloway* (1925) という作品を覚えているかもしれない。第一次大戦のトラウマが描かれた小説である。 この講義では、ウルフのもうひとつの代表作、*To the Lighthouse* (1927) を精読する。ウルフが家族を回想した作品である。しかし回想したと言っても、そこはウルフなので、個人的な思い出をただつづっただけではない。時代と交錯させ、口には出されなかった「意識の流れ」を浮き彫りにし、英文学の中の詩や演劇の言葉をちりばめて、抒情的でとてもおいしい作品に仕上げている。 ウルフはなかなか一人では読みこなせない本格派だが、だからこそみんなで挑戦してみたい。この講義を通じて、受講者が他の英語圏の小説も、より幅広く読み進めるきっかけになればと願っている。 講義概要 翻訳と英語の原文を突き合わせつつ読み進める。担当者（片山）は、読みどころを理解するための問いを課題にするので、それを受けてテキストを読んでくること。	１．ヴァージニア・ウルフとは ２～５：*To the Lighthouse*, Part One ２．なぜ天気の話が続くのか ３．どんな家族関係なのか ４．どんな客人たちなのか ５．時代背景 ６～８：*To the Lighthouse*, Part Two ６．描写のどこがポイントなのか ７．ウルフの戦争の書き方はどうか ８．ウルフの階級の書き方は？ ９～１１：*To the Lighthouse*, Part Three ９．生き残った家族の人々はどうするか １０．生き残った客人たちは？ １１．どんな絵が残るか １２．小説の中の「母殺し」「父殺し」 １３．まとめ（英語圏の小説のその後）
テキスト、参考文献	**評価方法**
ウルフ『灯台へ』（岩波文庫） Woolf, *To the Lighthouse* （ペンギン版） ＊ DUO で各自購入すること。	毎回の予習課題、コメントカード、レポート ＊　３回を超えて欠席した場合、原則として評価の対象としない。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（アラブ文化・芸術 a）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム教（イスラーム）は西暦７世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約１３億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、 （1）テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読 （2）イスラム世界のビデオ紹介 の２部構成とする。 なお、テキストはコピーを配布する。	1　セム族と唯一神教 2　預言者モーゼの「十戒」と律法主義 3　偶像崇拝の禁止とキリスト教 4　「最後の預言者」ムハンマド 5　信仰告白、「アッラー以外に神なし。ムハンマドはアッラーの使徒である」 6　アッラーの啓示、メッカ啓示とメディナ啓示 7　預言者ムハンマドのメッカからメディナへのヒジュラ（聖遷）とイスラム暦 8　ウンマ（信仰共同体）とスンナ（預言者の聖行） 9　カリフ（預言者ムハンマドの後継者）の選出とイスラム的民主主義シューラー（相談・協議） 10 第二代正統カリフ、ウマルの称号「信徒の司令官」 11 第四代正統カリフ、アリーとシーア派の誕生 12 シーア派教義「アリーはアッラーのワリー（友）」 13 預言者ムハンマドの孫フセインの「カルバラ殉教」
参考文献	**評価方法**
小杉泰著『イスラームとは何か』（講談社現代新書、1994 年）	出席率と試験による

０７年度以前	歴史と文化（Ⅲ）（アラブ文化・芸術 b）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム教（イスラーム）は西暦７世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約１３億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、 （1）テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読 （2）イスラム世界のビデオ紹介 の２部構成とする。 なお、テキストはコピーを配布する。	1　シャリーア（イスラム法）は「水場に至る道」 2　四法源、コーランとハディース（預言者の言行録） 3　イジュマー（合意）とキヤース（類推） 4　「五行」（信仰告白、礼拝、喜捨、ラマダン月の断食、メッカ巡礼） 5　義務の二範疇、「集団的義務」とメッカ巡礼 6　「個人的義務」と「防衛的ジハード」 7　伝統的世界観、「イスラムの家」と「戦争の家」 8　イスラム教の“聖職者”ウラマーとファキーフ（法学者） 9　ホメイニ師のベラヤティ・ファギ（ファキーフによる支配）論 10　四法学派とワッハーブ派 11　律法主義とスーフィズム（イスラム神秘主義） 12　イブン・アラビーの「存在一性論」 13　トルコの神秘主義教団、ナクシバンディーヤ
参考文献	**評価方法**
小杉泰著『イスラームとは何か』（講談社現代新書、1994 年）	出席率と試験による

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（文化史入門） 歴史と文化（Ⅲ）（文化史入門）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 　本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化（その１）：動力とエネルギー源 　奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化（その２）：水の供給・処理と農業・牧畜 　水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段（その１）：船と海上輸送 　古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段（その２）：陸上輸送 　古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 　アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 　ギリシア文化の普遍性 ８　宗教と祭祀：神々と人間 　ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ９　性愛の諸相（男と女）（その１）：同性愛 １０　性愛の諸相（男と女）（その２）：異性愛 １１　競技的（アゴン）人間類型 　理想的人間とは？ １２　クリエンテーラ・パトロネジ関係 　「シンポジウム」と親分・子分関係 １３　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（グローバル化とイスラムー公と私） 歴史と文化（Ⅲ）（グローバル化とイスラムー公と私）	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：イスラム社会を一例として学ぶことにより異文化理解を深め、「公共性」という概念を視野に入れて国際的問題を理解し、行動できるようにする。 講義概要：本講義では、グローバル化が進む国際社会にあって、１３億の人口を有するイスラム社会の特色と発展過程を考察する。そのことを踏まえ、日本社会とイスラム社会との比較にまで視野を広げて、伝統文化と国際秩序、「公」と「私」について考えていきたい。	１　異文化接触と文化変容 ２　一神教世界の人々 ３　イスラム社会の誕生 ４　イスラムの生活様式 ５　イスラム社会の発展 ６　西洋の衝撃と中東 ７　イスラムと国民国家 ８　イスラムと経済 ９　イスラムと民主主義 １０　イスラムと女性社会 １１　イスラムと公共性 １２　現代イスラム社会と国際社会 １３　日本社会とイスラム社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：『イスラム世界はなぜ没落したか？』日本評論社、『イスラム世界の経済史』NTT 出版、『公と私の思想史』東京大学出版会	出席とレポートを４：６の割合で評価する。 なお、出席確認として４００字程度の短文を提出させる。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（移民・交易に見る文化変容） 歴史と文化（Ⅲ）（移民・交易に見る文化変容）	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：「交易離散共同体」や「地域コミュニティー」の形成過程について学ぶことを通し、自己のアイデンティティー形成と文化・社会の関係について考察を深める機会としてほしい。 講義概要：本講義では、ヨーロッパ覇権以前の世界とその後の近代欧米社会の交易や移民などの移動を通し、生じる文化変容について考察し、それがどのように現代的問題に関わっているのかを考えたい。	１　移動と文化変容 ２　ヨーロッパ覇権以前の交易 ３　モンゴルと北方の道と交易 ４　インド亜大陸と交易 ５　シンドバッドの道と交易 ６　移民過程とエスニック・マイノリティ ７　1945 年以前の移民 ８　大戦間期と移民 ９　高度成長期の移民 １０　世界経済再編期と移民 １１　グローバル化と移民 １２　グローバル化と都市 １３　グローバル化とリスク社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：『国際移民の時代』名古屋大学出版会、『ヨーロッパ覇権以前（上）（下)』岩波書店	出席とレポートを４：６の割合で評価する。 なお、出席確認として４００字程度の短文を提出させる。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化１（異文化間コミュニケーションb) 歴史と文化（Ⅲ）（異人種共生の試練〈アメリカ編〉）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間に生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われた。 前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。 後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。	☆　モザイク国家アメリカ ☆　民族混合のジレンマ ☆　奴隷制下の人種共存 ☆　黒人の地位向上運動 ☆　共存のパラダイム転換 ☆　公民権運動の共生理念 ☆　急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶 ☆　ロス暴動に見る共生の現実 ☆　多民族混合社会ハワイ ☆　ハワイの経験－多民族の取り込み－ ☆　日本人の移民 ☆　日系、アジア人の同化体験 ☆　異人種間共生の手がかり

テキスト、参考文献	評価方法
『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコムX』上坂昇　講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店	期末試験と小テスト、自由課題

07 年度以前	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)	担当者	山本 英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、５０万人もの移民を受け入れているアメリカ。現在、その総数は3.５００万にも達し、総人口の１２％も占めている。白人の割合は減る一方で、２０５０年には5割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れた同国は多民族社会へと急速に変貌していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、叫ばれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながら辿り、この国の文化の特徴を明らかにする。	１．国家建設とワスプ主義 ２．工業化と新移民の流入 ３．多民族社会の問題 ４．異文化と差別 ５．メルティングポット論 ６．冷戦 ７．ベトナム戦争 ８．カウンターカルチャー ９． カウンターカルチャー １０．映像 １１．文化多元論 １２．アファーマティブアクション １３．多文化主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカナイゼーション』津田幸男、研究社 『多文化主義のアメリカ』油井大三郎　東京大学出版	学期末試験と小テスト、自由課題

07 年度以前	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、多国間の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響力に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない相手国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。	☆　銃社会アメリカ ☆　西部開拓と先住文化の破壊 ☆　パワー・ポリティクスと近隣外交 ☆　ベトナム戦争 ☆　ベトナム戦争 ☆　ベトナム戦争 ☆　近年の事例　イラク ☆　ポップカルチャー　－善なるアメリカの演出－ ☆　ディズニー、ハリウッド ☆　アメリカンポップス ☆　映像 ☆　味覚の輸出　マクドナルド的なるものとは ☆　議論　どうアメリカに対応するか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバリゼーションの文化政治』吉見俊哉　平凡社 『ソフト・パワー』ジョセフ・ナイ　日本経済新聞社 『ベトナム戦記』開高健　朝日新聞社 『アメリカ大統領と戦争』A・シュレジンガー, Jr.　岩波書店	学期末テストと小テスト、自由課題

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（東アジア国際関係の史的展開） 現代社会（Ⅲ）（東アジア国際関係の史的展開）	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。 講義では、第2 次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。	1 東アジア国際関係の特質 2 冷戦の起源と東アジア 3 中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦 4 中ソ対立とベトナム戦争 5 米中和解の衝撃 6 米ソ・デタント：進展する核軍備管理 7 新冷戦：日米中戦略提携の時代 8 民主化の潮流とソ連体制の崩壊 9 ポスト冷戦の世界 10 東アジア地域の台頭 11 アメリカ単独覇権の時代 12　「9.11」以後の世界 13まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくに指定しない	筆記試験（論述）

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（東アジア国際関係の現状と展望） 現代社会（Ⅲ）（東アジア国際関係の現状と展望）	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中ロという大国の利害が交錯し、かつASEAN という地域協力体やAPEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。	1 21 世紀の超大国・中国：建国50 年の紆余曲折 2 21 世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷 3 21 世紀の超大国・中国：将来への模索 4 台湾：蒋介石・蒋経国の権威主義時代 5 台湾：李登輝の民主化路線 6 台湾：陳水扁と米中台関係 7 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展 8 韓国：強権政治から民主体制への転換 9 北朝鮮の核問題と朝鮮半島を取り巻く国際関係 10 東南アジア世界の統合：ASEANとAPEC 11東南アジア世界の統合：東アジア共同体の模索 12総括：現代東アジア国際関係の課題 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくに指定しない	筆記試験（論述）

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（地誌学１）（ヨーロッパ地域論） 現代社会（Ⅲ）（ヨーロッパ地域論）	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする．まず，ヨーロッパ地誌やＥＵに関する基礎的な知識を習得したうえで，統合がヨーロッパの地域に与える影響や，ＥＵと各地域との関係について考察していく．	1.　ヨーロッパとは何か 2.　EU の歴史(1) 3.　EU の歴史(2) 4.　EU の歴史(3) 5.　EU の制度 6.　EU の政策 7.　EU の東方拡大(1) 8.　EU の東方拡大(2) 9.　EU の東方拡大(3) 10.　EU と地域(1) 11.　EU と地域(2) 12.　EU と地域(3) 13.　ヨーロッパにおける「地域」
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない． 授業中に資料を配布する．	レポートもしくは試験により評価．

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（地誌学２）（ドイツ地域論） 現代社会（Ⅲ）（ドイツ地域論）	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，ドイツ再統一後の地域構造の変化を把握することを目的とする．特に，旧東ドイツ地域を対象とし，その変化と諸問題を地域政策（空間整備政策）および都市計画という視点から分析していく．	1.　ドイツ再統一とヨーロッパ 2.　ドイツの地域構造の変化(1) 3.　ドイツの地域構造の変化(2) 4.　ドイツの地域政策 5.　ドイツの都市政策(1) 6.　ドイツの都市政策(2) 7.　冷戦下の西ベルリン・東ベルリン 8.　再統一後のベルリンの都市構造(1) 9.　再統一後のベルリンの都市構造(2) 10.　再統一後のベルリンの都市構造(3) 11.　地方都市の変化(1) 12.　地方都市の変化(2) 13.　地方都市の変化(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない． 授業中に資料を配布する．	レポートもしくは試験により評価．

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（民法１） 現代社会（Ⅲ）（民法 a）	担当者	石井　保雄

講義目的、講義概要	授業計画
最近では、「法律相談」を題材にしたテレビのヴァライティー番組もいくつかあり、法ないしは法律について、以前よりも、身近なものと感じる人も増えているかと思う。この講義では、法律学のなかでの「基本のキ」（少し古いか！）ともいえる民法の概略を説明したい。 民法は、私たちの日常生活のなかで、もっとも身近な法律である。しかし民法は全体で千条を超える条文数のある大きな法律で、関連法規も含めれば膨大なものとなる。またつい最近までカタカナ混じりの文語体の漢字が多用され、分かりにくい法律であった。ただしこれについては、平成１６年からひらがな口語体になり、随分改善された。 この講義では、民法について、その基本的な考え方を説明しようと考えている。具体的には、民法の別名でもある「商品交換法」「財産取引法」という側面を中心にして、その基本的な枠組み・処理の発想がどのようなものとなっているのかを説明し、また私たちが生きる現代社会では、どのようなことが具体的に問題となっているのか扱う。受講にあたっては、小型のものでいいから、「六法全書」を持参してもらいたい。	《契約の成り立ちとその役割――財産取引社会における法の役割と機能について考える――》 １　私たちの生活と民法、その仕組み ２　市民社会＝財産取引社会における民法の役割 ３　法は「人間」をどのように捉えているのか？ ４　当事者の意思に問題があって契約が有効にならないとき―「意思の欠缺（ケンケツ）」と「瑕疵（カシ）ある意思表示」とは何か？ ５　当事者の「意思」に問題があり、契約が有効でない場合の後始末――「無効」と「取消」―― ６　本人の活動を拡大するためのシステム―代理制度 ７　法律関係を時間的に調整する制度―「時効」「除斥期間」とは何か？ ８　「時効」と「除斥期間」（続き） ９　契約関係の重複と物の引渡し―債権と物権の意味 １０　契約が成立するとどうなる？―不動産取得と第三者への権利主張 １１　契約内容が不十分にしか実現されないとき―債務不履行とその解決 １２　契約の目的物のキズがあった場合の売り主の責任―瑕疵担保責任 １３　危険負担
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門〔新版〕』（信山社・２００６）	基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただし途中２,３回レポートの提出を求めて、それらを最終評価に際し考慮することになるかと思う。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（民法２） 現代社会（Ⅲ）（民法 b）	担当者	石井　保雄

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、春学期に続いて、法律学における基本科目であり、私たちの日常生活においてもっとも身近な法律である民法について、その基本的な考え方について説明したいと思う。また私たちが生きる現代社会のなかの日常、いったいどのような問題が提起され、民法がそれらをいかに解決しているのかを具体的に検討してみたい。 まず最初に「事務管理」「不当利得」にていてふれ、そのあとに財産取引法としての民法が人びとの、自由な商品交換について、いわば、その裏から支えている側面、すなわち不法行為法について触れる。それから民法のもつ、もう一つの側面である、「家族法」、つまり家庭内における夫婦や親子関係をめぐって提起される問題への法的対処についてとりあげる。なお、このような分野も、それが決して商品交換法としての民法と無関係でないことも、あわせて明らかにしたい。 できれば春学期に続いて受講することが望ましい。ただし秋学期のみの受講者にとっても、興味・関心のもてるものになるよう努めたいとは思う。なお受講に際しては、「六法全書」必携であることは、春学期と同じである。	１　民法とは何か―財産法と家族法 《契約だけで解決できない問題》 ２　契約によらず生じた富は、一体だれの手に？（１）「事務管理」 ３契約によらず生じた富は、一体だれの手に？（２）「不当利得」 ４　他人の権利・利益を侵す行為の責任―「不法行為」 ５　同上（続き） 《契約から家族へ》 ６　夫婦関係の形成―「婚姻」と結婚 ７　夫婦関係の解消―「離婚」 ８　婚姻以外の共同生活のあり方と法 ９　先端医療時代の家族―変わる「親子」関係 １０　家族のなかの「弱者」―子供を育てる １１　保護の必要な大人―高齢者と民法 １２　家族関係と財産関係の交錯―相続 １３　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門』（信山社・２００４）	基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただし２,３回レポートの提出を求め、それらについても最終評価に際し、参考とするつもりである。

０７年度以前	現代社会（Ⅲ）（教育法 a）	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利義務関係の視点から整理して、教育問題の分析･解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされるいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判はむしろ増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害を具体的な裁判事例をとして法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。	1　学校における子どもの人権侵害――問題化の経緯と分類 2　体罰裁判とその特徴――体罰裁判の判例動向 3　体罰裁判の新しい展開――障害児体罰･スポーツ体罰 4　いじめと裁判――中野富士見中事件図いわき小川中事件 5　いじめ自殺と予見可能性――津久井町立中野中いじめ自殺事件 6　いじめ調査・報告義務訴訟 7　丸刈り校則裁判 8　修徳高校パーマ校則裁判 9　都立高校原級留置き訴訟 10　信教の自由と学校教育――エホバの証人退学事件 11　内申書･指導要録開示訴訟 12　教育情報公開訴訟 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。	試験

０７年度以前	現代社会（Ⅲ）（教育法 b）	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的問題状況の把握(教育法ａ)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、教育法の基礎概念である教育人権の問題状況と、教育と国家との関係の原理的なあり方と現実の緊張関係を分析します。	1 戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2 教育と国家――学テ裁判 3 教科書裁判（１） 4 教科書裁判（２） 5 障害児の学習権――特殊学級入級処分取消訴訟 6 子どもの市民的自由――内申書裁判 7 親の教育権――日曜日訴訟 8 親の教育権――七尾養護学校事件 9 教師の教育の自由――伝習館高校事件 10 教師の教育の自由と日の丸･君が代 11 教師の良心の自由 12 教育基本法改正問題 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください	試験

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（異文化間コミュニケーションa） 現代社会（Ⅲ）（異文化間コミュニケーション）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。	１．オリエンテーション ２．異-文化と自-文化 ——あなたにとって「異文化」とは？ ３．異文化間コミュニケーション研究の歴史 ４．コミュニケーションの構造 ——コンテクストとステレオタイプ ５．異文化へのまなざし（1）「日本」の表象 ６．異文化へのまなざし（2）自文化中心主義 ７．内なる異文化（1） ８．内なる異文化（2） ９．内なる異文化（3） １０．　マルチカルチュラリズムと異文化共生（1） ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ １１．マルチカルチュラリズムと異文化共生（2） ——多文化教育の視点 １２．相互行為分析と異文化研究 ——異-文化と自-文化のあいだ １３．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社	出席とレポート（履修者の状況によってはテストになる場合もある）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（社会科学概論１） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 a）	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
「社会科学」は法学・政治学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 春学期は、テキストとして吉岡友治氏の『世の中がわかる「○○主義」の基礎知識』を用います。同氏は、ロースクール向けの論文指導などをおこなっている、受験界のカリスマ的指導者です。本書では、民主主義をはじめとして、市場原理主義、保守主義、合理主義、実存主義、平和主義、ロマン主義、拝金主義、資本主義、帝国主義、悲観主義、ご都合主義、等々、実に多様な「○○主義」が論じられています。このテキストを用いて、「○○主義」につき、社会科学的に検証してみましょう。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。	1．いったい、どれが一番「自由」な考え方なのだろうか？ 2．正しい政治はどうしたらできるのか？ 3．よい行動をするための原理はなんだろう？ 4．判断を間違えないためには何に頼ればいいか？ 5．私の心はいったいどう働いているのか？ 6．自分と他人の区別はどうやってつけるのか？ 7．いったいどうすれば、私は個性的になれるのか？ 8．貧しきことは美しきかな？ 9．私はどうやって国を愛するのか？ 10. いったい私は何をどう愛したらいいのか？ 11. どのように人は人を支配・差別するのか？ 12. 生きていくためには、何を頼りにすればいいのか？ 13. 組織の中の困った人々に、どう対処するか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉岡友治『世の中がわかる「○○主義」の基礎知識』ＰＨＰ新書、2007 年 ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ返却したのち、再提出の機会を設けます。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（社会科学概論２） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 b）	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
「社会科学」は法学・政治学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 秋学期は、テキストとして大屋雅裕氏の『自由とは何か』を用います。同氏は、言語哲学や公共性の理論に取り組んでいる新進気鋭の法哲学者です。本書では、「自由な個人」の現代的在りようを検証するに際して、「規則」「監視」「責任」の観点から、それぞれに深い哲学的考察をおこなっています。今や「個人」は必ずしも「自由」なのではなく、監視社会の中でむしろ不自由な存在になっている、ということでしょう。自由であるためには、相応の条件をクリアーしながら生きねばならないのかもしれません。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。	1．「個人」の自己決定と法・政治 2．自由への障害 3．自由への障害（続） 4．二つの自由――バーリンの自由論 5．交錯する自由 6．見ることの権力 7．強化される監視 8．監視と統計と先取り 9．監視・配慮・権力 10. 「配慮」の意味／衝突する人権？ 11. 事前の規制・事後の規制／規制手段とその特質 12. 刑法における責任と自由／自己決定のメカニズム 13. 責任のための闘争／主体と責任
テキスト、参考文献	**評価方法**
大屋雅裕『自由とは何か――監視社会と「個人」の消滅――』ちくま新書、2007 年 ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ返却したのち、再提出の機会を設けます。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（歴史の中のメディア） 現代社会（Ⅲ）（歴史の中のメディア）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
新聞、雑誌からテレビ、ラジオ、インターネットや携帯電話を通した情報など、私たちの生活はメディアを介した情報によって成り立っている部分がきわめて多い。歴史的に見ればこのメディアを通した情報は古くは人の「声」による伝達から活字印刷の発明による紙媒体（書籍、新聞、雑誌）の発達、通信技術の進化、写真と映画、ラジオとテレビという音声・映像によるリアルタイムの伝達、そしてインターネットによる個人の電子的な結びつきと、情報技術の発展に伴う著しい発展を遂げてきた。 この「歴史のなかのメディア」ではこうしたメディアの歴史的な発展の経緯を、さまざまな事例を通して学ぶとともに、この発展の過程で民主主義と市場経済という仕組みがどのように働きにかかわってきたのかを考えることが狙いである。 国家や社会という集団の中で個人がどのような考えを持ち、その利益を相互に守ってゆくためにどのような情報の流れが必要なのか。メディアの巨大化と個別化という相反する流れを通してその問題点を考える。	１　はじめに ２　グーテンベルクの革命 ３　ピュリツァーと新聞戦争 ４　ロイターの軌跡 ５　視覚の二〇世紀 ６　プロパガンダとメディア ７　戦争・国益・メディア ８　グローバリゼーションと情報 ９　メディア複合体 １０　テレビとネット １１　「素材は王」か １２　民主主義とメディア １３　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。	定期試験の成績に平常の授業内で課すリポートの実績を勘案して評価する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（メディアと現代社会） 現代社会（Ⅲ）（メディアと現代社会）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
マスメディアが社会にかかわる領域が広がるとともに、政治権力とのかかわりや「世論」の形成、個人の利益やプライバシーなどとの関係で摩擦が広がっている。また、メディアが巨大化して収益性を求める傾向が強まるとともに、民主主義社会のなかでメディアが担ってきた公共的な機能がさまざまなかたちで揺らいでいる。 「メディアと現代社会」ではこうしたメディアを取り巻く現代社会の課題を具体的な事例を通して考えながら、これからのメディアと個人、あるいは社会や国家との関係を考えたい。 メディアの公共的基盤を支える倫理として形成されてきたジャーナリズムに対して、民主主義社会は個人の政治的自由の代行機能を期待してきた。「知る権利」にみるメディアの権利はそうした機能の法的な基盤として理解されてきたが、こうしたメディアの公益性を支えてきた足場が問われるのはなぜか。 インターネットという新たなメディアの追い上げの下で既存のメディアに問われているものを考える。	１　はじめに ２　ジャーナリズムの誕生 ３　調査報道とキャンペーン ４　「表現の自由」と社会 ５　誤報と虚報－メディアの過ち ６　「世論」とメディア ７　情報操作はなぜ行われるのか ８　公共性とメディアの倫理 ９　放送と通信の融合 １０　情報摩擦 １１　メディア再編と市場 １２　「公共圏」とメディアの未来 １３　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。佐藤卓巳『メディア社会』（岩波新書）を参考文献とする。	定期試験の成績をに加えて、平時の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（NGO 論） 現代社会（Ⅲ）（NGO 論）	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。こうした組織は主にＮＰＯ／ＮＧＯと言われ、非営利、非政府の立場で独自の視点と発想を持って、各地での活動に取り組んでいる。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ＯＤＡ）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するＮＧＯが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）についても詳しく説明する。	①～②「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ／イラクの現状 ③～④「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ／アフガニスタンの現状 ⑤スーダンの現状とＮＧＯの取り組み ⑥ＮＧＯによる復興・開発協力の事例　（カンボジア） ⑦～⑧　対人地雷の廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶＮＧＯのﾈｯﾄﾜｰｸ ⑨パレスチナ問題を考える ⑩アフリカにおけるＨＩＶ／ＡＩＤＳの現状 ⑪政府開発援助とＮＧＯ ⑫東アジアのなかの日本と私たち ⑬ＮＧＯの組織運営と資金

テキスト、参考文献	評価方法
日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』めこん　2005 年 地雷廃絶日本ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ編『地雷と人間』岩波ブックレット 2003 年	評価方法：ﾘﾎﾟｰﾄ提出。平常授業の課題など。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（コトバと社会） 現代社会（Ⅲ）（コトバと社会・言語文化概論）	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』（国際語学社）	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（コトバと社会） 現代社会（Ⅲ）（コトバと社会・言語文化概論）	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」（作品社） 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』『生きたコトバづかい』（国際語学社）ほか	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

０７年度以前	現代社会（Ⅲ）（韓国社会各論ｂ）	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40 年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この 40 年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということを明らかにすることを目的とする。 まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。	1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 韓国の経済成長（1） 7. 韓国の経済成長（2） 8. 工業化パタンー日本モデル 9. 輸出指向型経済成長戦略 10. 成長過程の社会変容 11. 韓国の財閥 12. 開発と社会変化 13. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
服部民夫『開発の経済社会学－韓国の経済発展と社会変容―』文真堂、2005 年。大宮正史『韓国－民主化と経済発展のダイナミズムー』ちくま新書、2003 年。	出席状況と試験で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（韓国研究入門） 現代社会（Ⅲ）（韓国研究入門）	担当者	平田　由紀江

現代韓国への旅 本講座は、韓国研究のための最初の一歩である。「韓国を旅する」という設定で、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。同時に、日本から韓国へ、そして再び日本へという旅のルートを通じて、現代韓国を「まなざす」とはどういうことかについても触れていく。 履修者には、課題の提出と積極的な授業への参加が期待される。	１朝鮮半島を知ろう－旅の準備 ２韓国の若者と出会う ３韓国のインターネット事情 ４韓国大衆文化事情－Kpop の世界へ ５グローバルシティ・ソウルと「外国人」 ６韓国のなかの「日本」 ７政治から文化へ ８ソウル・オリンピック ９朝鮮半島とアメリカ 10 独裁政権と民主化の記憶 11 朝鮮戦争と南北分断へのまなざし 12「朝鮮近代史と日本」について考える 13 まとめ－再び日本へ
適宜プリントを配布する予定。	出席、中間レポートおよび期末テスト。

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（中東政治思想 a） 現代社会（Ⅲ）（中東政治思想 a）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは 1990 年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001 年９・１１テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が 2003 年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは 2006 年 10 月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義ではジャーヒリーヤ論に代表されるイスラム主義思想・戦時運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は, (1)　授業計画に基づいたイスラム主義思想・政治運動の解説 (2)　イスラム主義政治運動を中心に中東政治情勢ビデオの視聴 の 2 部構成とする。	1　（イントロダクション）セム族唯一神教の系譜 2　イスラム教多数派スンニ派とシーア派の起源 3　イスラム教の戒律シャリーア（イスラム法） 4　エジプトの過激イスラム主義組織「イスラム集団」と「ジハード団」 5　イスラムの伝統的世界論「イスラムの家」と「戦争の家」 6　ウンマ（イスラム共同体）内部のジハード論 7　ジハードの戦略論「近い敵・遠い敵」論、 8　クトゥブの革命理論、ジャーヒリーヤ論 9　過激イスラム主義組織の原型「タクフィール団」 10　過激イスラム主義勢力のサーダート前エジプト大統領暗殺（1981 年） 11　湾岸戦争（1991 年）と「新十字軍」論 12　アルジェリアの急進的タクフィール論 13　イスラム集団による外国人観光客殺戮、ルクソール事件（1997 年）
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『イスラム過激原理主義――なぜテロに走るのか』（中公新書、2001 年）	出席率と試験による

０８年度 ０７年度以前	現代社会１（中東政治思想 b） 現代社会（Ⅲ）（中東政治思想 b）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは 1990 年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001 年９・１１テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が 2003 年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは 2006 年 10 月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義ではジャーヒリーヤ論に代表されるイスラム主義思想・戦時運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は, (1) 授業計画に基づいたイスラム主義思想・政治運動の解説 (2) イスラム主義政治運動を中心に中東政治情勢ビデオの視聴 の 2 部構成とする。	1　旧ソ連のアフガニスタン侵攻（1979 年） 2　アフガニスタン戦争とアラブ・アフガンズ（イスラム義勇兵）の出現 3　「20 世紀におけるジハードの回復者」アッザーム 4　国際的テロ組織アルカーイダ（基地）の結成 5　ビンラーディンによる対米「ジハード宣言」と「世界イスラム戦線」の結成 6　タリバンの最高指導者ウマルは「信徒の司令官」 7　タリバンの「イスラム首長国（イマーラ）」樹立 8　アルカーイダの休眠細胞と９・１１テロ 9　イラク戦争とアルカーイダ第 2 世代指導者ザルカウィの登場 10　「ユーロイスラム」とロンドン同時テロ 11　ザワヒリのイラク・ジハード 4 段階戦略 12　アルカーイダ・イラク支部の擬似国家「イラク・イスラム国」樹立 13　イスラム主義運動全般の反ユダヤ主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『イスラム過激原理主義――なぜテロに走るのか』（中公新書、2001 年）	出席率と試験による

０７年度以前	現代社会（Ⅲ）（ブラジル研究）	担当者	矢澤　達宏

講義目的、講義概要	授業計画
「ブラジル」と聞いて、何を思い浮かべるであろうか？サッカー、コーヒー、サンバ、アマゾン、日系人――これらはたしかにブラジルを語るときには欠かせないキーワードではあろう。しかし、これらキーワードを挙げるとき頭のなかで描いているイメージは、それらの実際のありようとどの程度まで合致しているであろうか？　また、一般的に流通しているこうしたキーワードでは象徴されてこなかったブラジル社会の横顔には、どのようなものがあるだろうか？ ブラジルの社会や文化の様々な側面は、かねてより外部の人々の好奇心を刺激し、それに触れた多くの者たちを魅了してきた。「未来の国」、「人種の楽園」など、これまでに生み出されてきた数々のレッテルがそのことを物語っている。しかし同時に、そこに足を踏み入れ、容易ならざる社会矛盾を目の当たりにして、とまどいを覚えてきた人々もまた少なくない。理想、希望と現実とが交錯し、表裏一体をなすブラジル社会は、多くの人々にとって様々な示唆に富んだ興味深い対象であるに違いない。 この授業は、そうしたブラジルの社会・文化のなりたちと現在のありように対する理解を深めてもらうことを目的とするものである。	1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. ブラジル概観：地域的多様性を中心に 3. 「ブラジル性」をめぐる議論 4. ブラジル史①　植民地支配 5. ブラジル史②　国家建設の軌跡 6. 多人種社会①　「人種の楽園」という神話 7. 多人種社会②　多文化主義へ：黒人をめぐる状況 8. 多人種社会③　アフロ・ブラジル文化 9. 多人種社会④　先住民：保護と開発のはざまで 10. 多人種社会⑤　日本人移民：そのアイデンティティ 11. こんにちの社会問題：スラムと土地なし民の運動 12. 国民文化①　サッカー：国民的スポーツへの道 13. 国民文化②　サンバ：貧民の文化から国民文化へ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005 年）を挙げておく。	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、履修者数によっては、出席やリアクション・ペーパーなど平常点に一定の比重を置く可能性もある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前 （春）（秋）	現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	担当者	山越　徳

講義目標

1 年間の学生生活を踏まえて、人間形成においてどのような成長を遂げたか、何を学んだか、チャレンジして達成できたこと何かなどを再確認させる。2 年次の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。

講義概要

選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義では様々な業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に応えられるようにする。なお講師の都合により、授業計画の順序が変更される場合があることを留意されたい。

受講生への要望

外部の方の話を聞くことを第一とするため、とにかく出席すること。講義内容の更なる充実を図るためと講師への還元のため、毎回の感想をレポートすること。

評価方法

出席、レポート（期末）

テキスト、参考文献

必要な資料は授業で配布

授業計画

（春）
1.さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
2.産業の構造変化と労働市場の変貌
3.経済社会の変化と人事制度
4.職場から見た航空業界の仕事
5.職場から見た公務員の仕事
6.社会が求める人材とは（学生時代にやっておくこと）
7.職場から見た旅行業の仕事
8.職場と女性
9.職場から見たマスコミの仕事
10.職場から見た金融･保険業の仕事
11.職場から見た運輸業の仕事
12.キャンパスライフと仕事（内定者の体験談）

（秋）
1.さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
2.現場から見た百貨店の仕事
3.経済社会の変化と人事制度
4.産業の構造変化と労働市場の変貌
5.職場から見たアパレル業の仕事
6.職場から見た福祉･医療機関の仕事
7.職場から見た情報産業の仕事
8.ナイスハートなプロフェショナルになるためのキャリア･マネジメント
9.職場から見たホテル業の仕事
10.社会が求める人材とは（学生時代にやっておくこと）
11.職場から見た食品関連企業の仕事
12.キャンパスライフと仕事（内定者の体験談）

上記授業計画は講師の都合により順序やテーマも変更することがある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	自然・環境・人間（Ⅲ）（スポーツコーチ学ｂ）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、大きく揺れ動く社会全般の変化に直面している現代社会では現実に起こっている変動にどう対応していくのかの重要性について考えていきたい。 このことはスポーツの世界においても然りである。スポーツの大衆化、国際化が進展し、スポーツが政治、経済、社会、文化、さらには我々の生活のあらゆる側面に深くかかわっている。スポーツは個人のレクリエーションとしての楽しみ、健康の維持増進、学校体育の一活動領域、地域共同体の行事として政治経済の動向にも大きな影響を与えている。 スポーツは、個人または集団が、相手と力や技能を競ったり、自然の障害を克服したりすることを楽しむ活動である。スポーツの場は、人間の最高能力の発揮にかかわるものであり、その心理的な解明は重要である。 現代社会におけるスポーツを的確に分析し、スポーツの意義や諸問題についての理解を深めていきたい。	１．現代社会とスポーツ　現代社会におけるスポーツの意義 ２．現代社会とスポーツ　現代スポーツの課題と方向 ３．少子高齢社会とスポーツ　少子社会とスポーツ ４．少子高齢社会とスポーツ　高齢社会とスポーツ ５．商業主義とスポーツ　スポーツには金がかかる ６．商業主義とスポーツ　企業のスポーツへの進出 ７．スポーツの社会病理　ドーピング ８．スポーツの社会病理　スポーツと環境問題 ９．スポーツ適正とは １０．スポーツ技術の基礎　身体運動のイメージ １１．スポーツ技術の基礎　スポーツ技術の練習・指導法 １２．チームの心理　スポーツとチーム １３．チームの心理　チームの力学

テキスト、参考文献	評価方法
池田勝・守能信次編『スポーツの社会学』杏林書院 松田岩男他編『スポーツと競技の心理』大修館書店	出席回数、授業への参加態度、提出物の内容などにより決定する。

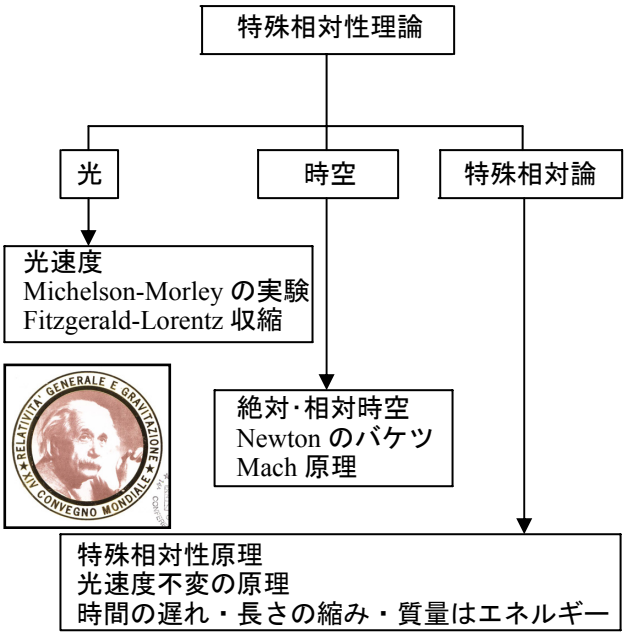
０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間１（地球環境の変化とその要因） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球環境の変化とその要因）	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ ３　地球環境の歴史 ４　地球環境の構造等：地球という惑星について ５　地球環境と地球システム ６　地球環境と資源（I）：資源の特性 ７　地球環境と資源（II）：エネルギー ８　地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは ９　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １０　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １１　環境と共生：人間活動・物質循環との関わり １２　地球環境問題概論 １３　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

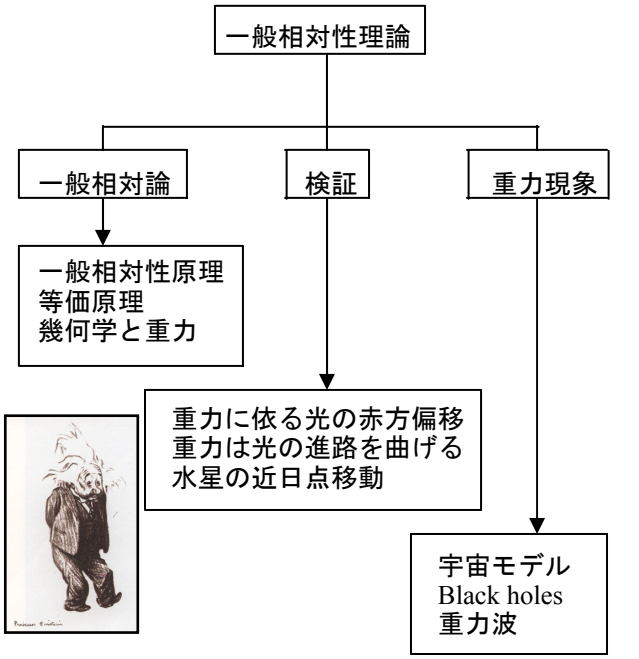
０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間１（地球環境問題と環境保全） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球環境問題と環境保全）	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a) ３　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b) ４　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a) ５　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b) ６　地球環境問題各論（II）：酸性雨 ７　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 ８　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 ９　地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少 １０　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少、開発途上国等の環境（公害）問題など １１　地球環境の保全（I）：環境と開発 １２　地球環境の保全（II）：文化・経済・社会等の今後のあり方など １３　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

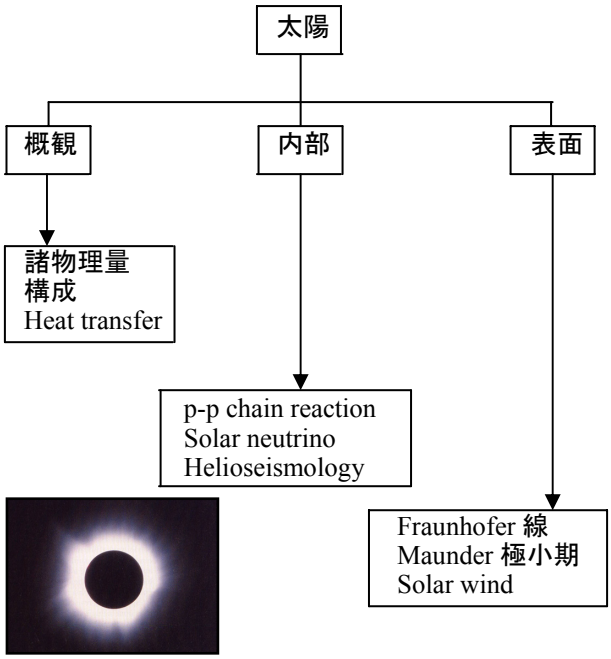
０８年度 ０７年度以前	**自然･環境・人間１（宇宙論 a）** **自然・環境・人間（Ⅲ）（宇宙論 a）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
✡『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ✡ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた**光**の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。また Einstein が、**時**間・**空**間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ✡ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った**発想の転換**、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。 ✡ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ✡ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキスト）･（参考文献）	評価方法
✡（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所）	✡ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

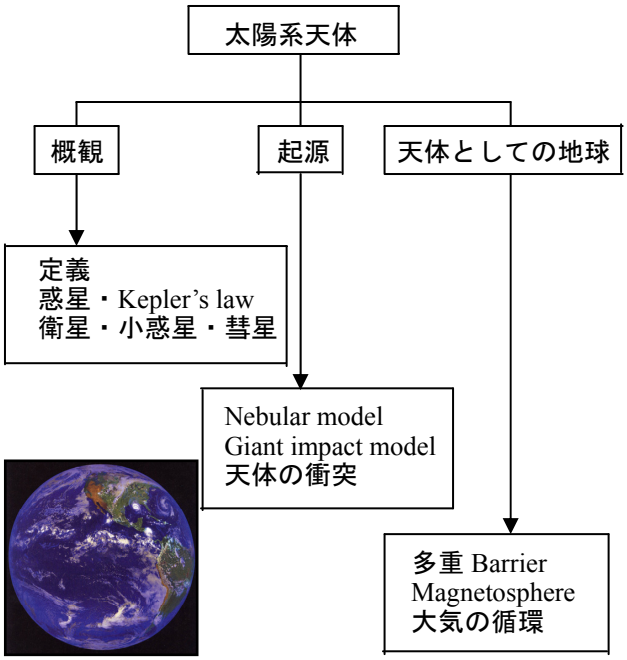
０８年度 ０７年度以前	**自然･環境・人間１（宇宙論 b）** **自然・環境・人間（Ⅲ）（宇宙論 b）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
☯『宇宙論 b』では上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。 ☯“一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で**検証**され、**重力**をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題（Dark energy など）も交えながら学びます。 ☯ 発想を転換して得られた独自の考えは、**用心深く実践**する必要があります。（相対性）理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、責任を持って実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。 ☯ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☯ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキス）･（参考文献）	評価方法
☯（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所）	☯ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

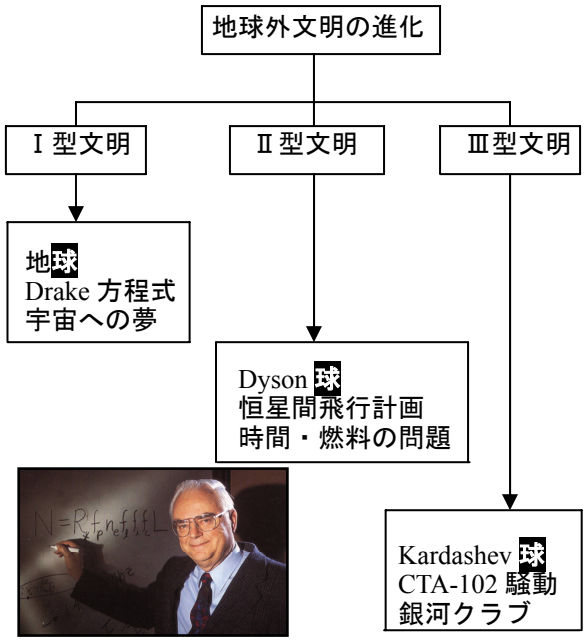
０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間１（天文学 a）** **自然・環境・人間（Ⅲ）（太陽系天文学 a）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
✿ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生（？）・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の**起源**を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ✿『天文学 a』（太陽系）では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 **The Sun** を天文学の立場から学びます。What is the Sun? ✿ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。 ✿ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ✿ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
✿（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善）	✿ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

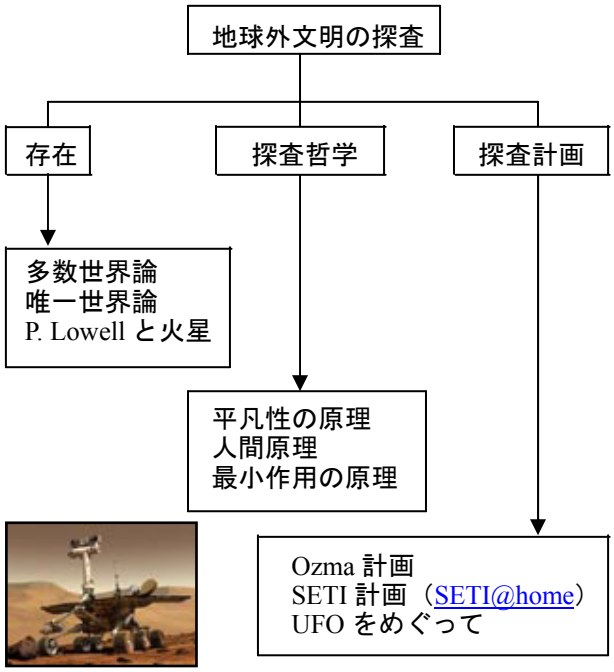
０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間１（天文学 b）** **自然・環境・人間（Ⅲ）（太陽系天文学 b）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
✷ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう？地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。 ✷『天文学 b』（太陽系）では、『天文学 a』の知識を前提に **The Solar system**（除・太陽）を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。 The Solar system = The Sun's family ✷ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。 ✷ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ✷ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
✷（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善）	✷ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間 1　（地球外文明論 a）** **自然・環境・人間（Ⅲ）（地球外文明論 a）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
✍『地球外文明論 a』では、現在の地球文明を基点に「地球外文明の進化」を学びます。 ✍ 我々人類は、宇宙進化を司る“宇宙方程式”の現 時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間･空間発展を辿れば、**文明**の進化を考察出来る筈です。ただ、宇宙方程式の完成には、自然の探求方法を「自然科学」から「自然学」へと複雑化する必要があります。 ✍ 人類が今行う進化への営為が、この**時間･空間発展に沿ったものか**を、主体的に勉強して得た知識をもとに模索し、「進化への自由で大きな夢」を各自が抱くきっかけにして下さい。 ✍ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ✍ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキスト）･（参考文献）	評価方法
✍（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『地球外文明の思想史』横尾 広光　著・恒星社厚生閣）	✍ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

０８年度 ０７年度以前	**自然・環境・人間 1　（地球外文明論 b）** **自然・環境・人間（Ⅲ）（地球外文明論 b）**	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
♂『地球外文明論 b』では、『地球外文明論 a』の知識を前提に「地球外文明の探査」を学びます。 ♂ 多数世界論の立場から地球外文明の**存在**を信じ、我々を探査に駆り立てる原理を通して、地球外文明の**探査哲学**を確立し、また**探査計画**を立てるに当たって共通する自然の本質を考えます。 ♂ 地球外文明の探査･発見（への努力）は、我々**人類の存在意義･進化の方向に指針**を与えてくれると思います。主体的に勉強して得た知識をもとに自然学への更なる広がりを模索し、「ETI への夢」を自由に大きく膨らませながら、“Are we alone?”の問い掛けを続けて下さい。 ♂ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ♂ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
（テキスト）･（参考文献）	評価方法
♂（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『宇宙に知的生命体は存在するのか』佐藤 勝彦 編著・ウェッジ）	♂ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

０７年度以前	ことばと思想（Ⅳ）（写本を読む）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本の古典、あるいは近代になっても多量に残された生活に関わる文書等、筆墨で記された文献（版本を含む）を読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を読み解く力）を、写本類を読むことで養う。 具体的には、変体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近世期に記された文芸（物語・和歌類）・地方文書・実用書（版本）等の各ジャンルから様々な様態を示すもののうち典型的な例を影印で示して読解の指導と作業を行う。 さらに、基礎力を養った後に架蔵の写本類から比較的分量の少ないものを影印で与えて翻刻を課する。余裕のあるものには毛筆での書写も課する。 全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	〈各回のテーマ〉 1　オリエンテーション・導入 2　概説（日本の筆写・出版の歴史） 3　変体仮名演習① 4　変体仮名演習② 5　変体仮名演習③ 6　変体仮名演習④ 7　和歌を読む① 8　和歌を読む② 9　物語を読む① 10　物語を読む② 11　文書を読む① 12　文書を読む② 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『古文書検定入門編』柏書房（税別 1,200 円） ISBN4-7601-2799-2 **参考図書**『宮内庁書陵部書庫渉猟―書写と装訂―』おうふう（税別 3800 円）ISBN4-273-03396-8,	数回の提出物、および学期末試験の成績による。

０７年度以前	ことばと思想（Ⅳ）（碑文を読む）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・日本漢文・経文・梵字等）を養い、解釈と理解の道筋を示して身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高める。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を影印・拓本・写真などで示して読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い報告することを課する。 変体仮名の初歩等から教えることはしないので、ことばと思想（Ⅳ）（写本を読む）をすでに履修したもの、もしくは変体仮名を読めることが履修の最低条件である。 全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	〈各回のテーマ〉 1　オリエンテーション・導入、変体仮名読解試験 2　概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3　日本漢文体読解練習 4　経文読解練習 5　梵字読解練習① 6　梵字読解練習② 7　墓碑銘を読む① 8　墓碑銘を読む② 9　記念碑を読む 10　歌碑・句碑を読む① 11　歌碑・句碑を読む② 12　供養碑を読む 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『古文書検定入門編』柏書房（税別 1,200 円） ISBN4-7601-2799-2 他の文献については教室にて示す。	数回の提出物、およびレポート（碑文の採集）の成果による。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング　基礎編) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング　基礎編)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を獲得する為の基礎を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その基礎となる発音・発声・アクセント・イントネーション・更に敬語等のことばと表現について学ぶ。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	１．オリエンテーション 「ことばと人間」 ２．自然な発音・発声 「発声トレーニング」 ３．自然な発音・発声 「発音トレーニング」 ４．自然な発音・発声 「鼻濁音・拗音・促音・長音・無声化」 ５．自然な発音・発声 「総合トレーニング」 ６．アクセントの型と種類 「名詞・形容詞・動詞のアクセント」 ７．「自己紹介」 ８．話して伝える基本 「話をくみたてる」 ９．話して伝える基本 「説明する」実践 10．敬語 「用法と実践」 11．同上 12．「スピーチ」実践 13．気をつけたい表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング　表現編) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング　表現編)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その話して伝える能力・対話する能力・読んで伝える能力を習得する。 従って、春学期を受講した上での参加が望ましい。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	１．スピーチの実践 「テーマに則した話をする」 ２．話して伝える 「説明する」実践 ３．話して伝える 「適切なことばを選ぶ」 ４．リポートの実践 「内容把握と伝達」 ５．話すと読む 「読んで伝えること」 ６．文に則したイントネーション ７．文意と「間」「速さ」「呼吸」 ８．意味のつながりと「卓立」「抑揚」「強弱」 ９．短文を読む 「告知文」 10．朗読Ⅰ 「随筆」「小説」 11．朗読Ⅱ 「随筆」「小説」 12．敬語表現 13．話して伝える・読んで伝える 「まとめ」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	ことばと思想（Ⅳ）（韓国の言語文化）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の様々な様相を学ぶ。 10 回までは、様々な韓国語の様相を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 11 回以降には、韓国語に関するテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。 ある程度の韓国語学習歴があることが望ましい	1. ガイダンス 2. 訓民正音創製の意義 3. 語彙の構造(固有語・漢字語・外来語) 4. 言葉づかいと人間関係(1) 5. 言葉づかいと人間関係(2) 6. 言葉とジェスチャー 7. 韓国と北朝鮮の言葉の違い 8. 若者の言葉 9. 韓国の方言 10. ネット言語 11. 発表 12. 発表 13. 発表

テキスト、参考文献	評価方法
適当な資料を配布	出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（書き言葉の問題） ことばと思想（Ⅳ）（書き言葉の問題）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙、メールの本質に迫る。 （講義概要） 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 （受講生への要望） 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③ 手紙文の約束。 拝啓―時候の挨拶―本文―敬具―（追伸）まで。 ④　⑤ 時候の挨拶と季節感 ⑥　⑦ 著名人の手紙鑑賞、解説。 ⑧　⑨ 手紙を題材にした小説の鑑賞 ⑩　⑪　⑫ メール作成の問題点 ⑬以降　　添削指導
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。レポート。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（話し言葉の問題） ことばと思想（Ⅳ）（話し言葉の問題）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 （講義概要） 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 （受講生への要望） 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③　④ 流行語の変遷（流行語大賞の分析） ⑤　⑥ 若者言葉の問題（世代語についての考察） ⑦ 放送コードの問題 ⑧ 共通語の理想と現実 【実践編】 ⑨ 心を開かせる挨拶のしかた ⑩　⑪　⑫ ３分間スピーチの実践 ⑬以後　　総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席。レポート。

08年度 07年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。	第１回目：イントロダクション 第２回目：レクチャー：センスのよい表現 テキスト：第１章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的① 第３回目：レクチャー：アウトラインの作成方法 テキスト：第２章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的② 第４回目：レクチャー：他者との対話 テキスト：第９章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的③ 第５回目：レクチャー：プレゼンテーションの準備 テキスト：第７章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義① 第６回目：レクチャー：草稿の作成 テキスト：第３章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義② 第７回目：レクチャー：編集作業 テキスト：第４章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義③ 第８回目：レクチャー：チームはどのようにして成長するのか ディスカッション・テーマ：感性と理性① 第９回目：レクチャー：プレゼンテーションの様々なスタイル テキスト：第６章 ディスカッション・テーマ：感性と理性② 第10回目：レクチャー：効果的なプレゼンテーションのスキル テキスト：第８章 ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第11回目：レクチャー：ファシリテーションとコーチング ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第12回目：総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『提案力』ダイアモンド社	出席、参加状況、提出物、最終レポート

08年度 07年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（生きたコトバづかい・文章編） ことばと思想（Ⅳ）（生きたコトバづかい・文章編）	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．シッカリした文のくみたて ３．ものごとをズバリとあらわすピッタリした語句選び ４．タトエとコトバの魔術 ５．スッキリした文章とは？ ６．テーマ展開および前提・焦点と省略・視点 以後は、「書きなれノート」を返却しつつ、気のついたことを述べます。話題となるビデオを見ます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『コトバの力』（同・近刊）	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（生きたコトバづかい・文章編） ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．シッカリした文のくみたて ３．ものごとをズバリとあらわすピッタリした語句選び ４．タトエとコトバの魔術 ５．スッキリした文章とは？ ６．テーマ展開および前提・焦点と省略・視点 以後は、「書きなれノート」を返却しつつ、気のついたことを述べます。話題となるビデオを見ます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『コトバの力』（同・近刊）	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	ことばと思想（Ⅳ）（心理検査法とこころの健康）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらのことを通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。同時に，自己理解を深めてもらいたい。心理検査やグループワークを実践した後には、結果などをレポートにまとめてもらう。また、関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともある。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（1,500円程度）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。	授業計画は以下のとおりである。 １．　心理検査の成り立ちと種類 ２．　質問紙による性格検査① ３．　質問紙による性格検査② ４．　職業への興味 ５．　将来の夢 ６．　感情のＩＱ ７．　知能検査 ８．　絵からみる家族像 ９．　ストレス・コーピング 10.　グループ・ワークによる自己理解① 11.　グループ・ワークによる自己理解② 12.　グループ・ワークによる自己理解③ 13.　検査結果のまとめと自己理解

テキスト、参考文献	評価方法
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし，履修者には，これら心理検査用紙にかかる費用を負担してもらう予定である。	出席状況と授業レポートにより総合的に評価する。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（言語学から詩へ） ことばと思想（Ⅳ）（言語学から詩へ）	担当者	谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の授業では、フランス言語学の流れや基本タームを抑えながら、言葉というものについて考えます。 言語学の術語や理論を知識として知ることよりも、授業での発見や問いかけを通して身近な言語活動に対する意識が変化し、外国語学習や読書などについての新しい視点を得ることを目的とします。 内容上フランス語の用語を使用することもありますが、実例は日本語であげるので、言葉について考えることが好きな方であれば誰でも受講できます。 毎回の講義の終りにアンケートを取り、考えたことや疑問点などを書いてもらい、双方向的な授業にしてゆきたいと思います。	１．イントロダクション ２．記号とは何か ３．言語名称目録観――『ガリヴァー旅行記』 ４．プラトン『クラチュロス』 ５－６．言語の恣意性――ソシュール ７．二重文節――マルティネ ８．発話主体――バンヴェニスト ９．音素／形態素／記号素 １０．コノテーションとデノテーション １１．外国語を学ぶことの意味 １２．言葉の物質性 １３．意味／価値／機能 （順序や内容には変更の可能性があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 丸山圭三郎『言葉とは何か』（夏目書房） アンドレ・マルティネ『一般言語学要理』（岩波書店） 立川健二・山田宏昭『現代言語論』（新曜社）	出席とレポート。 授業でのアンケートも成績に加味します。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（言語学から詩へ２） ことばと思想（Ⅳ）（言語学から詩へ２）	担当者	谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の授業を踏まえて、秋学期では文学作品などの実作に基づきながら言葉を考えようとします。 受講者には、授業で紹介する例のほかに、似たような例を探し出してきて報告することなどが求められます。といっても、出典は各国語文学に限らず、漫画、歌、新聞、看板など、およそどんなものでもありうるでしょう。 幼い頃の言葉にまつわる記憶や、日常生活での聞きまちがいなど、受講者自身の言語体験こそが貴重な思考の材料です。積極的な参加と多くの報告を期待します。 秋学期を受講する場合は原則として春学期から受講してください。	１－２．言葉の線状性に抗して ３．アナグラム／リポグラム／パングラム ４．ことば遊びの可能性 ５－６．聞きまちがいという体験 ７．歌 ８．翻訳 ９．言葉と無意識 １０・認識としてのレトリック １１．隠喩と換喩 １２－１３．詩の言語 （順序や内容には変更の可能性があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：佐藤信夫『レトリック感覚』（講談社学術文庫） ジェラール・ジュネット『ミモロジック』（書肆風の薔薇） 宝島編集部『VOW』（宝島社）	出席とレポート。 授業でのアンケートも成績に加味します。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（生活文化の発見） ことばと思想（Ⅳ）（生活文化の発見）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、ことばだけであるものではない。会話をしようとするとき、文章を書こうとするとき、まず、その前に何を話すのか、何を書くのか、その材料となるべきものがなくてはならない。ここでは、我々の身のまわりにある「何でもない事柄」が、どのように記録の対象となり記述されていったのかを検討することによって、自らが話し、書く前提を考えていきたい。	1　ガイダンス 2　生活文化の枠組み 3　情報の蒐集と共有化 4　創作としての読解 5～12　民俗誌を読む 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	レポートによって評価：期末(70%)＋授業時(30%) ただし、授業の 1/3 を欠席した者には、期末レポート提出の資格を与えない。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（生活文化の記述） ことばと思想（Ⅳ）（生活文化の記述）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、発せられてこそ役割を果たす。せっかく調査し、理解したものも、表現されなければ意味を持たない。ここでは、身のまわりで発見した普段見過ごしがちな「何でもない事柄」を主題化し、それを理解し、記述することによって、ことばの理解と表現を体感したい。	1　ガイダンス 2　すまう① 3　すまう② 4　たべる② 5　たべる② 6　つどう① 7　つどう② 8　あげる・もらう① 9　あげる・もらう② 10　あらがう① 11　あらがう② 12　いのる① 13　いのる②
テキスト、参考文献	**評価方法**
小林孝広・出口雅敏編『人類学ワークブック－再帰的フィールドワークへの誘い』(仮題)新泉社(2008.4 刊行予定)	レポートによって評価：期末(70%)＋授業時(30%) ただし、授業の 1/3 を欠席した者には、期末レポート提出の資格を与えない。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（英語通訳）（英語通訳の仕事） ことばと思想（IV）（英語通訳の仕事）	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を勉強する目標または将来就きたい仕事として通訳ということを考えている、通訳に関心の深いみなさんのために、仕事の現状と訓練方法を知らせる授業です。 まず、通訳者が何に苦労してどんな仕事をしているかを紹介します。複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での問題点や、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。 どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な厳しい訓練はできませんが、最初の数回で通訳学校で行われているような基本的な訓練方法を紹介し（授業計画の[　　]内参照）、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。 初回（4 月 12 日）には必ず出席すること。	1　通訳って何だろう：どんな通訳があり、何ができるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2　コミュニケーション入門：言語の機能と限界 [shadowing 入門] 3　異文化相互誤解のメカニズム：偏見、軽蔑、服従の罠 [sight-translation 入門] 4　ゲスト講師による英語の講演(担当講師の通訳実演) （仮題：フィリピンの文化とフィリピン人の日本での生活） 5　脳を刺激する生きた英語の勉強方法と教材の研究 6　どんな声を出すべきか、および日本語の発声の特徴 [日本語アナウンス入門] 7　同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 8　求められる通訳とは、どう期待にこたえるか [英語の発音と発声の基本] 9　頼れる情報源紹介、常識と先入観の区別 10 ハイテク導入と将来像･通訳はどう進歩するのか [Q&A 練習の応用とインタビュアー入門] 11 やりにくい通訳の研究･訴訟や刑罰などの後腐れ予防 12 世界共通語の功罪、言葉が通じる便利さと支配の関係 13 幅広い話題に対応するために文化と社会を捉え直す
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	英語の到達点が成績に直結しないよう工夫するが、30 分程度でできる宿題をほぼ毎回課し成績に加える。出席必要(欠席率 40%以上は不可)。期末レポート必須。期末試験なし。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（英語通訳）（英語通訳の仕事） ことばと思想（IV）（英語通訳の仕事）	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を勉強する目標または将来就きたい仕事として通訳ということを考えている、通訳に関心の深いみなさんのために、仕事の現状と訓練方法を知らせる授業です。 まず、通訳者が何に苦労してどんな仕事をしているかを紹介します。複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での問題点や、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。 どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な厳しい訓練はできませんが、最初の数回で通訳学校で行われているような基本的な訓練方法を紹介し（授業計画の[　　]内参照）、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。 初回（9 月 27 日）には必ず出席すること。	1　通訳って何だろう：どんな通訳があり、何ができるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2　コミュニケーション入門：言語の機能と限界 [shadowing 入門] 3　異文化相互誤解のメカニズム：偏見、軽蔑、服従の罠 [sight-translation 入門] 4　脳を刺激する生きた英語の勉強方法と教材の研究 5　どんな声を出すべきか、および日本語の発声の特徴 [日本語アナウンス入門] 6　同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 7　求められる通訳とは、どう期待にこたえるか [英語の発音と発声の基本] 8　頼れる情報源紹介、常識と先入観の区別 9　ハイテク導入と将来像･通訳はどう進歩するのか [Q&A 練習の応用とインタビュアー入門] 10 やりにくい通訳の研究･訴訟や刑罰などの後腐れ予防 11 世界共通語の功罪、言葉が通じる便利さと支配の関係 12 幅広い話題に対応するために文化と社会を捉え直す 13 ゲスト講師による英語の講演(担当講師の通訳実演) （仮題：アメリカ合衆国の兵士向けの奨学金制度の矛盾）
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	英語の到達点が成績に直結しないよう工夫するが、30 分程度でできる宿題をほぼ毎回課し成績に加える。出席必要(欠席率 40%以上は不可)。期末レポート必須。期末試験なし。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（論文を書く） ことばと思想（Ⅳ）（論文を書く）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に r 書く」技能の向上を目指す。 講義概要 「書く」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に大学生活において必須となる論文の書き方について練習する。この練習を通して、客観的に事物を説明し、根拠を示して自らの考えを述べることができる能力の育成を行う。まず、簡単な意見文を書く練習を行いながら基本的な文章能力を向上させる。その後に、その成果をふまえつつ、基本的な形式を備えた短い論文を作成し、論文の形式について理解させることを目標とする。	1 はじめに 2 表現の方法①(5W!H) 3 表現の方法②(文を短く切る) 4 意見文を書く①(文が持つ役割) 5 意見文を書く②(事実の報告、意見) 6 意見文を書く③(事実の報告、意見、意見の正しさの論証) 7 意見文を書く④(事実の報告、問題提起、提起された問題の解答) 8 論文を書く①(序論) 9 論文を書く②(本論①) 10 論文を書く③（本論②） 11 論文を書く④(本論③、結論) 12 レポート提出と講評 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考図書　授業時に指示する。	レポート（２回提出）・出席

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（口頭発表を行う） ことばと思想（Ⅳ）（口頭発表を行う）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に r 話す」技能の向上を目指す。 講義概要 r 話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 具体的には、まず、発声練習として朗読を行う。次に、プレゼンテーションの技術について、ビデオを見ながら学習する。さして、その成果を踏まえたかたちで発表を行う。	1 はじめに 2 はやくちことば 3 発声練習 4 朗読① 5 朗読② 6 朗読③ 7 プレゼンテーションの理論① 8 プレゼンテーションの理論② 9 プレゼンテーションの理論③ 10 発表① 11 発表② 12 発表③ 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考図書　授業時に指示する。	平常点（発表などの課題）・レポート・出席

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（現代ジャーナリズム考１） ことばと思想（Ⅳ）（現代ジャーナリズム考１）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
ジャーナリスト志望者に役立つ授業をめざす。しかし、ジャーナリストを養成する目的のためだけの講座ではなく、ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。 授業では、現代ジャーナリズムが抱える問題点を深く掘り下げるとともに、現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。 受講生にはその時々のニュースをフォローし、マスコミの動きにも関心を持ってもらいたい。	現代ジャーナリズムが抱える問題点に加え、その時々に浮上した現代ジャーナリズムをめぐる諸問題についても教材として取り上げる。このため授業のテーマは流動的といえる。 2007 年春学期には、長崎市長殺害事件と言論テロ、安倍首相の訪米と日米首脳会談の取材、「世界　報道の自由の日」（07 年は「ジャーナリストの安全」がテーマ）、東国原英夫・宮崎県知事発言と記者クラブ問題、テレビのニュースキャスターとは（日米の比較など）、差別用語をはじめとする新聞用語問題、新聞社説の多角的検証、テレビ界の不祥事と放送倫理検証委員会、過熱するスポーツ報道などのテーマを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（作文）などに基づく平常成績と、期末試験の成績を勘案し、総合的に評価する。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（現代ジャーナリズム考２） ことばと思想（Ⅳ）（現代ジャーナリズム考２）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
ジャーナリスト志望者に役立つ授業をめざす。しかし、ジャーナリストを養成する目的のためだけの講座ではなく、ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。 授業では、現代ジャーナリズムが抱える問題点を深く掘り下げるとともに、現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。 受講生には、その時々のニュースをフォローし、マスコミの動きにも関心を持ってもらいたい。	現代ジャーナリズムが抱える問題点に加え、その時々に浮上した現代ジャーナリズムをめぐる諸問題についても教材として取り上げる。 2007 年秋学期には、ミャンマーの長井健司さん銃殺事件とフリージャーナリスト、「イミダス」「千恵蔵」の休刊とウィキペディア、奈良県の高１男子放火殺人事件の調書漏洩事件、「知る権利」と「取材源の秘匿」、「国境なき記者団」による世界の報道の自由度ランキング、渡邉恒雄・読売新聞会長による「大連立」仲介、ネット時代における「新聞の危機」（3 回シリーズ）などのテーマを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（作文）などに基づく平常成績と、期末試験の成績を勘案し、総合的に評価する。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（ヨーロッパ地域研究『カルメン』１） 歴史と文化（Ⅳ）（ヨーロッパ地域研究『カルメン』１）	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
世界でもっとも上演回数の多いオペラ『カルメン』の原作者メリメは、長く文化財保護技監としてフランスの文化政策の基礎を築きました。そんな才人の彼が書いた小説の中ではスペインの地方色が鋭く観察されています。ビゼーは劇場の方針で原作の棘を抜かざるを得ませんでした。 『カルメン』にもっとも興味があるのは、舞台となったスペインの人たちでしょう。それを受けて原作に比較的忠実な映画化や、もっぱらフラメンコで演じられる舞台など多数の試みがあります。しかし残念なことに、小説の真の主人公であるドン・ホセの人間性の追及が今ひとつであるようです。 この授業では小説、オペラ、映画、舞台映像などいくつかの資料を比較しながら、このフランス人が創造したスペイン国民文学を検討してゆきたいと思います。 フランス語・スペイン語ともに既修であることは要求しませんが、外国語を聞いて楽しめる積極性が欲しいです。資料は講義支援システムで配布します。原則として毎週アンケートを取って平常点をつけます。	以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1　授業方法・評価方法の説明 2　メリメの人と作品 3　多文化の発見 4　女と猫は呼ばない時に 5　ウイーン歌劇場 6　ラジャスタンからバルカンへ 7　ボヘミアからアンダルシアへ 8　カルメンに触るんじゃないよ！ 9　コンポステラへの巡礼路バスク 10　サン・フェルミンの祭り 11　ハバナの葉巻 12　闘牛士の行進 13　オーレ！
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
テキスト：講義支援システムで配布 DVD 各種を授業中に紹介	評価方法：選択式の試験と平常点

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（ヨーロッパ地域研究『カルメン』２） 歴史と文化（Ⅳ）（ヨーロッパ地域研究『カルメン』２）	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
同上 前期はオペラとしての『カルメン』が中心で、それにロマ、バスクなどの少数民族や、タバコ、闘牛の話が加わりますが、後期はビセンデ・アランダ監督の映画『カルメン』を中心に、原作との異同をあつかい、それにアンダルシアとフラメンコのの紹介を加えて論じます。	以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1　ナバラ生まれです 2　シガロ 3　信仰は捨てていない 4　泣いているマリア 5　他の男は歯ぎしりするだけ 6　どっちに死んで欲しい 7　男心は裏切らない 8　カルメン・フラメンコ 9　エル・チョコラーテ 10　ソレアとブレリア 11　アルハンブラ物語 12　メスキータ・カテドラル 13　セビリア
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
同上	同上

０７年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（アメリカ詩入門）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
授業のタイトル通り、アメリカの詩を読む。「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？　この授業では、 Native American （いわゆるインディアン）の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に２度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、 Gary Snyder だ。さて、ネイティヴ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、Snyder と Native American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。 詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言ってから普通の表現となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして１９世紀、２０世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる。	1) Introduction 2) Native American の詩。 3) Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など。 4) Emily Dickinson, “Because I could not stop for Death,” “I taste a liquor never brewed” など。 5) Robert Frost, “Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “After Apple-Picking” など。 6) Ezra Pound, Imagism 期の短詩、”Hugh Selwyn Mauberley I” など。 7) William Carlos Williams, “The Red Wheelbarrow,” “Nantucket,” “Poem” などの初期の短詩。 8) Wallace Stevens, “The Snow Man,” “Thirteen Ways of Looking at a Blackbird” 9) H. D., “Oread,” “Heat” など。 10) T. S. Eliot, “Preludes” など。 11) Robert Lowell, “For the Union Dead” など。 12) Sylvia Plath, “Daddy,” “Lady Lazarus” 13) Gary Snyder, “Magpie’s Song,” “For the Children” など。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sixteen Modern American Poets (英宝社)とプリント。	２０００字以上のレポート。詳細は、追って報告する。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（イギリス詩入門）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ワーズワス（W.Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 **講義概要** 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。　次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。　そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。　なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 **参考文献** 新井明著　『英詩鑑賞入門』　研究社　１９８７	１．詩形について ２．＜マザーグース＞　I ３．　＜マザーグース＞II　（video 鑑賞） ４．＜現代英詩アラカルト＞I　T.S.Eliot（1888-1965）（video 鑑賞、字幕なし、以下同じ） ５．＜同＞II　T.Hughes(1992-1985))など（video 鑑賞） ６．＜ロマン派の曙＞　W.Blake(1757-1827), video 鑑賞(７．＜ロマン派の詩＞　I　ワーズワス、video 鑑賞 ８．＜ロマン派の詩＞　II　S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824)　（video 鑑賞） ９．＜ロマン派の詩＞　III　P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) １０．＜ロマン派の詩＞　総括　解説と video 鑑賞 １１．Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。　Video 鑑賞 １２．John　Milton(1608-74) *Paradise Lost*(1667)のさわり、ソネット２３．Video 鑑賞 １３．William Shakespeare(1564-1616),　解説と video 鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂　１９８７ （授業開始までに必ず購入すること）	テストを課す。　数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。

０７年度以前	歴史と文化(Ⅳ)(韓国文化各論 a)	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
朝鮮半島の近代史を学ぶ。 韓国の時事週刊誌『ハンギョレ 21』に 2001 年から歴史コラムとして連載され、2003 年に単行本化されてからもベストセラーとなり話題を呼び続けている韓洪九『大韓民国史』(日本語訳は(6)を参照) を軸に講義をする。 10 回までは、韓洪九『大韓民国史』を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 11 回以降には、韓国の近代史のなかテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。 ある程度の韓国語学習歴があることが望ましい	1. ガイダンス 2. 朝鮮半島の 100 年を振り返る(1) 3. 朝鮮半島の 100 年を振り返る(2) 4. 大韓民国の歴史的正統性 5. 単一民族神話 6. 「兵営国家」韓国(1) 7. 「兵営国家」韓国(2) 8. 「兵営国家」韓国(3) 9. 「親日派」問題(1) 10. 「親日派」問題(1) 11. 発表 12. 発表 13. 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史韓国とはどういう国か』、平凡社、2003 年 韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史(2)負けの歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005 年	出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験

０７年度以前	歴史と文化(Ⅳ)(韓国文化各論 b)	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
韓国の宗教を通じて派生された様々な文化を学んでいく。 10 回までは、韓国の様々な宗教を軽く触って、建国神話・文学、思想・イデオロギー、生活習慣などの様相を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 11 回以降には、韓国の宗教と関連があるテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。 ある程度の韓国語学習歴があることが望ましい	1. ガイダンス 2. 韓国の宗教と伝統文化 3. 韓国の民俗信仰と巫俗 4. 節季風俗 5. 韓国の仏教文化 6. 韓国の儒教文化(1) 7. 韓国の儒教文化(2) 8. 韓国のキリスト教(1) 9. 韓国のキリスト教(2) 10. 韓国の風水思想 11. 発表 12. 発表 13. 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
適当な資料を配布	出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（日韓比較文化論 a）	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ＊　参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) 注意:はじめの授業で討論会のテーマごとにグループ分け、発表担当者を決めるので必ず出席すること。極力１回目の授業から出席すること。	１．日韓比較文化概説　ガイダンス ２．韓日の建国神話 ３．韓日の国土構造 ４．韓日の祭祀風習 ５・韓日の民俗信仰 ６．韓日の家族 ７．韓日の食文化① ８．韓日の食文化② ９・韓日の住生活 10. 韓日の服飾 11. 韓日の村落 12. 韓日の福祉レジーム 13. 日韓比較文化討論会
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宣プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。	授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（日韓比較文化論 b）	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。	1. 書堂と寺子屋 2. 三国時代の教育と文化 3. 高麗時代の教育と文化 4. 朝鮮時代の教育と文化 5. 植民地支配の教育政策 6. 植民地支配の国語教育 7. 日韓生涯教育と社会 8. 日韓ジェンダー教育① 9. 日韓ジェンダー教育② 10. 日韓女性の教育 11. 韓国における日本語教育の歴史 12. 日本における韓国語教育の歴史 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。	積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインとその旧植民地であったラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に発展を遂げてきたことから，その身体技法についても随所で言及する。クレオールをはじめ，文化混淆の概念がキーワードとなるため，　前半の授業ではキューバの音楽を重点的に取りあげ，成分といわれる各音楽的要素に再検討を加える。音楽研究一般の可能性を吟味したうえで，各自の関心に応じた題目を選んでもらい，意見交換の場を設ける予定である。後半の準備期間においては，スペイン語圏，非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も用意したいが，議論のベースは文化人類学に置く。単なる音楽紹介や知識の吸収にとどまらない演習の側面をもたせたい。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。	1.　イントロダクション 2.　文化混淆の現況: キューバの音楽を事例として 3.　スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に 4.　アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に 5.　先住民由来の音楽的要素: フォルクローレを中心に 6.　民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展望 7.　スペイン語圏の音楽①: カリブ海地域 8.　スペイン語圏の音楽②: 中央アメリカ 9.　スペイン語圏の音楽③: 南アメリカ 10.　英語圏、フランス語圏、ポルトガル語圏ほかの音楽 11.　移民(ラティーノ、チカーノ、日系人)の音楽 12.　個人研究報告会 13.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布するほか，相談のうえ，その都度指示する。	評価方法: 平常授業における発表などの実績(40%)と期末レポート(60%)。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

07年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（おもしろまじめな芝居のミカタ a）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 レポートに関することなど、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）2 編で 70%。授業で 30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

07年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（おもしろまじめな芝居のミカタ b）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 レポートに関することなど、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）2 編で 70%。授業で 30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（イタリアの音楽史） 歴史と文化（Ⅳ）（イタリアの音楽史）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。	1　ガイダンスと導入 2　古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3　グレゴリオ聖歌 4　グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5　「イタリア音楽」の誕生 6　宗教改革と音楽 7　ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 8　ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 9　ヴィヴァルディとヴェネツィア 10　パガニーニと超絶技巧 11　ヴェルディとイタリア国家統一運動 12　プッチーニとオリエンタリスム 13　プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書 1045）	小テストと期末テスト（両方とも持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。授業への参加態度と出席回数も重視する。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（イタリアの声楽曲） 歴史と文化（Ⅳ）（イタリアの声楽曲）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観する。	1　オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2　オペラ誕生：初期の試み 3　バロック・オペラの台本 4　バロック・オペラと劇場 5　バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6　オペラ・セリアとオペラ・ブッファ 7　ロッシーニの世界 8　ベッリーニ 9　ドニゼッティ 10　ヴェルディ（1） 11　ヴェルディ（2） 12　ヴェリズモ・オペラ 13　プッチーニ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	期末テスト（持ち込み不可）による。授業への参加態度と出席回数も重視する。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（詩と音楽 2） 歴史と文化（IV）（詩と音楽 2）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ギリシア神話におけるオルペウスの物語は、何人もの作曲家によってさまざまな時代にオペラ化されており、音楽の世界において最も馴染み深い題材の１つである。本講義では、ギリシア神話および西洋古典文学におけるオルペウス像を概観したのち、この神話がどのように音楽史とかかわりを持ち、オペラ化されるようになったのか、またこれらの作品の中でオルペウスの物語がどのように描かれているのかを、実際に作品を鑑賞しながら観察する。なお、オペラ以外の作品（映画）も適宜取り上げて比較・考察する予定である。 **なお、本講義は「詩と音楽2」であるので、昨年度に「詩と音楽1」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　オルペウスとアルゴー号伝説 3　ウェルギリウスとオルペウス 4　オウィディウスとオルペウス 5　ポリツィアーノ『オルフェオの物語』 6　初期のオペラとオルペウス 7　モンテヴェルディ『オルフェオ』（オペラ） 8　グルック『オルフェオとエウリディーチェ』（オペラ） 9　森鷗外とオルペウス 10　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・仏語版） 11　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・二期会による日本語版） 12　コクトー『オルフェ』（映画） 13　マルセル・カミュ『黒いオルフェ』（映画）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	学期途中に課すレポート（詳細は授業中に指示）と、期末テストによる。授業への参加態度と出席回数も重視する。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（詩と音楽 3） 歴史と文化（IV）（詩と音楽 3）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
17 世紀前半のイタリアを代表する作曲家、クラウディオ・モンテヴェルディの創作活動を概観する。モンテヴェルディの作品には、ルネサンス的な要素とバロック的な要素が混在しているので、実際に作品を鑑賞しながら体感することを目指す。「詩と音楽 1」をすでに履修していることが望ましいが、していなくてもよい。	1　ガイダンスと導入 2　「ルネサンス」と「バロック」 3　音楽史におけるルネサンスとバロック 4　モンテヴェルディの創作活動 5　マントヴァ時代の作品（1） 6　マントヴァ時代の作品（2） 7　マントヴァ時代の作品（3） 8　《聖母マリアのための晩課》（1） 9　《聖母マリアのための晩課》（2） 10　ヴェネツィア時代の作品（1） 11　ヴェネツィア時代の作品（2） 12　ヴェネツィア時代の作品（3） 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	期末テストによる。授業への参加態度と出席回数も重視する。

０７年度以前	歴史と文化（Ⅳ）（韓国史）	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちは朝鮮半島の歴史についてどれぐらい知っているだろうか。また、どれぐらい知らないだろうか。 本講義では朝鮮半島の歴史を通史的に論じていく。	１イントロダクション～古朝鮮から三韓 ２高句麗、百済、新羅 ３高麗の成立と展開 ４李氏朝鮮の成立と展開 ５朝鮮近代社会 ６植民地支配下の朝鮮（１） ７植民地支配下の朝鮮（２） ８解放と分断（１） ９解放と分断（２） 10 韓国の軍事政権と韓国社会 11 韓国の民主化と経済発展 12 南北関係の変化 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業初回に提示する。	出席、発表、期末テスト

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（西洋美術史１） 歴史と文化（Ⅳ）（西洋美術史 a）	担当者	前川　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
ルーヴル美術館に所蔵される絵画作品の中から、時代、ジャンルを代表する名作を取り上げ、絵画の見方を学びながら、中世から 19 世紀までの西洋絵画史を概観します。 授業中に OHP で投影する重要事項のメモを参照し、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解し、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間(イントロダクション)に講義の進めかたや、勉強のしかたなどをお話しますので、受講希望者は必ず出席してください。	1　イントロダクション 2　ルーヴルの歴史と現在 3　ジョット『聖痕を受ける聖フランチェスコ』 4　ヴァン・エイク『ロランの聖母』 5　フラ・アンジェリコ『聖母戴冠』 6　ダ・ヴィンチ『モナリザ』 7　プッサン『四季図』 8　ルーベンス『メディチ・サイクル』 9　ボージャン『チェス盤のある静物』 10　ワトー『シテール島への船出』 11　アングル『ホメロス礼賛』 12　ドラクロワ『民衆を率いる自由』 13　(予備)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に指示します。	テストによる。授業中にとるアンケートを出席点として加味することもあります。

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（西洋美術史２） 歴史と文化（Ⅳ）（西洋美術史 b）	担当者	前川　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
15 世紀のイタリアとフランドルの美術作品について学びながら、美術史上のさまざまな問題について考えます。 授業中に OHP で投影する重要事項のメモを参照し、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間(イントロダクション)に講義の進めかたや、勉強のしかたなどをお話しますので、受講希望者は必ず出席してください。	1　イントロダクション 2　15 世紀の美術 3　15 世紀のフィレンツェ美術 4　マザッチョ作サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂ブランカッチ礼拝堂壁画 5　遠近法 6　パトロンと芸術家 7　パラッツォ・メディチ・リッカルディ礼拝堂の装飾 8　15 世紀のフランドル美術 9　ヴァン・エイク作ヘントの祭壇画 10　偽装のシンボリズム 11　メムリンク作キリストの降誕と勝利 12　絵画に包含された鑑賞者 13　(予備)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に指示します。	テストによる。授業中にとるアンケートを出席点として加味することもあります。

０７年度以前(春)	現代社会（Ⅳ）（インターンシップ）	担当者	阿部　正浩

講義目標

この講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、「働く」とはどういうことなのか、「働く」ためにどのようなスキルが必要なのかについて、受講生に受講してもらうことを目的としている。

働くことは、人生の一部である。生きる上で働くこと以外にも重要なことはたくさんある。これから社会に出て生きていく諸君が、どのような人生を設計していくのか、そしてどのようなキャリアを形成していくのか、をこの講座を通してよく考えてもらいたいとおもう。

講義概要

この講座は、１２回の講義と夏休みに実施するインターンシップ実習から成る。

講義では、まず受講生に自分と向き合い、これからの人生をどう生きていくかを真剣に考えてもらう。その上で、自己目標を設定し、目標達成に必要なスキルを身につけてもらう。この講座で重視するスキルは、「心の知能指数」と呼ばれる EQ（Emotional Quotient）である。ゲーム等を通して EQ を開発し、リーダーシップ能力やコミュニケーション能力を高め、受講生の今後のキャリア形成に役立てる。

インターンシップ実習は、受講生自身がインターンシップ先を見つけることから始まる。そして、２週間にわたるインターンシップ実習では様々な体験をすることになるだろう。これは今後の生き方や職業選択を考える上で、貴重な体験になるだろう。なお、インターンシップ先を選択する上で参考になる職業適性テストも講義中に行う。

（注意）
授業は土曜１・２限を用いた変則的な開講となります。履修希望者は両時限を空けておいてください。

受講生への要望

履修希望者は 4 月 4 日（金）13:00 からのインターンシップ総合説明会（4-407）に必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録してください。

結果発表は、4 月 7 日（月）9 時から 35 周年記念館で行います。

評価方法

授業への出席およびインターンシップ実習先での評価。
具体的には第１回目の授業で詳しく説明する。

テキスト、参考文献

EQ アセスメントおよびR－CAP 実施費用として 6000 円の費用が必要になる。**履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第 1 回目の授業に納付書を持参すること。**

授業計画

第１回 オリエンテーション
この講座の目的、講座の進め方、グループの決定、EQ アセスメントの実施

第２回 インターンシップの実際
実習先の探し方や実習先で何をするのかなど、インターンシップを経験した先輩やキャリアセンターの人から話を聞く

第３回 働くこととは？
働くこととは何か、自分の適職は何かを考える

第４回 自分と向き合おう
自分の将来を考え、これからの目標を考える

第５回 EQ とはなにか
EQ アセスメントの解説

第６、７回 リーダーシップ
リーダーシップとは何かを理解し、リーダーシップ能力を養成する。

第８、９回 コミュニケーション
上手にコミュニケーションをとるためには、どうすればよいのか。コミュニケーション能力を養成する。

第１０回 インターンシップ実習に向けて
実習先での成功談や失敗談など、先輩から話を聞く。また、企業の人事担当者からインターンシップのねらいなどについて話を聞く。

第１１回 実習先でのマナー
実習で必要とされるマナーを身につける

第１２回 報告会（１０月初旬開催予定）
インターンシップ実習について報告書を書き、報告する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『EU とフランス』1） 現代社会(IV)(ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『EU とフランス』1)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　EU の歴史　EC 創設への道 2　EU の歴史　EC15 カ国の実現 3　拡大する EU 4　拡大にともなう各種問題 5　フランス農業と共通農業政策 6　共通農業政策の仕組み 7　共通農業政策の問題点 8　共通農業政策の改革とフランス 9　欧州通貨制度とフランス 10　単一通貨ユーロ導入までの動き 11　安定成長協定とはなにか 12　EU 予算の抱える問題 13　欧州中央銀行
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
参考文献： 日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	受講条件：なし 評価方法：期末定期試験

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『EU とフランス』２） 現代社会(IV)(ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『EU とフランス』２)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　フランスの政治と EU(欧州議会) 2　フランスの政治と EU(主権擁護派) 3　フランスの政治と EU(リーダーシップ) 4　フランス経済と EU(門戸開放と統合市場) 5　フランス経済と EU(世界経済への一体化) 6　フランス経済と EU(移民労働者) 7　フランス経済と EU(国内産業の保護) 8　フランス経済と EU(産業の空洞化) 9　フランスの ODA 政策と EU 10　市民社会の台頭とフランス 11　EU 改革(リスボン)条約への道 12　特定多数決とはなにか 13　EU の将来とフランス
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
参考文献： 日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	受講条件：なし 評価方法：期末定期試験

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（教育の現場：教師と語るａ） 現代社会（Ⅳ）（教育の現場：教師と語るａ）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 ２．概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿への参加とで構成します。そのため、右記の合宿に必ず参加して下さい（参加費は１万円程度)。 ３．合宿で６コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は９回程度とします。２回目以降の日程は相談の上、決定するため、**初回の授業には必ず参加して下さい**。 ４．教職課程に登録している必要はありません。 ５．履修登録の上限を 30 名とします。 ６．春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。	１　講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 ２～３　生活指導とは何か（テキスト使用） ４～８　実践記録を読む ９　合宿参加のまとめ 合宿は、６月はじめから中ごろの土日で、場所は埼玉県内（浦和の予定）です
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋陽一他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900 円）	出席と最終レポートによります。合宿に参加しない場合には、不可とします。

０７年度以前	現代社会（Ⅳ）（教育の現場：教師と語るｂ）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じですが、合宿での学習内容が変わります。	春学期に同じですが、合宿は 12 月はじめころ、場所は埼玉県内（森林公園の予定）です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

07 年度以前	現代社会（Ⅳ）（異文化理解教育）	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 　グローバル時代を迎え、人の移動が活発になるなかでもはや学校も「異文化」を扱わざるを得なくなっている。 　学校での異文化理解教育はもはや必須の項目といってよいだろう。異文化理解教育についての基本的に理念や実践を広く紹介し、自身でもユニークな異文化理解教育を組み立てることができるようになることを目的としている。 ●講義概要 　１～７はいわば理論編、８～１３は実践編となっている。これまで蓄積されて理論を理解した後、各地の実践についても紹介しながら、自身で異文化理解教育をプランニングする。 受講生の人数にもよるが、グループ単位での発表も考えている。	１．　講義の進め方のガイダンス ２．　異文化協調を生みだす教育 ３．　国際社会に貢献する学校教育 ４．　日本文化と異文化コミュニケーション ５．　外国語教育と国際理解 ６．　カルチャー・ショックと自文化中心主義 ７．　国際理解教育の目標とカリキュラム開発 ８．　異質体験にもとづく授業設計と学習指導 ９．　異文化理解の学習活動と教材の構成 １０．　国際理解教育における素材活用の動向 １１．　全国の先進校の実践カリキュラム １２．　特色ある実践事例の紹介 １３．　国際理解教育実践の総括と今後の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
	テスト、レポート、発表などを総合的に判断する。

07 年度以前	現代社会（Ⅳ）（こども論）	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 　こどもについての講義であるが、特に「子育て」と「しつけ」について扱う。「今の子どもはしつけがなっていない」とはどの世代も下の世代に向かって言う嘆きであるが、歴史的にはどうだったのか、現在はどうなっているのか、そして未来はどうあるべきなのか。国際比較や社会学の枠組みも用いながら、これらの課題について考えることを目的とする。 ●講義概要 １～２では、歴史編として江戸時代の子どもがどのように育てられたのか、そして現在のような子育てがいつから始まったかを明らかにする。４から１１はいわば子育て・しつけの行う主体に焦点を当てて「現代」を扱うことになる。それらを踏まえ、１２、１３ではこれからの子育てはどうなるのか（どうあるべきか）を考えていくこととする。 ●要望 　受講人数にもよるが、できるかぎりディスカッションの時間をとりたい。積極的に発言してほしい。	１．　講義の進め方（自身の「被子育て」体験を振り返る） ２．　歴史から ３．　歴史から② ４．　家族の変動① ５．　家族の変動② ６．　子育てエージェント～父親の役割 ７．　子育てエージェント～女性の選択 ８．　子育てエージェント～家庭教育施策 ９．　しつけの難しさ～母性愛とは １０．　しつけの難しさ～要因 １１．　日本の家庭を国際比較すると？ １２．　子育ての未来① １３．　子育ての未来②
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	学年末のテスト、レポート、および発言などを総合的に評価する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（生きたコトバづかい・話し合い編） 現代社会（Ⅳ）（生きたコトバづかい・話し合い編）	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．言い合いと話し合いの違い ３．じょうずな聞きかた・メモのとりかた ４．ウソとコトバの魔術 ５．主張と根拠づけ・反論のしかた 以後は現代の諸問題についてのビデオを見て、討論をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『コトバの力』（同・近刊）	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（生きたコトバづかい・話し合い編） 現代社会（Ⅳ）（生きたコトバづかい・話し合い編）	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．言い合いと話し合いの違い ３．じょうずな聞きかた・メモのとりかた ４．ウソとコトバの魔術 ５．主張と根拠づけ・反論のしかた 以後は現代の諸問題についてのビデオを見て、討論をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『コトバの力』（同・近刊）	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（経理入門１） 現代社会(Ⅳ)(経理入門 a)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定３級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。 したがって、ビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。	①講義ガイダンス　～　簿記の意味・目的・種類 ②簿記の基礎概念 ③取引と仕訳 ④勘定 ⑤帳簿の記入（その１） ⑥帳簿の記入（その２） ⑦決算と財務諸表Ⅰ（その１） ⑧決算と財務諸表Ⅰ（その２） ⑨決算と財務諸表Ⅰ（その３） ⑩現金預金取引（その１） ⑪現金預金取引（その２） ⑫現金預金と補助簿 ⑬まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（経理入門２） 現代社会(Ⅳ)(経理入門 b)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定３級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 春学期に学んだ「現代社会(Ⅳ)(経理入門 a)」を基に、一つ一つの勘定科目について深く学ぶ。そして、最後に、財務諸表を作成し、経営組織の財政状態および経営成績を明らかにすることを目的とする。	①商品売買（その１） ②商品売買（その２） ③売掛金と買掛金 ④その他の債権債務 ⑤手形取引 ⑥有価証券 ⑦固定資産 ⑧資本金と引出金、税金 ⑨収益と費用（その１） ⑩収益と費用（その２）、帳簿と伝票 ⑪決算と財務諸表Ⅱ（その１） ⑫決算と財務諸表Ⅱ（その２） ⑬まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（英文会計入門１） 現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 a)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは大切となってきている。 本講座では、日本商工会議所主催のＢＡＴＩＣ（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。 なお、本講座では、日商簿記３級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その合否は問わない。)	春学期では、英文会計について初めて学習する学生を対象に、基礎的な内容を中心に講義を行う。 ①講義ガイダンス　～　英文会計とは ②資産・負債・純資産 ③借方と貸方：複式簿記 ④仕訳 ⑤転記 ⑥修正仕訳 ⑦決算仕訳 ⑧現金仕訳帳 ⑨精算表（その１） ⑩精算表（その２） ⑪減価償却（その１） ⑫減価償却（その２） ⑬まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（英文会計入門２） 現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 b)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは大切となってきている。 本講座では、日本商工会議所主催のＢＡＴＩＣ（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。 また本講座では、日商簿記３級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その合否は問わない。) なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。その際には、適宜、授業の中、受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。	秋学期では、春学期に比べ、少し応用的な内容について取り扱う予定である。また、問題演習についても、春学期と比較して意識的に増やすつもりでいる。 したがって、基礎的な内容についてはある程度、事前に学習しておく必要があるため、全学共通授業科目として本講義を登録する予定の学生は、春学期に英文会計入門 a を履修しておくことが望ましい。 ①講義ガイダンス　～　基礎の確認（その１） ②基礎の確認（その２） ③財務諸表 ④見越・繰延（その１） ⑤見越・繰延（その２） ⑥国際会計理論（その１） ⑦国際会計理論（その２） ⑧国際会計理論（その３） ⑨国際会計理論（その４） ⑩問題演習 ⑪問題演習 ⑫総合問題演習 ⑬まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	現代社会（Ⅳ）（模擬国際裁判）	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
模擬国際裁判とは、ある架空の国際事件を想定して、学生が原告・被告・裁判官の三グループに分かれ、自主的に調査・研究を行い、現実の国際裁判さながらに法的主張を競い合う法学教育です。本講義を受講するにあたっては国際法の知識を有することを必ずしも前提とはしません。また、グループ作業が中心となるので、共同で勉強することが苦痛でない人に適した講義です。 受講希望者が３０名を超える場合、以下のいずれかについて解答する記述式のテストを行い、履修者を決定します。履修を希望する学生は、必ず第１回目の講義に出席してください。 ・ 国際法の法源 ・ 国際紛争の平和的解決 なお、履修にあたっては、法学部が優先となります。	１　コースガイダンス――模擬国際裁判とは何か？ ２　課題文と訴状の発表 ３～４　国際裁判の手続を学ぶ ５～６　申述書提出（原告側） ７～８　答弁書提出（被告側） ９　国際法上の論点を学ぶ 10～11　口頭弁論 12　判決 13　自己評価と反省 本講義で過去に扱った事例としては、核兵器使用の合法性に関する事件、ミロシェビッチ事件（旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所）、イスラエルの分離壁、宇宙空間への兵器配備、竹島問題、ミサイル防衛問題などがあります。

テキスト、参考文献	評価方法
大沼編『国際条約集　2008 年版』有斐閣 その他、適宜、参考文献を紹介します。	書面及び発表や模擬裁判への参加態度に基づいて評価します（試験は行いません）。

０７年度以前	現代社会（Ⅳ）（韓国社会各論 a）	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は朝鮮半島分断の歴史と現状を、政治的観点にとどまらず「日常」の視点から概観するものである。分断社会における「日常のなかの分断」、メディアにおける分断の表象から国際社会のなかの「分断」まで、単なる国際政治の枠組みとしてのみ「分断」を語るのではなく、「分断」とは朝鮮半島に住む人々やその日常にとってなにを意味するのか、どのようなかたちで日常にあらわれているのかを考察することに重点を置く。	1 イントロ 2 朝鮮半島分断の背景 3 朝鮮戦争① 4 朝鮮戦争② 5 世界情勢と朝鮮半島① 6 世界情勢と朝鮮半島② 7 アジアと朝鮮半島① 8 アジアと朝鮮半島② 9 日本と分断朝鮮① 10 日本と分断朝鮮② 11 南北の社会① 12 南北の社会② 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業初回に提示する。	出席、発表、期末テスト

０７年度以前	現代社会（Ⅳ）（韓国社会論）	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国社会とジェンダー」にテーマをしぼって現代韓国社会の諸問題について考察し、その社会像を描きだす。朝鮮半島や韓国といえば、歴史問題や日韓・日朝関係等の政治問題が主な関心事となることが多いが、本講座では、「日本と韓国」あるいは「日本と朝鮮半島」という枠にとらわれずに、韓国に住む人々の日常生活と密接に関連したテーマから現代韓国社会を読み解いていく。討論を通じて隣の社会や人々について「考える」時間にするため、受講者には積極的な授業参加が望まれる。	1 イントロ-韓国現代社会とジェンダー 2 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観① 3 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観② 4 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観③ 5 ジェンダーと制度① 6 ジェンダーと制度② 7 労働とジェンダー 8 軍隊とジェンダー 9 歴史とジェンダー① 10 歴史とジェンダー② 11 表象される女性たち① 12 表象される女性たち② 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する。	出席、期末テスト

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（新聞を読む１） 現代社会（Ⅳ）（新聞を読む１）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。そして授業を通じて、ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを目標とする。 受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測がつかないため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。必要な「新聞に関する基礎的知識」についても随時、解説する。 2007 年春学期には、統一地方選挙、米バージニア工科大で起きた銃乱射事件、史上初の女性大統領が誕生するかどうかで注目されたフランス大統領選、成立した国民投票法のポイント、熊本市の病院に設置された国内初の「赤ちゃんポスト」、ミャンマーのアウン・サン・スー・チーさん軟禁延長、独ハイリゲンダム・サミット（主要国首脳会議）、山口県光市母子殺人事件差し戻し控訴審、自殺総合対策大綱などのニュースを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と、期末試験の成績を勘案し、総合的に評価する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（新聞を読む２） 現代社会（Ⅳ）（新聞を読む２）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。そして授業を通じて、ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを目標とする。 受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測がつかないため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。必要な「新聞に関する基礎的知識」についても随時、解説する。 2007 年秋学期には、反政府デモが広がり緊迫するミャンマー情勢（長井健司さん射殺事件を含む）、鳩山邦夫法相の「死刑自動化」発言、地球温暖化の危機を訴えてきたアル・ゴア前米副大統領らがノーベル平和賞受賞、中国共産党大会、月周回衛星「かぐや」の打ち上げと月探査競争、地球温暖化対策を議論するバリ会議（COP13）、経済協力開発機構（OECD）による国際学力テスト（PISA）などのニュースを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と、期末試験の成績を勘案し、総合的に評価する。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『ドイツ語圏への招待』） 現代社会(Ⅳ)(ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんが今学んでいる「獨協」は，明治時代にできた「獨逸学協会」が母胎となっています。当時の人々は，ドイツやドイツ語圏であるオーストリア（当時は大国）やスイスから何を学ぼうとしたのでしょうか。 この授業では，日本とドイツ語圏（ドイツ，オーストリア，スイス）の交流の歴史を辿ってみます。交流は，政治経済のみならず，学問や文化，スポーツなど多岐に渡っています。 その多面的な様相の一部を紹介しながら，異文化との接触が何をもたらすのかを批判的に検討していきます。 学生の皆さんにも調査研究して発表してもらいます。グループ分けの必要がありますので，第１回授業には必ず参加してください。	1　ガイダンス（受講希望者は必ず出席してください。） 2　概論：日本とドイツの交流史１ 3　概論：日本とドイツの交流史２ 4ー12 以下のテーマ(07年度の例)などでグループ発表+矢羽々による講評と同一テーマを別側面から扱う講義で進めます。 ・江戸期の日独交流（ケンペル，シーボルト） ・ドイツ語学習のはじまり（洋学のはじまり） ・獨協とドイツ ・グリム・メルヒェンの翻訳と受容 ・ベートーヴェンの『第九』初演（『バルトの楽園』） ・スポーツでの交流（スキーなど） 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示します。	授業への出席（4回以上の欠席はFとなります）および学期末試験もしくはレポートの結果に基づいて評価します(参加人数による)。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『ドイツ語圏への招待』） 現代社会(Ⅳ)(ﾖｰﾛｯﾊﾟ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、日本人にはあまりなじみのないヨーロッパ、特にドイツ語圏の国々やその国の文化を簡単に紹介し、受講者それぞれの興味・関心で調査し、発表することを目的とする。 講義は、受講者をグループに分け、ドイツ語圏を中心とする旅行プランを企画し、それをプレゼンテーションするという方法で行いたい。これにより、良い魅力的な商品としての旅行を企画するためにはどのような調査を行い、どのように組み立て、プレゼンテーションするかとグループワークにどのように関わる必要があるのかという体験と、同時にドイツ語圏の国々や文化に関する知識を得られればと思う。	１．イントロダクション ２．ドイツ語圏の国々 ３．グループ分けとテーマ決め ４．グループワーク ５．企画と組み立て ６．グループワーク ７．同上 ８．同上 ９．同上 １０．　企画プレゼンテーション １１．　同上 １２．　同上 １３．　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適時指摘する。	レポートと授業への参加度。特にグループワークへの関わりとプレゼンテーション。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（コンピュータ入門ａ） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門ａ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な使用法を、Microsoft Office を使用し、実習を通して身につけることと、その活用法について講義します。 コンピュータのスキルとともに、社会に出てから必要となるコンピュータとネットワークの基礎的な知識を身につけることを目的とします。 　また、リレーショナルデータベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱います。 　なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがあります。	1. 講義の進め方について 2. コンピュータの基礎、ID の管理について 3. ワードプロセッサの使用法１ 文章の作成、各種書式の設定 4. ワードプロセッサの使用法２ 図形描画、表の作成、数式の入力 5. 表計算ソフトの使用法１ 表の入力、グラフの作成 6. 表計算ソフトの使用法２ 関数を用いた計算 7. 表計算ソフトの使用法３ マクロを用いた計算 8. プレゼンテーションソフトの使用法１ スライドの作成、プレゼンテーション方法 9. プレゼンテーションソフトの使用法２ 10. データベースの作成１ ソフトの概要とデータの入力方法 11. データベースの作成２ データの関連づけ、テーブル 12. データベースの作成３ データ検索 13. まとめと成果発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
NOA 出版、『Office 活用術』 久野靖『情報リテラシー』日経 BP ソフトプレス 本田直也監修『情報活用力』、NOA 出版	出席、レポート、試験などで総合評価します。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（コンピュータ入門ｂ） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門ｂ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いて作業を行う際には、ワープロや表計算のような市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うこともできます。コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることに加えて、どのような手順（アルゴリズム）でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要です。 　この講義では、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学びます。使用する言語は、担当教員ごとに異なりますが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します。	1. 講義の進め方について 2. 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. 簡単な処理 変数、演算式 4. 場合分け 条件分岐 5. 繰り返す ループ 6. ファイルの処理 7. アルゴリズム１ 簡単なアルゴリズム 8. アルゴリズム２ 関数の利用 9. アルゴリズム３ 複数の関数の利用 10. 総合プログラム作成１ 11. 総合プログラム作成２ 12. 総合プログラム作成３ 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成します。 13. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員指定の教科書および印刷物	出席、レポート、試験などで総合評価します。

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（コンピュータアドヴァンス 1） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータアドヴァンス a）	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 GUI 部品を使ったアプリケーションや、リアルタイムに画面が変化するアニメーション・ゲームなど、身近なアプリケーションを題材とし、普段利用しているコンピュータの動作原理を学ぶ。 プログラムによる作品制作課題を 2 回行う。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。	1.プログラミングとは 2.GUI 部品の活用(1) 3.GUI 部品の活用(2) 4.グラフィックス 5.アニメーション 6.中間作品製作 7.中間作品相互評価 8.入出力（マウス、キーボードなど） 9.入出力（ファイルなど） 10.入出力（音楽） 11. .最終作品製作（企画） 12. .最終作品製作（実装） 13. 最終作品相互評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし（毎回、資料を配布する）	出席、レポート、作品による

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（コンピュータアドヴァンス２） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータアドヴァンス b）	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 データベースを利用した Web アプリケーションを題材とし、普段利用しているコンピュータやネットワークの動作原理を学ぶ。 プログラムによる作品制作課題を設ける。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。	1.Web アプリケーションとは 2. HTML 3. プログラムによる HTML の生成 4. データベースとは 5. データベースの操作(1) 6. プログラムを用いたデータベースの操作 7. プログラム，データベース，HTML の統合 8.なデータベースの操作(2) 9. セキュリティ 10. 作品製作（企画） 11.作品製作(実装１) 12.作品製作(実装２) 13.相互評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし（毎回、資料を配布する）	出席、レポート、作品プログラムによる

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ホームページ作成） 現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	担当者	A. ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現代社会には欠かせないホームページ作成に必要と思われる基本知識を履修することができる。また、ホームページ作成の練習の際、以下に示しているような技術を身につけることを目的とする。 1）ホームページ作成の基本操作を学ぶ（タグうち）。 2）Dynamic HTML の基本作成を学ぶ（スクリプト）。 3）マルチメディアを活用する。 4）情報や資料などを WEB 上で公開する。 5）WEB デザインの裏知識を得る。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1 コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバ 3 ページ構成、編集方法、初めてのページ作成 4 画像、背景、GIF アニメーション、色の作成 5 テキスト処理、フォント、リスト、リンク 6 テーブル、ページのレイアウト 7 マップ、画像などの絶対位置設定、スタイル 8 BODY、Document コンポネントへのアクセス 9 イベント処理 10 ダイナミック HTML、スクリプト 11 レポートの作成、HTML での音声 12 レポートの作成、HTML での動画 13 アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ、他著『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店；川名和子著『初めて作るホームページ』技術評論社；http://www.abacuss.com/HTML_help/	出席、レポートによる

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ホームページ作成） 現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	担当者	A. ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現代社会には欠かせないホームページ作成に必要と思われる基本知識を履修することができる。また、ホームページ作成の練習の際、以下に示しているような技術を身につけることを目的とする。 1）ホームページ作成の基本操作を学ぶ（タグうち）。 2）ynamic HTML の基本作成を学ぶ（スクリプト）。 3）ルチメディアを活用する。 4）報や資料などを WEB 上で公開する。 5）WEB デザインの裏知識を得る。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1 コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバ 3 ページ構成、編集方法、初めてのページ作成 4 画像、背景、GIF アニメーション、色の作成 5 テキスト処理、フォント、リスト、リンク 6 テーブル、ページのレイアウト 7 マップ、画像などの絶対位置設定、スタイル 8 BODY、Document コンポネントへのアクセス 9 イベント処理。直線、資格、円形、ベジューなどの起動のシミュレーション 10 ダイナミック HTML、スクリプト 11 レポートの作成、HTML での音声と動画 12 レポートの作成、WEB、PSP ゲーム作成練習 13 アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ、他著『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店；川名和子著『初めて作るホームページ』技術評論社；http://www.abacuss.com/HTML_help/	出席、レポートによる

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ホームページ作成） 現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。 その参加の足がかりとして、自分のホームページを作成し、PC 入門で学んだ知識をさらに深めながら、社会に自分が持っている情報を公開する活動について深く考えられることが特に重要になる。 この授業の目的は、このような情報公開に関する知識やスキルを学ぶことである。 実際にホームページ作成を行いながら、情報公開の背景にあるインターネットの脅威、ネチケット、個人情報、技術革新等の現代社会の重要なキーワードについて体系的に理解を深める視点をもって講義は行う。 授業内で各自が作成したホームページは世界中の人たちが閲覧するので、この講義の成果として獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。 さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようにお願いしたい。	1　ホームページの仕組み 2　ホームページの作成環境 3　ホームページの作成 4　HTML ファイルの公開 5　スタイルシート基礎 6　画像表示 7　表とレイアウト 8　ホームページの構成 9　ファイルシステム上の構成 10　インターネット上の諸問題 11　ホームページ上の特殊効果追加 12　スタイルシート応用 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介	出席、レポート、小テストによる総合評価

０８年度 ０７年度以前	現代社会２（ホームページ作成） 現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。 その参加の足がかりとして、自分のホームページを作成し、PC 入門で学んだ知識をさらに深めながら、社会に自分が持っている情報を公開する活動について深く考えられることが特に重要になる。 この授業の目的は、このような情報公開に関する知識やスキルを学ぶことである。 実際にホームページ作成を行いながら、情報公開の背景にあるインターネットの脅威、ネチケット、個人情報、技術革新等の現代社会の重要なキーワードについて体系的に理解を深める視点をもって講義は行う。 授業内で各自が作成したホームページは世界中の人たちが閲覧するので、この講義の成果として獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。 さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようにお願いしたい。	1　ホームページの仕組み 2　ホームページの作成環境 3　ホームページの作成 4　HTML ファイルの公開 5　スタイルシート 6　画像表示 7　表とレイアウト 8　ホームページの構成 9　ファイルシステム上の構成 10　インターネット上の諸問題 11　ホームページ上の特殊効果追加 12　スタイルシート応用 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介	出席、レポート、小テストによる総合評価

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間２（東洋の健康哲学ａ） 自然・環境・人間（Ⅳ）（東洋の健康哲学ａ）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間の在り方 利便性に富んだ生活と人間生活の不健康化 医学的進歩と世界の医療環境の現状疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることの意味を理解し、人間もその一員としての意識と共に地球単位での将来を考える事が健康になる最も大事な近道といえる。そのために個々人が如何なる考えと、意識を持ち、実行できるかを理解し学ぶことが必要である。	①・ガイダンス・健康問題の現状分析（１） ②・　　健康問題の現状分析（２） ③・時代の変遷と健康問題の推移 ④・食事情の影響と意識 ⑤・東洋の健康哲学の現代に与える影響 ⑥・健康意識と現実生活の歪み ⑦・動物としての人間の担う地球環境の健康問題とは ⑧・世界の健康理論・現状の検証 ⑨・東洋的身体観・西洋的身体観 ⑩・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論の意味する事とは。 ⑪・健康の意義 ⑫・健康を阻害するものとは？ ⑬・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席状況(50%)・レポート(50%))評価とする

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間２（東洋の健康哲学ｂ） 自然・環境・人間（Ⅳ）（東洋の健康哲学ｂ）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることとは 半世紀の社会状況・生活文化度と健康問題を検証 人間生活の経済・個人の欲・近代化の副産物としての様々な現象を基に「健康とは？」を考える。	①・ガイダンス・健康問題の現状分析（１） ②・　　健康問題の現状分析（２） ③・時代の変遷と健康問題の推移 ④・食事情の影響と意識 ⑤・健康は誰のものか ⑥・健康意識と現実生活の歪み ⑦・動物としての人間の担う地球環境の健康問題とは ⑧・世界の健康問題と安全・安心を担う事とは ⑨・家庭・企業・過去・未来・時代・国を健康問題から検証して考える ⑩・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論の意味する事とは。 ⑪・健康の意義と現実 ⑫・健康を阻害するものとは？ ⑬・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席状況(50%)・レポート(50%))評価とする

０７年度以前	自然・環境・人間（Ⅳ）（統計と調査法）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける． ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており，それを巧みに利用しながら生活している．「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが，より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる．この授業では日常的なデータを素材として，その性質を記述し，現象の本質を推測できるように，科学的な分析方法を使うことを学ぶ．統計手法を学ぶのではない．身の回りの世界を客観的に理解するのである． 授業では表計算ソフトと統計ソフトを使用する．数学やパソコンの前提知識は必要としない．グループ学習をベースに，ディスカッションやデータ収集を通して経験的に理解を促す．	第 1 回目　(1) データを集めてみよう　ー統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 (2) データの傾向を見よう　ー度数分布，相対度数，度数分布表 (3) データをグラフ化しよう　ー量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 第 2 回目　データの特徴を数値で表そう　その 1　ー代表値（平均値，中央値，最頻値），分布の歪み，能力テストと到達度テスト 第 3 回目　データの特徴を数値で表そう　その 2　ー正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度 第 4 回目　偏差値って何？　ー標準得点，偏差値 第 5 回目　データを採点しよう（これまでのまとめ） 第 6 回目　テストを見直す　ー信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 第 7 回目　学習時間と英語の成績の関係を数値で表す　ー相関散布図，相関関係の種類，相関係数，回帰直線 第 8 回目　学習時間と英語の成績には関係があるか？　ー相関検定，欠損値の推定 第 9 回目　偶然か，特殊能力か？　ー記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 第 10 回目　あさがお観察日記　ー対応がない場合の t 検定，分散分析 第 11 回目　ダイエット観察日記　ー対応がある場合の t 検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 第 12 回目　出身地と麺類の好みに関係はあるか？　ークロス集計，クロス表，カイ二乗検定 第 13 回目　アンケートから何がわかるか？（これまでのまとめ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山口和範著『よくわかる統計解析の基本と仕組み：統計データ分析入門』秀和システム，2004 年，ISBN 4-7980-0913-X	（定期試験（60%）＋ 平常授業における課題（40%））x 出席率

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	自然・環境・人間（Ⅳ）（身近な自然観察　春）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・　講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・　一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 *詳細は 1 回目の講義で説明する。* **講義の目的** ・　身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** ・　植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに　簡単なテストの後、講義内容の説明 2　実験室内における心得・実験器具の説明 3　キャンパスウオッチング 1　種の識別 4　身近な植物の観察 1　花の構造 5　顕微鏡使用法 1　顕微鏡の構造 6　顕微鏡使用法 2　ミクロメーターの使用 7　顕微鏡使用法 3　細胞の大きさと数 8　キャンパスウオッチング 2　五感を働かす 9　身近な植物の観察 2　　果実の構造 10 身近な植物の観察 3　葉の構造 11 自然保護運動 12 身近な植物の観察 4　根の構造 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、プリント配布	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

０７年度以前	自然・環境・人間（Ⅳ）（身近な自然観察　秋）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・　講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 ・　一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 *詳細は 1 回目の講義で説明する。* **講義の目的** ・　身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** ・　植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに：簡単なテストの後、講義の内容を説明 2　身近な植物の観察 1 3　キャンパスウオッチング 1：種の同定 4　蛋白質の分析 5　生産構造図の作成 6　種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7　身近な植物の観察 2 8　光合成の色素の分析：クロマトグラフィー利用 9　身近な植物の観察 3 10 キャンパスウオッチング：五感を働かす 11 形質と分類 12 身近な植物の観察 4 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度プリント配布	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

０７年度以前	自然･環境･人間（Ⅳ）（情報検索と加工）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報化社会において、知的資源である情報を効果的に活用することは不可欠である。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深める。コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではコンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進める。講義形式の授業では、情報検索の基本的な考え方について述べながら、代表的な検索システムの仕組みなどの説明を行う。 本講義では、データベースや WWW 検索エンジン、質疑応答システムを用いて情報検索の演習を通して、実践的な能力の養成を目的とする。	1　オリエンテーション／情報検索 2　情報検索の基礎技術 3　情報検索システムの仕組み 4　WEB サーチエンジン：ロボットとインデックス 5　インターネット検索･サーチエンジンによる検索／演習（1） 6　インターネット検索･サーチエンジンによる検索／演習（2） 7　テキスト検索技術 8　データベースとシソーラス 9　文献検索・図書の検索／演習 10　質問応答技術 11　質問応答システムの演習 12　総合演習、発表 13　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の講義で指示する。 必要に応じて資料を配布する。	出席、レポートおよび期末試験により、総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	自然･環境･人間（Ⅳ）（コンピュータ構造論）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。	1　ハードウェアとソフトウェア 2　ファイル編成とデータベース データベースの概要、データベースの種類 3　データベース管理システム（DBMS） DBMS の目的と構成 4　データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5　コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LAN の構成とアクセス方式 6　インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS 7　インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8　インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9　マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10　情報検索 情報検索の方法と演習 11　情報システムを支える技術 12　ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 13　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
最初の講義で指示する。 毎回の講義で必要な教材は配布する。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

０８年度	自然･環境･人間２（コンピュータと言語）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1　講義の概要と目標、情報科学とは 2　データ表現、基数変換、論理演算 3　コンピュータの構成要素 4　ソフトウェアの役割、体系と種類 5　オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 6　プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7　データ構造―リスト、スタック、キュー、2 分木 8　アルゴリズムーアルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9　コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10　コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11　機械翻訳システムの演習 12　インターネット上の多言語処理技術 13　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	自然・環境・人間（Ⅳ）（マルチメディア論）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
動画・音声など、いまやインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは、ただ単に指示通りに貼り付けるだけであり、その原理をマスターしている人はほとんどいない。これらを自分の力で処理・コントロールすることを目指し、より表現力が豊かなものにできるようにしたい。 いろいろの手法はあるが、ここでは標準となりつつあるソフトのフラッシュを使い、それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。 もちろん、これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、あくまでもそれは導入としてであり、今後よりいっそうの進化にもつなげられるものとしたい。	1. ガイダンス 2. イラストの作成 3. フレームアニメーションの作成 4. トゥイーンアニメーションの作成 5. テキストを使ったアニメーション 6. 作品の製作① 7. インタラクティブなボタンの作成 8. アニメーション 9. 写真の利用 10. サウンドの貼り付け 11. HP のアップロード 12. 作品の製作② 13. 作品の製作③
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜提示・配布する。	いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０７年度以前	自然・環境・人間（Ⅳ）（体育経営スポーツマネージメント）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツマネジメントの基礎を学ぶことを目的とし、テキストを詳読します。 毎週、学んだ項目に関して、身近な事例を調査し、レポートを作成、提出してもらいます。 実践・実習科目なので、コミュニケーションのために顔写真１枚と受講票の提出をお願いします。 定員があります。	第１週　ガイダンス 第２週　第１章ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの概念・発展・カリキュラム 第３週　第２章研究、理論、そして実践 第４週　第３章会計と予算 第５週　第４章スポーツ経済学 第６週　第５章スポーツ法 第７週　第６章コミュニケーション 第８週　第７章スポーツマーケティング 第９週　第８章経営管理 第１０週　第９章大学トレードマークライセンス 第１１週　第１０章人事問題 第１２週　第１１章倫理 第１３週　第１２章スポーツマネジメントの将来展望

テキスト、参考文献	評価方法
「Ｔｈｅ　Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｏｆ　Ｓｐｏｒｔ」の日本語版（１９９５年）	出席、毎週のレポート、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価します。

０７年度以前	自然･環境･人間（Ⅳ）（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 今、私達は様々な形でスポーツを楽しむことができます。競技として、趣味としてスポーツをプレーしたり、健康のために実践したりすることや、観戦してスポーツの魅力を味わうこともあります。スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。その身体機構を理解することで実践するときにも観戦するときにも個人個人でよりスポーツの魅力を感じることができるといえます。そこで本講義では運動中の身体各部の機能や適応について理解すること、そして各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。 〔講義概要〕 講義内容は基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。そしてスポーツパフォーマンスの向上にかかせないトレーニング科学や栄養学などについても取り上げます。実際にスポーツ中の生理データを測定したり、ビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。	１．オリエンテーション ２．身体の基本的な機能 ３．筋の基本構造と機能 ４．筋が力を発揮する仕組み ５．動きをコントロールする神経系 ６．エネルギー供給機構① ７．運動と循環 ８．トレーニングの基礎 ９．様々なスポーツ種目とその強化の現状 １０．　スポーツと栄養 １１．　こども・高齢者・しょうがい者とスポーツ １２．　トップアスリートを取り巻く環境 １３．　まとめ ＊講義の内容の順番は変わる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『イラスト運動生理学』　朝山正己　他編　東京共学社	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

０８年度 ０７年度以前	自然・環境・人間２（からだの仕組み） 自然・環境・人間（Ⅳ）（からだの仕組み）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示しています。たとえば、暑いと汗をかいたり、運動中に心臓がどきどきしたりといった反応があげられます。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が提供されていますが、まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、場合によっては実際に試してみたりします。また、健康やそれにかかわる環境などについてのテレビ、映画、新聞などの情報を各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。毎回授業のテーマに沿ったレポートの提出により理解の定着を図ります。	１．オリエンテーション－生きている仕組みを考える ２．体温調節－汗は最強 ３．摂食調節－お腹が空く、脳が空く ４．「食」についてグループ討論会 ５．体液調節－のどの渇きは脳のサイン ６．睡眠－眠くなるのはなぜ？ ７．生物時計－体の中に時計がある？ ８．呼吸と循環－息して生きてる ９．感覚－第６感？ １０．　神経－「運動神経がない」人はいない！ １１－１３．からだの情報交換会！（体験プログラム） ＊講義の順番は変わる可能性があります

テキスト、参考文献	評価方法
『やさしい生理学』　森本武利・彼末一之編　南江堂	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

０７年度以前	自然・環境・人間（Ⅳ）（リーダーシップ論）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えていく。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としている。 互いの指導を題材に、ふりかえりと相互評価を行い、リーダーシップに求められる要素を考えていく。 個人発表では、自らの経験とリーダーシップ理論との関連で作成したレポートを発表し、全体で討議する。	1　オリエンテーション 2　リーダーシップとは 3　リーダーシップ理論１ 4　リーダーシップ理論２ 5　問題解決活動指導計画の作成 6　問題解決活動の指導１ 7　ふりかえりと相互評価１ 8　問題解決活動の指導２ 9　ふりかえりと相互評価２ 10　教育におけるリーダーシップとは 11　個人発表と討議１ 12　個人発表と討議２ 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配布する。	出席、授業への取り組み姿勢、個人発表

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ･レクリエーション（インラインスケートa）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 [講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。	1 オリエンテーション インラインスケートとは 2 用具合わせ 基本動作１ 3 基本動作２ 4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 5 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 7 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 8 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 9 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 10 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 11 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 12 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション 13 実技テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度（実技テスト）

	スポーツ・レクリエーション（インラインスケートb）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目標とします。 [講義概要] インラインスケートの技術のバリエーションであるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーも積極的に行います。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。 秋学期から受講する学生も受け入れます。	1 インラインホッケーの楽しみ方 2 自由な動き作り：パイロンテクニックその１ 3 自由な動き作り：パイロンテクニックその２ 4 自由な動き作り：パイロンテクニックその３ 5 自由な動き作り：カーブとトランジションその１ 6 自由な動き作り：カーブとトランジションその２ 7 自由な動き作り：クロッシングその１ 8 自由な動き作り：クロッシングその２ 9 自由な動き作り：その他のバリエーションその１ 10 自由な動き作り：その他のバリエーションその２ 11 インラインホッケー 12 インラインホッケー 13 インラインホッケー・まとめ インラインホッケーは、毎回練習途中で適宜取り入れます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。この授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、そして自分でプログラムを選択して実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグランドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 　各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど外のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。	1.　オリエンテーション 2.　自分の『ウェルネス』について考えてみよう 3.　からだをほぐしてリラックス 4.　ウォーキングを楽しむ《春》 5.　ストレッチングのススメ 6.　快適ニコニコペースで歩く・走る 7.　自分の体重を使って筋力アップ 8.　ウォーキングを楽しむ《初夏》 9.　バランスボールを使ってみよう 10.　きれいな姿勢のためのエクササイズ 11.　ヨガの基本ポーズ 12.　ウォーキングを楽しむ《夏》 13.　春学期の総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門ｂ）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。この授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、そして自分でプログラムを選択して実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグランドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 　各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど外のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。	1.　これまでのプログラムを振り返る 2.　リズムに合わせてからだを動かしてみよう 3.　ウォーキングを楽しむ《初秋》 4.　ストレッチング・筋力アップ①・ヨガ 5.　ストレッチング・筋力アップ②・ヨガ 6.　ストレッチング・ボールエクササイズ・ヨガ 7.　ウォーキングを楽しむ《秋》 8.　なわとびエクササイズ 9.　ストレッチング・その場でステップ 10.　からだをあたためるエクササイズ 11.　ウォーキングを楽しむ《冬》 12.　これまでのプログラムからリクエスト 13.　秋学期の総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 テニスを通じて、健康・体力づくりの認識を深め、スポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツ実践のための基礎を養う。 〔講義概要〕 テニスの基本技術の習得と、ルールやマナーおよび歴史的背景を学ぶことによって、テニスへの理解を内面から深める。技術および体力別にグループに分かれて活動し、基本技術→簡易ゲーム→ダブルスゲームと、それぞれのレベルに合わせて行います。 〔受講生への要望〕 テニスにふさわしい服装およびテニスシューズを用意すること。 ＊雨天時は教場が変更になる場合があるので、３棟１階体育掲示板・体育館掲示板を確認すること。	1. オリエンテーション 授業内容の説明と個人カードの作成 （写真を必ず用意すること　４×３） 2. 初歩的な技術の確認とグループ編成 3. グラウンドストローク（フォア・バック） 4. グラウンドストローク（フォア・バック） 5. ボレー・スマッシュ 6. サーブ＆レシーブ 7. ルール・マナー・審判法 8. ダブルス中心の簡易ゲーム 9. ダブルス中心のゲーム形式 10. ダブルスゲーム　リーグ戦 11. ダブルスゲーム　リーグ戦 12. ダブルスゲーム　団体戦 13. ダブルスゲーム　団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に紹介します。	出欠状況、授業態度、技術の習熟度、ゲームの結果を加味して総合的に評価する。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 テニスを通じて、健康・体力づくりの認識を深め、スポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツ実践のための基礎を養う。 〔講義概要〕 テニスの基本技術の習得と、ルールやマナーおよび歴史的背景を学ぶことによって、テニスへの理解を内面から深める。技術および体力別にグループに分かれて活動し、基本技術→簡易ゲーム→ダブルスゲームと、それぞれのレベルに合わせて行います。 〔受講生への要望〕 テニスにふさわしい服装およびテニスシューズを用意すること。 ＊雨天時は教場が変更になる場合があるので、３棟１階体育掲示板・体育館掲示板を確認すること。	1. オリエンテーション 授業内容の説明と個人カードの作成 （写真を必ず用意すること　４×３） 2. 春学期の復習とグループ編成 3. 基本技術（ストローク・ボレー・サーブ） 4. ゲームにおける基本戦術（サーブ＆レシーブ） 5. ゲームにおける基本戦術（ネットプレー） 6. ダブルス・リーグ戦 7. ダブルス・リーグ戦 8. ダブルス・リーグ戦 9. チーム編成とチーム練習 10 チーム対抗戦. 11. チーム対抗戦 12. チーム対抗戦 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に紹介します。	出欠状況、授業態度、技術の習熟度、ゲームの結果を加味して総合的に評価する。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。 3 基本技術の練習。 4 〃 5 〃 6 〃 7 〃 8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 9 〃 10 〃 11 〃 12 〃 13 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。 2 基本技術の練習。 3 〃 4 〃 5 〃 6 〃 7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 〃 13 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスａ）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。	第１週　ガイダンス 第２週　受講票（顔写真１枚）作成と実技開始 第３週～第１３週 色々な組み合わせによりダブルスのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスｂ）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。	第１週　ガイダンス 第２週　受講票（顔写真１枚）作成と実技開始 第３週～第１３週 色々な組み合わせによりダブルスのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 　生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、テニスの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 　テニスの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるテニスのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはダブルスをメインとして行う。 〔受講生への要望〕 　各自、テニスシューズを必ず用意してください。テニスにふさわしい服装で参加してください。 ★雨天時には教室で講義を行うか、場所を変えて実技を行います。	１．オリエンテーション ２．ラケットとボールに慣れよう ３．ラケットとボールに慣れよう ４．ストローク（フォア･バック） ５．ストローク（フォア･バック） ６．ボレーの形 ７．サーブとレシーブ ８．ルールを知って、ゲームを始めてみよう ９．ダブルスゲームの中で動きの確認 １０．　ゲーム １１．　ゲーム １２．　ゲーム １３．　ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 オリエンーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン（8、9、PW、SW）のスウィング（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する） 5 学内でプラスティック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 7 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 8 ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球） 9（反復練習） 10（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック 11（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック） 12（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック） 13 テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット（3、5、7、9、PW、SW）（個別指導とフォームのチェック） 3 １番ウッド（ドライバー）３番ウッド（スプーン）の打法と練習 4 ロングアイアン（3、4）ショット練習 5 ロングアイアン（3、4）ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 11 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 12 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 13 テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。

	スポーツ・レクリエーション（サッカーａ）	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　スポーツには，歴史的，系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール，戦術，それらをとりまく社会環境というものは，人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では，サッカーを学びながら，独自の運動文化に触れ，サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。 ＜講義概要＞ 　ゲームを中心に行っていくが，その準備段階において技術，戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームなどをとりいれていく。つまり技術，戦術を個別に取り出して練習するのではなく，常にゲームを意識して，ゲーム形式のトレーニングの中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい，有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。	1. オリエンテーション 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. ３対３もしくは４対４のゲーム。パスとサポート。 4. ４対４もしくは５対５のゲーム。パスとサポート。 5. ５対５もしくは６対６のゲーム。３人目の動き。 6. ７対７もしくは８対８のハーフコートゲーム。３人目の動き。攻撃のリズム。 7. ８対８もしくは９対９のハーフコートゲーム。プレッシャーのかけ方。 8. １０対１０もしくは１１対１１の４分の３コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方。 9. １０対１０もしくは１１対１１の４分の３コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方と全体の動き 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 13. フルコートでのゲーム。リーグ戦。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特になし 参考文献：特になし	出席点：６０％　授業への取り組み方：２０％ 技能：２０％

	スポーツ・レクリエーション（サッカーｂ）	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　スポーツには，歴史的，系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール，戦術，それらをとりまく社会環境というものは，人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では，サッカーを学びながら，独自の運動文化に触れ，サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。 ＜講義概要＞ 　ゲームを中心に行っていくが，その準備段階において技術，戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームなどをとりいれていく。つまり技術，戦術を個別に取り出して練習するのではなく，常にゲームを意識して，ゲーム形式のトレーニングの中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい，有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。	1. ポストプレーについて①。 2. ポストプレーについて②。 3. ポストプレーからの展開について①。 4. ポストプレーからの展開について②。 5. ポストプレーを使って攻撃のリズムを作ることについて。 6. 攻撃のリズムを作りながら，展開を変えていくことについて。 7. 攻撃の幅について。 8. ポジションとシステムについて。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦① 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④ 13. リーグ戦⑤
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特になし 参考文献：特になし	出席点：６０％　授業への取り組み方：２０％ 技能：２０％

	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを多く行うことにより活動量を確保し、体力の向上・維持を目標とする。内容は大学生が理解し、実行できる内容とレベルを追求したく、サッカーをより深く学習することを希望するサッカーが好き、あるいは得意と思われる学生の受講を歓迎する。ただし、技能レベルの優劣は問わない。 又、学習課題を授業外でも自分たちの自主活動ならびに指導等に活用できるよう、より系統的に、かつ単純化したものとし、高度なサッカー観戦にも役立つよう配慮して授業を進める。 [講義概要] サッカーの技術、戦術から大学生に合った課題を抽出し、各時間３分の１程度を課題学習にあて、３分の２程度をゲーム中心の展開とする。準備運動はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講者への要望] 人工芝のフィールドで行うため、スパイクシューズの着用、また、ストッキング、ショーツもできたら用意することを望む。	１．オリエンテーション（教室、個人票記入等） ２．測定（技能、体力等）　簡単なゲーム ３．技術課題練習基礎編①　ゲーム ４．技術課題練習基礎編②　ゲーム ５．技術課題練習基礎編③　ゲーム ６．技術課題練習基礎編④　ゲーム ７．戦術課題練習基礎編① ８．戦術課題練習基礎編② ９．戦術課題練習基礎編③ １０．戦術課題練習基礎編④ １１．戦術課題練習基礎編⑤ １２．サッカーの歴史と世界史の関係（雨天時、教室） １３．評価のためのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
「サッカースキル（技術と戦術)」松本光弘著　学習研究社、　「サッカーのテクニック」スピンドラー著松本光弘訳、ベースボールマガジン社	出席状況を評価の 60%とし、平常の授業態度、グループワークでの貢献度、ゲームにおけるパフォーマンス等を 40%として評価する。

	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを多く行うことにより活動量を確保し、体力の向上・維持を目標とする。内容は大学生が理解し、実行できる内容とレベルを追求したく、サッカーをより深く学習することを希望するサッカーが好き、あるいは得意と思われる学生の受講を歓迎する。ただし、技能レベルの優劣は問わない。 又、学習課題を授業外でも自分たちの自主活動ならびに指導等に活用できるよう、より系統的に、かつ単純化したものとし、高度なサッカー観戦にも役立つよう配慮して授業を進める。 [講義概要] サッカーの技術、戦術から大学生に合った課題を抽出し、各時間３分の１程度を課題学習にあて、３分の２程度をゲーム中心の展開とする。準備運動はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講者への要望] 人工芝のフィールドで行うため、スパイクシューズの着用、また、ストッキング、ショーツもできたら用意することを望む。	１．オリエンテーション、ゲーム（フィールド、秋学期から受講者の個人票記入等） ２．体力回復と簡単なゲーム ３．守備課題練習①　ゲーム ４．守備課題練習②　ゲーム ５．得点課題練習①　ゲーム ６．得点課題練習②　ゲーム ７．チーム戦術攻撃課題練習①　ゲーム ８．チーム戦術攻撃課題練習②　ゲーム ９．より高度な戦術課題練習①　ゲーム １０．より高度な戦術課題練習②　ゲーム １１．ハイレベルの質を求めたサッカーの体験 １２．現代のサッカーの現状（雨天時、教室） １３．評価のためのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
「サッカースキル（技術と戦術)」松本光弘著　学習研究社、　「サッカーのテクニック」スピンドラー著松本光弘訳、ベースボールマガジン社	出席状況を評価の 60%とし、平常の授業態度、グループワークでの貢献度、ゲームにおけるパフォーマンス等を 40%として評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズ a）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的に身体運動が必要な時代を迎えている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにしたい。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニングプログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力の維持・向上について考える。	１．年間授業計画の説明　実施上の諸注意 ２．トレーニングルームの使用上の注意　体力測定について ３．体力測定の実施　体力の現状の把握 ４．トレーニングの実践と理論　最大筋力について ５．トレーニングの実践と理論　最大筋力向上のための負荷の設定について ６．トレーニングの実践と理論　酸素摂取量について ７．トレーニングの実践と理論　最大酸素摂取量の増大について ８．体力測定の実施　前回測定値との比較　負荷の検討 ９．トレーニングの実践と理論　筋持久性について １０．トレーニングの実践と理論　筋持久性のトレーニングについて １１．トレーニングの実践と理論　筋持久性と筋線維 １２．トレーニングの実践と理 １３．体力測定の実施　測定値の変化について
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下光正『トレーニングの科学的基礎』ブックハウスＨＤ	出席席回数、授業への参加態度、トレーニングの達成度などにより決定する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズ b）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的に身体運動が必要な時代を迎えている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにしたい。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニングプログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力の維持・向上について考える。	１．授業計画の説明　実施上の諸注意 ２．体力測定の実施　体力の現状の把握 ３．トレーニングの実践と理論　トレーニングと栄養について ４．トレーニングの実践と理論　摂取エネルギーについて ５．トレーニングの実践と理論　トレーニングと心拍数について ６．トレーニングの実践と理論　年齢と心拍数について ７．体力測定の実施　前回測定値との比較　負荷の検討 ８．トレーニングの実践と理論　現代社会と歩行　歩行のエネルギー代謝 ９．トレーニングの実践と理論　歩行計について １０．トレーニングの実践と理論　ジョギングについて １１．トレーニングの実践と理論　体力について １２．体力測定の実施　測定値の変化及び評価 １３．トレーニングの実践と理論　半期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下光正『トレーニングの科学的基礎』ブックハウスＨＤ	出席回数、授業への参加態度、トレーニングの達成度などにより決定する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス a）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 デトックスとはからだの中の毒素を抜く（体内浄化）ことを意味しています。健康ブームに置かれている現代の私たちは、からだに良いものを取り入れようと、栄養の摂取にばかり目を向けていました。しかし、効率よく栄養を吸収させるためには、まず体内にたまっている老廃物を出すこと（＝デトックス）が先決であることが分かってきました。 この講義では、エクササイズを行うことによりからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できるからだづくりを目指します。また、この講義では様々なエクササイズを行いますが、いずれのエクササイズも競うことが目的ではなく、楽しんで行うことが目的です。この講義を通して自分に合ったエクササイズを見つけられたら、ぜひ生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）	1　オリエンテーション 年間授業計画の説明　実施上の諸注意 2　スポーツ型デトックスについて パワーヨーガ① 3　パワーヨーガ② 4　パワーヨーガ③ 5　パワーヨーガ④ 6　リズムボクシング（ボクササイズ）① 7　リズムボクシング（ボクササイズ）② 8　リズムボクシング（ボクササイズ）③ 9　リズムボクシング（ボクササイズ）④ 10　エアロビクス① 11　エアロビクス② 12　エアロビクス③ 13　テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業への参加態度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス b）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 デトックスとはからだの中の毒素を抜く（体内浄化）ことを意味しています。健康ブームに置かれている現代の私たちは、からだに良いものを取り入れようと、栄養の摂取にばかり目を向けていました。しかし、効率よく栄養を吸収させるためには、まず体内にたまっている老廃物を出すこと（＝デトックス）が先決であることが分かってきました。 この講義では、エクササイズを行うことによりからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できるからだづくりを目指します。また、この講義では様々なエクササイズを行いますが、いずれのエクササイズも競うことが目的ではなく、楽しんで行うことが目的です。この講義を通して自分に合ったエクササイズを見つけられたら、ぜひ生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）	1　スポーツ型デトックスについて ストレッチ&筋コンディショニング① 2　ストレッチ&筋コンディショニング② 3　ストレッチ&筋コンディショニング③ 4　ストレッチ&筋コンディショニング④ 5　エアロビクス① 6　エアロビクス② 7　エアロビクス③ 8　エアロビクス④ 9　ステップエクササイズ① 10　ステップエクササイズ② 11　ステップエクササイズ③ 12　ステップエクササイズ④ 13　テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業への参加態度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールａ）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 [講義概要] 　前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。 [受講者への要望] 雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。	1　年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明 2　キャッチボール （ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法） 3　ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法）　トスバッティング 4　ピッチング（各種投法の復習）　ハーフバッティング 5　守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング 6　守備練習（各ポジションの守備方法）　シートノック 7　ベースランニングとスライディングの練習 バント練習（内野手の連携プレー） 8　シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習 9　審判の方法についての説明　チーム編成（1） （ポジション・打順を決める）　練習試合 10　チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D 11　チーム練習（トスバッティング）　試合 A～C、B～D 12　チーム練習（バント）　試合 A～D、B～C 13　技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールｂ）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 [講義概要] 　試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。 [受講者への要望] 雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。	1　総合的練習（1）　審判方法の復習 2　総合的練習（2）　スコアブックのつけ方についての説明 3　チーム編成（2）（以下、各々試合３回ごとに編成をかえる）　練習試合 4　チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ）試合 E～F、G～H 5　チーム練習　試合 E～G、F～H 6　チーム練習　試合 E～H、F～G 7　チーム編成（3）　チーム練習　試合 I～J、K～L 8　チーム練習　試合 I～K、J～L 9　チーム練習　試合 I～L、J～K 10　チーム編成（4）　チーム練習　試合 M～N、O～P 11　チーム練習　試合 M～O、N～P 12　チーム練習　試合 M～P、N～O 13　技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールa）	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3 前回の復習 ゲームの実施 4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5 前回の復習。リーグ戦 6 リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8 前回の復習 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 13 リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールｂ）	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 基本練習。 リーグ戦 2 基本練習。 リーグ戦 3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 リーグ戦 4 前回の復習。 リーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 13 リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起きをしてコンディションを整えて出席するように。欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1. 授業内容の説明と個人資料カード作成 （写真を必ず用意すること） 2. 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて 3. 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイングフットワークなどの基本練習 4. サーブ・レシーブ　簡易ゲーム 5. フォアーハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6. バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7. カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8. ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 9. ダブルスゲーム　パートナーと動きを考える 10. ダブルスゲーム 11. シングルス・トーナメント戦 12. シングルス・トーナメント戦 13. 技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用してルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起きをしてコンディションを整えて出席するように。欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1. チーム編成とチーム内シングルスリーグ戦 2. キャップ・マネージャーなどの選出と シングルスリーグ戦 3. チーム対抗戦 1 4. チーム対抗戦 2 5. チーム対抗戦 3 6. チーム対抗戦 4 7. 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8. シングルス・予選リーグ戦 9. 決勝リーグ戦 10. 決勝リーグ戦 11. シングルス・トーナメント戦 12. シングルス・トーナメント戦 13. 技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 　技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	1．オリエンテーション 　授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．実技事業の開始　用具の準備と片づけの仕方と基本知識動作などについて 3．ボールの打ち方・スイングの基本 4．サーブ・レシーブの練習　　簡易ゲーム 5．フォアーハンド・バックハンドの練習　　簡易ゲーム 6．上記の復習 7．カット・スマッシュ練習　シングルスゲーム 8．グループ内でのシングルスリーグ戦 9．上記に同じ 10．上記に同じ 11．各グループ同順位リーグ戦 12．上記に同じ 13．技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 　技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	1．基本的技術の春学期の復習 2．上記と同じ　　ダブルスの動き 3．ダブルスの簡易ゲーム 4．上記と同じ 5．上記と同じ 6．日替わりチーム編成をしチーム内でのダブルスリーグ戦 7．上記と同じ 8．上記と同じ 9．固定チームを編成しチーム対抗戦 1 10．チーム対抗戦 2 11．チーム対抗戦 3 12．チーム対抗戦 4 13．技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
到達目標 ・グループでの練習やゲームを通して、卓球のルールや知識の習得、仲間とスポーツを楽しむ態度の形成。 ・基本技術の獲得とそれを用いて、自分たちのリズム、テンポでラリーができる。 ・ダブルスの動きが理解・実践できる。 ・技術的には、フォアハンド、バックハンド、サービスレシーブを練習する。 ・ゲームを進行するため、シングルス・ダブルスのルールを理解し、覚える。 ・道具の準備、かたづけ、使い方を覚える。	1．オリエンテーション。 2．遊びを取り入れて、様々な動作で体ならし。 3．実際に打ってみる。 4．フォアハンドの練習。 5．バックハンドの練習。 6．サービスの練習。 7．レシーブの練習。 8．ルールの収得。 9．ボールの回転を意識して変化球を練習。 10．シングルス、ダブルスのゲームを行う。 11．　〃 12．　〃 13．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席の状況、参加姿勢、レポートで決定する。具体的には、室内用のくつ、服装、自主性、協調性等の徹底と発揮。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
到達目標 ・グループでの練習やゲームを通して、卓球のルールや知識の習得、仲間とスポーツを楽しむ態度の形成。 ・基本技術の獲得とそれを用いて、自分たちのリズム、テンポでラリーができる。 ・ダブルスの動きが理解・実践できる。 ・技術的には、フォアハンド、バックハンド、サービスレシーブを練習する。 ・ゲームを進行するため、シングルス・ダブルスのルールを理解し、覚える。 ・道具の準備、かたづけ、使い方を覚える。	1．オリエンテーション。 2．遊びを取り入れて、様々な動作で体ならし。 3．実際に打ってみる。 4．フォアハンドの練習。 5．バックハンドの練習。 6．サービスの練習。 7．レシーブの練習。 8．ルールの収得。 9．ボールの回転を意識して変化球を練習。 10．シングルス、ダブルスのゲームを行う。 11．　〃 12．　〃 13．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、参加姿勢、レポートで決定する。具体的には、室内用のくつ、服装、自主性、協調性等の徹底と発揮。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） 卓球は、生涯にわたって楽しむことが出来るスポーツである。その卓球の楽しさを、ゲームを通して理解する。 （講義概要） 卓球の基礎的技術・戦術を身につけるとともに、シングルスやダブルスのゲームを通して、ルールやマナー、仲間との協力や安全に対する態度も習得する。 （受講生への要望） 快適に動けるスポーツ・ウエアと体育館用シューズを用意して下さい。	1) オリエンテーション 2) 卓球入門（基礎知識）、道具の準備・後片付け 3) 基礎：ラレットとボールに慣れよう 4) 基礎：フォアハンドストローク、バックハンドストローク 5) 同上及び最初のゲーム 6) 基礎：サービスとレシーブ 7) 同上およびシングルスゲーム 8) カット、スマッシュ+ゲーム 9) シングルスゲーム 10) シングルスゲーム 11) ダブルスゲーム 12) ダブルスゲーム 13) シングルス、ダブルスゲーム、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点、授業態度を重視し、技能点、体力点等を総合して行う。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） 卓球は、生涯にわたって楽しむことが出来るスポーツである。その卓球の楽しさを、ゲームを通して理解する。 （講義概要） 卓球の基礎的技術・戦術を身につけるとともに、シングルスやダブルスのゲームを通して、ルールやマナー、仲間との協力や安全に対する態度も習得する。 （受講生への要望） 快適に動けるスポーツ・ウエアと体育館シューズを用意して下さい。	1) 前学期の復習 2) チーム編成とシングルスゲーム（チーム内リーグ形式） 3) 同上 4) 同上 5) 同上、シングルスゲームのチーム対抗 6) 同上 7) 同上 8) 同上 9) ダブルスゲーム（チーム内練習） 10) 同上 11) ダブルスゲームのチーム対抗 12) 同上 13) 同上、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点、授業態度を重視し、技能点、体力点等を総合して行う。

	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。	1. オリエンテーション 2−3. ファンダメンタルを身につけよう ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 4−5. ファンダメンタルを身につけよう 様々なシュート、ストップ・ターンの使い方 6−7. ファンダメンタルを身につけよう ディフェンスの基本、パスのもらい方、動きの中でのシュート 8. 1対1：ハーフコート・オールコート 9. 2対2：スクリーンプレー 10. 速攻：ワンマン・ツーメン・スリーメン 11. ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 12. ゲーム 13. ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール b）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。	1. ファンダメンタルの確認 2. ファンダメンタルの確認 3. チーム編成のためのゲーム 4. チームごとの練習およびゲームプラン 5. リーグ戦 6. リーグ戦 7. リーグ戦 8. リーグ戦（チーム編成） 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦（チーム編成） 12. リーグ戦 13. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。	１．年間授業計画の説明　実技実施上の諸注意　連絡事項の確認 ２．バトミントン競技の全般的説明　クリヤーの基本 ３．ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 ４．クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの基本 ５．各種ストロークの復習　サービスの基本練習 ６．シングルス（半面）の実施　カウント方法の確認　フットワークの基本練習 ７．シングルス（半面）試合の実施　審判法の理解　審判の実施 ８．ドライブの基本練習　正規のシングルスゲーム ９．スマッシュの基本練習　シングルスゲーム １０．各種ストロークの練習　ダブルスの基本 １１．ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 １２．グループ毎のダブルス試合・審判 １３．リーグ戦の実施　結果の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
中田稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。

	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心がける。	１．基本的なストロークの復習　ダブルスの試合方法と審判法の確認 ２．ダブルスの組み合わせの決定　グループによるリーグ戦の実施 ３．ダブルスの基本的フォーメーションの確認　ゲームの実施 ４．ゲーム結果の分析　問題点の整理　ゲームの実施 ５．ゲームの進行状況の確認　組み合わせを変えてのリーグ戦 ６．ダブルスゲームの進行　課題をゲーム内で解決 ７．ダブルスゲームの進行と面白さの理解 ８．ゲームの中での課題の練習　高いレベルのゲーム ９．ダブルスゲームの進行　組み合わせの変更 １０．ゲームの中での課題の練習　フォーメーションに合わせたプレーの練習 １１．ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員が実施 １２．ゲームの中での課題の練習 １３．ゲームの進行　勝敗・順位のついて整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
中田稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法のついても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．年間授業計画の説明　実技実施上の諸注意　連絡事項の確認 ２．バドミントン競技の全般的説明　クリヤーの基本 ３．ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 ４．クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの基本 ５．各種ストロークの復習　サービスの基本練習 ６．半面シングルスの実施　カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 ７．半面シングルス　審判法の理解　審判の実施 ８．ドライブの基本　正規のシングルスゲーム ９．スマッシュの基本　シングルスゲーム １０．各種ストロークの練習　ダブルスの基本 １１．ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 １２．リーグ戦の実施 １３．リーグ戦の実施
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．バトミントン競技の全般的説明 ２．基本的なストロークの復習　ダブルスの試合方法と審判法の確認 ３．ダブルスの組み合わせの決定　いくつかのグループによるリーグ戦 ４．ダブルスの基本的フォーメーションの確認をしてゲームの中に生かす。 ５．ゲーム結果の分析　問題点の整理　ダブルスゲームの実施 ６．ゲームの進行状況の確認　組み合わせを変えてのリーグ戦 ７．ダブルスゲームの進行　課題をゲーム内で解決 ８．ダブルスゲームの進行　ゲームの面白さの理解 ９．ダブルスゲームの進行　高いレベルのゲーム １０．ゲームの中での課題の練習　組み合わせの変更 １１．ゲームの中での課題の練習　相手のプレーヤーの動きに合わせたプレーの練習 １２．ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員が実施 １３．ゲームの進行　勝敗・順位について整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] 　バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 　出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2. 基本技と動き（アンダー、オーバー)、パスゲーム１。 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 4. レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム３。 5. 基本技と動き（アンダー　フローターサーブ）サーブレシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ 6. 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 7. チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション サーブレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8. ゲーム、６チームによるリーグ戦。 9. 上記と同じ。8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 10. 上記と同じ。 11. 上記と同じ。 12. 上記と同じ。 13. 上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] 　バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 　出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1. チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。 2. 上記と同じ。 3. サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4. 上記と同じ。 5. スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に攻撃スパイク、サーブ） 6. 上記と同じ。 7. 上記と同じ。 8. ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ、ブロック)。 9. 上記と同じ。 10. ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11. 上記と同じ。 12. ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 13. 上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（バレーボールａ）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 〔講義概要〕 バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技能を習得するとともに、それらをもとにした戦術理解、ゲーム展開を学習する。 〔受講生への要望〕 技術のあるなしに関わらず、バレーボールに興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。 出席を重視するが、履修態度や運動の服装等もチェックする。また、体育館シューズを必ず用意すること。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．アンダーハンドパス・オーバーハンドパス 3．サーブレシーブ 4．レシーブとトス（ボールのつなぎ） 5．レシーブとカバーリング（守りのフォーメーション） 6．スパイク（攻撃の組み立て） 7．チーム編成・ルールの確認・審判の役割と配置 8．ゲーム　サーブレシーブのフォーメーション 9．ゲーム　3段攻撃による攻め 10．ゲーム 11．ゲーム 12．ゲーム 13．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（バレーボールｂ）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 〔講義概要〕 バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技能を習得するとともに、それらをもとにした戦術理解、ゲーム展開を学習する。 〔受講生への要望〕 技術のあるなしに関わらず、バレーボールに興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。 出席を重視するが、履修態度や運動の服装等もチェックする。また、体育館シューズを必ず用意すること。	1．復習　基本技術の確認 2．サーブレシーブからの攻撃の組み立て 3．攻めにつなぐ技能（トスの発展） 4．攻めの技能（ハーフスイングによる正確な返球） 5．スパイクに対するレシーブフォーメーション 6．ネット際のボールの処理 7．チーム編成（攻守のフォーメーション） 8．リーグ戦① 9．リーグ戦② 10．リーグ戦③ 11．リーグ戦④ 12．リーグ戦⑤ 13．総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルａ）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．ボールに親しむ　簡易ゲーム 3．ボールコントロール　ボールタッチ・ドリブル 4．ボールコントロール　パス 5．1対1の攻防 6．ポジションの理解 7．GKトレーニング 8．2対1の攻防 9．1対2の攻防 10．ルールの理解とゲームの進め方 11．リーグ戦 12．リーグ戦 13．リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルｂ）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．復習　基本技術の確認 2．攻撃のグループ戦術 3．守備のグループ戦術 4．セットプレーからの攻撃 5．セットプレーに対する守備 6．チームごとの練習 7．審判法ならびにゲーム運営 8．リーグ戦① 9．リーグ戦② 10．リーグ戦③ 11．リーグ戦④ 12．リーグ戦⑤ 13．リーグ戦⑥
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルａ）	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 色々な組み合わせによるチームを編成し、ゲームを行う。	第１週　ガイダンス 第２週　受講票（顔写真１枚）作成と実技開始 第３週～第１３週 色々な組み合わせによりゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルｂ）	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 色々な組み合わせによるチームを編成し、ゲームを行う。	第１週　ガイダンス 第２週　受講票（顔写真１枚）作成と実技開始 第３週～第１３週 色々な組み合わせによりゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルａ）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 色々な組み合わせによるチームを編成し、ゲームを行う。	第１週　ガイダンス 第２週　受講票（顔写真１枚）作成と実技開始 第３週～第１３週 色々な組み合わせによりゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルｂ）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 色々な組み合わせによるチームを編成し、ゲームを行う。	第１週　ガイダンス 第２週　受講票（顔写真１枚）作成と実技開始 第３週～第１３週 色々な組み合わせによりゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（フリスビーa）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。 [講義概要] 　フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。 　学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。	1 オリエンテーション　フライングディスクとは 2 基本姿勢とグリップの練習 3 バックハンドスロウの投げ方 4 バックハンドスロウを正確に投げよう 5 バックハンドスロウを遠くへ投げよう 6 サイドアームスローの投げ方 7 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう 8 スローのバリエーションと競技種目の紹介 9 アルティメットのルールと楽しみ方 10 アルティメットの試合 11 アルティメットの試合 12 アルティメットの試合 13 アルティメットの試合・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション（フリスビーb）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。 [講義概要] 　フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。 　学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。 　春学期も履修した学生には、より高度なスローをマスターしていただきます。	1 オリエンテーション　フライングディスクとは 2 基本姿勢とグリップの練習 3 バックハンドスロウの投げ方 4 バックハンドスロウを正確に投げよう 5 バックハンドスロウを遠くへ投げよう 6 サイドアームスローの投げ方 7 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう 8 スローのバリエーションと競技種目の紹介 9 アルティメットのルールと楽しみ方 10 アルティメットの試合 11 アルティメットの試合 12 アルティメットの試合 13 アルティメットの試合・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンス a）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ボールルームダンス（社交ダンス）とは、音楽にのって歩くこと。 エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることも楽しさの一つです。靴を履いていて美しく歩くことが基本です。太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。 基本は音楽にのって歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、「ダンスは難しい」という概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。男女が協力してやるのがこの**ボールルームダンス（社交ダンス）**の特性で生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法。 ダンス靴を使用。 休まない事	①・ダンスとは ②・正しく歩く・カップルで音楽に乗って歩く 3拍子（ワルツ）で歩く（ステップ） ③・ワルツの音楽を踊る ④・ラテンのリズム・ジルバ&サンバをステップする ⑤・ブルース（4拍子）に馴染む ⑥・タンゴらしくステップすることとは？ ⑦・ラテンのリズム・ルンバ&チャチャチャ ⑧・ダンスでのマナーとパーティについて ⑨・世界のダンスを観る（武道館にて） ⑩・日本のダンスと比較 ⑪・リード・フォローについて ⑫・楽しく踊るとは ⑬・パーティを楽しく
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席を重視・ＶＴＲで自己採点

	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンス b）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期にボールルームダンスを受講し基礎をマスターしていること。 前学期より自然に踊ることを目的とし、楽しく誰とでも踊れるフィガー（ステップ）を身に着ける。 英国で行われているシークエンスダンス（１６小節）を、姿勢を正しく保ち、楽しく・大勢の人と踊ることを学ぶ。 ラテンリズムのサルサに挑戦。 回転する事とは、そんなに難しくない。 楽しく踊りながら、コミュニケーションしよう。 休まないこととあきらめないこと。 ダンスは楽しむもの。	①・シークエンスダンスについて ②・音楽を楽しんで歩く（ダンスの基本） ③・誰とでも踊れる（ダンスの基本） ④・サルサ・マンボ・ジルバで自由に踊る ⑤・速いリズム・クイックステップ・チャチャチャ ⑥・緩やかなリズム・ブルース・スローフォックストロット（日本の演歌）・ルンバ ⑦・ワルツ・で回転する（スピンターン） ⑧・タンゴらしくステップする ⑨・一流ダンサーの踊りを観る（三笠宮杯） ⑩・季節・祭りとダンス ⑪・甘いダンス・・ルンバ・ワルツ・ブルース ⑫・激しい表現ダンス・・タンゴ・サンバ・ジルバ ⑬・どなたとでも楽しく踊る
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席を重視・ＶＴＲで自己採点

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 [講義概要] 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ＆コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については天候と学生の要望に応えて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。	1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間つくりの時間：グループゲーム 3.仲間つくりの時間：グループゲーム 4.アウトドアクッキングの計画 5.仲間つくりの時間：アウトドアクッキング 6.アウトドアレクリエーション種目 7.アウトドアレクリエーション種目 8.アウトドアレクリエーション種目 9.アウトドアレクリエーション種目 10.アウトドアレクリエーション種目 11.アウトドアレクリエーション種目 12.アウトドアレクリエーション種目 13.合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
夏季集中合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの２つの合宿のうち、どちらか一つに参加してもらいます。 海浜型野外活動では、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング、シーカヤック、蛍狩り、夜空の観察、釣り等、良好な自然環境と地域の利点を活かすプログラムを体験してもらいます。 ウィンドサーフィンでは、千葉県館山市の獨協学園海の家で、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境の特徴を知ることにより、安全で楽しく過ごすためのノウハウを知ってもらいます。 どちらの活動も自然環境を背景としますので、天候により、活動内容を変えることがあります。 内容の詳細については、スポーツ・レクリエーションのホームページを見てください。 [受講者への要望] 夏季集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。	[集中授業]　「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日：2008 年 7 月末から 4 泊 5 日 費用：35000 円（宿泊費、傷害保険、プログラム費） [集中授業]　「ウインドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日：2008 年 9 月中旬　4 泊 5 日 費用：20000 円（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費）
テキスト、参考文献	**評価方法**
現地でプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 [講義概要] 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ＆コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については天候と学生の要望に応えて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。	1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間つくりの時間：グループゲーム 3.仲間つくりの時間：グループゲーム 4.仲間つくりの時間：アウトドアクッキングの計画 5.アウトドアクッキング 6.アウトドアレクリエーション種目 7.アウトドアレクリエーション種目 8.アウトドアレクリエーション種目 9.アウトドアレクリエーション種目 10.アウトドアレクリエーション種目 11.アウトドアレクリエーション種目 12. アウトドアレクリエーション種目 13.合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
上記のアウトドアレクリエーションと組み合わせて履修していただきます。 山岳高原地域で行うアウトドアレクリエーションを夏季集中合宿で体験します。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。 皆さんには、山に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の昼食はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。これもこの授業の大切な目的としています。 履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。	[集中授業] 「山岳型アウトドアレクリエーション」(予定) 場所：長野県志賀高原 宿泊：志賀パレスホテル 期日：2008 年 8 月下旬 4 泊 5 日 費用：35000 円（宿泊費、傷害保険、プログラム費） 第 1 日目　横手山散策（スカイレーターとリフト） 第 2 日目　池めぐりコース登山 第 3 日目　東館山植物園観察とバーベキュー （キャンプ場泊） 第 4 日目　草津白根山登山と草津温泉探訪 第 5 日目　前山散策と絵手紙創作鑑賞会
テキスト、参考文献	**評価方法**
現地でプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バランストレーニング）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
バランストレーニングを通じて、滑走するスポーツを経験する。また、スポーツを通じてのコミュニケーション能力の向上を図る。 トランポリン、インラインスケート、バランスボール、バランスボード、インラインホッケーなどなど・・・色々な運動を行う。 スノースポーツ合宿とのセット履修となっている。	第１週　ガイダンス 第２週　受講票（顔写真１枚）作成と実技開始 第３週～第１２週 トランポリン、バランスボール、バランスボード、インラインスケート、インラインホッケー 第１３週　スノースポーツガイダンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション（スノースポーツ）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
スノースポーツを通じて、滑走するスポーツを経験し、合宿を通じてのコミュニケーション能力の向上を図る。 アルペンスキー、スノーボード、テレマークスキー、スノーブレード、ビッグフットなどなど・・・色々なスノースポーツを行う。 受講者数により、２班または３班編成で、担当者＋指導教員１名または２名で行う。 学内のバランストレーニング授業とのセット履修が原則となっている。 所定の費用を納入すること。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、３棟１０５スポーツ・レクリエーション準備室にて担当者の許可を得てから履修登録すること。この場合の合宿ガイダンスは、掲示により連絡し、別途に行う。	合宿期間：２００９年２月１８日～２１日を予定 合宿場所：セントレジャー舞子スノーリゾート 宿泊場所：外谷旅館 合宿費用：２９０００円（交通費・レンタル代は別） （１泊３食６０００円×３日） （リフト料金４日間１００００円） （保険・雑費１０００円）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

（秋）	スポーツ･レクリエーション（スケートトレーニング）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 秋学期の毎週の授業と冬季集中授業の組み合わせですので、どちらか一つだけを受講することはできません。 スケート、カーリング初心者の方から受講できます。	1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その１ 5 フォアストロークとバリエーション その２ 6 ホッケーにチャレンジ その１ 7 ホッケーにチャレンジ その２ 8 バックストロークとバリエーション その１ 9 バックストロークとバリエーション その２ 10 フォアクロッシング その１ 11 フォアクロッシング その２ 12 バッククロッシング 13 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（冬季集中）	スポーツ･レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講してもらいます。アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3 泊 4 日で合宿を行います。 アイススケートとカーリング アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 親しい友人をつくる 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。また、宿泊地近隣に温泉があるので希望者は毎日の日程終了後利用することが可能です。	合宿について 時期： 2009 年 2 月中旬予定 3 泊 4 日 場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊： 施設に近い民宿を利用 費用： 27000 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他） 1 日目 午後： アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜 ： 講義「カーリングの楽しみ方」 2 日目 午前： カーリング 道具の扱い方と基本技術 午後： カーリング大会 夜 ： 講義「アイススケートの基本」 3 日目 午前： アイススケート 午後： アイススケート 夜 ： 懇親会 4 日目 午前： アイススケート 午後： 昼食後解散 施設の都合により予定を変更することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
現地でプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

08 年度 07 年度以前	English (リーディング Ia) / (Academic Reading Strategies Ia) English 111-a Basic Reading Strategies English 112-a Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○ 現代社会、文化などに関する教材を用いて、語彙の習得・早く正確に読む力等を含む英語購読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いので、きちんと目を通し、しっかりと学習すること。 ○ TOEIC 語彙を身に着けるための統一副教材を使用する。 ○ 英語力を伸ばすために不可欠である教室外で英語に触れる機会を増やす方法として、コンピューターによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、日常的に学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピューター学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(１月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当教員の指示にしたがうこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示にしたがうこと。

08 年度 07 年度以前	English (リーディング Ib)/ (Academic Reading Strategies Ib) English 111-b Basic Reading Strategies English 112-b Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○ 現代社会、文化などに関する教材を用いて、語彙の習得・早く正確に読む力等を含む英語購読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いので、きちんと目を通し、しっかりと学習すること。 ○ TOEIC 語彙を身に着けるための統一副教材を使用する。 ○ 英語力を伸ばすために不可欠である教室外で英語に触れる機会を増やす方法として、コンピューターによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、日常的に学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピューター学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(１月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当教員の指示にしたがうこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。	各担当教員の指示にしたがうこと。

08 年度 07 年度以前	English（ライティング Ia)/(Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition English 122-a Composition **（国際関係法学科、総合政策学科）**	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	**授業計画**
○国際関係法学科・総合政策学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。この成果は、毎年、国際関係法学科の１年生が TOEIC スコアを１年で大きく伸ばしていることにはっきりと表れている。 ○原則として通年で履修すること。 ○2 年次に履修する「エッセイ」につながる基礎科目として位置付けられており、英語の論理構造を学び、論理的なパラグラフが書けるように訓練する。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 第１回　科目内容の説明および目指すスキルの説明 第２回　Writing about people 第３回　同上、Taking notes 第４回　同上、Paragraph format 第５回　同上、Mechanics 第６回　Narration 第７回　同上、Free writing 第８回　同上、Time order 第９回　同上、Mechanics 第 10 回　Description 第 11 回　同上、Clustering 第 12 回　同上、Spatial order 第 13 回　春学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加)、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

08 年度 07 年度以前	English（ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition English 122-b Composition **（国際関係法学科、総合政策学科）**	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	**授業計画**
○国際関係法学科・総合政策学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。この成果は、毎年、国際関係法学科の１年生が TOEIC スコアを１年で大きく伸ばしていることにはっきりと表れている。 ○春学期から引き続き、原則として通年で履修すること。 ○2 年次に履修する「エッセイ」につながる基礎科目として位置付けられており、英語の論理構造を学び、論理的なパラグラフが書けるように訓練する。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 第１回　秋学期の目標・授業内容の説明 第２回　Description (review) 第３回　同上、Mechanics 第４回　Paragraph organization 第５回　同上、Brainstorming 第６回　同上、Parts of a paragraph 第７回　同上､Topic sentence, supporting sentences 第８回　同上、Concluding sentence 第９回　More about paragraph organization 第 10 回　同上、Unity and coherence 第 11 回　同上、Transitional expressions 第 12 回　同上、Mechanics 第 13 回　秋学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加)、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

08年度	English(スピーキング Ia) /(Speaking in Academic Contexts Ia)（経済学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○この科目は、経済学部（経済学科・経営学科）1 年次のクラス指定科目である。原則として通年で履修すること。 ○この科目の目標は、英語スピーキングへの自信をつけるとともに、コミュニケーションのためのより良いスキルを身につけることである。目標とするスキルは、たとえば、 ・自分についてきちんと話すことができる ・相手についてきちんと尋ねることができる ・身近なトピックについてある程度の長さ会話を続けることができる ・相手の話に対して的確に対応をすることができる などである。さらに、これらのスキルについて、 ・意味のある内容を ・ある程度の正確さを持って ・立場や状況にふさわしく 話すことできることを目標にする ○TOEIC®テストのスコアにより習熟度別のクラス編成を行い、それぞれの現在の力に合ったクラスで勉強する。力をつけるには何よりも積極的なクラス参加が不可欠である。欠席せずに前向きな気持ちで受講してほしい。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 各スキルにふさわしいトピックを選んで授業が行われる。 第 1 回　科目内容の説明および目指すスキルの説明 第 2 回　Ways to extend conversation 第 3 回　Asking follow-up questions 第 4 回　Verbal and non-vernal cues 第 5 回　Agreeing and disagreeing 第 6 回　Expressing assuredness 第 7 回　Giving an opinion 第 8 回　Approximating 第 9 回　Inventing a word to overcome a language gap 第 10 回　Circumlocution 第 11 回　Rephrasing 第 12 回　Conversation strategies review 第 13 回　春学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

08年度	English(スピーキング Ib) /(Speaking in Academic Contexts Ib)（経済学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○この科目は、経済学部（経済学科・経営学科）1 年次のクラス指定科目である。春学期に引き続き、原則として通年で履修すること。 ○この科目の目標は、英語スピーキングへの自信をつけるとともに、コミュニケーションのためのより良いスキルを身につけることである。目標とするスキルは、たとえば、 ・自分についてきちんと話すことができる ・相手についてきちんと尋ねることができる ・身近なトピックについてある程度の長さ会話を続けることができる ・相手の話に対して的確に対応をすることができる などである。さらに、これらのスキルについて、 ・意味のある内容を ・ある程度の正確さを持って ・立場や状況にふさわしく 話すことできることを目標にする ○TOEIC®テストのスコアにより習熟度別のクラス編成を行い、それぞれの現在の力に合ったクラスで勉強する。力をつけるには何よりも積極的なクラス参加が不可欠である。欠席せずに前向きな気持ちで受講してほしい。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 各スキルにふさわしいトピックを選んで授業が行われる。 第 1 回　秋学期の目標・授業内容の説明 第 2 回　Confirmation questions 第 3 回　Clarifications 第 4 回　Expressing probability 第 5 回　Interrupting someone 第 6 回　Echoing instructions 第 7 回　Polite requests, responses and excuses 第 8 回　Getting a response 第 9 回　Soliciting details 第 10 回　Making comparisons 第 11 回　Finding the right word 第 12 回　Correcting someone 第 13 回　秋学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

０８年度 ０７年度以前	English(リスニング Ia) /(Academic Listening Strategies Ia)（法学部） English 141 - a　Basic Listening Comprehension（経済学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1. 経済学部（経済・経営）２年生は、English 141-a として履修する。 2. 法学部(法律･国際関係法･総合政策)１年生は､Academic Listening Strategies I-a として履修する。 ○　Academic Reading Strategies I とともに､全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○　中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○　英語を聞き取る力に自信をつけ、自然に話された会話体の英語を理解する力を向上させ、それと同時に、基本的な日常会話力を身につけることを目標とする。授業はＣＡＬ（コンピュータ教室）で行う。 ＵＳＢを各授業で持参すること。	春学期は教科書の前半部分を行う。 TOEIC を念頭に置いたリスニング・書き取り練習を毎週行うので、積極的に取り組むこと。 各ユニットに関する TOEIC を念頭に置いた小テストを毎週実施するので、しっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 統一期末テストを行う。 年度末(１月)に全員 TOEIC を受験するので､計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書(Viva! San Francisco) を使用する。 自分が使用する教科書を間違えないよう、教科書購入時には、曜日・時限・担当者名を必ず確認すること。	各担当教員の指示に従うこと。

０８年度 ０７年度以前	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)（法学部） English 141 - b　Basic Listening Comprehension（経済学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1. 経済学部（経済・経営）２年生は、English 141-b として履修する。 2. 法学部(法律･国際関係法･総合政策)１年生は､Academic Listening Strategies I-b として履修する。 ○　Academic Reading Strategies I とともに､全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○　中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○　英語を聞き取る力に自信をつけ、自然に話された会話体の英語を理解する力を向上させ、それと同時に、基本的な日常会話力を身につけることを目標とする。授業はＣＡＬ（コンピュータ教室）で行う。 ＵＳＢを各授業で持参すること。	秋学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので､計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書(Viva! San Francisco) を使用する。 自分が使用する教科書を間違えないよう、教科書購入時には、曜日・時限・担当者名を必ず確認すること。	各担当教員の指示に従うこと。

０８年度 07 年度以前	English(リスニング Ia) /(Academic Listening Strategies Ia) （ドイツ語、フランス語、法学部） English 142 - a　Speech Communication（経済学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1. 経済学部（経済・経営）2 年生は、English 142-a として履修する。 2. 法学部（法律・国際関係法・総合政策）1 年生の一部、外国語学部（ドイツ語・フランス語）1 年生全員は、Academic Listening Strategies I-a として履修する。 ○111/112 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門科目への橋渡しをすることを目標とする。 ○リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）または CAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○ＵＳＢを各授業で持参すること。指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。	春学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書 Quest Intro を使用する 自分が使用する教科書を間違えないよう、教科書購入時には、曜日・時限・担当者名を必ず確認すること。	各担当教員の指示に従うこと。

０８年度 ０７年度以前	English (リスニング Ib) /(Academic Listening Strategies Ib) （ドイツ語、フランス語、法学部） English 142 - b　Speech Communication（経済学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1. 経済学部（経済・経営）2 年生は、English 142-b として履修する。 2. 法学部（法律・国際関係法・総合政策）1 年生の一部、外国語学部（ドイツ語・フランス語）1 年生全員は、Academic Listening Strategies I-b として履修する。 ○111/112 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門科目への橋渡しをすることを目標とする。 ○リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）または CAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○ＵＳＢを各授業で持参すること。指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。	秋学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書 Quest Intro を使用する 自分が使用する教科書を間違えないよう、教科書購入時には、曜日・時限・担当者名を必ず確認すること。	各担当教員の指示に従うこと。

０８年度 ０７年度以前	English(リスニング Ia)/ (Academic Listening Strategies Ia) English142-a　Speech Communication(Super)	担当者	J. スティーベンソン C. カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
In this course you will build basic academic speaking and listening skills while also improving basic communicative skills such as daily conversation skills. **Listening Skills** We will use a variety of listening texts to practice listening strategies and to improve listening skills. You will learn how to be a better listener, how to paraphrase what you hear and how to take effective notes. The listening texts will increase in length, difficulty and topic. You will also do out-of-class listening projects so that you can continue to build listening skills on your own. **Speaking Skills** In each lesson, we will spend time practicing both daily conversation skills and more academic skills such as discussion and presentation skills. Some of your conversations, discussions and presentations will be recorded on video so that you can watch them and reflect on your own and your classmates' good points and areas to improve. After watching videos of your own and your classmates' presentations, etc you will write short reflective reports.	Lesson 1: Course Explanation Lessons 2-6: Topic 1 Lesson 7: Speaking Task 1 Lessons 8-11: Topic 2 Lesson 12: Speaking Task 2 Lesson 13: Wrap up and Course evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	20% Attendance, Participation and Homework 30% Quizzes 30% Speaking Tasks (and Reflective Reports) 20% Listening Projects

０８年度 ０７年度以前	English(リスニング Ib) /(Academic Listening Strategies Ib) English142-b　Speech Communication(Super)	担当者	J. スティーベンソン C. カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
In this course you will build basic academic speaking and listening skills while also improving basic communicative skills such as daily conversation skills. **Listening Skills** We will use a variety of listening texts to practice listening strategies and to improve listening skills. You will learn how to be a better listener, how to paraphrase what you hear and how to take effective notes. The listening texts will increase in length, difficulty and topic. You will also do out-of-class listening projects so that you can continue to build listening skills on your own. **Speaking Skills** In each lesson, we will spend time practicing both daily conversation skills and more academic skills such as discussion and presentation skills. Some of your conversations, discussions and presentations will be recorded on video so that you can watch them and reflect on your own and your classmates' good points and areas to improve. After watching videos of your own and your classmates' presentations, etc you will write short reflective reports.	Lesson 1: Course Explanation Lessons 2-6: Topic 1 Lesson 7: Speaking Task 1 Lessons 8-11: Topic 2 Lesson 12: Speaking Task 2 Lesson 13: Wrap up and Course evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	20% Attendance, Participation and Homework 30% Quizzes 30% Speaking Tasks (and Reflective Reports) 20% Listening Projects

07 年度以前	English 211-a Basic Reading Strategies English 212-a Reading Strategies （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、高等学校から大学英語へ、さらに専門英語への橋渡しをすることを使命として、１年次での講読科目である English 111/112 を重要なコア科目と位置付けているが、この English 211/212 はさらにその上位科目であり、原則として２年次で履修すること。原則として通年で履修すること。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○111/112 のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。 ○年度末（1 月）に、全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習を進めて行く。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。以下は一例である。 Class 1　授業目標、スキルの説明 Unit 1 School Uniforms Class 2　同上、Discussion about the topic Class 3　Unit 2 Courage and the News Class 4　同上、Discussion about the topic Class 5　Unit 3 Fighting Terrorism Class 6　同上、Doing Internet research about the topic Class 7　Unit 5 A Helping Hand Class 8　同上、Discussion about the topic Class 9　Unit 7 Me, Myself and I Class 10　同上、Discussion about the topic Class 11　Writing for poster presentation Class 12　Poster presentation discussion Class 13　Poster presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	Attendance / active participation / preparation TOEIC Vocab Quiz Assignments / Project Final Exam　などを基に評価する

07 年度以前	English 211 - b Basic Reading Strategies English 212 - b Reading Strategies （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○高等学校から大学英語へ、さらに専門英語への橋渡しをすることを目標とする。 ○原則として２年次で通年で履修であり、本科目は秋学期に履修すること。積極的に取り組んでもらいたい。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。 ○年度末（1 月）に、全員 TOEIC 試験を受験するので、1 年次より必ずスコアがアップするよう、計画的に学習を進めて行く。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。以下は一例である。 Class 1　授業目標、スキルの説明 Unit 9 21st Century Movies Class 2　同上、Doing Internet research about the topic Class 3　Unit 10 Music on the Radio Class 4　同上、Discussion about the topic Class 5　Unit 12 The War on Drugs Class 6　同上、Doing Internet research about the topic Class 7　同上、Writing your opinion about the topic Class 8　Unit 4 When is a Company too Big? Class 9　同上、Doing Internet research about the topic Class 10　Unit 6 Dropping the SAT Class 11　同上、Discussion about the topic, Comparison with the situation in Japan Class 12　同上、Writing your opinion about the topic Class 13　Presenting your opinion in a small group
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	Attendance / active participation / preparation TOEIC Vocab Quiz Assignments / Project Final Exam　などを基に評価する

07 年度以前	English 212 - a Reading Strategies (Super) （ドイツ語・フランス語学科、経済学部、法学部）	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○English 212 Super は、外国語学部（ドイツ語学科・フランス語学科）経済学部・法学部の２年次の学生を対象としている。１年終了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象に、学部の枠を取り払った授業を行う。各学部の必修科目の時間帯を避けるために 5 限目という時間帯に入っているが、このクラスに該当した学生はぜひ、履修してもらいたい。 ○原則として通年で履修すること。 ○English 112 Super に引き続き、読解力をさらにアップさせるための科目である。専攻が異なる学生がそれぞれ楽しんでもらえる教材を選び、多読・速読・精読の訓練を行う。補助題材は主に、新聞・雑誌などの記事を用いる予定である。 ○3 年次以降の各自の専門分野にも生かせる英語力をつけてもらいたい。 ○効果的に読むことへのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現することができるようになってもらいたい。 ○毎週授業のはじめに TOEIC の Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。	Tentative schedule of the Spring Term Class 1　授業内容、目標などの説明 Unit 1　The Millennial Generation Class 2　同上 Class 3　Unit 2　Cultural Encounters Class 4　同上 Class 5　Unit 3　Consumer Lifestyle Class 6　同上 Class 7　Unit 4　Aging Class 8　同上 Class 9　Unit 5　Youth in Action Class 10　同上 Class 11　Unit 6　Music Class 12　同上 Class 13　春学期のまとめ、Discussion & Reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
Global Outlook 2 (Advanced Reading) Brenda Dyer and Brenda Bushell (2004) McGraw Hill　（予定）	Attendance / active participation / preparation TOEIC Voc Quizzes Assignments & In-class Quizzes Final Exam　以上に基づき評価する

07 年度以前	English 212 - b Reading Strategies (Super) （ドイツ語・フランス語学科、経済学部、法学部）	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○春の授業の継続として、更なる語彙力、文法力をつけ、大学生にふさわしい総合的な英語運用力を身につけてもらうことを目標とする。 ○専攻が異なる学生が教室にいることのメリットを生かし、学生が意見を出し合うことのできる教材で多読・速読・精読の訓練を行う。 ○3 年次以降の各自の専門分野にも生かせる英語力をつけてもらいたい。 ○効果的に読むことへのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現することができるようになってもらいたい。 ○1月に実施される TOEIC®でより高い得点をとることを目標の１つにしていきたい。 ○予習･復習の量も多く、大変な授業ではあるが、さらなる実力アップのために頑張ってもらいたい。 ○毎週授業のはじめに TOEIC の Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。	Tentative schedule of the Fall Term Class 1　Unit 7　Value of Work Class 2　同上 Class 3　Unit 8　Inequality Class 4　同上 Class 5　Unit 9　Wisdom Class 6　同上 Class 7　Unit 10　Culture and Change Class 8　同上 Class 9　Unit 11　Managing Nature Class 10　同上 Class 11　Unit 12　The Final Frontier Class 12　同上 Class 13　秋学期のまとめ、Discussion & Reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
Global Outlook 2 (Advanced Reading) Brenda Dyer and Brenda Bushell (2004) McGraw Hill　（予定）	Attendance / active participation / preparation TOEIC Voc Quizzes Assignments & In-class Quizzes Final Exam　以上に基づき評価する

07 年度以前	English 221 - a　Basic Composition English 222 - a　Composition (国際関係法学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定し、成果をあげている。本科目は１年次履修の English 121/122 の上位科目である。原則として通年で履修すること。 ○121/122 ではパラグラフライティングを学んだが、ここではさらにそれを進歩させて、まとまった１つのエッセイを書くための基礎を学ぶ。国際関係法学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 第１回　科目内容の説明および目指すスキルの説明 第２回　Essay organization 第３回　同上、Brainstorming 第４回　同上、Introduction,　Body, Conclusion 第５回　同上、Mechanics 第６回　Logical division of ideas 第７回　同上、Grouping ideas logically 第８回　同上、Using examples for support 第９回　同上、Mechanics 第 10 回　Supporting an opinion 第 11 回　同上、Reading and forming an opinion 第 12 回　同上、Opinion essay 第 13 回　春学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

07 年度以前	English 221 - b　Basic Composition English 222 - b　Composition (国際関係法学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定し、成果をあげている。本科目は１年次履修の English 121/122 の上位科目である。原則として通年で履修すること。本科目は秋学期の開講であり、原則として、春学期に身につけたスキルをさらに伸ばすことを目指している。 ○まとまった１つのエッセイを英語で書くための基礎的な技術を学ぶ。国際関係法学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 第１回　秋学期の目標・授業内容の説明 第２回　Supporting and opinion (review) 第３回　同上、Mechanics 第４回　Comparison and contrast 第５回　同上、Interviewing 第６回　同上、Organization 第７回　同上、Block organization 第８回　同上、Thesis statements 第９回　同上、Concluding paragraphs 第 10 回　Exercise 1: Gender differences 第 11 回　Exercise 2: Alaska or Hawaii? 第 12 回　Exercise 3: Educational systems 第 13 回　秋学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

07 年度以前	English 241 - a　Basic Listening Comprehension English 242 - a　Speech Communication （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、1 年次で履修する English 141/142 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 241/242 はさらにその上位科目である。 ○原則として通年で履修すること。 ○TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。日常生活、また大学生活において重要なトピックのリスニングを通して、スキルを身につけていく。 ○リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、141/142 の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 第 1 回　科目内容の説明および目指すスキルの説明 第 2 回　topic: Smoking (skill: predicting) 第 3 回　同上 第 4 回　topic: Drinking (skill: taking notes) 第 5 回　同上 第 6 回　topic: Shopping (skill: reasoning) 第 7 回　同上 第 8 回　topic: Eating (skill: clarifying) 第 9 回　同上 第 10 回　topic: Violence (skill: predicting) 第 11 回　同上 第 12 回　topic: Racism (skill: comparing) 第 13 回　春学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

07 年度以前	English 241 - b　Basic Listening Comprehension English 242 - b　Speech Communication （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、1 年次で履修する English 141/142 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 241/242 はさらにその上位科目である。 ○春学期から引き続いて履修すること。 ○TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。日常生活、また大学生活において重要なトピックのリスニングを通して、スキルを身につけていく。 ○リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、141/142 の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。	各担当者により相違がある。以下は一例である。 第 1 回　秋学期の説明および目指すスキルの説明 第 2 回　topic: Racism 第 3 回　topic: Generations (skill: making hypotheses) 第 4 回　同上 第 5 回　topic: Marriage (skill: comparing) 第 6 回　同上 第 7 回　topic: Gun control (skill: having an opinion) 第 8 回　同上 第 9 回　topic: Family (skill: summarizing) 第 10 回　同上 第 11 回　topic: Discrimination (skill: having an opinion) 第 12 回　同上 第 13 回　秋学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。

０７年度以前	**English242-a Speech Communication (Super)**	担当者	C.カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
This course will give students the opportunity to develop their listening comprehension and communication skills in academic English by using authentic online content as a basis for in-class discussions and presentations. The course will be run as a content course in *media studies* with a focus on *critical thinking* skills. Students will be expected to participate in activities and discussion actively and collaborate with classmates on various projects. The main objectives of this course will be: • to build basic listening and communication skills in academic English • to build academic skills such as group discussion and presentation • to develop critical thinking skills on current issues • to foster student autonomy for future self-directed learning	**1.** Week 1: Greetings, Orientation Week 6: Presentation 1 Week 13: Presentation 2 Students will have opportunities to research and discuss a topic before presenting on it (in small groups or whole class). Topics will be selected by students and the teacher. Possible topics include: • Environment • Globalization • Health • Human Rights • Women's Rights ※ You will receive a more complete and detailed schedule in class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The text will be announced in class.	Grades will be based on active participation, quizzes, and homework. *Attendance is required*. ※出席方針: 欠席が 3 回を超えると単位を認めない。

０７年度以前	**English242-b Speech Communication (Super)**	担当者	C.カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
This course will give students the opportunity to develop their listening comprehension and communication skills in academic English by using authentic online content as a basis for in-class discussions and presentations. The course will be run as a content course in *media studies* with a focus on *critical thinking* skills. Students will be expected to participate in activities and discussion actively and collaborate with classmates on various projects. The main objectives of this course will be: • to build basic listening and communication skills in academic English • to build academic skills such as group discussion and presentation • to develop critical thinking skills on current issues • to foster student autonomy for future self-directed learning	Week 14: Greetings, Orientation Week 19: Presentation 3 Week 26: Presentation 4 Students will have opportunities to research and discuss a topic before presenting on it (in small groups or whole class). Topics will be selected by students and the teacher. Possible topics include: • Environment • Globalization • Health • Human Rights • Women's Rights You will receive a more complete and detailed schedule in class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The text will be announced in class.	Grades will be based on active participation, quizzes, and homework. *Attendance is required*. ※出席方針: 欠席が 3 回を超えると単位を認めない。

０７年度以前	English 311-a English for Specific Purposes （ドイツ語・フランス語学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科・フランス語学科の学生を対象とするクラス指定科目です。English 111/112, 211/212 で習得した要点をつかむ読解ストラテジーをさらに練習・応用し、さらに分野やテーマ特有の文章構成の理解、語彙の強化、論点に対する自分の意見の発表を含む、より高いレベルでの英語運用能力の訓練を行います。リーディングが中心の授業ですが、より効果的な英語力強化のため、リスニング、スピーキング、ライティングも統合されます。ディスカッション、発表など学生の積極的な参加が期待されます。	第１回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業テーマ・計画・テキスト・評価方法について説明される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員からの指示に従うこと。

０７年度以前	English 311-a English for Specific Purposes （ドイツ語・フランス語学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科・フランス語学科の学生を対象とするクラス指定科目です。English 111/112, 211/212 で習得した要点をつかむ読解ストラテジーをさらに練習・応用し、さらに分野やテーマ特有の文章構成の理解、語彙の強化、論点に対する自分の意見の発表を含む、より高いレベルでの英語運用能力の訓練を行います。リーディングが中心の授業ですが、より効果的な英語力強化のため、リスニング、スピーキング、ライティングも統合されます。ディスカッション、発表など学生の積極的な参加が期待されます。	第１回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業テーマ・計画・テキスト・評価方法について説明される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

０７年度以前	English 311 -a English for Specific Purposes（Super） （ドイツ語学科・フランス語学科）	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科３年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2 年終了時の TOEIC スコアの高かった学生を対象に、学科の枠を取り払った授業を行い、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。English 111/112, 211/212 で習得した要点をつかむ読解ストラテジーをさらに練習・応用し、さらに分野やテーマ特有の文章構成の理解、語彙の強化、論点に対する自分の意見の発表を含む、より高いレベルでの英語力の訓練を行います。リーディングを中心に、リスニング、スピーキング、ライティングも統合され、より効果的な英語力強化のため、グループディスカッションや発表など様々な授業活動を行います。授業活動はすべて英語で行います。	第１回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業テーマ・テキスト・評価方法についての詳細が説明される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で発表する。	出席、授業参加、課題、試験。

０７年度以前	English 311–b English for Specific Purposes（Super） （ドイツ語学科・フランス語学科）	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科３年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2 年終了時の TOEIC スコアの高かった学生を対象に、学科の枠を取り払った授業を行い、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。English 111/112, 211/212 で習得した要点をつかむ読解ストラテジーをさらに練習・応用し、さらに分野やテーマ特有の文章構成の理解、語彙の強化、論点に対する自分の意見の発表を含む、より高いレベルでの英語力の訓練を行います。リーディングを中心に、リスニング、スピーキング、ライティングも統合され、より効果的な英語力強化のため、グループディスカッションや発表など様々な授業活動を行います。授業活動はすべて英語で行います。	第１回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業テーマ・テキスト・評価方法についての詳細が説明される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で発表する。	出席、授業参加、課題、試験。

08 年度 07 年度以前	English (留学生 Ia) /(Basic English Skills for International Students Ia) English 110-a Introductory Reading Strategies	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
英語の基礎力をつけることを第一の目標とします。文法項目を軸として、音声上の重要事項の確認およびその練習、多読による読解力の向上、グループワーク、ペアワーク等も含めて様々な活動を行う中で英語の運用能力を向上させていくように授業を組み立てていく予定です。 英語力を向上させるためには、基礎力をしっかりと身につけることが不可欠です。そのためにも、予習・復習を欠かさず積極的に授業に参加することを重視します。	1. オリエンテーション、代名詞・be 動詞の現在形 2. 冠詞・形容詞 3. 複数形 4. 代名詞 5. 所有格 6. have の現在形 7. 所有代名詞 8. 数えられる名詞・数えられない名詞 9. 一般動詞の現在形（1） 10. 一般動詞の現在形（2） 11. 疑問文（1） 12. 疑問文（2） 13. 命令文
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar one　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、期末テスト等をもとに総合的に評価します。

08 年度 07 年度以前	English (留学生 Ib) /(Basic English Skills for International Students Ib) English 110-b Introductory Reading Strategies	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
基本的には春学期と同じですが、新たに秋学期で学ぶ内容のみならず、春学期に学んだことも応用・発展させてより幅広い活動を行うことによって、さらに英語の基礎的な運用能力を向上させることを目的とします。 春学期同様、予習・復習を欠かさず積極的に授業に参加することを重視します。	1. 複数形・場所を表す前置詞 2. can の用法 3. 現在進行形 4. 目的格 5. 許可・義務を表す表現 6. 量を表す表現 7. 副詞 8. 現在形と現在進行形 9. 過去形 10. 規則動詞 11. 不規則動詞 12. 未来形 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar one　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、期末テスト等をもとに総合的に評価します。

07 年度以前	English 211-a　Basic Reading Strategies	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○この科目は、大学入学以前にほとんど英語を学んでいない留学生を対象とし、English 110-a, b を履修した者がさらに英語学習を続けるための上位科目として設定されている。 ○原則として通年で履修することが期待されるが、春学期のみの履修も可能である。 ○それぞれの力に合った学習内容により、力をつけることを目標とする。 ○リーディングを中心とするが、文法の演習、語彙指導、スピーキング、プレゼンテーションなど、いろいろなアプローチで英語に触れることを通して英語に慣れ、学習を深める。また、ポスターやパワーポイントを使って自分の意見を発表する方法を学ぶ。 ○積極的な姿勢で臨むこと。また、スキル科目であるので、出席を重視する。	以下は教科書の配当であるが、これ以外に、文法演習、語彙練習、読解練習を行う。この資料は担当者が用意する。 第 1 回～第 4 回 プレゼンテーションとは何でしょう？ 　簡単なプレゼンテーションをしてみましょう。 　Informative Presentation とは？ 第 5 回～第 10 回 Mobile Phones -- Are they Dangerous? 　英文を読み、内容を把握する 　把握した内容を表にまとめる 　まとめた表を、よりプレゼンテーションに近い形に直す 　エッセイのアウトラインを書く 第 10 回～第 13 回 　手軽で効果的なポスターの作り方を学ぶ。 　パワーポイントを用いたスライド（ショー）の作り方を学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「リーディングから始めるプレゼンテーション入門」 アルク教育社 その他の資料は担当者が準備する	出席、積極的な参加、課題、小テスト、期末テストを基に評価する。

07 年度以前	English 211-b　Basic Reading Strategies	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○この科目は、大学入学以前にほとんど英語を学ばんでいない留学生を対象とし、English 110-a, b を履修した者がさらに英語学習を続けるための上位科目として設定されている。 ○原則として通年で履修することが期待されるが、秋学期のみの履修も可能である。 ○それぞれの力に合った学習内容により、力をつけることを目標とする。 ○リーディングを中心とするが、文法の演習、語彙指導、スピーキング、プレゼンテーションなど、いろいろなアプローチで英語に触れることを通して英語に慣れ、学習を深める。また、ポスターやパワーポイントを使って自分の意見を発表する方法を学ぶ。 ○積極的な姿勢で臨むこと。また、スキル科目であるので、出席を重視する。	以下は教科書の配当であるが、これ以外に、文法演習、語彙練習、読解練習を行う。この資料は担当者が用意する。 第 1 回～第 6 回 Environmental Issues --- Climate Change 　英文を読み、内容を把握する 　把握した内容を表にまとめる 　まとめた表を、よりプレゼンテーションに近い形に直す 　エッセイのアウトラインを書く 第 7 回～第 10 回 プレゼンテーション原稿の基本構成と重要表現 　プレゼンテーション原稿を書く 　上手に発表するための技術と実践練習 第 11 回～第 13 回 プレゼンテーションを行う 　自己評価の仕方 　peer 評価の仕方
テキスト、参考文献	**評価方法**
「リーディングから始めるプレゼンテーション入門」 アルク教育社 その他の資料は担当者が準備する	出席、積極的な参加、課題、小テスト、プレゼンテーション、期末テストを基に評価する。

０８年度 ０７年度以前	English （ライティング I a）/(Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語の必要不可欠な文法事項を再確認する必要性を感じている、TOEIC のスコアが３５０～５００の学生を対象としています。ただし、４５０～５００レベルの学生は、授業に物足りなさを感じるかもしれません。 授業では、 ①　「文法の復習とともに、１センテンスレベルの英文が確実に書けるように配慮した」テキストを用いて、文法事項の再確認と、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる（書く）練習をします。英文は、どれも BASIC なものばかりです。 各章の練習問題 I～III に関しては、学生に板書してもらい、添削及び解説しながら授業を進めてゆきます。練習問題の IV は、課題作文として、学生全員に提出してもらう予定です。 ②　また、学生の人数やレベル、及び、授業の進捗状況にあわせて、適宜プリントを併用して、簡単な課題作文を課すことも考えています。 詳しくは、ガイダンスで述べます。	以下の内容は、大まかな進行予定です。 英文を板書した場合、１回の授業で、１つの章が終わりません。従って、２回に１回空欄を入れてあります。 テストは、授業時間の一部を使って、５０点満点で、２度行う。（第１回の実施日は未定） 1　ガイダンス 2　第１章 3　第２章 4 5　第３章 6　第４章 7 8　第５章　　第１回テスト（実施日未定） 9　第６章 10 11　第７章 12　第８章 13　第２回テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための１５章』、**英宝社**	**授業時の発表点 ＋ 授業時のテスト ＋ レポート点** 評価に対応する欠席（遅刻 0.5 回）限度回数を設定： ＡＡ・Ａ：２回　　Ｂ：３回　　Ｃ：４回

０８年度 ０７年度以前	English （ライティング I b）/(Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
授業方針は、春学期と同じです。 テキストは、春学期の続きです。 ただし、選択授業の性格からして、学生の人数とレベルに変化が生ずる可能性があるので、授業方針に関しては、適宜若干の修正が必要になるかもしれません。 また、春学期に比べ秋学期には、プリントの併用が増えることが予想されます。	以下の内容は、大まかな進行予定です。 英文を板書した場合、１回の授業で、１つの章が終わりません。従って、２回に１回空欄を入れてあります。 テストは、授業時間の一部を使って、５０点満点で、２度行う。（第１回の実施日は未定） 1　ガイダンス 2　第９章 3　第 10 章 4 5　第 11 章 6　第 12 章 7 8　第 13 章　　第１回テスト（実施日未定） 9　第 14 章 10 11　第 15 章 12　プリント 13　第２回テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための１５章』、**英宝社**	**授業時の発表点 ＋ 授業時のテスト＋ レポート点** 評価に対応する欠席（遅刻 0.5 回）限度回数を設定： ＡＡ・Ａ：２回　　Ｂ：３回　　Ｃ：４回

０８年度 ０７年度以前	English（ライティングⅠa)/(Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
英語のライティングの訓練を主な目標とする。使用するテキストには、講読やリスニングを扱う部分もあるが、あくまでライティングの観点からそれらにも対処する。 英語を書くという作業には、あまりなじんでいない学生が多いことと思われるため、原理的で基礎的な構文作成から入り、徐々に英語表現のより充実したテクニックを目指す。 手書きもそれなりのメリットはあるものの、和文欧文を問わず、コンピュータによる文章作成が常識となりつつある現状に鑑み、文明の利器たるパソコンを英作の授業にも活用する。学生は机上に設置されたパソコンにより、英文の作成に従事してもらう。毎回何らかの英作の課題が出るため、それをワードにて作成し、プリントアウトしたものを提出してもらい、それを平常点に加算する。 書くということは、読んだり聞いたりすることと密接な連関がある。書くという作業は、ひとり独立した作業ではなく、精読や精聴（この言葉があるとして）に欠かせない基礎工事的な役割も果たす。英語の全般的な能力のさらなる伸長を視野に置いている者なら、この英作という地味な基礎工事は避けて通れないものと信じる。	１．イントロ ２．主語の選択 ３．名詞（１） ４．名詞（２） ５．代名詞 ６．冠詞 ７．形容詞（１） ８．形容詞（２） ９．副詞 １０．　比較 １１．　動詞（１） １２．　総復習 １３．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writing Updates　（金星堂）	平常点３０％　提出物２０％　定期試験５０％

０８年度 ０７年度以前	English（ライティングⅠb）/(Academic Writing Ib: Paragraph) English121-b Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	１．イントロ ２．動詞（２） ３．時制 ４．態 ５．動名詞 ６．不定詞 ７．接続詞 ８．前置詞 ９．関係詞 １０．　仮定法 １１．　語順 １２．　総復習 １３．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

０８年度 ０７年度以前	English （ライティングⅠa）/(Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	福田　哲哉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講座は、自分の考えを英語で表現するための基礎力を養成することを目的とします。春学期における到達目標は、英語による人物の紹介です。 講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。文法的に合っている英文を書くだけでなく、さまざまな目的に応じた表現や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。多様なトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習を繰り返しましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。	メインテーマ　その他の活動 1. 授業ガイダンス　作文「英語による自己紹介」 2. 作文を書き始める　プレゼンテーションの基本 3. 下書きの方法　作文「家族の紹介」 4. 見直しの方法１　パワーポイントの使い方 5. 見直しの方法２　作文「人物紹介」 6. 中間発表会　グループのテーマ決定 7. 物語・体験談１　作文「旅行紀」 8. 物語・体験談２　グループ・ディスカッション 9. 英語による描写法１　作文「私の好きな場所」 10. 英語による描写法２　原稿の読み合わせ 11. 作文のための分類１　作文「さまざまなー」 12. 作文のための分類２　リハーサル 13. プレゼンテーション「人物紹介」 以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thoughts into Writing（成美堂）	平常点 50% ジャーナル（レポート）30% プレゼンテーション 20%

０８年度 ０７年度以前	English （ライティングⅠb）/(Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	福田　哲哉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 春学期に引き続いて、英語表現の基礎力を養成することを目的とします。秋学期における到達目標は、自分の意見の表明です。 講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。文法的に合っている英文を書くだけでなく、さまざまな目的に応じた表現や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。多様なトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習を繰り返しましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。	メインテーマ　その他の活動 1. 授業ガイダンス　作文「夏休みの想い出」 2. 違いを明確に書く１　春のプレゼンテーションより 3. 違いを明確に書く２　作文「A と B の違い」 4. 問題解決策１　講師の模範プレゼンテーション 5. 問題解決策２　作文「ーのやり方」 6. 意見の表明１　グループのテーマ決定 7. 意見の表明２　作文「ーについての私の意見」 8. 中間発表会　グループ・ディスカッション 9. 英語でのメール　作文「友人への e メール」 10. 英語での履歴書１　原稿の読み合わせ 11. 英語での履歴書２　作文「私の履歴書」 12. ここまでの復習　リハーサル 13. プレゼンテーション「私たちの主張」 以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thoughts into Writing（成美堂）	平常点 50% ジャーナル（レポート）30% プレゼンテーション 20%

０８年度 ０７年度以前	English （ライティングⅠa）/(Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	堀　いづみ

講義目的、講義概要	授業計画
英作文を書くための基本を身につけることが目的です。一つ一つのセンテンスが繋がりを持ち、一つのパラグラフになり、複数のパラグラフが繋がりながら書かれたものは発展していきますね。この授業では、その過程の比較的最初の段階、つまり、センテンスどうしの繋がり方に注目します。 そこで、３行英文ライティングの演習という形で授業を行います。3 行のセンテンスを書くのです。これは、センテンスを書くレベルと、パラグラフを書くレベルの橋渡し的位置にある演習です。基本的な文法を復習しながら、センテンスとセンテンスの繋がり方に注目していきます。	基本的な文法の復習（進行形、未来形、助動詞、受動態、比較、不定詞、現在完了形など）を復習しながら、身近なテーマ（天気、季節、日常生活など）についての英文を、センテンスどうしの繋がりに注目しながら書きます。 1　進行形（天気） 2　進行形（天気） 3　未来形（季節） 4　未来形（季節） 5　助動詞（日常生活） 6　助動詞（日常生活） 7　助動詞（日常生活） 8　助動詞（日常生活） 9　受動態（生活） 10　受動態（生活） 11　比較（生活） 12　比較（生活） 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Three-line Writing in English　（成美堂）	出席率を含む授業参加度と、学期末の試験を総合的に評価します。

０８年度 ０７年度以前	English （ライティングⅠb）/(Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	堀　いづみ

講義目的、講義概要	授業計画
英作文を書くための基本を身につけることが目的です。一つ一つのセンテンスが繋がりを持ち、一つのパラグラフになり、更に複数のパラグラフどうしが繋がりながら書かれたものは発展していきます。この授業では、その過程の初期段階、つまり、センテンスどうしの繋がり方に注目します。 そこで、３行英文ライティングの演習という形で授業を行います。３行のセンテンスを書いていきます。これは、センテンスを書くレベルと、パラグラフを書くレベルの橋渡し的位置にある演習です。基本的な文法を復習しながら、センテンスどうしの繋がり方に注目していきます。	基本的な文法の復習（動名詞、前置詞、間接疑問文、接続詞、関係代名詞、関係副詞など）を復習しながら、様々なテーマ（交通、コミュニケーション、旅行、音楽、健康など）についての英文を、センテンスどうしの繋がりに注目しながら書きます。 1　分詞（交通） 2　分詞（交通） 3　動名詞（コミュニケーション） 4　動名詞（コミュニケーション） 5　前置詞（音楽） 6　前置詞（音楽） 7　間接疑問文（旅行） 8　間接疑問文（旅行） 9　接続詞（健康） 10　接続詞（健康） 11　関係代名詞（生活） 12　関係代名詞（生活） 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Three-line Writing in English　（成美堂）	出席率を含む授業参加度と、学期末の試験を総合的に評価します。

08 年度 07 年度以前	English (基礎文法 a) /(Special Topics : Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。	1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 過去形・過去進行形 3. 現在完了形と現在完了進行形 4. 現在完了形と過去形 5. 疑問文 6. 動名詞・so, neither の用法 7. 依頼の表現・不可算名詞 8. 使役動詞・間接話法（１） 9. 過去完了・過去完了進行形 10. 目的語を２つ取る動詞・時を表す節 11. 間接話法（２） 12. 必要・義務の表現 13. 推量の表現・so, such の用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。

08 年度 07 年度以前	English (基礎文法 b) /(Special Topics : Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。	1. オリエンテーション、both, neither ; all, none の用法 2. 仮定法（１） 3. 関係詞 4. need+-ing ; have/get something done の用法 5. 間接疑問文 6. 義務の表現・動詞句 7. 付加疑問・願望の表現（１）・可算名詞 8. 受動態（１） 9. 受動態（２） 10. 不定詞 11. 仮定法（２） 12. 副詞・願望の表現（２） 13. 不定詞（２）・動名詞（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠa）/(Speaking in Academic Contexts Ia) English 131-a Basic Communicative	担当者	B.K.　カートル

講義目的、講義概要	授業計画
授業の概要： この授業では、皆さんの英語でのコミュニケーション能力の向上そして自信を持てるように勉強していきます。パートナーに分かれてたくさんの会話時間をもちたいと思います。 **授業の目標：** 英会話のスキルアップ **テキストブック:** 第二回目の授業に、必ずテキストブックを持参して下さい。 **重要なお知らせ:** このクラスを取る生徒は第１回目の授業に必ず出席するように。遅れないで下さい。	１回：　イントロダクションとシラバス ２回：　テキストブック１ ３回：　テキストブック２、　ホームワーク２３、　小テスト１ ４回：　テキストブック３ ５回：　テキストブック４ ６回：　テキストブック５、　ホームワーク２４、　小テスト２ ７回：　テキストブック６ ８回：　テキストブック７ ９回：　テキストブック８、　ホームワーク２５、　小テスト３ １０回：　テキストブック９ １１回：　テキストブック１０ １２回：　テキストブック１１、　ホームワーク２６、　小テスト４ １３回：　クラスパーティと受賞式　最終授業　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Topic Talk - 2nd Edition by David Martin EFL Press (www.eflpress.com)	授業への参加態度：　６５%，４回の小テスト：　２３%， ４回のホームワーク：　１２%

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠb）/(Speaking in Academic Contexts Ib) English 131-b Basic Communicative	担当者	B.K.　カートル

講義目的、講義概要	授業計画
授業の概要： この授業では、皆さんの英語でのコミュニケーション能力の向上そして自信を持てるように勉強していきます。パートナーに分かれてたくさんの会話時間をもちたいと思います。 **授業の目標：** 英会話のスキルアップ **テキストブック:** 第二回目の授業に、必ずテキストブックを持参して下さい。 **重要なお知らせ:** このクラスを取る生徒は第１回目の授業に必ず出席するように。遅れないで下さい。	１回：　イントロダクションとシラバス ２回：　テキストブック　１２ ３回：　テキストブック　１３、　ホームワーク２７、　小テスト５ ４回：　テキストブック　１４ ５回：　テキストブック　１５ ６回：　テキストブック　１６、　ホームワーク２８、　小テスト６ ７回：　テキストブック　１７ ８回：　テキストブック　１８ ９回：　テキストブック　１９、　ホームワーク２９、　小テスト７ １０回：　テキストブック　２０ １１回：　テキストブック　２１ １２回：　テキストブック　２２、　ホームワーク３０、　小テスト８ １３回：　クラスパーティと受賞式　最終授業　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Topic Talk - 2nd Edition by David Martin EFL Press (www.eflpress.com)	授業への参加態度：　６５%，４回の小テスト：　２３%， ４回のホームワーク：　１２%

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠa）/ (Speaking in Academic Contexts Ia) English 131a-Basic Communicative English	担当者	C. カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
Course Goals The goal of this class is to build your confidence and fluency in basic English communication. We will review strategies for various communicative situations and practice these strategies in conversations with classmates interesting topics. Every day you will have chances to practice free conversation with different partners. By the end of the course you should be able to: • Express yourself clearly and naturally in short conversations about various, everyday topics • Use various strategies to keep conversations going naturally, for example, checking comprehension, asking for clarification, and active listening **Activities and Coursework** Activities will include: • Daily conversations in pairs and small group • Making conversation videos for self evaluation Quizzes on language and strategies learned in class	**Schedule** Below is a tentative schedule for the Spring Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher. Week 1: Orientation – Course overview, meet classmates Weeks 2-11: Examine conversation strategies and discuss various common topics including: • Giving self-introductions • Introducing friends and colleagues • Talking about family • Talking about sports and hobbies • Talking about food • Part-time jobs Week 12: Review Week 13: Final conversations and Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced on the first day of class.	Students will be graded on class participation, homework, and quizzes. *Attendance is required*. **※出席方針: 欠席が 3 回を超えると単位を認めない。**

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠb）/ (Speaking in Academic Contexts Ib) English 131b-Basic Communicative English	担当者	C. カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
Course Goals The goal of this class is to build your confidence and fluency in basic English communication. We will review strategies for various communicative situations and practice these strategies in conversations with classmates interesting topics. Every day you will have chances to practice free conversation with different partners. By the end of the course you should be able to: • Express yourself clearly and naturally in short conversations about various, everyday topics • Use various strategies to keep conversations going naturally, for example, checking comprehension, asking for clarification, and active listening **Activities and Coursework** Activities will include: • Daily conversations in pairs and small group • Making conversation videos for self evaluation ・ Quizzes on language and strategies learned in class	**Schedule** Below is a tentative schedule for the Fall Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher. Week 1: Orientation – Term overview, greet classmates Weeks 2-11: Examine conversation strategies and discuss various common topics including: • Talking about friends • Talking about school • Talking about music • Talking about dating • Talking about travel • Talking about future plans Week 12: Review Week 13: Final conversations and Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced on the first day of class.	Students will be graded on class participation, homework, and quizzes. *Attendance is required*. **※出席方針: 欠席が 3 回を超えると単位を認めない。**

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠb）/(Speaking in Academic Contexts Ib) English 131-a Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
When and how to contact: Your teacher for this course can be contacted on Monday and Saturday at the College, from 8:45 until 12:15/2:50. Or you may contact your teacher by e-mail at milts@gol.com. 1.Course Description: This course in listening/speaking skills moves from simply giving comprehension answers to explaining, and presenting opinions and ends in discussing the topics.? 2.Course Objectives: At the end of this course students should be able to: Use different reading skills to gather information Use reasons to explain opinions Use evidence to support opinions Critically evaluate reasons and evidence Apply all the above skills within a discussion in a written report? 3 Classroom Management Students more than 15 minutes late will be considered absent, unless, there is an unavoidable delay due to an train accident or bus delay.	Class Content Other/Objective Lesson 1: Course Outline Students introduce themselves Student files to be submitted Lesson 2: Classroom English Lesson 3: Introduce various listening skills that will be used in class Lesson 4: Finding the Ideal job(Unit1) Pre-readingknowledge Vocabulary Lesson 5: “ “ Make predictions Identify main idea Lesson 6: Country Life vs City Life (Unit 2) Categorize words/sounds Infer word meaning from context Lesson 7: “ “ Identify specific details Note taking Lesson 8: Making Money (Unit 3) Make prediction Lesson 9: “ “ Summarize information Share opinions Lesson 10: Save the Elephants (Unit 4) Classify iformation Lesson 11: “ “ Relate listening to personal Experience Infer situational context Lesson 12: “ “ Support answers with information Lesson 13: Exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text Book: North Star-Listening/Speaking (Low Intermediate)	i)Written exam held during the special exam week at the end of semester 30% ii)Homework assignments 20% iii)In class performance 30% iv)Attendance 20% Total for semester 100%

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠb）/(Speaking in Academic Contexts Ib) English 131-b Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
When and how to contact: Your teacher for this course can be contacted on Monday and Saturday at the College, from 8:45 until 12:15/2:50. Or you may contact your teacher by e-mail at milts@gol.com. 1.Course Description: This course in listening/speaking skills moves from simply giving comprehension answers to explaining, and presenting opinions and ends in discussing the topics.? 2.Course Objectives: At the end of this course students should be able to: Use different reading skills to gather information Use reasons to explain opinions Use evidence to support opinions Critically evaluate reasons and evidence Apply all the above skills within a discussion in a written report? 3 Classroom Management Students more than 15 minutes late will be considered absent, unless, there is an unavoidable delay due to an train accident or bus delay.	Lesson 1: Netiquette(Unit 5) Make Predictions Use transitions to connect ideas Lesson 2: “ “ Summarize Research and present to classmates Lesson 3: Women’s Work?(Unit 6) Make comparisons of genders Lesson 4: “ “ Compose a questionnaire Write a report on survey Lesson 5: Organic Produce (Unit 7) Classify information Compare and Contrast Lesson 6: “ “ Give a persuasive speech Identify main ideas of Classmates Lesson 7: Health and Illness(Unit 8) Identify dis/advantages Lesson 8: “ “ Restate research findings and ask others their opinions Lesson 9: Endangered Cultures(Unit 10) Contrast cultural Differences Lesson 10: “ “ Take lecture notes Identify main ideas Lesson 11: Presentation Review Lesson 12: Presentations Lesson 13: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text Book: North Star-Listening/Speaking (Low Intermediate)	i)Written exam held during the special exam week at the end of semester 30% ii)Homework assignments 20% iii)In class performance 30% iv)Attendance 20% Total for semester 100%

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠa）/(Speaking in Academic Contexts Ia) English 131-a Basic Communicative English	担当者	S. フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
授業内で説明をします。	授業内で説明をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠb）/(Speaking in Academic Contexts Ib) English 131-b Basic Communicative English	担当者	S. フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
授業内で説明をします。	授業内で説明をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠa）/(Speaking in Academic Contexts Ia) English 131-a Basic Communicative English	担当者	青木　理沙

講義目的、講義概要	授業計画
授業内で説明をします。	授業内で説明をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠb）/(Speaking in Academic Contexts Ib) English 131-b Basic Communicative English	担当者	青木　理沙

講義目的、講義概要	授業計画
授業内で説明をします。	授業内で説明をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠa）/(Speaking in Academic Contexts Ia) English 131-a Basic Communicative	担当者	B.K.　カートル

講義目的、講義概要	授業計画
授業の概要： この授業では、皆さんの英語でのコミュニケーション能力の向上そして自信を持てるように勉強していきます。パートナーに分かれてたくさんの会話時間をもちたいと思います。 **授業の目標：** 英会話のスキルアップ **テキストブック:** 第二回目の授業に、必ずテキストブックを持参して下さい。 **重要なお知らせ:** このクラスを取る生徒は第１回目の授業に必ず出席するように。遅れないで下さい。	１回：　イントロダクションとシラバス ２回：　テキストブック１ ３回：　テキストブック２、　ホームワーク２３、　小テスト１ ４回：　テキストブック３ ５回：　テキストブック４ ６回：　テキストブック５、　ホームワーク２４、　小テスト２ ７回：　テキストブック６ ８回：　テキストブック７ ９回：　テキストブック８、　ホームワーク２５、　小テスト３ １０回：　テキストブック９ １１回：　テキストブック１０ １２回：　テキストブック１１、　ホームワーク２６、　小テスト４ １３回：　クラスパーティと受賞式　最終授業　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Topic Talk - 2nd Edition by David Martin EFL Press (www.eflpress.com)	授業への参加態度：　６５%，４回の小テスト：　２３%， ４回のホームワーク：　１２%

０８年度 ０７年度以前	English（スピーキングⅠb）/(Speaking in Academic Contexts Ib) English131-b Basic Communicative	担当者	B.K　カートル

講義目的、講義概要	授業計画
授業の概要： この授業では、皆さんの英語でのコミュニケーション能力の向上そして自信を持てるように勉強していきます。パートナーに分かれてたくさんの会話時間をもちたいと思います。 **授業の目標：** 英会話のスキルアップ **テキストブック:** 第二回目の授業に、必ずテキストブックを持参して下さい。 **重要なお知らせ:** このクラスを取る生徒は第１回目の授業に必ず出席するように。遅れないで下さい。	１回：　イントロダクションとシラバス ２回：　テキストブック　１２ ３回：　テキストブック　１３、　ホームワーク２７、　小テスト５ ４回：　テキストブック　１４ ５回：　テキストブック　１５ ６回：　テキストブック　１６、　ホームワーク２８、　小テスト６ ７回：　テキストブック　１７ ８回：　テキストブック　１８ ９回：　テキストブック　１９、　ホームワーク２９、　小テスト７ １０回：　テキストブック　２０ １１回：　テキストブック　２１ １２回：　テキストブック　２２、　ホームワーク３０、　小テスト８ １３回：　クラスパーティと受賞式　最終授業　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Topic Talk - 2nd Edition by David Martin EFL Press (www.eflpress.com)	授業への参加態度：　６５%，４回の小テスト：　２３%， ４回のホームワーク：　１２%

０７年度以前	English221-a Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
英作の授業として、英語を作ってもらうことが中心となる。手書きではなく、パソコンのワードから英作を行ってもらうため、パソコンの設置された教室を使用する。 テキストに沿って授業を進めながら、毎回テキスト内の英作問題や、それと関連した応用の英作問題を、ワードで作成してもらい、それをプリントアウトして提出してもらう。それは平常点に加算される。 英作するには、英文法の知識が不可欠であるため、英文法の復習も兼ねた授業運びとなろう。 初めから書いてある英語を読むだけの講読に比べ、自分で白紙に書いていく英作は、苦労する作業ではあるが、英語の知識をより頭に定着させるのには有効な手段である。 毎回の提出物は、添削され、次回に返却されるので、誤認点を自得し、ゆめ同じ間違いを犯さないよう心掛けながら、自己の英作能力を漸次高めて行って欲しい。	１．イントロ ２．名詞 ３．代名詞 ４．自動詞・他動詞・リンキング動詞 ５．助動詞 ６．不定詞・動名詞 ７．場所・動きを表す前置詞 ８．時間を表す前置詞 ９．形容詞・副詞 １０．　原級・比較級・最上級 １１．　接続詞（1） １２．　現在時制と現在進行時制 １３．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
English Grips　（金星堂）	平常点３０％　提出物２０％　定期試験５０％

０７年度以前	English221-b Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	１．イントロ ２．過去時制 ３．未来 ４．現在完了時制・過去完了時制 ５．能動態と受動態 ６．接続詞（2） ７．否定文 ８．疑問文・疑問詞・付加疑問文 ９．関係代名詞・関係副詞 １０．　後置修飾 １１．　仮定法 １２．　話法 １３．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

０７年度以前	English 231-a Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
When and how to contact: Your teacher for this course can be contacted on Monday and Saturday at College, from 8:45 until 2:50/12:15 . Or you may contact your teacher by e-mail at milts@gol.com. 1.Course Description: This course in listening/speaking kills moves from simply giving comprehension answers to explaining, and presenting opinions and ends in discussing the topics. 2.Course Objectives: At the end of this course students should be able to: Use different listening skills to gather information Use reasons to explain opinions Use evidence to support opinions Critically evaluate reasons and evidence Apply all the above skills within a discussion 3 Classroom Management Students more than 15 minutes late will be considered absent, unless, there is an unavoidable delay due to an train accident or bus delay.	5. Schedule: Class Content Other/Objective E.g. homework etc. Lesson 1: Course Outline Student card to be submitted Students introduce themselves Verbally. Lesson 2: Classroom English Lesson 3: Introduce various listening skills that will be used in class Lesson 4 Understanding Accents(Unit 5) Pre-listening knowledge Vocabulary Lesson 5: " " Make predictions Identify main idea Lesson 6: Marriage (Unit 9) Categorize words/sounds Infer word meaning from context Lesson 7: " " Identify specific details Note taking Lesson 8: Travel (Unit 2) Make prediction Identify Comparisons Lesson 9: " " Summarize information Share opinions Lesson 10: Advertising (Unit 1) Classify information Infer situational context Lesson 11: " " Relate listening to personal Experience Lesson 12: Review (Pre-Exam) Lesson 13: Exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text Book: North Star-Listening/Speaking(Listening/Speaking-Intermediate)	i) Exam 30% ii) Homework assignments 20% iii) In class performance 30% iv) Attendance 20% Total for semester 100%

０７年度以前	English 231-b Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
When and how to contact: Your teacher for this course can be contacted on Monday and Saturday at College, from 8:45 until 2:50/12:15 . Or you may contact your teacher by e-mail at milts@gol.com. 1.Course Description: This course in listening/speaking kills moves from simply giving comprehension answers to explaining, and presenting opinions and ends in discussing the topics. 2.Course Objectives: At the end of this course students should be able to: Use different listening skills to gather information Use reasons to explain opinions Use evidence to support opinions Critically evaluate reasons and evidence Apply all the above skills within a discussion 3 Classroom Management Students more than 15 minutes late will be considered absent, unless, there is an unavoidable delay due to an train accident or bus delay.	Class Content Other/Objective Lesson 1: Too Good to Be True(Unit 3) Listening for details Make predictions Lesson 2: " " Present research findings on fraud Lesson 3: Traditional or Trendy?(Unit 9) Identify supporting ideas Lesson 4: " " Express personal values and ask others their opinion Lesson 5: Before you say "I Do" (Unit 10) Support opinion with information Lesson 6: " " Perform a role play-practicing interrupting Lesson 7: Culture and Commerce(Unit 6) Identifying contrasting viewpoints Lesson 8: " " Using Transitions in a 2 minute speech Lesson 9: The Art of Storytelling (Unit 4) Take notes and interview classmates Lesson 10: " " Create their own story with a moral included Lesson 11: Preparation for Poster Presentations Lesson 12: Student Presentations Lesson 13: Student Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text Book: North Star-Listening/Speaking(Listening/Speaking-Intermediate)	i) Exam 30% ii) Homework assignments 20% iii) In class performance 30% iv) Attendance 20% Total for semester 100%

０７年度以前	English 311-a　Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤　保

講義目的、講義概要	授業計画
A. 担当教員は、「科学技術英語」の実務翻訳を約 30 年、経験しています。近年は、IT 関係の注文が、殺到しており（独ー仏を含む)、独大の卒業生にも、手伝ってもらっています。「実務翻訳」の世界に興味のある諸君は、いくらでも、相談に応じます（昼休み（1-308 号室）や課外（「亜細亜飯店」にて、泡盛を飲みながら))。 B. また、「英語が苦手な人」も心配はいりません（なぜならば、授業中の「平常点」を重視するシステムをとっていますから)。 C. URL；http://nuo0.ojiji.net/electronic-trans	① Orientation ② The growth of the ～ ③ Electrons and protons ④ Infrared radiation ⑤ 以下省略 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬
テキスト、参考文献	**評価方法**
『科学技術英語の構文』（南雲堂）	平常点（10 点×　　（回）＝　　点）＋レポート＝100 点

０７年度以前	English 311-b　Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤　保

講義目的、講義概要	授業計画
A. 担当教員は、「科学技術英語」の実務翻訳を約 30 年、経験しています。近年は、IT 関係の注文が、殺到しており（独ー仏を含む)、独大の卒業生にも、手伝ってもらっています。「実務翻訳」の世界に興味のある諸君は、いくらでも、相談に応じます（昼休み（1-308 号室）や課外（「亜細亜飯店」にて、泡盛を飲みながら))。 B. また、「英語が苦手な人」も心配はいりません（なぜならば、授業中の「平常点」を重視するシステムをとっていますから)。 C. URL；http://nuo0.ojiji.net/electronic-trans	① Orientation ② The restless sea ③ The growth of steel ④ CM of Apollo ⑤ 以下省略 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬
テキスト、参考文献	**評価方法**
『科学技術英語の構文』（南雲堂）	平常点（10 点×　　（回）＝　　点）＋レポート＝100 点

０７年度以前	English 321-a Writing English for Specific Purposes	担当者	青木　理沙

講義目的、講義概要	授業計画
授業内で説明をします。	授業内で説明をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	English 321-b Writing English for Specific Purposes	担当者	青木　理沙

講義目的、講義概要	授業計画
授業内で説明をします。	授業内で説明をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**

０７年度以前	English 331-a speech Communication	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
When and How to Contact Your teacher for this course can be contacted on Monday and Saturday F in the teacher's room from 8:45 until 12:15/3:30pm . Or you may contact your teacher by e mail at milts@gol.com Course Description In this class students will develop various concepts, strategies and techniques to give successful speeches on a many different topics throughout the semester. They will learn about how to demonstrate both verbal and non-verbal messages to their audience to make sure that their topic they are presenting is clearly understood.These include, voice intonation, eye contact, gestures and correct speech organisation. These skills will be learned through completing and understanding many different activities, which show the students what the target skill is, why it is important, how to use the target skill. The students will be asked to identify their own strengths and weaknesses as well as their peers, so as to learn not only through their own actions but by also observing others. Course Objectives At the end of this course students should be able to a successful speech with the help of visual aids. Classroom Policies Students more than ten minutes late will be considered absent. Three absences are allowed per term.	Lesson 1: Students self introduction Students introduce themselves Lesson 2: Introduction to the physical message Lesson 3: Posture and Eye contact Lesson 4: Information Speech Lesson 5: Mini presentation (self-introduction) Lesson 6: Gestures Lesson 7: Physical message-Listening Lesson 8: Voice inflection Lesson 9: Voice inflection pair work Lesson 10: Presenting Your Personal Experience Lesson 11: Review(posture, eye contact, gestures, voice inflection) Lesson 12: Demonstration speech Lesson 13: Observe and evaluate others' speeches.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text：Dynamic Presentations Author: Michael Hood Publisher: Longman	i) Written exam held during thespecial exam week at the end of semester 20% ii) Homework assignments 20% iii) In class performance 20% iv) Attendance 20% v) Mini presentations 20% Total for semester 100%

０７年度以前	English 331-b speech Communication	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
When and How to Contact Your teacher for this course can be contacted on Monday and Saturday F in the teacher's room from 8:45 until 12:15/3:30pm . Or you may contact your teacher by e mail at milts@gol.com Course Description In this class students will develop various concepts, strategies and techniques to give successful speeches on a many different topics throughout the semester. They will learn about how to demonstrate both verbal and non-verbal messages to their audience to make sure that their topic they are presenting is clearly understood.These include, voice intonation, eye contact, gestures and correct speech organisation. These skills will be learned through completing and understanding many different activities, which show the students what the target skill is, why it is important, how to use the target skill. The students will be asked to identify their own strengths and weaknesses as well as their peers, so as to learn not only through their own actions but by also observing others. Course Objectives At the end of this course students should be able to a successful speech with the help of visual aids. Classroom Policies Students more than ten minutes late will be considered absent. Three absences are allowed per term.	Lesson 1: Visual Aids and how to use them Lesson 2: Making Visual Aids Lesson 3: Explaining Visual Aids Lesson 4: Research/Citations references Lesson 5: Asking Questions/Answering Questions Lesson 6: Introduction (Persuasive Speech) Lesson 7: Body of Speech (Transitions) Lesson 8: Conclusion (Persuasive Speech) Lesson 9: Identifying main points of Prepared Speeches Lesson 10: Choosing Topics and Purpose Lesson 11: Present Presentations and evaluate others Lesson 12: Research Presentation for Exam Lesson 13: Exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text：Dynamic Presentations Author: Michael Hood Publisher: Longman	i) Written exam held during thespecial exam week at the end of semester 20% ii) Homework assignments 20% iii) In class performance 20% iv) Attendance 20% v) Mini presentations 20% Total for semester 100%

07 年度以前	English 351 Computer -Assisted English Learning	担当者	J. スティーベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。 受講条件： ● 現在の TOEIC スコアが 350－600 点 （プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上学習者には適していません。） ● 初回の授業に必ず出席すること ● ４回以上欠席しないこと 本授業で求められる事項： ● 20 時間以上のぎゅっと e の学習 （自習） ● 学習プランの作成と学習記録 ● 学習自己評価 （2 回） ● 実力診断テスト・学習プランの作成 ● 小テスト	1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. 小テスト・リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 模擬試験 (リーディング) 10. テキスト Day 5 模擬試験 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 模擬試験 (リーディング) 12. 小テスト・リーディング実力診断テスト 13. アンケート・自己評価レポートの説明 （変更する場合もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 新ＴＯＥＩＣテスト直前の技術 （CD 2 枚付） ISBN: 4-7574-1121-9 2. *ぎゅっと e プログラム* *ぎゅっと e ホームページ （体験版あり）http://gyutto-e.jp/*	出席 20% 学習記録 30% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 30%

07 年度以前	English 351 Computer -Assisted English Learning	担当者	J. スティーベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。 受講条件： ● 現在の TOEIC スコアが 350－600 点 （プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上学習者には適していません。） ● 初回の授業に必ず出席すること ● ４回以上欠席しないこと 本授業で求められる事項： ● 20 時間以上のぎゅっと e の学習 （自習） ● 学習プランの作成と学習記録 ● 学習自己評価 （2 回） ● 実力診断テスト・学習プランの作成 ● 小テスト	1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. 小テスト・リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 模擬試験 (リーディング) 10. テキスト Day 5 模擬試験 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 模擬試験 (リーディング) 12. 小テスト・リーディング実力診断テスト 13. アンケート・自己評価レポートの説明 （変更する場合もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 新ＴＯＥＩＣテスト直前の技術 （CD 2 枚付） ISBN: 4-7574-1121-9 2. *ぎゅっと e プログラム* *ぎゅっと e ホームページ （体験版あり）http://gyutto-e.jp/*	出席 20% 学習記録 30% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 30%

０８年度 ０５～０７年度	ドイツ語(Ｉａ基礎) ドイツ語Ｉa(基礎) 【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、mother と Mutter、brother と Bruder、sister と Schwester というように。)そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの Lektion0-7 を学習します。ドイツ語の発音から日常必要最低限の基礎的文法の一部と会話調の文章を学んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
在間　進：「話すぞドイツ語 V2」(朝日出版)	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０８年度 ０５～０７年度	ドイツ語(Ｉｂ基礎) ドイツ語Ｉb(基礎) 【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、mother と Mutter、brother と Bruder、sister と Schwester というように。)そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの Lektion8-13 を学習します。日常必要最低限の基礎的文法と会話調の文章を学んでいきます。終了時には簡単なドイツ語が話せるようになるとよいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
在間　進：「話すぞドイツ語 V2」(朝日出版)	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０８年度 ０５～０７年度	ドイツ語(Ｉａ基礎) ドイツ語Ｉａ(基礎)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、mother と Mutter、brother と Bruder、sister と Schwester というように。)そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの Lektion0-7 を学習します。ドイツ語の発音から日常必要最低限の基礎的文法の一部と会話調の文章を学んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
在間　進：「話すぞドイツ語 V2」(朝日出版)	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０８年度 ０５～０７年度	ドイツ語(Ｉｂ基礎) ドイツ語Ｉｂ(基礎)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、mother と Mutter、brother と Bruder、sister と Schwester というように。)そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの Lektion0-7 を学習します。日常必要最低限の基礎的文法と会話調の文章を学んでいきます。終了時には簡単なドイツ語が話せるようになるとよいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
在間　進：「話すぞドイツ語 V2」(朝日出版)	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０８年度 ０５～０７年度	ドイツ語(Ｉａ会話) ドイツ語Ｉa(会話)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。	使用テクストの前半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤、下田、Papenthin、Oldehaver:『CD付き・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』(三修社)	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０８年度 ０５～０７年度	ドイツ語(Ｉｂ会話) ドイツ語Ｉb(会話)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。	使用テクストの前半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤、下田、Papenthin、Oldehaver:『CD付き・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』(三修社)	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅱa(基礎)【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	使用テクストのLektion1A-4Bを使って、より一歩踏み出したドイツ語を学んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schellens,林、宮谷他：「シュトラーセ・ノイ」	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅱb(基礎)【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	使用テクストのLektion1A-4Bを使って、ドイツ語の基礎のまとめをします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schellens,林、宮谷他：「シュトラーセ・ノイ」	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅱa(基礎)【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	テクスト前半を使用して、更に進んだドイツ語を学習します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schellens, 林、宮谷他：シュトラーセ・ノイ（朝日出版）	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅱb(基礎) 【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	テクストを使用して、基礎ドイツ語のまとめをします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schellens, 林、宮谷他：シュトラーセ・ノイ（朝日出版）	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅱa(会話)【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。	使用テクストの後半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver:『CD付き・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語　（三修社）	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅱb(会話)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。	使用テクストの後半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver:『CD付き・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語　（三修社）	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅲa（会話）	担当者	A. リプスキ

講義目的、講義概要	授業計画
この時間では様々な練習（簡単な言葉遊び、役割遊び、パートナーにインタビューをする等）を通して、会話表現能力を訓練します。学生の皆さんは既に持っているドイツ語の知識を活用して、更に表現力を高めて下さい。 最初の時間に履修者のレベルと興味に合わせて、皆さんにふさわしい教材を選ぶことにします。例えば授業で、ドイツの若者たちの日常生活を描いた短い場面で構成されているビデオ教材を使用し、それについて練習するのもよいでしょう。 ２－６時間目：授業 ７時間目：小テスト ７－１２時間目：授業 １３時間目：学期末試験	１時間目：自己紹介 ２－６時間目：授業 ７時間目：小テスト ７－１２時間目：授業 １３時間目：小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーとビデオなどを用意します	授業参加度と２回のテストにより評価します。

０５～０７年度	ドイツ語Ⅲb（会話）	担当者	A. リプスキ

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を参照せよ。	春学期の内容を参照せよ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーとビデオなどを用意します	授業参加度と２回のテストにより評価します。

０８年度 ０５～０７年度	フランス語（Ia 基礎） フランス語 Ia（基礎）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、*Tome 1* の第 5 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1. ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2. 発音と綴り字の読み方 3. 第１課 4. 第１課 5. 第２課 6. 第２課 7. 第３課 8. 第３課 9. 第４課 10. 第４課 11. 第５課 12. 第５課 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０８年度 ０５～０７年度	フランス語（Ib 基礎） フランス語 Ib（基礎）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、*Tome 1* の第 6 課から第 10 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1. 第 6 課 2. 第 6 課 3. 第 7 課 4. 第 7 課 5. 第 8 課 6. 第 8 課 7. 第 9 課 8. 第 9 課 9. 第 10 課 10. 第 10 課 11. annexe 12. 総合問題（bilan） 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０８年度 ０５～０７年度	フランス語（Ia 総合Ｊ） フランス語 Ia（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* で、I（総合Ｊ）は日本人講師、I（総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語 I（総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 このI（総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、発音(1) 2. 発音(2) 3. unité 1 leçon1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 13. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０８年度 ０５～０７年度	フランス語（Ib総合Ｊ） フランス語 Ib（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* で、I（総合Ｊ）は日本人講師、I（総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語 I（総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 このI（総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 13. bilan (3)

テキスト、参考文献	評価方法
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０８年度 ０５～０７年度	フランス語（Ia 総合Ｆ） フランス語 Ia（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 I（総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語Ｉ（総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、発音(1) 2. 発音(2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０８年度 ０５～０７年度	フランス語（Ib 総合Ｆ） フランス語 Ib（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 I（総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語Ｉ（総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 13. bilan (3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０５～０７年度	フランス語Ⅱa（基礎）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 使用する教科書は、*Salut !*、*Bis, amicalement*（いずれも駿河台出版社）のいずれかになる（担当教員によって異なる）。	担当教員および教科書によって異なる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Salut !*（駿河台出版社）、Bis, amicalement（駿河台出版社）のいずれか。辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０５～０７年度	フランス語Ⅱb（基礎）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 使用する教科書は、*Salut !*、*Bis, amicalement*（いずれも駿河台出版社）のいずれかになる（担当教員によって異なる）。	担当教員および教科書によって異なる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Salut !*（駿河台出版社）、Bis, amicalement（駿河台出版社）のいずれか。辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０５～０７年度	フランス語Ⅱa（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語Ⅰ（総合Ｊ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、Ⅰ（総合Ｊ）は日本人講師、Ⅰ（総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 このⅡ（総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.1* unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. *Initial vol.2* unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1, vol.2*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０５～０７年度	フランス語Ⅱb（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語Ⅰ（総合Ｊ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、Ⅰ（総合Ｊ）は日本人講師、Ⅰ（総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 このⅡ（総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.2* unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1, vol.2*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０５～０７年度	フランス語Ⅱa（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語 I（総合Ｆ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、I（総合Ｊ）は日本人講師、I（総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 II（総合Ｆ）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.1* unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. *Initial vol.2* unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０５～０７年度	フランス語Ⅱb（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語 I（総合Ｆ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、I（総合Ｊ）は日本人講師、I（総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 II（総合Ｆ）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.2* unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

０７年度以前	フランス語Ⅲa	担当者	M.P.　ミュノーズ

講義目的、講義概要	授業計画
L'objectif de ce cours est de reprendre ou d'introduire des notions de grammaire de base et d'approfondir le vocabulaire afin que les étudiants soient capables de s'exprimer à l'oral et à l'écrit sur des sujets simples de la vie quotidienne. Une partie du cours sera consacré à la découverte d'un document audio qui permettra d'introduire un thème et un point de grammaire.	1. Se présenter / présenter quelqu'un. 2. Pratique de l'oral et de l'écrit 3. Les goûts / Le présent 4. Pratique de l'oral et de l'écrit 5. Le passé composé avec avoir 6. Pratique de l'oral et de l'écrit 7. Le passé composé avec être 8. Pratique de l'oral et de l'écrit 9. Voyager / les pays / les pronoms démonstratifs et possessifs 10. Pratique de l'oral et de l'écrit 11. Demander quelque chose / Le conditionnel de politesse 12. Pratique de l'oral et de l'écrit 13. Révisions
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies fournies par le professeur	La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.

０７年度以前	フランス語Ⅲb	担当者	M.P.　ミュノーズ

講義目的、講義概要	授業計画
L'objectif de ce cours est de reprendre ou d'introduire des notions de grammaire de base et d'approfondir le vocabulaire afin que les étudiants soient capables de s'exprimer à l'oral et à l'écrit sur des sujets simples de la vie quotidienne. Une partie du cours sera consacré à la découverte d'un document audio qui permettra d'introduire un thème et un point de grammaire.	1. Les activités quotidiennes / Les pronoms compléments directs 2. Pratique de l'oral et de l'écrit 3. Parler de soi et des autres / Les pronoms compléments indirects 4. Pratique de l'oral et de l'écrit 5. Le passé compose et les pronoms compléments 6. Pratique de l'oral et de l'écrit 7. Raconter des souvenirs / L'imparfait 8. Pratique de l'oral et de l'écrit 9. L'imparfait et le passé compose 10. Pratique de l'oral et de l'écrit 11. La description / le futur 12. Pratique de l'oral et de l'écrit 13. Révisions
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies fournies par le professeur	La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.

０８年度 ０５～０７年度	スペイン語(Ｉa　文法) スペイン語Ｉa　(文法)　【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の使い方 ⑧　ser, estar 動詞の使い方 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 ⑬　代名詞の使い方 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。および、担当者が随時プリントを配布。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０８年度 ０５～０７年度	スペイン語(Ｉｂ文法) スペイン語Ｉｂ(文法)　【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ｉaに引き続き、**基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　春学期の復習 ②　代名詞の使い方 ③　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧　動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑨　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑩　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪　現在時制の復習と練習 ⑫　現在時制の復習と練習 ⑬　全体のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０８年度 ０５～０７年度	スペイン語(Ｉａ　文法) スペイン語Ｉａ　(文法)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 **基本的には、スペイン語 Ia(会話) とのペア履修**を要望する。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の使い方 ⑧　ser, estar 動詞の使い方 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 ⑬　代名詞の使い方 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 、および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０８年度 ０５～０７年度	スペイン語(Ｉｂ　文法) スペイン語Ｉｂ　(文法)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia (文法) に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 **基本的には、会話コースのスペイン語 Ib (会話) とのペア履修**を要望する。	①　春学期の復習 ②　代名詞の使い方 ③　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑨　動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑩　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑫　現在時制の復習と練習 ⑬　現在時制の復習と練習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０８年度 ０５～０７年度	スペイン語(Ｉa　会話) スペイン語Ｉa　(会話)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語Ｉ(会話)の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語 Ia (文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ia (文法)の項目と同じであるが、スペイン語 Ia (会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ia (文法)「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 および、担当者が随時プリント等を配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０８年度 ０５～０７年度	スペイン語(Ｉb　会話) スペイン語Ｉb　(会話)　【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia (会話) に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 I (会話)の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語 Ib(文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ib (文法)の項目と同じであるが、スペイン語 Ib (会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ib (文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 また、担当者が随時プリント等を配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５～０７年度	スペイン語Ⅱa (文法)【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語Ⅰab(文法) の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。	①　既習事項の復習 ②　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④　動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤　動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪　点過去と線過去の違い ⑫　点過去と線過去の違い ⑬　比較表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５～０７年度	スペイン語Ⅱb(文法)【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
上記のスペイン語Ⅱa(文法) に引き続き、**基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。	①　春学期の復習 ②　比較表現と過去時制の復習 ③　動詞の活用 --- 未来形 ④　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤　未来形と過去未来形の対比 ⑥　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩　命令表現 ⑪　命令表現 ⑫　接続法を使った表現 ⑬　接続法を使った表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５～０７年度	スペイン語Ⅱa(文法)【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語Ⅰab(文法)の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 **基本的には、スペイン語Ⅱa (会話)とのペア履修**を要望する。	① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５～０７年度	スペイン語Ⅱb(文法)【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅱa(文法) に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 **基本的には、会話コースのスペイン語Ⅱb (会話)とのペア履修**を要望する。	① 春学期の復習 ② 比較表現と過去時制の復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤ 未来形と過去未来形の対比 ⑥ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩ 命令表現 ⑪ 命令表現 ⑫ 接続法を使った表 ⑬ 接続法を使った表 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５～０７年度	スペイン語Ⅱa(会話)【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱa (文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱa(文法) の項目と同じであるが、スペイン語Ⅱa (会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱa (文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５～０７年度	スペイン語Ⅱb(会話)【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅱa(会話) に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱb (文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱb(文法) の項目と同じであるが、スペイン語Ⅱb (会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱb (文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５～０７年度	スペイン語Ⅲa(講読)	担当者	北岸　団

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。 授業では、スペインで発行されているスペイン語学習者向け短編小説、「探偵ペペ・レイ」シリーズを読んでいきます。初級文法で得られた知識で十分楽しみながら読んでいけるレベルのものです。ただ、日本人向けに編集されている物ではないので、一部初級文法では対応できない箇所（命令形、接続法など）がでてきますが、こうした点については必要に応じて文法的解説を加えていきます。 初回授業でプリントを配布します。 履修者は、次回授業までに下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。	第１回　　授業の進め方、プリント配布 第２回以降　同プリント購読 最終回　　試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：プリント	試験と出席・発表状況（授業回数３分の１以上欠席で不可）を加味して評価する。

０５～０７年度	スペイン語Ⅲb(講読)	担当者	北岸　団

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。 メキシコで発行されている教科書を使い、メキシコと他のラテンアメリカ地域の歴史を読み、スペイン語で知識を得ることを目標とします。 購読対象が歴史であるため、過去形(点過去、線過去、大過去など)が中心となります。 必要に応じて、文法的解説と内容の解説を行う予定です。 初回授業でプリントを配布します。 受講者は、次回授業までに特定された範囲まで下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。	第１回　　授業の進め方、プリント配布 第２回以降　同プリント購読 最終回　　試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：プリント	試験と出席・発表状況（授業回数３分の１以上欠席で不可）を加味

０５～０７年度	スペイン語Ⅲa（会話）	担当者	Ｊ.フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人に繰り返させて、スペイン語らしい発音が出来るようにすることとともに開き取り能力を養成する。参加者のご興味にしたがって色んな話をして見ること。	参加者のスペイン語能力を判断してから授業の中身を決める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト代わり必要な時プリントを配布する。	出席、授業への積極的参加、小テスト。

０５～０７年度	スペイン語Ⅲb（会話）	担当者	Ｊ.フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
季節ごと、スペイン語圏の国々に於ける祝日、記念日、行事、慣習(イースター、学生=春の日、死者の日、クリスマスなど)をビデオや写真によって学ぶこと。日本文化との比較できるだけスペイン語を使いながら表現して見ること。参加者のご興味にしたがって色んな話をして見ること。	参加者のスペイン語能力を判断してから授業の中身を決める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト代わり必要な時プリントを配布する。	出席、授業への積極的参加、小テスト。

０８年度 ０５～０７年度	中国語（Ｉａ会話） 中国語Ｉａ（会話）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で「会話」に重点を置きます。 中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 漢字は表音文字ではなく表意文字ですから、漢字を見ただけでは中国語の発音は分かりません。英語で発音記号を用いて発音を表すように、中国語では中国式のローマ字“ピンイン”を用いて発音を表します。 まず、ピンインの発音のしかた、表記法から練習していきます。この段階で自らの耳を使って聞き取り、自らの口で発音することが大切です。「頭」より「体」で覚えるのです。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを恥習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回～第３回　：テキスト発音篇 第４回：テキスト第１課 第５回：　　第２課 第６回：　　第３課 第７回：　　第４課 第８回：復習・中間試験 第９回：テキスト第５課 第 10 回：　　第６課 第 11 回：　　第７課 第 12 回：　　第８課 第 13 回：復習 （内容） 人称代名詞、指示詞、場所を表す指示詞、親族呼称、数詞と量詞、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、疑問文のパタン、連動文、動詞「在」と「有」、基本的な前置詞とその用法、基本的語気助詞とその用法、氏名の言い表し方と尋ね方、日にち・曜日・時間の表し方と尋ね方、時点と時間量表現、連体修飾と「的」の省略、など。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０８年度 ０５～０７年度	中国語（Ｉｂ会話） 中国語Ｉｂ（会話）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続いて、中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 会話の基本は発音です。ピンインを見てその発音ができ、発音を聞いてピンインが頭に浮かんでくるように、くり返し継続してトレーニングします。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回：春学期復習 第２回：テキスト第９課 第３回：　　第 10 課 第４回：　　第 11 課 第５回：　　第 12 課 第６回：前半復習 第７回：中間試験 第８回：　　第 13 課 第９回：　　第 14 課 第 10 回：　　第 15 課 第 11 回：　　第 16 課 第 12 回：後半復習 第 13 回　：まとめ （内容） 主述述語文、動作行為の経験・持続・進行を表す文型、比較を表す文型、「是‥‥的」構文、兼語文、存現文、「把」構文、「被」構文、基本的な助動詞とその用法、前置詞の「給」、動詞の重ね型、結果補語、様態補語、方向補語、可能補語、金額の表し方と尋ね方、など。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０８年度 ０５～０７年度	中国語（Ｉａ会話） 中国語Ｉａ（会話）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業のうち「会話」に重点を置きます。もう一方の「講読・文法」に重点を置く中国語Ｉ（講読・文法）と歩調をあわせて進んでいきます。 中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 漢字は表音文字ではなく表意文字ですから、漢字を見ただけでは中国語の発音は分かりません。英語で発音記号を用いて発音を表すように、中国語では中国式のローマ字“ピンイン”を用いて発音を表します。 まず、ピンインの発音のしかた、表記法から練習していきます。この段階で自らの耳を使って聞き取り、自らの口で発音することが大切です。「頭」より「体」で覚えるのです。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを恥習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回～第３回　：テキスト発音篇 第４回：テキスト第１課 第５回：　　第２課 第６回：　　第３課 第７回：　　第４課 第８回：復習・中間試験 第９回：テキスト第５課 第 10 回：　　第６課 第 11 回：　　第７課 第 12 回：　　第８課 第 13 回：復習 （内容） 人称代名詞、指示詞、場所を表す指示詞、親族呼称、数詞と量詞、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、疑問文のパタン、連動文、動詞「在」と「有」、基本的な前置詞とその用法、基本的語気助詞とその用法、氏名の言い表し方と尋ね方、日にち・曜日・時間の表し方と尋ね方、時点と時間量表現、連体修飾と「的」の省略、など。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０８年度 ０５～０７年度	中国語（Ｉｂ会話） 中国語Ｉｂ（会話）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続いて、中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 会話の基本は発音です。ピンインを見てその発音ができ、発音を聞いてピンインが頭に浮かんでくるように、くり返し継続してトレーニングします。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回：春学期復習 第２回：テキスト第９課 第３回：　　第 10 課 第４回：　　第 11 課 第５回：　　第 12 課 第６回：前半復習 第７回：中間試験 第８回：　　第 13 課 第９回：　　第 14 課 第 10 回：　　第 15 課 第 11 回：　　第 16 課 第 12 回：後半復習 第 13 回　：まとめ （内容） 主述述語文、動作行為の経験・持続・進行を表す文型、比較を表す文型、「是‥‥的」構文、兼語文、存現文、「把」構文、「被」構文、基本的な助動詞とその用法、前置詞の「給」、動詞の重ね型、結果補語、様態補語、方向補語、可能補語、金額の表し方と尋ね方、など。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０８年度 ０５～０７年度	中国語（Ｉａ講読・文法） 中国語Ｉａ（講読・文法）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業のうち中国語Ｉ（講読・文法）は「講読・文法」に重点を置きます。他方の「会話」に重点を置いた中国語Ｉ（会話）と歩調をあわせて進んでいきます。Ｉ（会話）は発音や会話の練習・習熟を目指し、Ｉ（講読・文法）は文法事項の理解・定着を目指します。 中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 漢字は表音文字ではなく表意文字ですから、漢字を見ただけでは中国語の発音は分かりません。英語で発音記号を用いて発音を表すように、中国語では中国式のローマ字“ピンイン”を用いて発音を表します。 まず、ピンインの発音のしかた、表記法から練習していきます。この段階で自らの耳を使って聞き取り、自らの口で発音することが大切です。「頭」より「体」で覚えるのです。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを習慣づけるようにしてほしいと思います。 また、授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。授業は双方向の作用があってはじめて有益になります。	第１回～第３回　：テキスト　中国語とは、中国語の発音 第４回：テキストＬ１ 第５回：　　Ｌ２ 第６回：　　Ｌ３ 第７回：　　Ｌ４ 第８回：中間試験／復習 第９回：　　Ｌ５ 第10回：　　Ｌ６ 第11回：　　Ｌ７ 第12回：　　Ｌ８ 第13回：復習 （内容） 人称代名詞、指示代名詞、場所を表す代名詞、数詞と量詞、基本的な助動詞、基本的な介詞、動詞述語文、形容詞述語文、連動文、疑問文の各パタン、「完了」・「経験」を表す文型、動詞「有」と「在」、動詞の重ね型、姓名の言い方・尋ね方、月日・曜日・時刻の言い方と尋ね方、時間量や動作の回数の表し方など。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント５５』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０８年度 ０５～０７年度	中国語（Ｉｂ講読・文法） 中国語Ｉｂ（講読・文法）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 春学期に学んだ事項を随時復習しつつ、新たな文型を練習し、新たな文法事項を学んでいきます。発音練習の重要さは変わりません。授業中音読する、あるいは暗唱することなどを求めることがあるでしょう。文法事項にしても発音にしても、各自時に応じてテキストの前頁に立ち戻って復習することが大切です。 また、授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。授業は双方向の作用があってはじめて有益になります。	第１回：テキスト　Ｌ９ 第２回：　　Ｌ10 第３回：　　Ｌ11 第４回：　　Ｌ12 第５回：（進度調整） 第６回：前半復習 第７回：中間試験 第８回：テキスト　Ｌ13 第９回：　　Ｌ14 第10回：　　Ｌ15 第11回：　　Ｌ16 第12回：（進度調整） 第13回：後半復習 （内容） 春学期に学んだ以外の基本的な助動詞、基本的な介詞、「動作・行為の進行」・「動作・状態の持続」を表す文型、「把」構文、比較の表現、「是‥‥的」構文、主述述語文、受身文、兼語文、存現文、疑問詞の呼応、結果補語、様態補語、方向補語、可能補語、春学期に学んだ以外の疑問文－選択式疑問文、など。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント５５』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅱａ（会話）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1 年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。 1 年次のテキストは一文単位の例文や短い会話文が主でしたが、このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。 したがって授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります1年次に学んだ発音ルールを再確認し、くり返し練習することになります。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時には辞書は必携です。	第1回：第1課　機内で 第2回：第2課　両替する 第3回：第3課　ホテルで（1） 第4回：第4課　ホテルで（2） 第5回：第5課　タクシーを拾う 第6回：前半の復習 第7回：中間試験 第8回：第6課　道を尋ねる 第9回：第7課　バスに乗る 第10回：第8課　レストランで 第11回：第9課　電話をする 第12回：第10課　買い物をする 第13回：後半の復習 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅱｂ（会話）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を踏まえさらに習熟を目指します。 1 年次のテキストは一文単位の例文や短い会話文が主でしたが、このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。 したがって授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります1年次に学んだ発音ルールを再確認し、くり返し練習することになります。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 さらに、授業時には辞書は必携です。	第1回：第11課　写真をとる 第2回：第12課　天気について 第3回：第13課　長城を登る 第4回：第14課　故宮遊覧 第5回：第15課　天壇に遊ぶ 第6回：前半の復習 第7回：中間試験 第8回：第16課　京劇を観る 第9回：第17課　ギョーザを作る 第10回：第18課　汽車に乗る 第11回：第19課　兵馬俑 第12回：第20課　美人の謎 第13回：　後半の復習 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅱａ（会話）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業のうち、　中国語Ⅱ（会話）は「会話」に重点をⅡ（講読・文法）は「講読・文法」に重点を置きます。 １年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。 １年次のテキストは一文単位の例文や短い会話文が主でしたが、このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。 したがって授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります１年次に学んだ発音ルールを再確認し、くり返し練習することになります。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時に辞書は必携です。	第１回：第１課　機内で 第２回：第２課　両替する 第３回：第３課　ホテルで（１） 第４回：第４課　ホテルで（２） 第５回：第５課　タクシーを拾う 第６回：前半の復習 第７回：中間試験 第８回：第６課　道を尋ねる 第９回：第７課　バスに乗る 第10回：第８課　レストランで 第11回：第９課　電話をする 第12回：第10課　買い物をする 第13回：後半の復習 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅱｂ（会話）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を踏まえさらに習熟を目指します。 このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります。くり返し練習することによって、単語の発音だけではなく文全体の自然なイントネーションが身につくことを目指してほしいと思います。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時に辞書は必携です。	第１回：第１１課　写真をとる 第２回：第１２課　天気について 第３回：第１３課　長城を登る 第４回：第１４課　故宮遊覧 第５回：第15課　天壇に遊ぶ 第６回：前半の復習 第７回；中間試験 第８回：第16課　京劇を観る 第９回：第17課　ギョーザを作る 第10回：第18課　汽車に乗る 第11回：第19課　兵馬俑 第12回：第２０課　美人の謎 第13回：後半の復習 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅱａ（講読・文法）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業の中で、「講読・文法」に重きを置きます。 １年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。1 年次のテキストでは一文単位のものや短い会話文が主でしたが、2 年次では内容的にもやや難しい、量的にも比較的長い文章・会話文が出てきます。文法事項を理解したうえで文章の内容を読解し、練習問題によって知識の定着を図ります。テキストは現代中国のさまざまなトピックについて説明する内容で、それに関する会話文もあり、書き言葉と話し言葉の違いも感じ取れるでしょう。さらに日中両国の文化や表現形式を比較し、共通点や相違点についても触れたいと考えます。 「講読・文法」と表記してあっても音読の重要性は変わりません。したがって授業では音読を重視します。1 年次に学んだ発音ルールを再確認し、日本人学習者が間違いやすい発音のいろいろをくり返し練習することになります。 文章の読解・理解を通じて、日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を知り理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。	第１回　ガイダンス 第２～４回　第１課　中国人の食生活 第５～７回　第２課　家族間の挨拶 第８回　試験 第９～１１回　第３課　中国人のつきあい 第１２～１３回　第４課　交際上のマナー 各課とも会話・課文・要点・練習問題という４部構成になっています。 授業ではまずその課の要点を確認し、ついで会話や課文の内容把握をし、練習問題で内容理解の仕上げをするという流れです。 会話や課文は音読が基本です。毎回発音練習を行います。練習問題は原則として各自の課題として解いておくことが必要です。授業次には正解を確認・補足することになります。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『中国ってこんな国！素顔の‘漢流’生活』 池上貞子他著　朝日出版社 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅱｂ（講読・文法）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続いて、1 年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。 語学において発音は基本ですから、授業では音読を重視します。1 年次に学んだ発音ルールを再確認し、日本人学習者が間違いやすい発音のいろいろをくり返し練習することになります。 文章の読解・理解を通じて、日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を知り理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時には辞書は必携です。	第１～３回　第５課　中国人のレジャー・娯楽 第４～６回　第６課　中国の交通手段 第７回　試験 第８～１０回　第７課　通過儀礼 第１１～１３回　第８課　慶事の赤、弔事の白 各課とも会話・課文・要点・練習問題という４部構成になっています。 授業ではまずその課の要点を確認し、ついで会話や課文の内容把握をし、練習問題で内容理解の仕上げをするという流れです。 会話や課文は音読が基本です。毎回発音練習を行います。練習問題は原則として各自の課題として解いておくことが必要です。授業次には正解を確認・補足することになります。 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　：『中国ってこんな国！素顔の‘漢流’生活』 池上貞子他著　朝日出版社 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅲa(会話)	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つの話題をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。	第１回～第１３回：テキスト Unit１～Unit５ (内　容) 各 Unit の話題ごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：新版　『トーク・トピックス』白帝社	期末試験と平常点（小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅲb(会話)	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つの話題をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。	第１回～第１３回：テキスト Unit６～Unit10 (内　容) 各 Unit のテーマごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：新版　『トーク・トピックス』白帝社	期末試験と平常点（小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅲa（講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な豊かな基礎力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）を並行して行います。	１．第１課　読解 ２．第２課　読解 ３．第１課、第２課　練習 ４．第３課　読解 ５．第４課　読解 ６．第３課、第４課　練習 ７．第５課　読解 ８．第６課　読解 ９．第５課、第６課　練習 １０．第７課　読解 １１．第８課　読解 １２．第７課、第８課　練習 １３．春学期総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中文新世紀』白帝社	期末試験と平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）によって評価します。

０５～０７年度	中国語Ⅲb（講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な豊かな基礎力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）を並行して行います。	１．第９課　読解 ２．第１０課　読解 ３．第９課、第１０課　練習 ４．第１１課　読解 ５．第１２課　読解 ６．第１１課、第１２課　練習 ７．第１３課　読解 ８．第１４課　読解 ９．第１３課、第１４課　練習 １０．第１５課　読解 １１．第１６課　読解 １２．第１５課、第１６課　練習 １３．秋学期総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中文新世紀』白帝社	期末試験と平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）によって評価します。

０８年度 ０７年度以前	外国語（イタリア語Ｉａ基礎） イタリア語Ｉａ	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2　イタリア語の発音について 3　名詞と冠詞（1） 4　名詞と冠詞（2） 5　挨拶の表現、形容詞 6　イタリア語の be 動詞と have 動詞：essere と avere 7　規則動詞の現在形（1） 8　規則動詞の現在形（2） 9　規則動詞の現在形（3） 10　会話表現：自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11　前置詞 12　不規則で重要な動詞（1） 13　不規則で重要な動詞（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	授業内に行う小テストおよび期末テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

０８年度 ０７年度以前	外国語（イタリア語Ｉｂ基礎） イタリア語Ｉｂ	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語Ｉａに引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　会話表現：家族構成を話す 2　様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3　所有形容詞（1） 4　所有形容詞（2） 5　会話表現：住んでいる場所、出身地を話す 6　代名動詞（1） 7　代名動詞（2） 8　会話表現：あるものが存在するかしないかを聞く 9　比較級と最上級 10　会話表現：バールやレストランでの注文と支払い 11　近過去（1） 12　近過去（2） 13　近過去（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	授業内に行う小テストおよび期末テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

０８年度 ０７年度以前	外国語（イタリア語Ｉａ基礎） イタリア語Ｉａ	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） Ｉの段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です．この観点からして次のような練習が主軸になります. １）グループ毎による基本会話練習. ２）文字を見ずに聞き取りに徹する．ネイティヴの発話を繰り返す練習. ３）要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習.	1）簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 2）簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 3）-are 型規則動詞の練習(1) 4）-are 型規則動詞の練習(2) 5）-ere，-ire 型規則動詞の練習(1) 6）-ere，-ire 型規則動詞の練習(2) 7）-ere，-ire 型規則動詞の練習(3) 8）不規則動詞 andare の練習 9）不規則動詞 avere の練習 10）不規則動詞 essere の練習(1) 11）不規則動詞 essere の練習(2) 12）不規則動詞 essere の練習(3) 13）基本動詞の復習

テキスト、参考文献	評価方法
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年 （参考書） 入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版 2005 町田亘『イタリア語レッスン初級１』スリーエーネットワーク 2005 年	平常点、小テストの成績をもとに総合的に判断します.

０８年度 ０７年度以前	外国語（イタリア語Ｉｂ基礎） イタリア語Ｉｂ	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） Ｉの段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です．この観点からして次のような練習が主軸になります. １）グループ毎による基本会話練習. ２）文字を見ずに聞き取りに徹する．ネイティヴの発話を繰り返す練習. ３）要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習.	1）冠詞(1) 2）冠詞(2) 3）所有形容詞 4）不規則動詞 dovere，potere の練習 5）不規則動詞 volere，sapere の練習 6）人称代名詞対格形の練習 7）人称代名詞与格形の練習 8）頻出不規則動詞の練習 9）規則動詞 piacere の練習 10）近過去形の練習(1) 11）近過去形の練習(2) 12）近過去形の練習(3) 13）近過去形の練習(4)

テキスト、参考文献	評価方法
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年 （参考書） 入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版 2005 町田亘『イタリア語レッスン初級１』スリーエーネットワーク 2005 年	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

０７年度以前	イタリア語Ⅱａ	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります.	1）近過去形の練習(1) 2）近過去形の練習(2) 3）近過去形の練習(3) 4）近過去形の練習(4) 5）再帰動詞の練習(1) 6）再帰動詞の練習(2) 7）再帰動詞の練習(3) 8）再帰動詞の練習(4) 9）半過去形の練習(1) 10）半過去形の練習(2) 11）半過去形の練習(3) 12）半過去形の練習(4) 13）動詞形の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント教材を使用します.	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

０７年度以前	イタリア語Ⅱｂ	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法の完成を目指します．また文学作品等の購読、映画鑑賞なども行う予定です.	1）未来形の練習(1) 2）未来形の練習(2) 3）条件法の練習(1) 4）条件法の練習(2) 5）命令形の練習(1) 6）命令形の練習(2) 7）接続法の練習(1) 8）接続法の練習(2) 9）購読(1) 10）購読(2) 11）購読(3) 12）購読(4) 13）映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント教材を使用します.	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

０８年度 ０７年度以前	外国語（ポルトガル語Ｉa 基礎） ポルトガル語Ｉa	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語Ｉb に続く形でポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、練習問題による基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明し、適宜、小テストで習得度を確認していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 文字と発音 2. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、真偽疑問文 3. 名詞の性数、定冠詞、不定冠詞、形容詞の性数変化 4. -ar 規則動詞の直説法現在形、前置詞 de, em, com 5. 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞(1) 6. -er/-ir 規則動詞の直説法現在形、疑問詞、指示詞、曜日名 7. 不規則動詞 ter, querer, ir、前置詞 a, para, por、副詞 já, ainda 8. 規則動詞の過去形、不規則動詞の過去形(1) 9. 不規則動詞の現在形(1)と過去形(2) 10. 目的格人称代名詞、不規則動詞現在形(2)・過去形(3)、序数詞 11. 再帰代名詞、再帰動詞、基数詞(2) 12. 感嘆文、強調構文、時間表現(1) 13. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：武田千香『ブラジルのポルトガル語入門』三省堂、2001 年 辞書：上記を参照のこと	出席が 2/3 以上の者で（遅刻は 3 回で欠席 1 回の扱いとしますが、事前の報告があればこの限りではありません）、試験点が 6 割以上、かつ、小テスト平均点が 6 割以上の者を合格とします。

０８年度 ０７年度以前	外国語（ポルトガル語Ｉb 基礎） ポルトガル語Ｉb	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期のポルトガル語Ｉa に引き続いてポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、練習問題による基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明し、適宜、小テストで習得度を確認していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 直説法半過去形、月日表現、不規則な名詞・形容詞複数形 2. 関係代名詞 que, quem、指小辞、命令形 3. 過去分詞、直説法大過去形、接尾辞-mente、絶対最上級 4. 優等比較級、劣等比較級 5. 同等比較級、相対最上級、前置詞と冠詞の縮約形 6. 受動文、前置詞格人称代名詞、不規則動詞現在形(3) 7. 直説法複合過去形、二重過去分詞 8. 直説法未来形、気象表現、時間表現(2) 9. 条件法現在形（直説法過去未来形） 10. 現在分詞節、間接疑問節を導く接続詞 se 11. 関係代名詞 o que, quem、過去分詞節 12. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo、完了不定詞 13. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：武田千香『ブラジルのポルトガル語入門』三省堂、2001 年 辞書：上記を参照のこと	出席が 2/3 以上の者で（遅刻は 3 回で欠席 1 回の扱いとしますが、事前の報告があればこの限りではありません）、試験点が 6 割以上、かつ、小テスト平均点が 6 割以上の者を合格とします。

０７年度以前	ポルトガル語Ⅱa	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前年度の「ポルトガル語Ⅰ」を受け、主として対話形式のテキストを用いながら基本的な文法項目と定型表現を確実に習得することを目指します。文法項目は、学習の便を考え、必要に応じて英語などと対照させながら説明することもあります。本年度はヨーロッパ・ポルトガル語とブラジル・ポルトガル語の差異にも焦点を当てて説明を行う予定です。 授業で使用する音声教材は、講師が用意するサイトから各自ダウンロードが可能です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 優等比較級、劣等比較級、同等比較級 2. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形(1) 3. 不規則動詞の過去形(2)、感嘆文、不定主語文、haver de＋ 不定詞 4. 不規則動詞の直説法過去形(3)、過去の存在を表す houve 5. 直説法半過去形(1)、acabar de＋ 不定詞、costumar＋ 不定詞 6. 直説法半過去形(2)、人称不定詞 7. 直説法複合大過去形、過去分詞の規則形と不規則形、受動文 8. 再帰代名詞 se と再帰受動文、直説法複合過去形 9. 法動詞 dever と poder、連結動詞＋形容詞 10. 直説法未来形、不変化関係詞と変化関係詞 11. 条件法現在形、非人称不定詞、目的格人称代名詞の縮約形 12. 二重過去分詞、現在分詞、ir＋ 現在分詞 13. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については上記を参照のこと。 他の参考書については適宜紹介します。	出席が 2/3 以上の者で（遅刻は 3 回で欠席 1 回の扱いとしますが、事前の報告があればこの限りではありません）、試験点が 6 割以上、かつ、小テスト平均点が 6 割以上の者を合格とします。

０７年度以前	ポルトガル語Ⅱb	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は前期のポルトガル語Ⅱa を引き継ぐものです。文法項目については、ポルトガル語Ⅱb で習得できなかった接続法の諸時制とその用法を中心に学習します。 授業で使用する音声教材は、講師が用意するサイトから各自ダウンロードが可能です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 接続法現在形、ir の直説法過去形＋不定詞 2. 接続法半過去形、目的格人称代名詞の強調用法 3. 接続法半過去形と条件文(1)、動詞 ser による強調構文 4. 接続法未来形、(句)接続詞と接続法未来形 5. 直接話法から間接話法へ、間接疑問文 6. 直説法単純大過去形、目的格人称代名詞の内接 7. 直説法複合大過去形、接続法大過去形、条件法過去形 8. 直説法前未来形、条件法過去形 9. 接続法前未来形と完了人称不定詞 10. 条件文(2)、接続法現在形と接続法未来形の差異 11. 比例文、序数詞 12. ir の直説法未完了過去形＋現在分詞、完了現在分詞 13. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については上記を参照のこと。 他の参考書については適宜紹介します。	出席が 2/3 以上の者で（遅刻は 3 回で欠席 1 回の扱いとしますが、事前の報告があればこの限りではありません）、試験点が 6 割以上、かつ、小テスト平均点が 6 割以上の者を合格とします。

０８年度 ０５～０７年度	外国語（ロシア語Ｉａ総合） ロシア語Ｉａ（総合）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
ロシアはヨーロッパとアジアのちょうど中間に位置する、独特の風土を持つ国であり、皆さんもご存知のように、芸術・学問・スポーツなど多くの分野ですぐれた文化を生みだしてきました。 ロシア語を知ることにより、その豊饒な世界にアクセスすることが可能になります。また、近年は日本との経済交流の進展が著しく、ビジネスの世界でロシア語ができる人材が求められるようになってきています。、 この授業はまったくの初心者を対象とし、アルファベットの読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。授業では、なによりも堅実なロシア語力を身につけてもらうことに留意して、ロシア語のしくみについて、分かりやすく解説してゆきます。 会話を中心とした「ロシア語Ｉ（会話)」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。	全体で教科書の第９課まで進むことを目標とします。 主な学習事項は以下の通りです。 1-6 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、 基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 7 名詞の性、形容詞類の変化 8 動詞の現在変化（1） 9 場所の表現（1）（前置詞、名詞の格変化の導入） 外国語を身につけるための授業なので、教室では受講者の皆さん一人一人の練習に重点を置きます。 ロシアの歴史・文化・政治などについての基礎知識も、随時とりあげてゆくつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

０８年度 ０５～０７年度	外国語（ロシア語Ｉｂ総合） ロシア語Ｉｂ（総合）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ｉａ（総合)」の続編の授業です。「ロシア語Ｉａ（総合)」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。	全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 10 場所の表現（2）（前置詞） 11 動詞の現在変化（2） 12 不規則動詞の現在変化 13 形容詞の変化 14 名詞の複数形 15 名詞の格変化（1）生格 16 名詞の格変化（2）対格 17 動詞の過去変化 18 運動の動詞、方向の表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

０８年度 ０５～０７年度	外国語（ロシア語Ｉａ総合） ロシア語Ｉａ（会話）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
はじめてロシア語を学ぶ人を対象とします。 BRICs（ブリックス）の１つとして著しい経済成長を遂げ、政治的にも、再び世界における主要な位置を占めるようになったロシア。エネルギー産業、自動車産業、金融・経済、そして政治や文化・芸術のレベルで日本との交流も年々拡大しています。またロシア語は、６つある国連公用語の１つですし、使用人口はあらゆる言語の中で世界第５位です。実は、とても重要な言語と言えますね。 その上、ロシア語そのものが、美しいかたち（キリル文字）と音声を兼ね備え、文法の体系も整った、美の結晶のような言語です。この授業では、発音、イントネーションを正しく身につけ、ロシア語で挨拶や自己紹介をしたり、実際のモスクワのスーパーマーケットの広告を使って買い物のやりとりができるようにします。 また毎回、映像をとおして、ロシアの文化や日常に触れる時間ももちます。深くて美しいロシアの芸術（バレエ、音楽、映画、美術）の伝統、そしてテニスのシャラポワ、格闘技のヒョードル、フィギュアスケートのプルシェンコ、世界的歌姫のネトレプコ、カリスマ指揮者ゲルギエフ、アニメのパイロット・スタジオなどの活躍にうかがえる新たなロシアのエネルギーに触れてほしいと思います。	1　ガイダンス（ロシア語とロシアについて）。 2　文字と発音。あいさつ。アニメ『チェブラーシカ』 3　文字と発音。名前の尋ね方。お詫びとお礼。『チェブラーシカ』。 4　「これは誰？」「これは何？」名詞の性。『チェブラーシカ』。 5　国の名前と国民の呼称。形容詞と名詞の関係。『チェブラーシカ』。ロシア国歌を聴く。 6　家族の紹介。ロシア人の名前のしくみ。名前の愛称形。数をかぞえよう。『チェブラーシカ』。 7　「ーは、どう？」所有代名詞と名詞の関係。ロシア語で足し算と引き算。「バレエ学校の記録」を見る。 8　「何をしているの？」動詞の人称変化。「ロシア・バレエ」を見る。 9　「ーが好き」名詞の格について。対格。「ロシアの民族舞踊」を楽しむ。 10　「ーしたい」「ーが欲しい」「ーをください」買い物をしてみよう。「モスクワのスーパーマーケット」 11　買い物の表現。「モスクワの商店」 12　まとめと補足。映画『ナイト・ウォッチ』（一部）。 13　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社、2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配付します。	学期末に試験（ディクテーションと文法筆記）を行いますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

０８年度 ０５～０７年度	外国語（ロシア語Ｉｂ総合） ロシア語Ｉｂ（会話）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ｉａ」で習得したことを活かして、買い物をしたり、道をたずねたり、時間を訊いたり、ファストフードやカフェ・レストランで注文をしたりと、ロシア語の日常的な会話表現を身につけていきます。 地下鉄宮殿の名で知られるモスクワの美しい地下鉄は、駅の一つ一つが個性的で芸術的。地下鉄巡りだけでも楽しめるほどです。交通手段も、路面電車、トロリーバスなど種類が多いので、交通手段を使い目的地へ行く表現を覚えて行きます。私たちにはなじみのない、車内でのマナーにも触れます。 近年、ロシアでは健康志向とグルメ熱が高まっていて日本食が人気ですが、私たちはロシアの食材やロシア料理について情報を得ながら、前菜からデザート、飲み物までロシア語で注文できるようにします。 この授業で使用するテキストには CD が付いていますので、自宅で好きな時にロシア語の音声を繰り返し聴いて耳を慣らしたり復唱したりすることができます。自主的に CD を聴き、ロシア語の美しい音になじんでください。 Говорим по-русски! Желаю вам успехов в учёбе!	1　春学期の復習。辞書の紹介。アニメ『霧の中のハリネズミ』。 2　「どこへー？」「どこでー？」方向と場所の区別。「シャラポワ・インタヴュー」。 3　「いま、何時？」「何歳ですか？」数詞と名詞の関係。「ゲルギエフ・インタヴュー」。 4　「どこへ行くの？」「ガガーリン・宇宙飛行の記録」。 5　「ーはありますか？」「ーを持ってる？」生格。アニメ『きつねとウサギ』。 6　カフェで料理を注文する。メニューの見方。「ロシア料理、モスクワのレストラン」を見る。 7　カフェで料理を注文する。「ロシア料理について」。 8　カフェで料理を注文する。「ロシア料理、ボルシチの作り方」」を見る。 9　「ーへはどう行くの？」交通手段の表現。「モスクワの地下鉄」を見る。 10　行き先を訊ねるやりとり。映画『戦艦ポチョムキン』（一部）を観る。 11　曜日の表現。「ネトレプコ・インタヴュー」を見る、 12　まとめと補足。「ホロストフスキーの歌唱」を聴く 13　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社、2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	学期末に試験（簡単な会話と文法筆記）を行いますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

０５～０７年度	ロシア語Ⅱa（総合）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ（総合)」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎をしっかりとマスターすることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ（会話)」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 大学を卒業してしまうとロシア語を学ぶ機会も少なくなります。迷っている人は、とにかく最初の授業に足を運んでみてください。ロシア語検定 4 級・3 級の合格を目指して頑張りましょう。	教科書の第 16 課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法のかなめ、かつ難関である「格変化」（日本語の助詞に相当）が中心になります。授業ではこの「格変化」について、習得のコツも含め、できるだけ分かりやすく解説してゆくつもりです。 さらに、ロシア語学習には不可欠なアルファベット筆記体の書き方、および辞書の引き方を練習し、余裕があれば、簡単な文章の読解練習も始めたいと思います。 その他、春・秋学期を通じて、ロシアの映画を何本か見る予定です。

テキスト、参考文献	評価方法
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

０５～０７年度	ロシア語Ⅱb（総合）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa（総合)」の続編の授業です。春学期に終えられなかった文法事項を習得したあと、プリント教材をもちいて簡単な文章読解の練習をしてゆきます。最終的に、辞書を引きながら、自力でロシア語の文章を読めるだけの力をつけることを目標にします。	春学期に教科書を終えられなかった場合は、その続きを終えたうえで、プリント教材をもちいて読解の練習を行ないます。これまで学んだ文法事項の復習や、基本単語の習得にも多く時間を割くつもりです。

テキスト、参考文献	評価方法
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

０５～０７年度	ロシア語Ⅱa（会話）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ」の既修者、あるいはロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも履修できます。 この授業は、すでに学習したロシア語を活かして、買い物をしたり、趣味を尋ねたり、簡単なメールやお祝いカードを書いたりできるようにします。 教科書は第 11 課から始め、「読む・話す・書く」の総合的な力をバランスよく身につけるのがこの授業の目的です。できれば、毎年 10 月に行われるロシア語能力検定試験(50 年の歴史をもつ公開制試験)にも挑戦してほしい。昨年度も、この授業を受けた先輩たちが検定に挑戦し、3 級にみごと合格しました。要望があれば、検定試験対策として毎回 15 分程度、過去問を解く時間をもちます。せっかく学ぶロシア語。口語表現や文法事項を一つ一つ着実に積み重ねながら、結実させたいですね。 また、ロシアの美しい芸術や最近のロシア事情に触れるため、毎回、映像を見る時間ももちます。コミュニケーションの手段としてばかりでなく、その背景にある文化や自然や慣習、思想に支えられたロシア語に親しみ、ロシアに興味を持ってほしいと思います。	1　ガイダンス（授業について。みなさんの要望も訊く） 2　「ーはありますか？」「ーが痛い」。アニメ『隣人たち』。 3　１週間のスケジュールをたてよう。未来形。「スポーツの表現」「ヤグディン・インタビュー」 4　「ーはどこ？」場所と方向。映画『こねこ』（一部） 5　「誰に手紙を書くの？」「誰と住んでるの？」「誕生日おめでとう！」与格と造格。映画『こねこ』（一部） 6　「ーおめでとう！」祝辞を述べる。映画『運命の皮肉』 7　お祝いカードを書く。／検定試験対策。映画『運命の皮肉』（一部） 8　お祝いカードを書く。形容詞＋名詞の格変化。／検定試験対策。「ピアニスト・キーシン・インタヴュー」 9　クロスワードパズルを解こう。形容詞＋名詞の格変化。／検定試験対策。映画『テルミン』（一部） 10　「何月生まれなの？」形容詞＋名詞の格変化。／検定試験対策。映画『テルミン』（一部） 11　「暑い」「楽しい」無人称文／検定試験対策。映画『両棲人間』（一部） 12　「ーすべきだ」「ーしてはだめ」無人称文／検定試験対策。映画『カメラを持った男』。 13　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社、2005 年（CD 付き）［ロシア語ＩＢ（2006 年度）と同じ教科書］。プリントを適宜配付します。	学期末にレポートを提出してもらいますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

０５～０７年度	ロシア語Ⅱb（会話）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa」の続きとなります。好きな音楽、好きな本、趣味、スポーツ、家族のことを伝える表現、そして演劇や映画、コンサートのチケットを購入する時の表現を身につけ、会話の幅を拡げていきましょう。電話番号を伝えたり聴きとったりする練習もします。 また、ロシアの祝日（ロシア正教や農耕儀礼に基づく祭日やソ連時代からの祝日など）について情報を得、お祝いの決まり文句を身につけましょう。欧米とも日本とも異なる、ロシアの独特なクリスマスや新年、イースターの祝い方について紹介します。 教科書を最後まで終えたら、ロシア語でロシアに関するクイズを解きます。さまざまなかたちの疑問文とこれに対する応え方を習得したり、ばらばらに並べられた電話での会話文をコンテクストを考えながら組み立て直したりします。口語的表現はもちろんのこと、ロシアに関する情報や雑学を知ることができ、楽しいと思います。 映画やインタヴューなど、映像・音声資料も楽しみますが、聴きとれる表現が徐々に増えて、さらに面白くなるといいですね。	1　前置詞のまとめ。動詞の接頭辞／検定試験対策。 2　「ーするのが好き」趣味を言う。「幻の肋骨レコード」。 3　趣味を語る。完了体と不完了体。「幻の肋骨レコード」 4　趣味を語る。関係代名詞「幻の肋骨レコード」 5　電話番号を伝える。観劇のチケットを買う。関係代名詞。「」 6　観劇のチケットを買う。関係代名詞「ロシアの劇場」 7　「何月何日生まれなの？」。順序数詞。「バレリーナ・ロパートキナ・インタヴュー」 8　ロシアの祝日について。順序数詞。映画『シベリアの理髪師』（一部） 9　ロシアの祝日について。順序数詞。映画『モスクワは涙を信じない』（一部） 10　ロシア語でロシアに関するクイズ（４択）。会話文を組み立てる。映画『惑星ソラリス』（一部） 11　ロシア語でロシアに関するクイズ（４択）。会話文を組み立てる。映画『エルミタージュ幻想』（一部） 12　簡単なロシア語の文章を読んで質疑応答。映画『戦争と平和』（一部） 13　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』(改訂版) 白水社、2005 年（CD 付き）［ロシア語ＩＢ（2006 年度）と同じ教科書です］。プリントを適宜配付します。	学期末にレポートを提出してもらいますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

０８年度 ０５～０７年度	韓国語（Ｉａ総合） 朝鮮語Ｉａ（総合）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	1回　本講義に対する紹介、概要説明 ２～５回　韓国語の文字・文章の理解と解読 ６～12回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「自己紹介」 「出身はソウルですか」 「韓国文化－首都ソウル」 「図書館ではありません」 「時間がありますか」 「インターネットをしますか 13回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０８年度 ０５～０７年度	韓国語（Ｉｂ総合） 朝鮮語Ｉｂ（総合）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	１～12回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「貿易会社で働いています」 「東大門市場に行きます」 「韓国文化－韓国の食文化」 「スーパーで買い物をします」 「それは一万ウォンです」」 「今、何時ですか」 「日本語を話されますか」」 「そんなに遠くありません」 「いつ韓国に来ましたか」 「民族村に一緒に行きましょう」 13回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０８年度 ０５～０７年度	韓国語（Ｉａ総合） 朝鮮語Ｉａ（総合）	担当者	金　貞我（ｷﾑ ｼﾞｮﾝｱ）

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。また、韓国・朝鮮の歴史や文化などについても紹介する。初級の人にもわかり安く説明する。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ｉ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０８年度 ０５～０７年度	韓国語(Ｉｂ　総合) 朝鮮語Ｉｂ（総合）	担当者	金　貞我（ｷﾑ ｼﾞｮﾝｱ）

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：総合的な表現力を高める １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ｉ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０８年度 ０５～０７年度	韓国語（Ｉａ講読・会話） 朝鮮語Ｉａ（講読・会話）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では日常生活に必要な実用会話の習得を目的とする。韓国語は日本語と語順や構文が非常に似ているので、きわめて学びやすい言語である。特に日常用語での表現や比喩も共通する点が多い。講義では日本語と韓国語の共通点・類似点を対比・活用し、「すぐ使える」韓国語を目指して学習を進める。 講義内容：　本授業では、はじめて韓国語を学ぶ人を対象に、韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方、発音規則について詳しく解説する。また、自己紹介、ショッピング、週末、天気などの基本会話を中心に学習を進める。	1回　ガイダンス：韓国語の概観 2～5回　韓国語の文字と発音の解説 「基本母音と基本子音」 「複合母音と終声」 6～12回　韓国語の基本会話の学習 「自己紹介」 「出身はソウルですか」 「韓国文化－首都ソウル」 「図書館ではありません」 「時間がありますか」 「インターネットをしますか」 13回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

０８年度 ０５～０７年度	韓国語（Ｉｂ講読・会話） 朝鮮語Ｉｂ（講読・会話）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では日常生活に必要な実用会話の習得を目的とする。韓国語は日本語と語順や構文が非常に似ているので、きわめて学びやすい言語である。特に日常用語での表現や比喩も共通する点が多い。講義では日本語と韓国語の共通点・類似点を対比・活用し、「すぐ使える」韓国語を目指して学習を進める。 講義内容：　本授業では、はじめて韓国語を学ぶ人を対象に、韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方、発音規則について詳しく解説する。また、自己紹介、ショッピング、週末、天気などの基本会話を中心に学習を進める。	1回　ガイダンス：本講義の概要説明 2～12回　韓国語の基本会話の学習 「貿易会社で働いています」 「東大門市場に行きます」 「韓国文化－韓国の食文化」 「スーパーで買い物をします」 「それは一万ウォンです」」 「今、何時ですか」 「日本語を話されますか」」 「そんなに遠くありません」 「いつ韓国に来ましたか」 「民族村に一緒に行きましょう」 13回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

０８年度 ０５～０７年度	韓国語（Ｉａ講読・会話） 朝鮮語Ｉａ（講読・会話）	担当者	金　貞我（ｷﾑ ｼﾞｮﾝｱ）

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。そのためには多くの慣用表現を習得する必要がある。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ｉ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０８年度 ０５～０７年度	朝鮮語（Ｉｂ講読・会話） 朝鮮語Ｉｂ（講読・会話）	担当者	金　貞我（ｷﾑ ｼﾞｮﾝｱ）

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。講読・会話に重点をおく。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：講読の練習 １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ｉ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０５～０７年度	朝鮮語Ⅱa（総合）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容：　本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。	1回　　ガイダンス：授業の概要紹介 2～12回　多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「週末は何をしますか」 「何が一番好きですか」 「韓国に行ってきました」 「デザイナになりたいです」 「今、何時ですか」 「日本語を話されますか」 「そんなに遠くありません」 13回　　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
長谷川由起子　著 『コミュニケーション韓国語　会話編１』白帝社	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

０５～０７年度	朝鮮語Ⅱｂ（総合）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容：　本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。	1回　　ガイダンス：授業の概要紹介 2～12回　多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「いつ韓国に来ましたか」 「民族村に一緒に行きましょう」 「パーティーの準備をしています」 「何にも食べられませんでした」 「陶磁器が見たいです」 「写真を撮ってもいいですか」 「来週帰国します」 「大変お世話になりました」 13回　　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

０５～０７年度	朝鮮語Ⅱa（講読・会話）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1回　本講義に対する紹介、概要説明 2～12回　次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「今、何時ですか」 「日本語を話されますか」 「そんなに遠くありません」 「いつ韓国に来ましたか」 「民族村に一緒に行きましょう」 「パーティーの準備をしています」 「何にも食べられませんでした」 13回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５～０７年度	朝鮮語Ⅱb（講読・会話）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1～12回　以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。 「陶磁器が見たいです」 「写真を撮ってもいいですか」 「もう行かなければなりません」 「手紙を書きますよ」 「遅れて申し訳ありません」 「家族写真をご覧になりますか」 「ガールフレンドに会いたかったでしょう」 13回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０８年度 ０７年度以前	外国語(タイ語 Ia) タイ語Ｉａ	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 文字は基礎タイ語Ⅱ（タイ語Ⅱa）で学ぶ。時間に余裕のある人は両方履修してもよい。	1　導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について 1　発音練習（声調・数字・子音・母音） 2　会話１（挨拶、所在に関する表現)、タイ語を聞いて発音記号で表記する 3　会話２（ものの性質などに関する表現)、タイ語を聞いて発音記号で表記する 4　会話３（家族に関する表現)、タイ語を聞いて書く 5　会話４（所有、存在に関する表現)、タイ語を聞いて書く 6　会話５（職業、国名に関する表現）タイ語を聞いて書く 7　会話６（可能、不可能に関する表現)、タイ語を聞いて書く 8　会話７（名前、所在、手段などに関する表現） 9　会話６（動詞を用いた表現)、タイ語を聞いて書く １０　会話７（類別詞の用法１)、タイ語を聞いて書く １１　会話８（形容詞の使い方） １２　タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） １３　タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

０８年度 ０７年度以前	外国語(タイ語 Ib) タイ語Ｉｂ	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。	1　会話１（類別詞の用法２)、タイ語を聞いて書く 2　会話２（日付に関する表現)、タイ語を聞いて書く 3　会話３（時刻の表し方)、タイ語を聞いて書く 4　会話４（年・月などの表し方)、タイ語を聞いて書く 5　会話５（レストランでの注文)、タイ語を聞いて書く 6　会話６（自己紹介など)、タイ語を聞いて書く 7　会話７（類別詞の用法3)、タイ語を聞いて書く 8　会話８（比較を含む表現)、タイ語を聞いて書く 9　会話９（電話をかける)、タイ語を聞いて書く １０ 会話10（受身の表現)、タイ語を聞いて書く １１ 会話１１（依頼の表現)、タイ語を聞いて書く １２ タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）－ １３ タイ事情(映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

０８年度 ０７年度以前	外国語(タイ語Ⅱa) タイ語Ⅱa	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
1、文字の表記と発音 を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。	1　導入；今タイ語を学ぶ意義は？ 2　タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3　文字の読み書き１（中子音・高子音） 4　文字の読み書き２（低子音と長母音） 5　文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節） 6　文字の読み書き４（声調符号、短母音） 7　文字の読み書き５（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音） 8　文字の読み書き６（一字再読字） 9　文字の読み書き７（タイ数字、年月日に関する表記） 10　文字の読み書き８（例外的表記） 11　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 12　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 13　講読１　（読み方、文章のつながり方など）
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績および出席状況

０８年度 ０７年度以前	外国語(タイ語Ⅱb) タイ語Ⅱb	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。	１、　講読１　（読み方、文章のつながり方など） ２、　講読２　（平易な物語など） ３、　文法１　（指示詞の用法） ４、　文法２　（一般動詞の用法） ５、　文法３　（形容詞の用法） ６、　講読３　（平易な物語など） ７、　文法４　（類別詞の用法・比較） ８、　講読４　（タイの文化・祭り） ９、　講読５　（首都バンコクについて） １０、文法６　（出家式） １１、購読６（タイの地理・気候） １２、タイ事情（現代映画の鑑賞） １３、タイ事情（現代映画の鑑賞）
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績および出席状況

０８年度 ０７年度以前	外国語（アラビア語Ｉa 基礎） アラビア語Ｉa	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は、総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連の公用語の一つでもあります。またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、13 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、アラビア語を通じて、その背後にある豊かな文化に親しんでもらうことを目指しています。 文法にかたよらず、「言いたいことをアラビア語で言う」ことを目標に、会話にも重点を置きつつ、さまざまなメディアを通じて、自然にアラビア語を呼吸してほしいと考えています。	1. Introduction 2. アラビア文字に挑戦（1）　挨拶の言葉 3. アラビア文字に挑戦（2）　挨拶の言葉 4. アラビア文字に挑戦（3）　自己紹介 5. アラビア文字に挑戦（4）　「私は日本人です」 6. アラビア文字に挑戦（5）　アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 「私は○○が好きです」と書いてみる！ 9. アラビア語を読む！ 10. アラビア語を読む！（続き） 11. アラビア語を読む！（続き） 12. 復習・テスト・ビデオ鑑賞など 13. 復習・テスト・ビデオ鑑賞など
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー）　（白水社）	簡単な筆記試験を行います。

０８年度 ０７年度以前	外国語（アラビア語Ｉb 基礎） アラビア語 Ib	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深め、会話を楽しむ感覚でつかんでもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、楽しみながら文法や会話を学び、音楽やビデオを通じて自然にアラビア語を吸収してもらいたいと考えています。 積極的に発言・質問してもらうことを期待します。	1. 復習 2. 「そのバスに乗りたいんです」（定冠詞） 3. 「はじめまして」（もっと詳しく自己紹介を） 4. 「それは何ですか？」「それは誰ですか？」 5. 「僕はいつも○○にいます」 6. 「僕はいつも○○にいます」（続き） 7. 「あなたは車を持っていますか？」 8. 「それはいい考えだ！」（形容詞の使い方） 9. 「これはナイルの水ですか？」（イダーファ構文） 10. イダーファ構文の続き 11. 作文に挑戦！ 12. 復習・テスト・ビデオ鑑賞 13. 復習・テスト・ビデオ鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語入門』（本田孝一）（白水社）	簡単な筆記試験を行います。

０７年度以前	アラビア語Ⅱa	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前年度までに基礎アラビア語Ⅰを受講し、よりアラビア語の知識を深めることを希望する人を対象にしています。 テキストから会話や文法を学ぶと同時に、音楽やインターネット探検、ことわざ、言葉遊びなど、文化の様々な側面を通じた変化に富んだ学習内容になるでしょう。	1. 復習 2. 復習 3. 「それはいい考えだ！」形容詞の使い方 4. 形容詞を使いこなす 5. 「これはナイルの水ですか？」イダーファ構文 6. イダーファ構文の続き 7. 「何が起こったの？」動詞は過去形から 8. 「日本に行きましたか？」過去形動詞の続き 9. 「誰がそう言ったの？」過去形動詞の続き 10. アラブのことわざ 11. 動詞を使いこなす 12. 復習・テスト・ビデオ鑑賞など 13. 復習・テスト・ビデオ鑑賞など
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語入門』（本田孝一）　（白水社）	簡単な筆記試験を行います。

０７年度以前	アラビア語Ⅱb	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、様々なメディアを通じて、アラビア語を楽しく勉強したいと考えています。 一言に「アラブ」と言っても、それぞれの国の「お国柄」があり、ヴァラエティ豊かな文化を構成しています。この講義では、語学力を伸ばすだけでなく、そのようなアラブの素顔に触れること、また受講生一人一人が、それぞれの興味の対象を自ら追求する手助けをすることも目標としています。	1. 復習 2.「この人を知っていますか？」動詞の現在形 3.「白い車に乗っています」現在形動詞の続き 4.「私が言います」現在形動詞の続き 5.「知らないよ！」「知らなかったよ！」動詞の否定 6.「気に入りました！」動詞のパズル 7.「2ヶ月」は複数形ではない！双数形の作り方 8.「これがほしい！」「あそこに行きたい！」 9. 複数形は文字のパズル。辞書を引く 10. 辞書を引く（続き） 11. 辞書を片手に本を読む 12. 復習・テスト・ビデオ鑑賞 13. 復習・テスト・ビデオ鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語入門』（本田孝一）（白水社）	簡単な筆記試験を行います。

０８年度 ０７年度以前	外国語（現代ヘブライ語Ｉa 基礎） 現代ヘブライ語Ｉa	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムード、カバラー・ユダヤ神秘主義などの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を語彙や概念として現代に伝えています。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけではなく、ユダヤ学全体への入口となります。 フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字がどのように生まれたのか、ギリシア文字、ローマ字がどう発展したかの歴史をたどります。 ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。 授業は随時配布されるプリントにそって進められます。 皆さんは説明を聞きながら練習問題を解き、それを毎回授業の最後に提出します。 次回までに添削をして、返却および補足解説をおこない文法知識を身に付けていきます。	1. アルファベットの歴史 2. ヘブライ文字の書き方・発音練習 3. ヘブライ語発音練習・会話練習 4. ヘブライ語会話練習 ヘブライ語起源の人名・地名 5. 名詞と形容詞 6. 名詞と形容詞の複数形 7. 動詞の現在形（１） 神名「エホバ、ヤハウェ、アドナイ」 8. 総復習 9. 動詞の現在形（２） フォークダンス「マイム・マイム」 10. 所有・所在・所持の表現 会話練習「私は～を持っています」 11. 不定詞の用法（１）手紙の書き方 12. 不定詞の用法（２） 会話練習「私はヘブライ語を話すことができます」 13. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストはプリントで配布。 『ヘブライ語入門』改版　キリスト聖書塾編　日本ヘブライ文化協会	授業毎のプリント提出（60%） 筆記試験（40%）

０８年度 ０７年度以前	外国語（現代ヘブライ語Ｉb 基礎） 現代ヘブライ語Ｉb	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、ヘブライ語文法を学びながら、基礎フレーズを盛り込んだ会話練習をし、ヘブライ語の物語を読みます。 セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点をピックアップして学びます。 １．バビロン捕囚によってヘブライ語は変わったのか。 ２．イエス・キリスト時代の言語はアラム語か、ヘブライ語か。 ３．ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 ４．現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 ５．現代ヘブライ語と古典ヘブライ語の違い。 ６．「タルムード」とは何か。 さらに、ヘブライ語やユダヤにまつわる珍説・奇説を紹介し、“俗本”がヘブライ語だと主張する日本語をヘブライ語学の観点から解説を加え、正しい知識を身に付けます。	1. 総復習 2. パアル動詞とピエル動詞 3. 数詞（１） 住所と電話番号の言い方 4. 数詞（２） カバラー神秘主義に応用されたヘブライ数字 5. 名詞の用法（連結語） 6. 曜日の表し方（序数） 7. 再帰動詞の用法 名詞の不規則な複数形 8. 使役動詞の用法 9. 動詞の受動態 10. 総復習 11. 動詞の過去形（１） 12. 動詞の過去形（２） 13. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストはプリントで配布。	授業毎のプリント提出（60%） 筆記試験（40%）

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（古典ギリシア語Ｉa） 古典ギリシア語Ｉa	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきたいと思います。 ＜講義概要＞ 授業は毎回各単元１～２つずつ学習するペースで進みますが、途中１０分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しながら、アト・ホームな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。希少で貴重な古典ギリシア語を知的遺産として自分のものにしてみませんか。	１　字母・発音・音韻などの分類 （この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける） ２　音節・アクセント・句読点 （この時点で、古典ギリシア語の単語が読める） ３　動詞の変化・直説法能動相現在 （この時点で、単文が理解できる） ４　名詞の第一変化 （この時点で、名詞の規則変化が理解できる） ５　動詞の変化・直説法能動相未来 （この時点で、未来形の文章が読める） ６　動詞の変化・直説法能動相未完了過去 （この時点で、動詞の三時制がマスターできる） ７　名詞の第二変化 （この時点で、スペルがすらすら書けるようになる） ８　形容詞の変化（第一・第二変化） （この時点で、語順が不要であることがわかる） ９　前置詞 １０　動詞の変化・直説法能動相アオリスト １１　動詞の変化・現在完了と過去完了 １２　指示代名詞と強意代名詞（新約聖書が読める） １３　春学期まとめ ＊　(　)内は到達度チェックの際の目安です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』（岩波全書、１６４８円） ＜参考文献＞なし。時々、プリントを配布します。	出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、テストや試験はしません（つまり、平常点評価）。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（古典ギリシア語Ｉb） 古典ギリシア語Ｉb	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　ε ι μ ι 動詞と φ η μ ι 動詞 （この時点で、動詞の人称変化の基本形が理解できる） ２　疑問代名詞と不定代名詞（この時点で、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる） ３　動詞の変化・直説法中動相の各時制（１） （この時点で、中動相独特の用法が理解できる） ４　動詞の変化・中動相の各時制（２） （この時点で、微妙な文章表現が理解できる） ５　人称代名詞（この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる） ６　再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞（この時点で、文章上のつながりが理解しやすくなる） ７　第二アオリストの用法（この時点で、動詞のいわゆる不規則変化が理解できる） ８　動詞の変化・直説法受動相 （この時点で、受身の文章表現が理解できる） ９　名詞の第三変化（１）（この時点で、名詞の不規則変化の「変化の規則性」が理解できる） １０　名詞の第三変化（２） １１　能相欠如動詞と約音動詞 １２　形容詞の第三変化 １３　秋学期まとめ（古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（ラテン語Ｉａ） ラテン語Ｉａ	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語とは今から 2,000 年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行います。	I. 文字と発音、アクセント II. 規則動詞の現在形 III. 第一・第二変化名詞 IV. 第一・第二変化形容詞 V. 第一・第二変化名詞および形容詞 ---その 2 --- VI. 未完了過去形 VII. 未来形 VIII. 不定詞 IX. 第三変化名詞および形容詞 X. 第三変化名詞および形容詞 ---その 2 --- XI. 過去完了形および未来完了形 XII. 規則動詞の受動態 XIII. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ラテン語初歩』改訂版　田中利光著　岩波書店	毎回、添削を 20 点満点で評価し、平均して 6 割（12 点）を合格の最低ラインとします。

０８年度 ０７年度以前	ことばと思想２（ラテン語Ｉｂ） ラテン語Ｉｂ	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。ただし，秋学期から受講するという場合は，春学期で学ぶ内容を終えている必要があります。	I. 受動態の未完了過去形および未来形 II. 動詞の過去形 III. 過去形の受動態 IV. 過去完了形および未来完了形の受動態 V. 第四および第五変化名詞 VI. デポネンティア VII. 代名詞 VIII. 疑問代名詞および不定代名詞 IX. 非人称動詞および分詞 X. 比較級 XI. 動名詞 XII. 動形容詞 XIII. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じです。	春学期と同じです。

０７年度以前	ラテン語Ⅱａ	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。文法を学んだだけで終わらせてしまうのは、辛いところしか知らずにやめてしまうのに等しいといえるでしょう。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。	左記のような方針なので、輪読の形式をとることになります。いわゆる古典期と呼ばれる時代の作品を考えていますが、最初の授業で決めたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
原典はプリントを配布します。また、辞書は『羅和辞典』（田中秀央著、研究者）を用意して下さい。また、ラテン語Ⅰで使った教科書を参考書とします。	平常点で評価します。毎回の予習と、授業への意欲的な参加を望みます。

０７年度以前	ラテン語Ⅱｂ	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
上記のとおりです。	上記の通りです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記の通りです。	上記の通りです。

０８年度 ０７年度以前	日本語(総合 IAa)/ 日本語(総合 IBa)/ 日本語(総合 ICa) 日本語 Ia	担当者	各担当教員（下欄参照）

講義目的、講義概要	授業計画
本コースは、タイトルにもあるように日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修上において必要とされる日本語力を向上させるためのものである。週３コマで構成されており、この３コマは１セットで、連続して履修しなければならない。 授業内容は以下のとおりである。 ①プレゼンテーション：　具体的な方法を学んだ後、学期中少なくとも２回は、プレゼンテーションを準備し、発表する。 ②読解：読解教材は、トピックに基づき本、雑誌、新聞等から抜粋した生教材で構成される。内容理解はもちろん文中の表現、語彙を学習し、豊かな表現力を身につけることを目的とする。 ③作文：作文の課題は各トピック毎に宿題として課されるが、コースでは文献からの引用の仕方について学習した上で、レポート作成の具体的な指導を行なう。 語学教育においては、予習、復習が重要であることは当然であるが、３コマ１セットになっている本コースでは、出席を非常に重視している。また、宿題等についても指定された期日を厳守しなければならない。	読解教材：１つのトピックには、４~５コマが当てられる。 １.［若者のライフスタイル］ ２.「高齢化・少子化」 ３.「起業」 ４.「医療問題」 各トピック修了時にテストがある。 〔担当者〕 A 月曜日　井上和子 水曜日　武田明子 金曜日　武田明子 B 月曜日　野村美知子 水曜日　東中川かほる 金曜日　岩沢正子
テキスト、参考文献	**評価方法**
①テキスト：　プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。	①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度 ③宿題　　④プレゼンテーション

０８年度 ０７年度以前	日本語(総合 IAb)/ 日本語(総合 IBb)/ 日本語(総合 ICb) 日本語 Ib	担当者	各担当教員（春学期に同じ）

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	読解教材：１つのトピックには、４~５コマが当てられる。 トピックについては多少の変更あり。 １.「食文化･食生活」 ２.「日本を知る」 ３.「情報化社会」 ４.「国際社会」 各トピック修了時にテストがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
①テキスト：　プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。	①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度 ③宿題　　④プレゼンテーション

07年度以前	日本語Ⅱa	担当者	井上　知子

講義目的、講義概要	授業計画
さまざまな場面で実際に話されている日本語を効果的に聴き取れるようになることを目的とする。一言一句を正確に聴くことよりも、全体を通して大切なポイントを捉え、メモを取り、概略がまとめられるようになることが、第一の目標である。授業では、聴解練習用に作られた教材ではなく、ラジオやテレビで放送された音声、画像等を用いる。聴解が中心となるが、必要に応じて、予備知識を得るための読解を行うことがある。 毎時限の聴解は、ノートを取りながら行い、その後、内容の確認作業としてのディスカッションを行う。授業後にノートをもとに概略をまとめ、次の時間までに提出するものとする。 右記はおおまかな計画であり、変更される場合がある。	1　授業の進め方　ノートの取り方 2～4　講義、説明を聴く 5～7　主張、スピーチを聴く 8～10　二者の討論を聴く 11～13　二者の会話を聴く
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布等	課題の提出率とその精度、出席率、授業への貢献度に対して行う。

07年度以前	日本語Ⅱb	担当者	井上　知子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準ずるが、秋学期は日本語そのもののバリエーションに注目し、右記のように、方言、若者ことば、外国人が話す日本語、丁寧な日本語、あいまいな日本語などに取り組む。 右記はおおまかな計画であり、変更される場合がある。	1～3　方言を聴く 4～5　子供、若者の日本語を聴く 6～8　外国語話者の日本語を聴く 9～10　丁寧な日本語を聴く 11～13　総合的な聴解練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布等	春学期に準ずる。

０７年度以前	日本語Ⅱa	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
［1］教材　公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。 ［2］授業のねらい　外国人留学生のうち、日本語Ｉを履修したもののためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。 ［3］教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。 ［4］その他　この科目は日本語Ｉを履修した者が履修するために設置される。	1　文書と文章１　文章を書くとはどういうことか 2　文書と文章２　文章の種類 3　文書と文章３　文書の形式 4　文書と文章４　文書の役割と目標 5　文書と文章５　主題と与えられた課題 6　文書と文章６　材料　参考書　メモ　カード　チャート 7　表記の技術１　現代仮名遣い　常用漢字　送りがな 8　表記の技術２　地名　人名　数字　記号 9　表記の技術３　図表　写真 10　表記の技術４　原稿用紙　レポート用紙　ワープロ 11　表記の技術５　訂正　校正 12　文章の構造１　文章の構成法 13　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時間中に指示する。	文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。 前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。

０７年度以前	日本語Ⅱb	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	14　文章の構造２　記述の順序 15　文章の構造３　序論　本論　結論 16　表現と論理１　表現の方法 17　表現と論理２　論理の展開 18　表現と論理３　題目　要約　キーワード 19　表現と論理４　文章の流れ 20　表現と論理５　ディスコース　パラグラフ　段落 21　事実と意見１　事実とはなにか 22　事実と意見２　意見とはなにか 23　わかりやすさ１　明確な主張 24　わかりやすさ２　簡潔な表現 25　わかりやすさ３　句や節の接続 26　わかりやすさ４　破格文　ねじれ文
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	春学期に同じ

０７年度以前	日本語Ⅱａ	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
そもそも「分かりやすい」とか「分かりにくい」と言った表現は何をさすのだろうか。私たちはただ何となく「この文章は分かりにくい」とか、「この人の発表は分かりにくい」というように表現している。何がどう分かりにくいのかは、文章を書くときにも、自分が声に出して発表するときにもあまり明確に指摘されない。 この講義の目的は「分かりにくい」とは何なのか、それがどう変化したら「分かりやすい」になるのかを、ある時は教師の側から、ある時は受講生の側から指摘しあうことによって、その基準を再構築していくことを目的とする。 具体的には、毎回問題ありそうな例を提示することによって、それが「分かりにくい」から「分かりやすい」に加工されていく過程を観察する方法で講義をすすめる。	１　「分かる」「分からない」「分かりやすい」「分かりにくい」の違いはどこにあるか ２　ちょっとした工夫をサボってはいけない ３　相手の目線を無視してはいけない ４　結論を最後に知らせてはいけない ５　複数解釈で墓穴を掘ってはいけない ６　すべてを知らせてはいけない ７　抽象的な情報はいけない ８　情報を羅列してはいけない ９　文字の羅列はいけない １０常識を無視してはいけない １１時間を無視してはいけない １２繰り返しをサボってはいけない １３テーマと話題を混同してはいけない
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを使う。参考書などは適宜指示する。	出席２０％、授業内の作業８０％

０７年度以前	日本語Ⅱｂ	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じスタンスで秋学期の授業を行う。春に習得した理解を実際の執筆と発表で実行することにより、知識を実力に変えていく。ただし、講義は全く切り離して行うので、後期からの受講でも十分に技術を実力として定着させることができる。	１　文章を書くことと発表することはイコールである ２　仕事の文章を書く・・・話題提供 ３　仕事の文章を書く・・・意見提示 ４　仕事の文章を書く・・・根拠提示 ５　仕事の文章を書く・・・結論 ６　短い文章と長い文章の区別 ７　スピーチの種類 ８　経験を語る・・・聞いて良かったと思わせる技術 ９　経験を語ってみる １０説明をする・・・よく理解できたと思わせる技術 １１説明をしてみる １２主張をする・・・なるほど、その考えはよく分かると思わせる技術 １３主張をしてみる
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを使用。必要に応じて適宜指示。	出席２０％、発表８０％、

０７年度以前	日本語Ⅱａ	担当者	岩沢　正子

講義目的、講義概要	授業計画
言語文化学科以外の留学生を対象とする日本語のクラスである。 例年、この授業を選択する学生は、専門の勉学に多くの時間をさかれ、現実におこっている日本や世界の出来事、抱える問題等に接する機会が少ないことが多々ある。そのような学生に対して、日本語で情報を得、理解し、背景を考え、意見を言えるような技術を高める授業を考えている。取り扱う内容、教材に関しては学生の要望も考慮し、取り入れる。	１．①オリエンテーション ②　新聞記事から ２．新聞記事から ３．新聞記事から ４．新聞記事から ５．新聞記事から ６．雑誌から ７．雑誌から ８．雑誌から ９．雑誌から １０．専門誌から １１．専門誌から １２．専門誌から １３．テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、プリントを配布。	１．授業参加度。　２．授業中の小テスト。 ３．担当部分の準備と実践　４．出席　５．テスト

０７年度以前	日本語Ⅱｂ	担当者	野村　美知子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 新聞記事・録画ビデオ等により現代日本事情に関する知識を増やすとともに、そのテーマについて各自意見を整理し、口頭で、また文章で表現できるように練習する。 ［講義概要］ 新聞記事・録画ビデオ等を使用し、はじめは教師が共通のテーマを提示、学生はその課題についてさらに自分で調べ、レポートにまとめ、レジュメを作成して発表する。次の段階では、各自がテーマを選び、同様のことを学生主体で行う。	1 授業についてのガイダンス　等 2 課題提示（ビデオ）、レジュメ作成練習 3 課題提示（新聞）、レジュメ作成練習 4 レポート課題提示、レポート作成の手順説明 5 レポート作成経過報告 6 グループ内発表 レジュメ・小レポート提出 7 課題提示（ビデオ） 8 課題提示（新聞記事） 9 課題提示（ビデオ） 10 課題提示（新聞記事） 11 レポート作成経過報告 12 プレゼンテーション 13 プレゼンテーションのフィードバック レポート提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
清水明美・他著『Practical　日本語　文章表現編――成功する型――』おうふう	・課題提出、授業での発表 ・出席状況、授業への参加度・取り組み姿勢

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（日本事情１） 日本事情 a	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
以下の点に留意しながら、前近代史を中心に日本の歴史を概観する。 ◎　日本という世界のなかの一つの国家やその文化がどのように形成されていったのか、とくに東アジア近隣諸国との関係に注目し、国家とは何か、また地域とは何かを考える。 ◎　生産の基盤となった「土地」に対する国家や人々の営みに注目し、土地政策を基軸に行われた社会編成の推移を検証する。 ◎　その他、近年の日本の歴史学界のなかで、前近代史のどのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていきたい。 ◎　希望者を募り、鎌倉など、前近代の日本の社会構造や文化のあり方を残す現地の巡見を行う。 ※前・後期ともに、現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。	1 なぜ、歴史学は必要なのか？ 2 原始社会論　東アジアの自然環境と日本列島の形成　稲作のはじまりと富の蓄積 3 ヤマト政権と朝鮮半島　古墳文化 4 仏教の伝来　仏教とは何か？神道とは何か？ 列島渡来文化と開発技術の展開（灌漑用水技術を中心に） 5 日本の古代国家とは？　律令国家財政の展開と土地政策　遣唐使は何をもたらしたか？　付論古代文化の特徴 6 日本の中世国家とは？　「大開墾時代」と荘園制　なぜ荘園はたてられたのか？　日宋貿易と平氏政権　鎌倉幕府の形成 7 鎌倉幕府論　中世の封建制とは？　荘郷地頭制の歴史的意義 荘園制下の人々の生活と空間構造　日元貿易と元寇 8 室町幕府論　幕府権力と地域社会・一揆　日明勘合貿易　倭寇とはなにか？　付論中世文化の特徴 9 戦国大名論　なぜ戦国大名はあらわれたのか？　戦国大名の紛争解決　戦国時代に生きた人々の暮らし　豊臣政権と朝鮮侵略 10 江戸幕府の構造と対外意識　鎖国と対中国・朝鮮政策 11 江戸時代前期の諸政策と社会構造　近世の封建制とは？ 開発技術の進展と新田開発　江戸時代前期のくらし 12 江戸時代後期の幕政改革と社会の変容　江戸時代後期のくらし 付論　近世文化の特徴 13 総論：日本の封建制と東アジア／前近代の対外交渉　前近代の「国境」とは？
テキスト	**評価方法**
適宜指摘	出席状態　試験成績

０８年度 ０７年度以前	歴史と文化２（日本事情１） 日本事情 b	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
以下の点に留意しながら、近・現代史を中心に日本の歴史を概観する。 ◎　１６世紀以降の西欧の世界進出を振り返り、日本がそれに対してどう向き合っていたのか、明らかにしてから、激動の１９・２０世紀を立体的に検証する。 ◎　20 世紀は多くの映像資料も残されている。それらをできるだけ利用する。 ◎　また、明治時代以来の日本の歴史学界の軌跡についても講義の中で簡単に触れていきたい。 ◎　希望者を募り、博物館展示などの見学も行う。	1 16 世紀における世界秩序の展開と日本 世界システムとは何か？　江戸時代の対外意識　江戸時代の思想と学問 2 明治新政府の樹立　徳川政権はなぜ崩壊したのか？　ペリー来航・不平等条約とその後の影響 3 明治政府の国政改革　明治政府は何を目指したのか？　日本の近代化と富国強兵・殖産興業政策 4 明治政府の展開 松方財政と株式会社　明治期の農村構造 5 明治期の社会と思想　自由民権運動の意義　民衆運動とは？ ドイツ学協会の設立　明治時代のくらし 6 議会の開設と条約改正　議会はなぜ必要だったのか？　条約改正をめぐる日本の苦悩 7 日清・日露戦争と韓国併合　帝国主義とは？　伊藤博文をめぐる内外の評価 8 映像にみる 20 世紀前半の世界と日本 9 大正デモクラシーと第 1 次世界大戦　社会主義国家の建設と共産主義　大正時代のくらし 10 日本の帝国主義と第 2 次世界大戦　日中戦争は誰が支持したのか？　第 2 次世界大戦は世界に何を残したか？　戦時下の人々 11 映像にみる 20 世紀の戦乱 12 戦後改革と逆コース　日本の高度成長 13 総論：帝国主義と現代　～日本のいまを取り巻く環境～
テキスト	**評価方法**
適宜指摘	出席状態　試験成績

シラバス 全学共通授業科目

2008年 4 月 1 日発行

獨協大学教務部

〒340 - 0042 埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048 - 946 - 1664

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	